神　並　遺　跡　Ⅱ

1 9 8 7

東 大 阪 市 教 育 委 員 会
財団法人 東大阪市文化財協会

Ⅰ群土器

Ⅱ-B$_2$群土器

序

東大阪市内の埋蔵文化財包蔵地は、現在までに約120ヶ所が周知されています。その分布図は遺跡の新発見や範囲の拡大に伴い、２回の改訂を行っています。遺跡の発見については、大規模な開発事業に先立って実施される埋蔵文化財確認のための試掘調査によるところが大であります。

神並遺跡も近鉄奈良線の朝夕の混雑解消のため新たに計画された鉄道敷、ならびに国道308号線拡幅工事に先立つ試掘調査の結果、昭和56年にその存在を確認したものです。昭和56年度に実施しました第１次調査におきましては、12世紀後半頃から14世紀前半頃まで続いた中世の集落跡や８世紀の羽釜棺などを検出し、下層に縄文時代早期の遺物を確認しましたので、縄文時代から室町時代にいたる複合遺跡であることが判明するなど、大きな成果を得ました。ただ、調査期間の制約等から、下層の縄文時代早期の遺構や遺物については、次年度に調査することになりました。

今回報告いたしますのは、上述のように、第１次調査地の下層における縄文時代の遺物包含の状況の把握と、第１次調査より西域部での中世集落跡の広がりの確認を目的として実施しました第２次調査の概要であります。

その結果、縄文時代早期の遺物の発見が相次ぎ、単に東大阪市内にとどまらず全国的に著名な遺跡として注目されるに至りました。

本書によりまして、単に考古学等の文献として読まれるだけでなく、地域の幅広い文化財の学習、啓発の冊子となりますれば、望外の喜びであります。

最後になりましたが、調査を実施する上で何かと御協力頂きました近畿日本鉄道株式会社（調査時―東大阪生駒電鉄株式会社）、大阪府八尾土木事務所、大成建設株式会社に謝意を表します。

昭和62年３月31日

財団法人　東大阪市文化財協会
理事長　木　寺　　宏

例　　言

1．本書は、東大阪生駒電鉄株式会社が建設した東大阪都市高速鉄道東大阪線（現在の近畿日本鉄道東大阪線）計画事業並びに大阪府八尾土木事務所が計画した国道308号及び都市計画道路築港枚岡線建設計画事業に伴う神並遺跡第2次発掘調査概要報告書である。

2．本調査は、財団法人東大阪市文化財協会が、現場調査を東大阪生駒電鉄株式会社並びに大阪府八尾土木事務所の委託を受けて実施した。

3．現地調査は、昭和57年8月9日より昭和57年12月1日まで実施し、整理調査は、昭和61年4月10日より昭和62年3月31日まで実施した。

4．事務局の体制は以下のとおりであった。(昭和61年4月1日現在)

理 事 長　木寺　宏（東大阪市教育委員会教育長）
事務局長　寺澤　勝（東大阪市教育委員会社会教育部参事）
庶務部長　吉田照博（東大阪市教育委員会文化財課課長代理）
庶 務 部　安藤紀子（東大阪市教育委員会文化財課）
調査部長　原田　修（東大阪市教育委員会文化財課主査）
調 査 部　上野節子（財団法人東大阪市文化財協会）
調査担当　下村晴文（東大阪市教育委員会文化財課主任）
　　菅原章太（東大阪市教育委員会文化財課）
　　曽我恭子（財団法人東大阪市文化財協会）

5．遺構の名称は略号で示している。ＳＰ……柱穴、ＳＤ……溝、ＳＥ……井戸、ＳＫ……土坑とし検出した順に番号を付けている。現地の土色及び土器の色調は、農林省農林水産技術会議事務所・財団法人日本色彩研究所色票監修の新版「標準土色帖」に準じており、記号の表示もそれにしたがった。

6．本書の執筆は、本文目次にかかげておいたが、Ⅲ-5)-(2)は橋本正幸氏、Ⅴ-1)-(2)は大阪市立自然史博物館の那須孝悌・樽野博幸・布谷知夫氏、Ⅴ-3)は桂孝次郎氏にそれぞれ原稿を依頼し掲載させていただいた。また、サヌカイトの分析を京都大学原子炉研究所へ委託した。

7．現場調査及び整理調査の実施については、静岡大学の加藤芳朗氏、市原壽文氏、千葉大学麻生優氏には現場で直接指導を受けた他、片岡肇、岡本東三、神村透、奥義次、中村友博、松田真一、松永幸男氏から多くの御指導、御教授をいただいている。お礼申し上げます。

また、現場調査実施にあたっては、東大阪生駒電鉄株式会社並びに大阪府八尾土木事務所及び大成建設株式会社の方々に御協力をいただいた。記してお礼申し上げます。

本　文　目　次

序……

例言……

Ⅰ．調査に至る経過……（下村）……1

Ⅱ．位置と周辺の遺跡……（下村）……2

Ⅲ．調査の概要……4

1)　地区割……（下村）……4

2)　中世の遺構……（菅原）……6

(1)層位……6

(2)遺構……7

3)　中世の遺物……（菅原）……10

(1)概観……10

(2)遺構内出土土器……14

4)　縄文時代の遺構……（下村）……15

(1)層位……15

(2)集石遺構……18

5)　縄文時代の遺物……23

(1)土器……（下村）……23

(2)石器……（下村・橋本）…64

Ⅳ．神並遺跡出土のサヌカイト遺物の石材産地分析……（藁科・東村）…95

Ⅴ．地層と自然遺物……102

1)　東大阪市神並遺跡周辺の地層……（那須・樽野）102

2)　神並遺跡から出土した自然木の樹種……（布谷）……104

3)　神並遺跡から出土した昆虫遺体……（桂）……105

Ⅵ．まとめ……（下村・菅原）109

挿　図　目　次

第１図　現地説明会風景……1
第２図　遺跡周辺図……3
第３図　小区画内の１ｍメッシュ地区割……4
第４図　地区割図……5
第５図　土層断面図(調査地中央、XXVFCライン上南側断面)……6
第６図　SE8、SE9、SD83断面図……7
第７図　自然河川平面図・断面図……8
第８図　中世遺構配置図……9
第９図　自然河川内出土土器実測図……11
第10図　遺構内出土瓦器・瓦質土器実測図……12
第11図　遺構内出土土師器・磁器実測図……13
第12図　遺構内出土須恵器・陶器・砥石実測図……14
第13図　縄文時代土層断面図……16
第14図　集石遺構実測図……18
第15図　XXVF16c区Ⅰ群土器出土状況……19
第16図　XXVE15tキ区土器出土状況……19
第17図　XXVF16ク区土器出土状況……20
第18図　集石遺構全体図……21～22
第19図　Ⅰ群土器実測図・拓影……24
第20図　Ⅰ群土器拓影……25
第21図　Ⅱ-A群土器拓影……26
第22図　Ⅱ-B_1イ群・Ⅱ-B_2イ群土器実測図・拓影……27
第23図　Ⅱ-B_1イ・Ⅱ-B_2イ群土器実測図・拓影……28
第24図　Ⅱ-B_1イ群土器拓影……29
第25図　Ⅱ-B_1イ群土器拓影……30
第26図　Ⅱ-B_1イ群土器拓影……31
第27図　Ⅱ-B_1イ群土器拓影……32
第28図　Ⅱ-B_1イ群土器拓影……33
第29図　Ⅱ-B_1ロ群土器拓影……34
第30図　Ⅱ-B_1ロ群土器拓影……36
第31図　Ⅱ-B_1ハ群土器拓影……37
第32図　Ⅱ-B_1ハ群土器拓影……38

第33図　Ⅱ-B_2イ群土器拓影……39
第34図　Ⅱ-B_2イ群土器拓影……40
第35図　Ⅱ-B_2ロ群土器拓影……41
第36図　Ⅱ-B_3群土器拓影……42
第37図　Ⅱ-B_4群土器拓影……43
第38図　Ⅱ-B_5群土器拓影……44
第39図　Ⅱ-C群土器拓影……45
第40図　Ⅱ-D群土器拓影……46
第41図　Ⅱ-D群土器拓影……47
第42図　Ⅱ-E・F群土器拓影……48
第43図　底部実測図・拓影……49
第44図　土偶実測図……50
第45図　旧石器平面分布図……64
第46図　旧石器、ナイフ形石器、翼状剝片実測図……66
第47図　旧石器、翼状剝片、翼状剝片石核、縦長剝片実測図……67
第48図　有舌尖頭器実測図……70
第49図　尖頭器実測図……71
第50図　石鏃実測図……72
第51図　石鏃実測図……73
第52図　石鏃実測図……74
第53図　石鏃実測図……75
第54図　石鏃実測図……76
第55図　石鏃実測図……77
第56図　石錐実測図……78
第57図　スクレイパー実測図……79
第58図　スクレイパー実測図……80
第59図　スクレイパー実測図……81
第60図　スクレイパー実測図……82
第61図　スクレイパー実測図……83
第62図　スクレイパー実測図……84
第63図　スクレイパー実測図……85
第64図　スクレイブラ、石匙実測図……86
第65図　砥石、磨石、磨石＋敲石実測図……87
第66図　磨石、磨石＋敲石実測図……88
第67図　線状痕のある礫、局部磨製礫実測図……89

第68図　トンネル入口～石切神社参道間の東西地質断面…… 103
第69図　昆虫遺体の拡大図…… 106
第70図　神並遺跡から出土したネクイハムシ２種の生息環境模式図…… 106
第71図　神並遺跡から出土したネクイハムシ２種の現在の分布…… 107

図　版　目　次

図版一　調査地航空写真
図版二　中世の遺構　1．調査前の状況（東より）
2．中世遺構検出状況（全景、東より）
図版三　中世の遺構　1．SD74掘削前の状況（北より）
2．同上検出状況（北より）
図版四　中世の遺構　1．調査地南東部　中世遺構掘削前の状況（西より）
2．調査地南東部　中世遺構検出状況（北より）
図版五　中世の遺構　1．調査地西部　中世遺構検出状況（西より）
2．SD74内石の集積状況（東より）
図版六　中世の遺構　1．SE９検出状況
2．SE８検出状況
図版七　中世の遺構　1．SD83(向かって左）自然河川(右）検出状況(東より)
2．SD83検出状況（東より）
図版八　中世の遺構　1．自然河川内土層堆積状況（西より）
2．SD83内土層堆積状況（西より）
図版九　中世の遺構　1．自然河川内遺物出土状況
2．同上
図版一〇　中世の遺構　1．自然河川内遺物出土状況
2．同上
図版一一　中世の遺物(瓦器・須恵器）　1．SE９、自然河川、SD83
2．SE９、SD83
図版一二　中世の遺物(土師器）　1・2．自然河川
3．SE８、自然河川
図版一三　中世の遺物(瓦質・土師器羽釜）　1．SE８
2．SE９、自然河川、SD83、第３′層
図版一四　中世の遺物(須恵器・陶磁器・土師器・砥石）　1．自然河川
2．SE９、自然河川、第2層、第３′層

図版一五　縄文時代の遺構　1.　集石遺構全景（南より）
2.　集石遺構（東より）
図版一六　縄文時代の遺構　1.　集石遺構全景（西より）
2.　集石遺構全景（南より）
図版一七　縄文時代の遺構　1.　調査地西端の礫層
2.　集石遺構の側面全景（南東より）
図版一八　縄文時代の遺構　1.　集石遺構側面（南より）
2.　集石遺構側面（西南より）
図版一九　縄文時代の遺構　1.　16ライン(16a～16b区)土層断面（西より）
2.　14ライン(15t区)土層断面（東より）
図版二〇　縄文時代の遺構　1.　14ライン(15a～15b区)土層断面（東より）
2.　bライン(14b区)土層断面（北より）
図版二一　縄文時代の遺構　1.　14ライン(15a区)土層断面（東より）
2.　14ライン(15t区)第12層の分層（東より）
図版二二　縄文時代の遺構　1.　縄文土器(122)出土状況
2.　縄文土器(156)出土状況
図版二三　縄文時代の遺構　1.　縄文土器出土状況
2.　縄文土器出土状況
図版二四　縄文時代の遺構　1.　縄文土器出土状況
2.　縄文土器(157)出土状況
図版二五　縄文時代の遺構　1.　局部磨製礫出土状況
2.　土偶出土状況
3.　縄文土器(645)出土状況
図版二六　縄文時代の遺構　1.　有舌尖頭器出土状況
2.　有舌尖頭器出土状況
3.　石鏃出土状況
図版二七　縄文時代の遺物　1.　縄文土器深鉢Ⅰ群土器
2.　縄文土器深鉢Ⅰ群土器
図版二八　縄文時代の遺物　1.　縄文土器深鉢Ⅱ-A群土器
2.　縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
図版二九　縄文時代の遺物　1.　縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ・Ⅱ-B_2イ群土器、縄文土器底部
2.　土偶
図版三〇　縄文時代の遺物　1.　縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
2.　縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
図版三一　縄文時代の遺物　1.　縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器

		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
図版三二	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
図版三三	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
図版三四	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
図版三五	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1イ群土器
図版三六	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ロ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ロ群土器
図版三七	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ロ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ロ群土器
図版三八	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ロ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ハ群土器
図版三九	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ハ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ハ群土器
図版四〇	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ハ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ハ群土器
図版四一	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_1ハ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_2イ群土器
図版四二	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_2イ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_2イ群土器
図版四三	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_2イ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_2イ群土器
図版四四	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_2イ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_2ロ群土器
図版四五	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_2ロ群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_2ロ群土器
図版四六	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_3群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_3群土器
図版四七	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_3群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_4群土器
図版四八	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_4群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_5群土器

図版四九	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-B_5群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-C群土器
図版五〇	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-C群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-C群土器
図版五一	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-D群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-D群土器
図版五二	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-D群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-D群土器
図版五三	縄文時代の遺物	1.	縄文土器深鉢Ⅱ-D群土器
		2.	縄文土器深鉢Ⅱ-E・F群土器
図版五四	縄文時代の遺物	1.	縄文土器底部
		2.	縄文土器底部
図版五五	縄文時代の遺物	1.	縄文土器底部
		2.	土製品
図版五六	縄文時代の遺物	1.	各種の文様
図版五七	縄文時代の遺物	1.	旧石器・ナイフ形石器、翼状剥片、剥片
図版五八	縄文時代の遺物	1.	有舌尖頭器　第11-a層、第12-2層、第12-1層
図版五九	縄文時代の遺物	1.	尖頭器(表)　2. 尖頭器(裏)
図版六〇	縄文時代の遺物	1.	石鏃(表)　2. 石鏃(裏)
図版六一	縄文時代の遺物	1.	石鏃(表)　2. 石鏃(裏)
図版六二	縄文時代の遺物	1.	石鏃(表)　2. 石鏃(裏)
図版六三	縄文時代の遺物	1.	石鏃(表)　2. 石鏃(裏)
図版六四	縄文時代の遺物	1.	石鏃(表)　2. 石鏃(裏)
図版六五	縄文時代の遺物	1.	石鏃(表)　2. 石鏃(裏)
図版六六	縄文時代の遺物	1.	石錐(表)　2. 石錐(裏)
図版六七	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)
図版六八	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)
図版六九	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)
図版七〇	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)
図版七一	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)
図版七二	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)
図版七三	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)
図版七四	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)
図版七五	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)
図版七六	縄文時代の遺物	1.	スクレイパー(表)　2. スクレイパー(裏)

図版七七	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版七八	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版七九	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版八〇	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版八一	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版八二	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版八三	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版八四	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版八五	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版八六	縄文時代の遺物	1. スクレイパー(表) 2. スクレイパー(裏)
図版八七	縄文時代の遺物	1. スクレイパー、砥石
図版八八	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、剪断面のない楔形（表）
		2. 楔形石器、剪断面のない楔形（裏）
図版八九	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、剪断面のない楔形（表）
		2. 楔形石器、剪断面のない楔形（裏）
図版九〇	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、剪断面を有する楔形（表）
		2. 楔形石器、剪断面を有する楔形（裏）
図版九一	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、剪断面を有する楔形(表)
		2. 楔形石器、剪断面を有する楔形（裏）
図版九二	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、折れ面を有する楔形（表）
		2. 楔形石器、折れ面を有する楔形（裏）
図版九三	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、折れ面を有する楔形（表）
		2. 楔形石器、折れ面を有する楔形（裏）
図版九四	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、折れ面を有する楔形（表）
		2. 楔形石器、折れ面を有する楔形（裏）
図版九五	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、折れ面を有する楔形（表）
		2. 楔形石器、折れ面を有する楔形（裏）
図版九六	縄文後代の遺物	1. 楔形石器、削片(表) 2. 楔形石器、削片(裏)
図版九七	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、削片(表) 2. 楔形石器、削片(裏)
図版九八	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、削片(表) 2. 楔形石器、削片(裏)
図版九九	縄文時代の遺物	1. 楔形石器、削片(表) 2. 楔形石器、削片(裏)
図版一〇〇	縄文時代の遺物	1. 磨石、磨石＋敲石
図版一〇一	縄文時代の遺物	1. 磨石、磨石＋敲石
図版一〇二	縄文時代の遺物	1. 線条痕のある礫、局部磨製礫
図版一〇三	縄文時代の遺物	1. 接合資料、２次加工のある剝片、楔形石器、剝片（表）

2．接合資料、２次加工のある剝片、楔形石器、剝片（裏）
図版一〇四　縄文時代の遺物　1．石核(表)　2．石核(裏)
図版一〇五　縄文時代の遺物　1．石核(表)　2．石核(裏)
図版一〇六　縄文時代の遺物　1．石核(表)　2．石核(裏)
図版一〇七　縄文時代の遺物　1．石核(表)　2．石核(裏)
図版一〇八　縄文時代の遺物　1．石核(表)　2．石核(裏)
図版一〇九　縄文時代の遺物　1．石核(表)　2．石核(裏)
図版一一〇　縄文時代の遺物　1．石核(表)　2．石核(裏)
図版一一一　縄文時代の遺物　1．石核(表)　2．石核(裏)
図版一一二　縄文時代の遺物　1．石核(表)　2．石核(裏)
図版一一三　縄文時代の遺物　1．縦長剝片(表)　2．縦長剝片(裏)
図版一一四　縄文時代の遺物　1．横長剝片(表)　2．横長剝片(裏)
図版一一五　神並遺跡出土の自然木（顕微鏡写真一）
図版一一六　神並遺跡出土の自然木（顕微鏡写真二）
図版一一七　神並遺跡出土の自然木（顕微鏡写真三）
図版一一八　神並遺跡出土の昆虫遺体

表　目　次

第１表　縄文土器出土地点一覧表……51
第２表　石器組成表……69
第３表　グリッド別石器一覧表……88
第４表　有舌尖頭器計測表……89
第５表　尖頭器計測表……89
第６表　石鏃計測表……89～92
第７表　石錐計測表……92
第８表　スクレイパー計測表……92～93
第９表　石匙・スクレイブラ計測表……94
第10表　砥石・磨石・敲石計測表……94
第11表　線状痕のある礫・局部磨製礫計測表……94
第12表　神並遺跡出土のサヌカイト製石器、石片分析結果……97～98
第13表　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値……99
第14表　神並遺跡出土のサヌカイト製石器、石片の原材産地推定結果……100～101
第15表　神並遺跡出土木材の樹種……105
第16表　神並遺跡で出土した昆虫化石遺体……108

Ⅰ．調査に至る経過

東大阪市石切町一帯は、生駒山西麓の扇状地上にある良好な居住地域である。このため、古代より多くの遺跡が所在している地域でもある。この地に東大阪生駒電鉄株式会社が、近畿日本鉄道奈良線の生駒駅から、大阪市営地下鉄中央線の長田駅までの新鉄道建設を計画した。また、大阪府八尾土木事務所も新鉄道建設に併行して、国道308号線の整備・拡幅工事をおこなうことになった。しかしながら、両工事予定地内には神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡が所在し、遺構・遺物が良好な状態で遺存していることが、試掘調査の結果明らかとなった。昭和55年度の鬼虎川遺跡第12次調査で方形周溝墓群が発見されるに及んで調査体制の充実が急務となった。昭和56年２月に大阪府教育委員会と東大阪市教育委員会が合同で組織した国道308号線関係遺跡調査会が発足し、以後の調査を担当することになった。この間、工事予定地内の用地買収がなかなか進まず、調査予定が大幅に遅れていたが、全工程の中で工事がもっとも急がれる新トンネルの入口付近の調査が実施されることになった。この調査が神並遺跡第１次調査であり、すでに報告書を刊行している。[注①]

昭和57年度に入ると用地買収もようやく軌道にのり、調査面積も広範囲になるところから、さらに調査体制の充実が望まれていた。この結果、従来の調査会を統合する形で財団法人東大阪市文化財協会が発足した。昭和57年度の調査は、神並遺跡の範囲としては昭和56年度の第１次調査で未調査になった縄文時代の遺構部分約530㎡及び石切神社参道より西側の約1641㎡を第２次調査として実施することになった。また、引き続いて道路付替の必要が生じた西ノ辻・鬼虎川遺跡の範囲内約3300㎡も昭和57年度事業として実施することになった。今回報告書刊行にあたっては、両方の調査地が大きく離れていることもあって、別々に報告書を刊行することにし、本書では神並遺跡第２次調査を取り扱うことにした。

神並遺跡第２次調査は、昭和57年８月９日から昭和57年12月１日まで現場調査をおこなった。調査期間中の11月16日には現地説明会を実施し、研究者や一般の市民の方々に公開をおこなっている。

注１　(財)東大阪市文化財協会『神並遺跡Ⅰ』1986年

第１図　現地説明会風景

Ⅱ．位置と周辺の遺跡

神並（こうなみ）遺跡は、東大阪市東石切町１丁目に所在する縄文時代～室町時代の複合遺跡である。遺跡は、生駒山西麓に発達する中位段丘上に位置し、遺跡内を生駒山から流れ出る鬼虎川など幾筋もの谷川が流れているが、これらの谷川は、縄文時代以降流路を幾度となく変えつつ現在まで続いていることが最近の調査で明らかになっている。神並遺跡は、この鬼虎川の北岸に位置している。

近畿日本鉄道東大阪線が、昭和61年10月１日に開通して、新石切駅周辺は大きく変わりつつあるが、この駅の東側一帯が神並遺跡である。今回の調査地点は、国道 308 号線から石切神社へ入る参道を挟んだ両側にあたる。本遺跡は、新鉄道建設に先立つ試掘調査によって新たに発見された遺跡であるが、周辺には多くの遺跡が所在している。[注①]

旧石器時代に属する遺跡には、千手寺山・正興寺山遺跡がある。千手寺山遺跡は、近鉄奈良線の石切駅周辺にあり、ナイフ形石器が採集されている。正興寺山遺跡は、本遺跡の東側にあった小高い山で、現在は平坦に削平されているが、ここからもナイフ形石器が採集されている。神並遺跡からも旧石器時代に属する石器が出土しており、両遺跡との関連性が注目される。

縄文時代に属する遺跡には、鬼虎川・鬼塚・芝ヶ丘・日下遺跡などが、生駒西麓の扇状地上に点々と所在している。鬼虎川遺跡では縄文時代前期の海岸線（所謂縄文海進）が検出されており、周辺から前・中期に属する土器が出土しており、神並遺跡に続く縄文遺跡として注目される。後・晩期になると遺跡数は増加するが、中でも日下遺跡では晩期の土壙墓群とともにセタシジミを主体とする貝塚が注目される。縄文時代の終末には、水稲農耕を伴った弥生文化が河内地方にも伝わっていたと考えられるが、鬼虎川・鬼塚遺跡では縄文時代終末の突帯文土器と弥生時代前期前半の土器が共伴して出土し、弥生文化の当地方への波及が証明されている。

弥生時代の中頃には、鬼虎川や瓜生堂遺跡のように、低地に大規模な集落が出現する。鬼虎川遺跡では、環濠に囲まれた集落と墓地・水田が発見され、集落の形態が徐々に解明されつつある。又、本遺跡に接して中～後期の西ノ辻遺跡がある。ここでも墓地や建物跡が検出されている。本遺跡の西側には、弥生時代の全期間を通じて鬼虎川・西ノ辻遺跡という大集落があったことになる。

古墳時代以降の遺構も徐々に類例が増えている。西ノ辻・鬼虎川遺跡の上層では、古墳時代～中世期にかけての遺構が重複して検出されている。部分的な発見であるため、集落の全体像は不明であるが、掘方径が一辺１ｍという古墳時代中期の掘立柱建物や中世の墓地群など徐々に解明されている。これらの遺構群と神並遺跡の遺構との関連性などを考えていく必要がある。

注１　藤井直正、都出比呂志『原始・古代の枚岡』枚岡市史第一巻
　　(財)東大阪市文化財協会編『甦る河内の歴史』―国道308号線関係遺跡発掘調査中間報告展―1984年

1 日下遺跡
2 芝ヶ丘遺跡
3 千手寺山遺跡
4 正興寺山遺跡
5 法通寺跡
6 神並遺跡
7 西ノ辻遺跡
8 植附遺跡
9 鬼虎川遺跡
10 水走遺跡
11 鬼塚遺跡
12 縄手遺跡
13 馬場川遺跡

第2図　遺跡周辺図

Ⅲ．調査の概要

1）地区割

神並遺跡第２次調査地区は、昭和56年度の第１次調査の際に未調査として残された地区と新たに昭和57年度調査として追加された石切神社参道の西側の地区に分かれている。この調査地に、昭和56年度に実施した第１次調査の地区割をそのまま踏襲することにした。

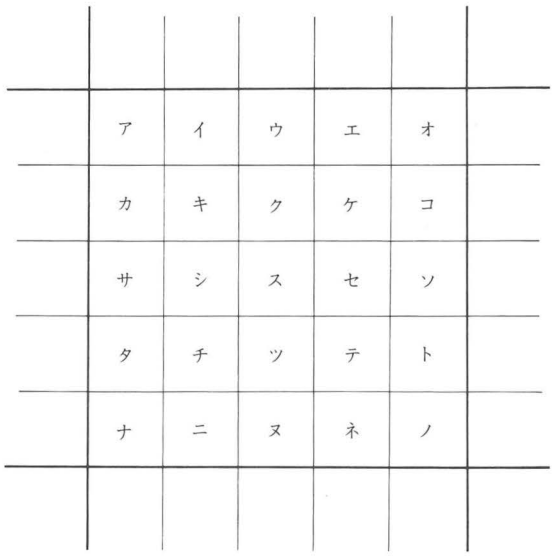
地区割は、国土座標に基づいて100ｍ方眼の大区画とさらにその中を5ｍメッシュの方眼で分けて小区画と呼ぶことにした。地区割の基点（０点）を東大阪市川中（X＝－146.3、Y＝－29.9）に置いて100ｍ毎の大区画のX軸を西から東へⅠ（Y＝－29.9）・Ⅱ（Y＝－30.0）・Ⅲ（Y＝－30.1）とローマ数字で表わし、Y軸を北から南へA（X＝－146.3）・B（X＝－146.4）・C（X＝－146.5）のアルファベットの大文字で表記し、それぞれの南東の交点をその地区名としている。小区画は、100ｍ方眼の大区画をさらに5ｍメッシュで区画し、X軸を１・２・３の数字で表わし、Y軸をa・b・cのアルファベットの小文字で表わすようにした。この地区割を表わしたのが第４図である。

今回の調査地で言えば、大区画でXXVE・XXⅣF ・XXVFの3区画に分かれる。小区画は、第４図にあるように区画され、大区画のXXVEの南東角の小区画は20t区になり、この地区は、XXVE20t区と標記することになる。

また、今回縄文時代の遺構を調査するについて、５ｍメッシュの小区画をさらに１ｍメッシュの方眼で細区画分けをおこなった。それが第３図である。この場合、１ｍ方形の区画に左上から横に順にア・イ・ウとカタカナ文字で表わしている。今回、縄文時代の調査範囲、約530㎡については、すべてこの地区割で遺物の取り上げをおこなった。その結果、縄文時代調査地の北西端は、XXVE13tア区と表わすことになった。

石切神社参道の西側の地区については、第１次調査で検出した中世遺構と関連する遺構が検出されているので、地区割の方法は従来と同様に４桁で標示した。北西端は、XXVE 1tになる。

遺構番号も１次調査との結がりを考えて、続けて付けるようにした。たとえば井戸状遺構の場合、SE07までが第１次調査で、SE08以降を第２次調査で使用している。



第３図　小区画内の１ｍメッシュ地区割

(Y=−32.2)
XX1V
XX1VE
XXVE
(Y=−32.1)
XXV
XXVIE
14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
s
t
a
b
c
d
e
f
g
E
(X=−146.7)
(X=−146.7)
XXIVF
XXVF
XXVIF
Y=−32.2
Y=−32.1

第4図　地区割図

2）中世の遺構

神並遺跡第２次調査は、市道若宮東西線と石切劔箭神社とを結ぶ道路(以下参道という)をはさんで、東側 530㎡と西側1644㎡にわたり実施された。このうち参道西地区については、第１次調査区上層で検出された中世期の遺構面の、西側での広がりを確認することが調査の目的とされた。その結果、後世の削平をうけながらも、土坑３基、井戸２基、溝14条、ピット73個、自然河川１本を検出することができ、大きな成果が得られた。これら遺構の番号については、上述の調査目的にのっとり、第１次調査からの通し番号としている。

さて、参道西地区で検出した遺構は、大概床土直下で見つかったものであり、参道東地区の縄文時代早期の遺構とは、土層の堆積状況を全く異にしている。そこで、まず、当該地区の層位の検討を行い、次いで検出した遺構について記述をすすめることにしたい。

（1）層位

当該地区中央部で、南北に走る水田耕作に伴う段状の崖面が認められるが、その東と西で層位に変化は認められなかった。基本層序は以下の通り。

第０層　盛土層。層厚20～72cm。水田耕作廃止後、参道の路肩と合わせるために行った盛土層と考えられる。

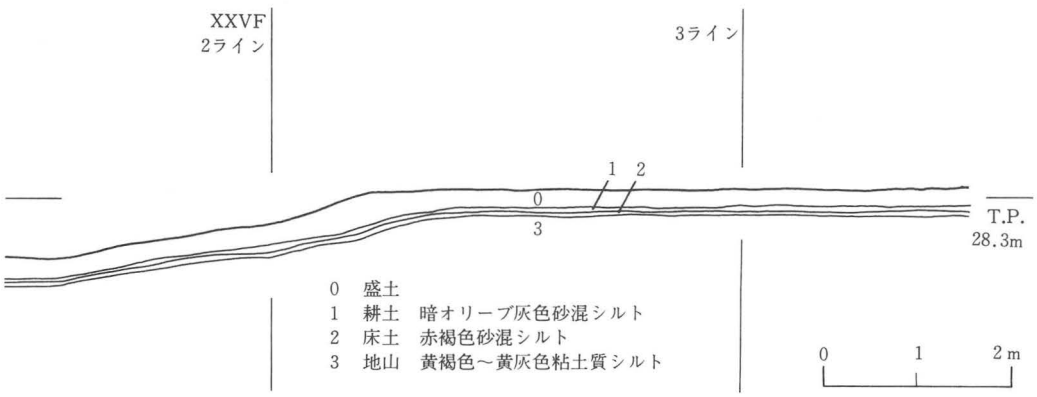
第１層　旧耕土層。暗オリーブ灰色砂混シルト。層厚２～10cm。旧耕土層がこのように薄くしか遺存しなかったのは、先の盛土工事による削平をうけたからと思われる。

第２層　床土層。赤褐色砂混シルト。層厚２～５cm。中世の遺物を少量含む。

第３層　地山層。黄褐色～黄灰色粘土質シルト。層厚２cm以上。

なお、第３層の上面で、やや凹んだところに、灰色系の粘土が部分的に堆積しており、その土層内より中世の遺物が少量出土している。これを第3′層とする。

遺構は第３層上面で検出しているが、これは、本来の遺構面が後世の水田耕作等の削平をうけて、失われたものと理解される。



第５図　土層断面図(調査地中央、XXVFCライン上南側断面)

（2）遺構

土坑

3基とも調査地南東隅(XXVF5～6、e～f)で検出した。SK70は短辺54cm以上、長辺66cm、深さ1.4cmを測る。遺構の東側は攪乱されて不明であるが、帆立貝状の楕円形を呈したものと思われる。SK71はやや不整形な楕円形で、長辺59cm、短辺56cm、深さ9cmを測る。SK72は一端が崩れた台形状を呈す。長辺60cm、短辺50cm、深さ3cmの規模を有する。出土遺物はいずれも土師器等の細片のみで、しかも僅少であり、図化しうるものはない。

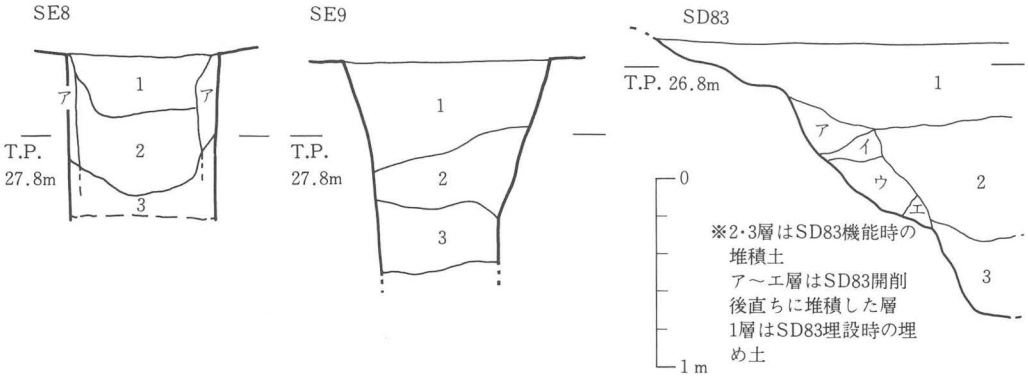
井戸

SE8はXXVF5b区で検出した。東西1.1m、南北1.5mの楕円形をなし、深さは1.7mを測る。素掘りで井戸枠などの施設は認められなかったが、井戸の底面には人頭大の礫が密着して遺存していた。礫と礫との空間は比較的大きく、底面に敷き積まれたものとは考えられない。何らかの意識のもとに投棄された礫と思われる。出土遺物としては土師器皿のほか、瓦器椀、須恵器、青磁椀の細片があるが、出土量は多いものではない。

SE9はXXVF6d区で検出。径0.9mのほぼ正円形を呈する。深さは0.8mまで確認したが、湧水のため掘削が危険な状態となったため、底面を確認するには至っていない。アゼの断面観察により、井戸壁面際に幅5～10cmの崩壊土層がへばりつくように遺存していたので、木質遺物が消滅したものと考えれば、井戸枠の可能性が指摘できる。しかし、井戸枠を設置しようとすれば、そのスペースを見込んだ掘方が必要となるはずであり、精査を行った際、掘方にあたる痕跡は検出されなかったので、井戸内施設の有無は詳かにしない。今は素掘りと考えておきたい。出土遺物は他と比して豊富で、瓦器椀、瓦質羽釜、白磁、土師器皿などがある。

溝

14条のうち、SD73は崖面下で検出されたもので、近世以降の築造による。SD74は後述の自



1. 黒褐色(10YR3/2)砂混シルト
2. 黒褐色(10YR3/2)礫混シルトにオリーブ褐色(2.5Y4/3)砂混シルトがブロック状に混入
3. 黒褐色(10YR2.5/2)シルト
ア. 地山(第3層)がブロック状に混入

1. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)礫混シルトに灰オリーブ色(5Y4.5/2)シルトがブロック状に混入
2. 灰オリーブ色(5Y4.5/2)礫混シルト
3. オリーブ黒色(5Y3/1)礫混シルト

1. 褐灰色(7.5YR4.5/1)砂混シルトに明褐色(7.5YR5/7)シルトが混じる
2. 暗緑灰色(7.5GY4/1)粘質シルト
3. 暗オリーブ灰色(2.5GY3.5/1)粘質シルト
ア.黒褐色(5YR3/1)粘質シルト
イ.暗オリーブ灰色(5GY3.5/1)粘質シルト
ウ.暗緑灰色(10GY4/1)シルト質粘土
エ.暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)粘土質シルト

第6図　SE8、SE9、SD83断面図

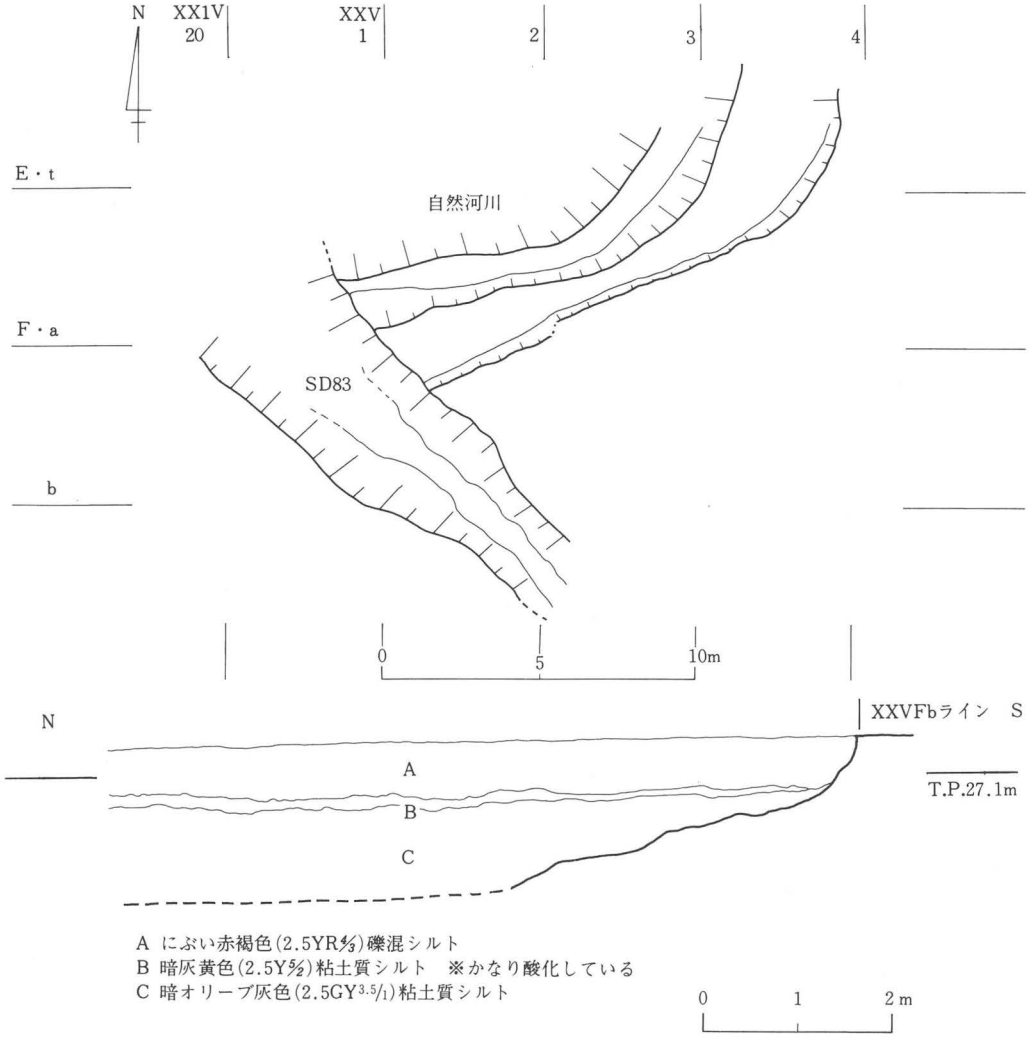
然河川埋没後に掘り込まれたものである。南東から北西及び北東へ流れていたものと思われるが、溝の南東部以東は崖面東部での削平により失われている。またそこにはこぶし大の礫が集積しており、溝廃絶時の投棄と考えられる。幅0.7～1.4m。深さ0.3m。礫と礫の間に瓦器椀の他、白磁・青磁類の出土が比較的顕著であった。その他の溝は幅0.5m前後、深さ0.1m前後を測るのみの小規模なものである。

ピット

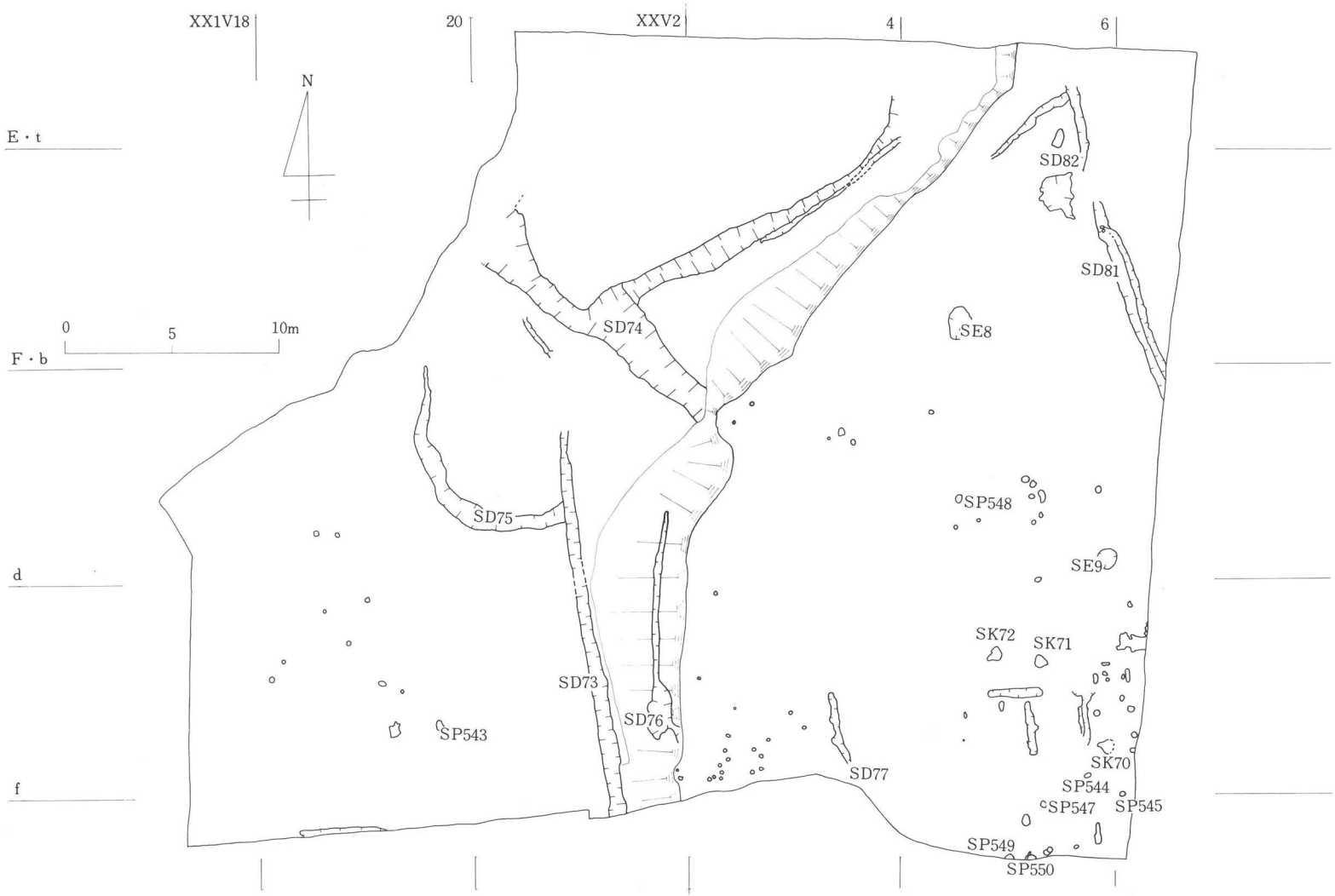
後世の削平を激しくうけ、深さ2～3cmしか遺存していない。現存径20cm前後のものが多い。

自然河川

河川の南肩を検出した。深さ1.6mまで確認。埋土は3層に分層でき、B層の存在から、埋没の過程で一時期耕作に利用されていた。SD83は、河川の一部と考えられる。



第7図 自然河川平面図・断面図


XX1V18
20
XXV2
4
6
N
E・t
F・b
d
f
0
5
10m
SD82
SD81
SD74
SE8
SD75
SP548
SE9
SK72
SK71
SD73
SD76
SP543
SD77
SK70
SP544
SP547
SP545
SP549
SP550

第8図　中世遺構配置図

3）中世の遺物

今回の調査で確認した中世期の遺物は、器種・器形的には豊富であるが、総量としては、コンテナにして約5杯分と少ない。しかも一括性を示し得る資料に乏しく、接合作業を通して全体のプロポーションが判断できる遺物は極めて微量であり、破片としての出土が顕著であった。そこで、今回の報告では、まず先の『神並遺跡Ⅰ』で提示された土器分類案を踏まえ、それに補足する形で土器の器形分類を概観し、各遺構内出土土器の特質を記していくこととしたい。

（1）概観

瓦器(36～71)

椀　今回の調査で出土した瓦器椀は全て破片で、全体の形状を知る資料に乏しい。まず、口縁部内面に沈線をもつ大和型Aと、沈線をもたない和泉型Bに大別した上で、体部内面のミガキや見込みの暗文手法を比較検討して細分類を行った。但し、曽我案の瓦器椀分類表中、第2型式の細分類(A_2—1･2、B_2—1･2)は一部を除いて今回行うことができなかった。また、瓦器椀の地域差として、近年指摘されている楠葉型、河内型の抽出も全体の形状を知り得ない現状では不明のまま残すことになった。個々については遺構内出土土器の項で略説する。

小皿　出土量は微量。図化し得たのは3点にとどまる。(69)は自然河川C層より出土。a_2。(70)は第3′層出土。b_1。(71)は自然河川A層出土。d_2。

瓦質土器(72～75)

三脚羽釜と、その脚部片が出土。羽釜は口縁部が内傾ないし内弯して、a)端部が内方を向き、〈ⅰ〉端部上面で平坦面をもつもの(72)と、〈ⅱ〉内側に粘土をひき出すもの(74)、及びb)端部は丸く納めるもの(73)がある。a)、b)いずれも菅原正明氏の土釜分類で「河内J型」に相当するものと思われる。脚部(75)は端部で外方へ粘土をつまみ出している。

土師器(18～30、76～103)

皿　口径8～9cmを小皿、10cm以上を中皿とする。小皿ではb_1(19、76)、b_2(77、78)、b_4(18、79、80)、b_5(81～83)、C(20、84)の各型式が出土。曽我案のa～cに属さないのを今回d型式としたい。(85)は丸底気味の底部から屈曲せず口縁部につづくもの。(86)は平底から屈曲後、口縁部内外面のヨコナデ調整が強いため、端部が外反するものである。中皿はb_2(90)、b_4(87～89)が出土している。

羽釜　全体の形状がわかる資料がないため、口縁部の形状から次の5型式に分類した。

a.　口縁部が「く」の字状に外反し、端部を内に巻き込んだもの……(96)〈大和B型〉

b.　内傾・内弯する口縁部の端部を外へ折り曲げたもの……(99)～(100)〈大和H_1型〉

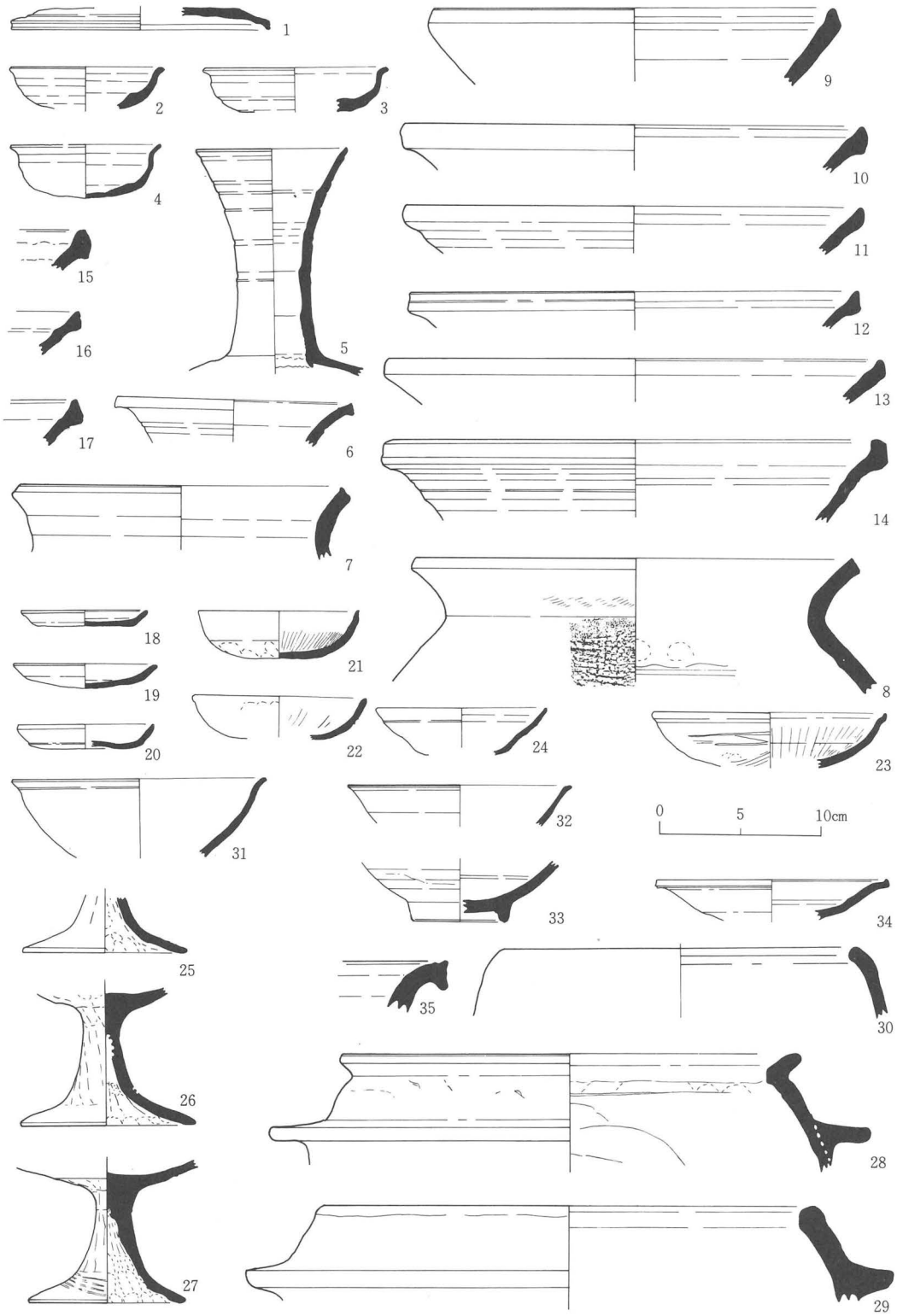
c.　ほぼ直立する口縁部の端部を内折し平坦面をもつもの……(101、102)〈大和H_2型〉

d.　内傾する口縁部の端部を丸く納めるか、外反させるもの……(92～94)〈河内B型〉

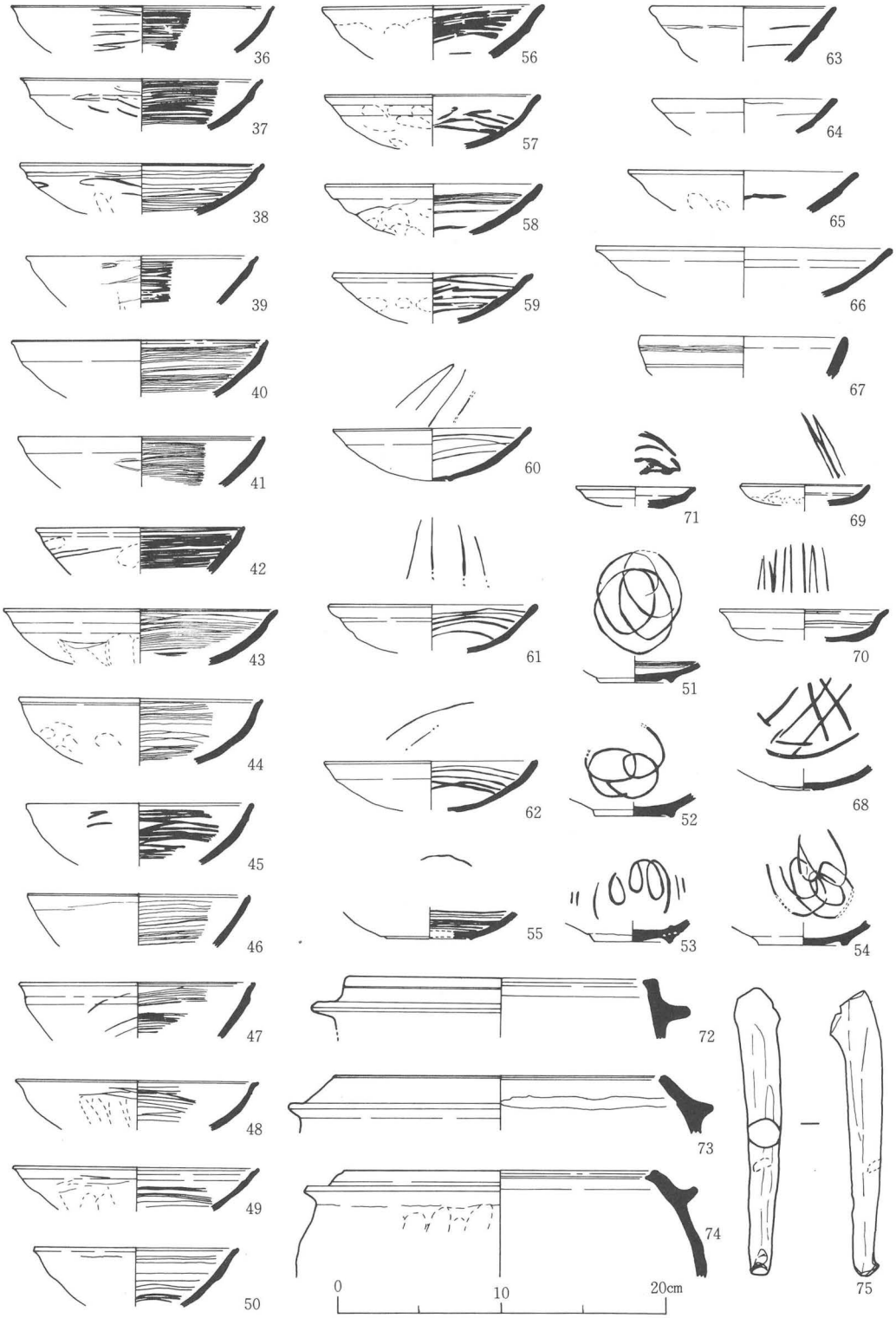
e.　内傾する口縁部の端部をわずかに内方へ向けるもの……(95)〈河内J型〉

※〈　〉は菅原氏の分類による。胎土はa～cが白色系、d・eが褐色系を呈する。

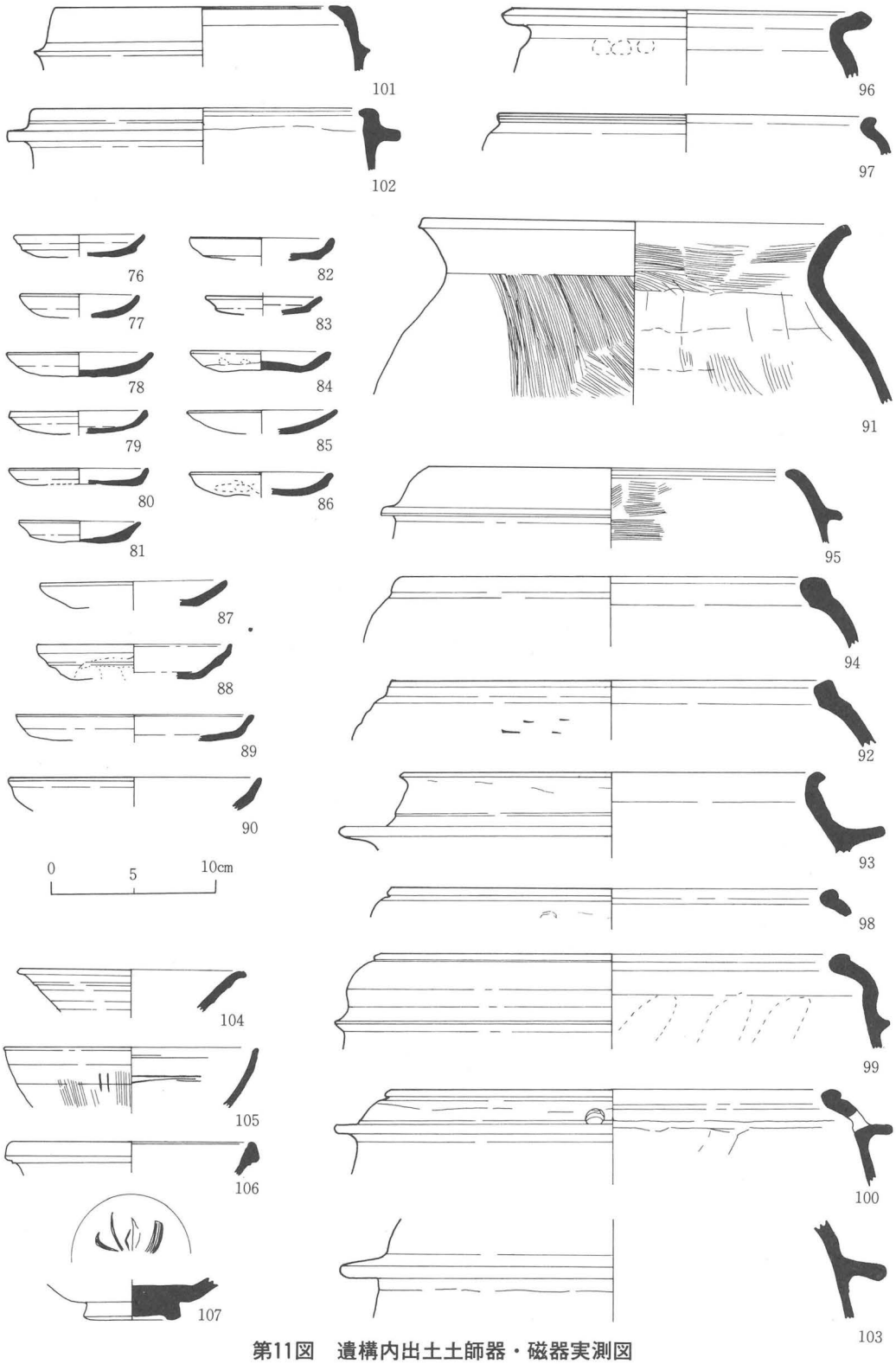
須恵器(1～17、108～117、119)



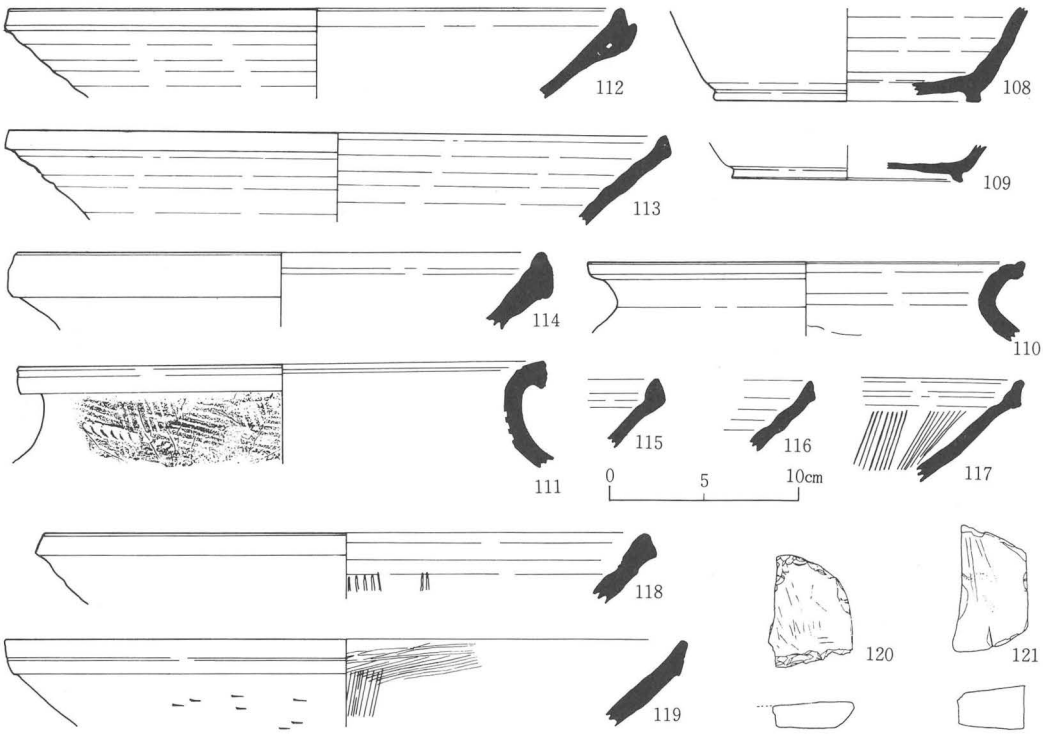
第９図　自然河川内出土土器実測図



第10図　遺構内出土瓦器・瓦質土器実測図



第11図　遺構内出土土師器・磁器実測図



第12図　遺構内出土須恵器・陶器・砥石実測図

鉢　形状から片口のつくもの、また体部内面に施された櫛状工具のスリメの存否により揑鉢、擂鉢の別が知られるが、全て破片による出土のため一括して鉢とする。分類は曽我案を踏襲する。概ね東播系の所産と思われる。器厚ではほとんど薄手であるが、厚手(114)のものも見られる。

（2）遺構内出土土器

SE8出土土器　瓦質羽釜(74)、土師器小皿b_5(81)、C(84)、中皿b_4(88、89)などがある。

SE9出土土器　瓦器椀A_1(36、37、54)、A_2(39、41)、A_4(45、47)、B_1(56)、B_5(65)、土師器小皿b_2(78)、b_4(79)、b_5(83)、中皿b_2(90)、羽釜(103)、須恵器鉢(113)、白磁椀(106)などが出土。

SD74出土土器　瓦器椀A_2-1(52)、A_2(40)、B_3(60、61)、B_4(62)、青磁椀(107)、白磁椀(104)がある。

SD83出土土器　瓦器椀A_2-1(51)、A_3(43、44)、A_4(47)、B_1(56)、B_3(57)、B_5(58)、土師器中皿b_4(87)。羽釜の出土は顕著で、b(97～100)、C(102)、d(92～94)、e(95)があり、須恵器は鉢(112、116)。その他に古墳時代～奈良時代の遺物として、土師器甕(91)、須恵器杯(109)が出土している。

自然河川出土遺物(注)瓦器椀と須恵器鉢の出土が多い。下層からは古墳時代～奈良時代に属する土師器杯(21～24)、高杯(26、27)が検出されたほか、砥石を2点(120、121)確認した。

上層出土遺物　第2層内より、土師器小皿(76)、羽釜a(96)が、第3′層内より瓦器椀A_2(38)、B_6(66)、小皿b_1(70)、土師器小皿b_2(77)、b_4(80)、b_5(82)、d(85、86)、羽釜C(101)、須恵器甕(110、111)、鉢(115、117、119)、青磁椀(105-同安窯系)が出土した。

(注) 括孤内に示した以外の遺物は、全て自然河川からの出土である。

4）縄文時代の遺構

（1）層位

今回の調査は、上層の中世遺構と下層の縄文時代の遺構と調査年度が異なるため、基本層序も一括したものはなく、それぞれの年度の断面図を合成し作成した。基本層序は、昭和56年4月に実施した試掘調査の第7トレンチの土層図をもとにし、上層から順に層番を付した。しかしながら今回の調査地は、北から南へかなりの傾斜が認められ、また中央では後述するような一段落ち込んだ地形をしているため、土層の堆積は一率の状況ではない。第13図の第7トレンチ付近（14t～16tライン）が、上層の中世時代～奈良時代の遺構との関連性がもっとも良く理解できるところから、この地区を中心に記述をすすめていきたい。

基本的な層序は以下のようになる。

第1層　黒褐色(2.5Y3.5/2)砂混りシルト細礫～中礫を多く含む。水田の耕作土であり、層厚15～20cmを測る。

第2層　暗褐色(10YR3/3～2/1)粘土～シルトのブロック土で細礫を多く含む。水田の床土であり、層厚5～20cmを測る。

第3層　暗オリーブ褐色(2.5Y3.5/2.5)砂混りシルト細礫を多く含む。中世の遺物包含層で、層厚15～20cmを測る。14t～16t、14a～16a区で検出できるが、他の地区では、水田の造成等で削平されて検出できない。

第4層　黒褐色砂混粘質シルト、砂礫を多く含む。中世期の遺物包含層。層厚5cmを測る。

第5層　黒褐色(2.5Y3/2)砂混りシルト細礫を多く含む。古墳時代～奈良時代の遺物を少量含んでいる。中世期の遺構面を形成するが、14t～16t区、14a～16a区のみで検出され、以外の地区では第13層(13-A層)が中世期の遺構面を形成する。

第6層　遺構内堆積土。

第7層　オリーブ黒色粘土層。奈良時代の遺構内堆積土。

第8層　黒褐色シルト層。奈良時代の遺構内堆積土。

第9層　黒褐色微砂層。層厚15～20cmを測る。14t～16t、14a～16a区のみで認められる。

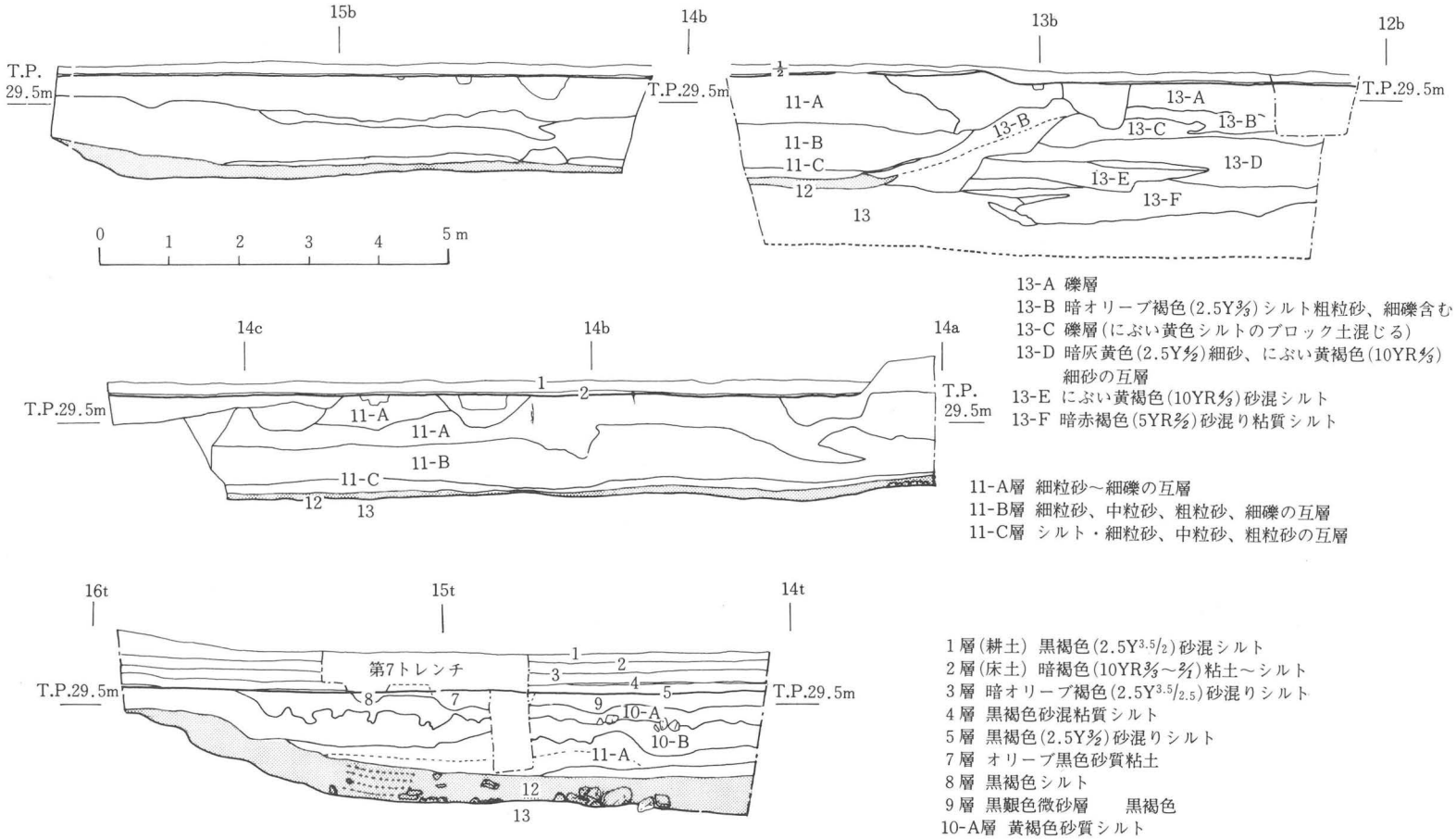
第10-A層　黄褐色砂質シルト。縄文土器が少量含まれる。層厚20～30cm。

第10-B層　黄褐色砂質粘土。縄文土器が微量含まれる層厚30～40cm。

第11-A層　細粒砂～細礫の互層。大礫を少量含む。にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト（細礫を含む）のブロック土が少量混じる。13ラインより東側だけで検出される。層厚30～40cmを測る。

第11-B層　細粒砂、中粒砂、粗粒砂、細礫の互層。にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト（細礫を含む）のブロック土が上半部に少量混じる。酸化したと思われる面が7面確認できる。風化した縄文土器の細片が少量出土している。層厚60～80cm。

第11-C層　シルト、細粒砂、中粒砂、粗粒砂の互層。酸化した面が4面あり、安定した堆積



13-A 礫層
13-B 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト粗粒砂、細礫含む
13-C 礫層(にぶい黄色シルトのブロック土混じる)
13-D 暗灰黄色(2.5Y4/2)細砂、にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂の互層
13-E にぶい黄褐色(10YR4/3)砂混シルト
13-F 暗赤褐色(5YR3/2)砂混り粘質シルト

11-A層 細粒砂～細礫の互層
11-B層 細粒砂、中粒砂、粗粒砂、細礫の互層
11-C層 シルト・細粒砂、中粒砂、粗粒砂の互層

1層(耕土) 黒褐色(2.5Y3.5/2)砂混シルト
2層(床土) 暗褐色(10YR3/3～2/1)粘土～シルト
3層 暗オリーブ褐色(2.5Y3.5/2.5)砂混りシルト
4層 黒褐色砂混粘質シルト
5層 黒褐色(2.5Y3/2)砂混りシルト
7層 オリーブ黒色砂質粘土
8層 黒褐色シルト
9層 黒褐色微砂層　　黒褐色
10-A層 黄褐色砂質シルト
10-B層 黄褐色砂質粘土
11-A層 細粒砂～細礫の互層
12層 黒褐色(7.5YR3/2)粘質シルト
13層 礫層

第13図　縄文時代土層断面図

層である。第19・20図の縄文土器が出土している。

第12層　黒褐色(7.5YR2/2)粘質シルト層。細礫～中礫を多く含む。縄文時代早期の包含層で、土器・石器を多量に含む。

第13層　礫層(中礫～大礫多量に含む)。

調査地は、調査以前には三段の段々上の田圃になっており、中段から下段は田圃に造成する際にかなり削平を受けているため、中世期及び奈良時代～古墳時代に相当する堆積層は検出できなかった。下段において、試掘調査の時点で地山と考えた中世期の遺構面を形成する層は、今回の基本層序の第11層に相当すると思われる。第11層は、11-C層で少量の縄文土器が出土したが、上層の11-A・B層には遺物はほとんど認められない。第13図を見ると第11層は、調査地の西側から東へ第13層(段丘面)が大きく落ち込む凹みに堆積しており、基本的には上層では細礫～粗粒砂層で下層になるにしたがって細砂～シルト層に変化している。かなりの期間にゆるやかに堆積した層と考えられ、11-B、11-C層で観察された酸化したような面や第12層直上で認められる嵌入などは、この地域が11層の堆積期間中には幾度となく水浸りの状況であったことがうかがわれる。遺跡のすぐ南側には鬼虎川が流れており、この谷川の影響によるものかもしれない。

第12層は、縄文時代早期の包含層で土器・石器が多量に含まれている。調査地の北から南へかなりの傾斜をもって検出された。特に15t～15a区にかけては厚さ50～60cmを測る。第3図のように調査地の中央のaラインより南ではゆるやかな傾斜で厚さ20～10cmと徐々に薄くなりながら、南へ続いている。dラインより南側では厚さ約5cmになり、遺物もまったく含まれていなかった。縄文時代早期の遺構面は、第13層(礫層)である。こぶし大の礫から人頭大の礫まで多数認められた。

第13図のXXVFbライン上の断面を見ると礫層が大きく西から東へ落ち込み、この落ち込み内には11層が3層に分かれて堆積しているが、第13層も大きく6層に分けることができる。

13-A層　礫層。

13-B層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト粗粒砂、細礫を含む。にぶい黄褐色(2.5Y6/4)シルト混細礫のブロックが少量混じる。

13-C層　礫層。にぶい黄褐色シルトのブロック土が混じる。

13-D層　上部　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト層とにぶい黄褐色(10YR4/3)細砂の互層。
下部　灰黄褐色(10YR4/2)シルト層とにぶい黄褐色(10YR4/3)細砂の互層。
最下部ではシルト～中粒砂の互層となる。

13-E層　にぶい黄褐色(10YR4/3)砂混りシルト層で1cm大の礫が含まれる。

13-F層　暗赤褐色(5YR2/2)砂混り粘質シルト層で、下部では砂が粗くなる。細礫、粗粒砂がレンズ状に入る。

基本的にはシルト～細砂と礫～粗粒砂の互層が続き、遺構・遺物は検出できなかった。13層及び13-A～13-F層は、縄文時代早期の遺構面を形成し、中位段丘にかぶる層と考えられる。

（2）集石遺構

本調査の縄文時代遺構の調査対象面積は、530㎡である。これは、昭和56年度の第1次調査終了時に縄文時代の包含層が中世遺構の下で検出され、その際に各々の地点にサブトレンチを設定して包含層の広がりを確認した結果、決定された調査範囲である。

今回の調査にあたっては、調査地を10ｍ方形で断面観察用の畦を残し、畦内を５ｍ方眼の小区画で分け、さらに小区画を１ｍ方眼で区画分けをおこない、カタカナのア・イ・ウ……を付

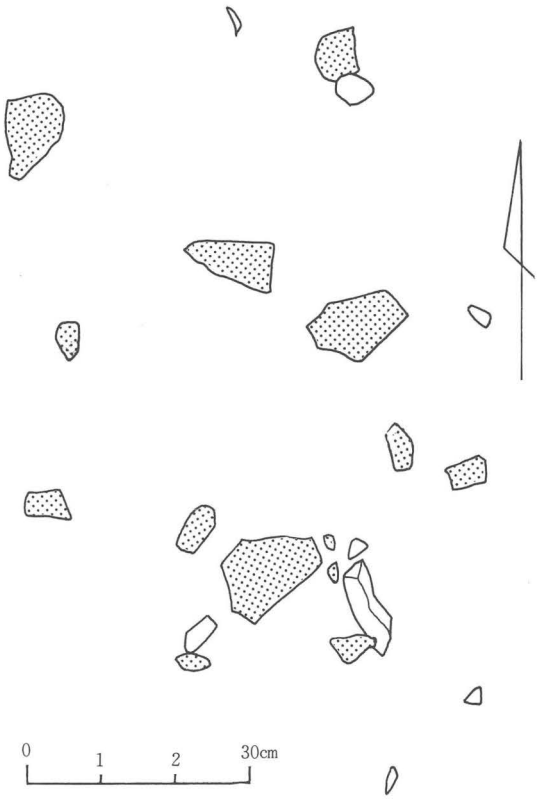
第14図　集石遺構実測図

して分けた。層位は、縄文時代の包含層を大きく11層・12層に区分し、11層は、A・B・Cの３層に細分し、11-A・11-B、11-C層とし、12層は任意に厚さ10cmごとに分け、上層より12-1、12-2、12-3層と細分をおこなった。

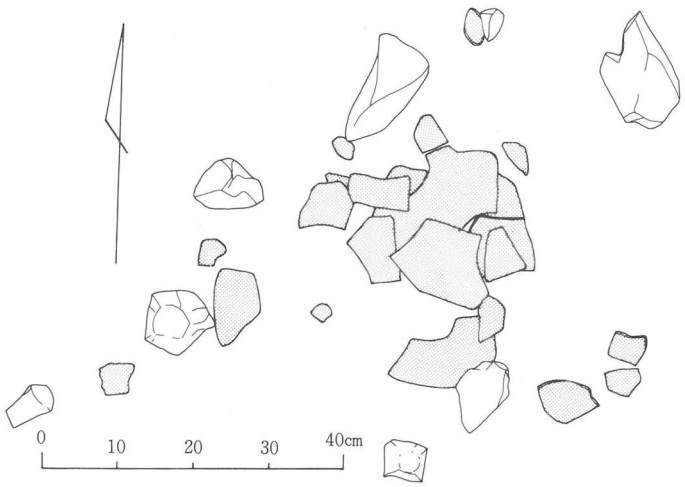
以上のような方針にもとづいて、包含層を徐々に掘り下げたところ、調査地の東側、17t・17a・17b区ではすぐに地山面があらわれ、こぶし大の比較的小さな礫群が検出された。また、西側の13t～13c区でも細砂～シルト質粘土の地山面が検出された。

この結果、調査地の中央部分が大きく凹むことが明らかになった。そこで、中央部分の凹内に堆積している包含層を上層から厚さ10cmごとに掘り下げることにした。包含層内には、土器・石器類が多量に含まれているが、特に15a、16b、15t区に集中して認められた。上層での礫は小さく、量も少ないが、下層にいくにしたがって、礫も大きく量も多くなっている。このため礫を出来るだけ残しながら掘り下げると、礫の下に土器が検出される場合があり、その時は礫を取り除きながら掘り下げをおこなった。この結果、第18図に見るごとく集石遺構が検出された。

集石遺構は、一部中世の井戸掘削で削られているが、ほぼ全形がうかがわれる。第14図を見ていただきたい。礫群は、北側では29ｍ20cm

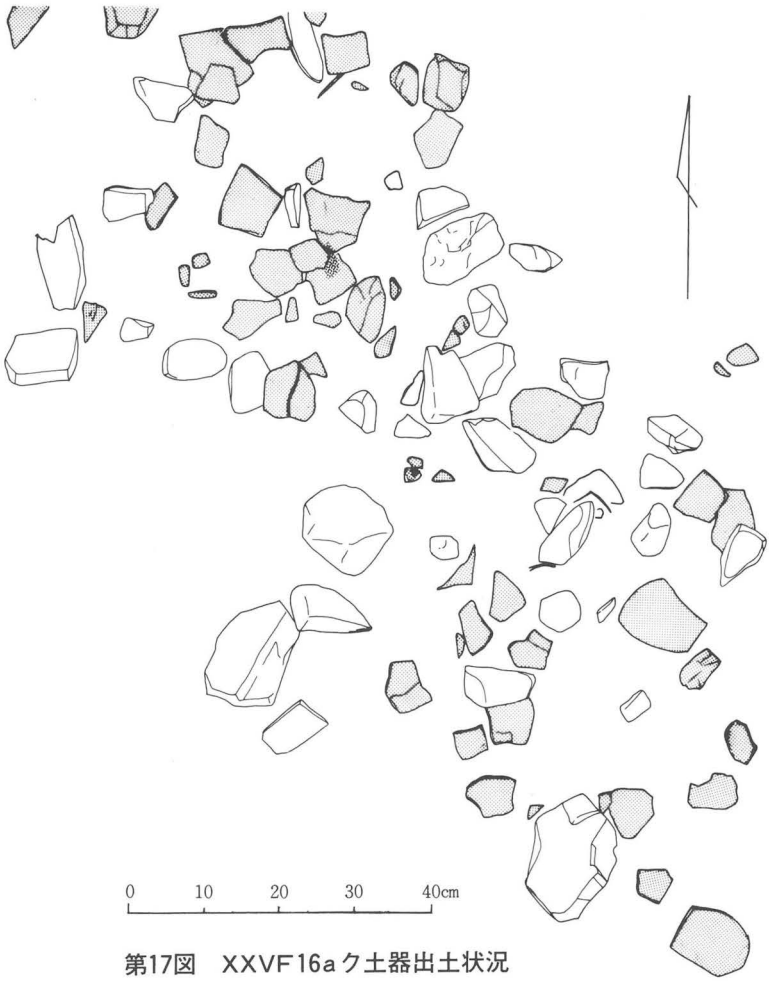


第15図　XXVF16c区Ⅰ群土器122出土状況
（スクリントーン：土器）



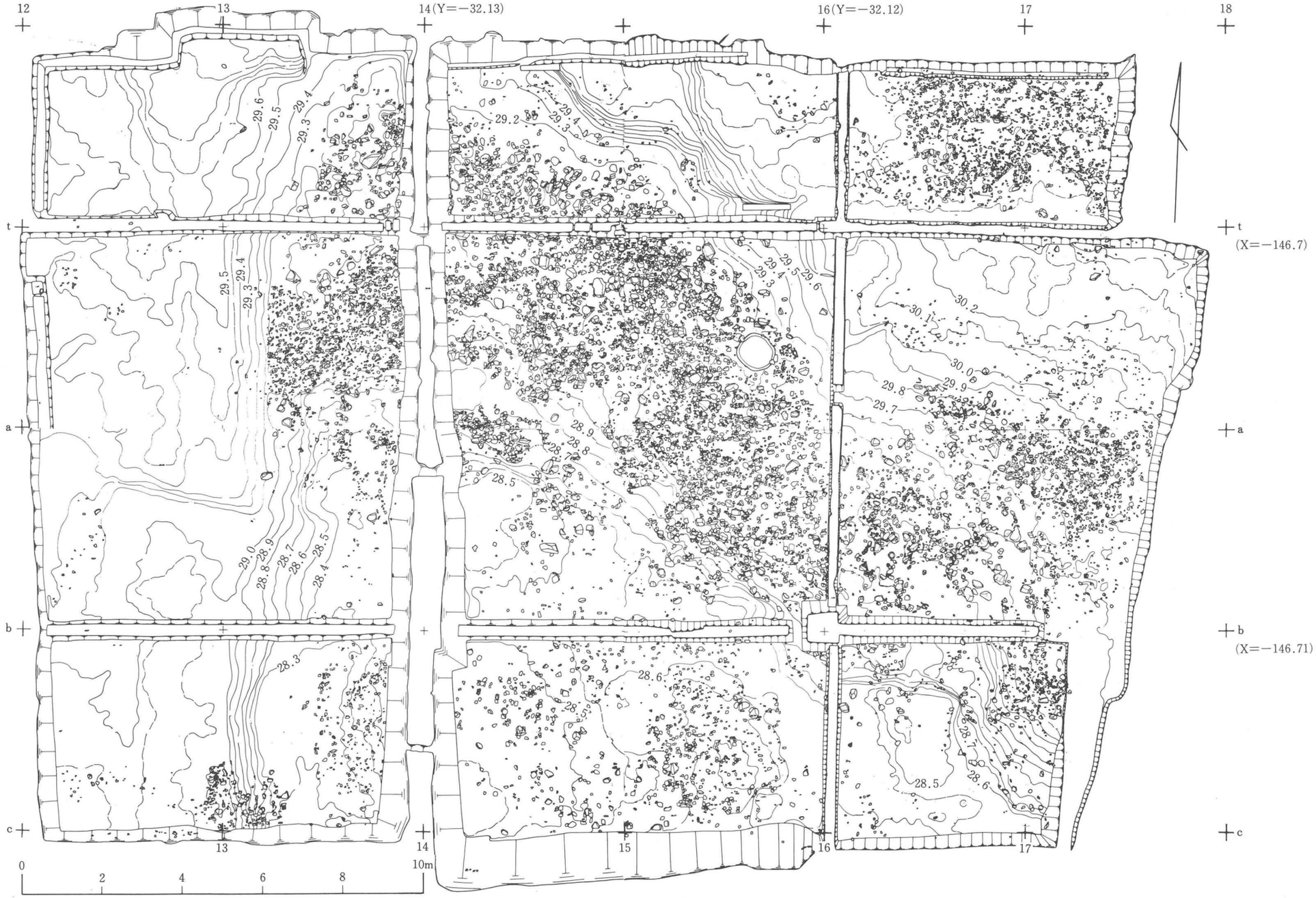
第16図　XXVE15tキ区土器156出土状況
（スクリントーン：土器）

のコンターラインに沿って広がり、南では28ｍ70cmのコンターラインまで密集して認められる。つまり、北と南で比高50cmのわずかな傾斜地に楕円形状に広がっている。礫は、40～50cmのものから人頭大、こぶし大の礫まで多様で、人為的に敷並べたものや、焼けているものなどは認められなかった。但し、表面の風化している石が多く、花崗岩等の脆い石は風化が進み、ボロボロの状態で検出された。石材は、ほとんど閃緑岩もしくは花崗閃緑岩と呼ばれる生駒山で産するものであった。



第17図　XXVF16aク土器出土状況
（スクリントーン：土器）

集石は、当初は高所からの流れ込みもしくは転石と考えていたが、共伴している土器・石器には風化は認められるものの、流れ込みによる磨滅の痕跡は認められない。また礫群は、凹みの平坦な部分に集中して認められる。以上のことから、集石は人為的なものである可能性が高く、集石遺構の上部には何らかの居住施設があったことが考えられる。



第18図　集石遺構全体図

5）縄文時代の遺物

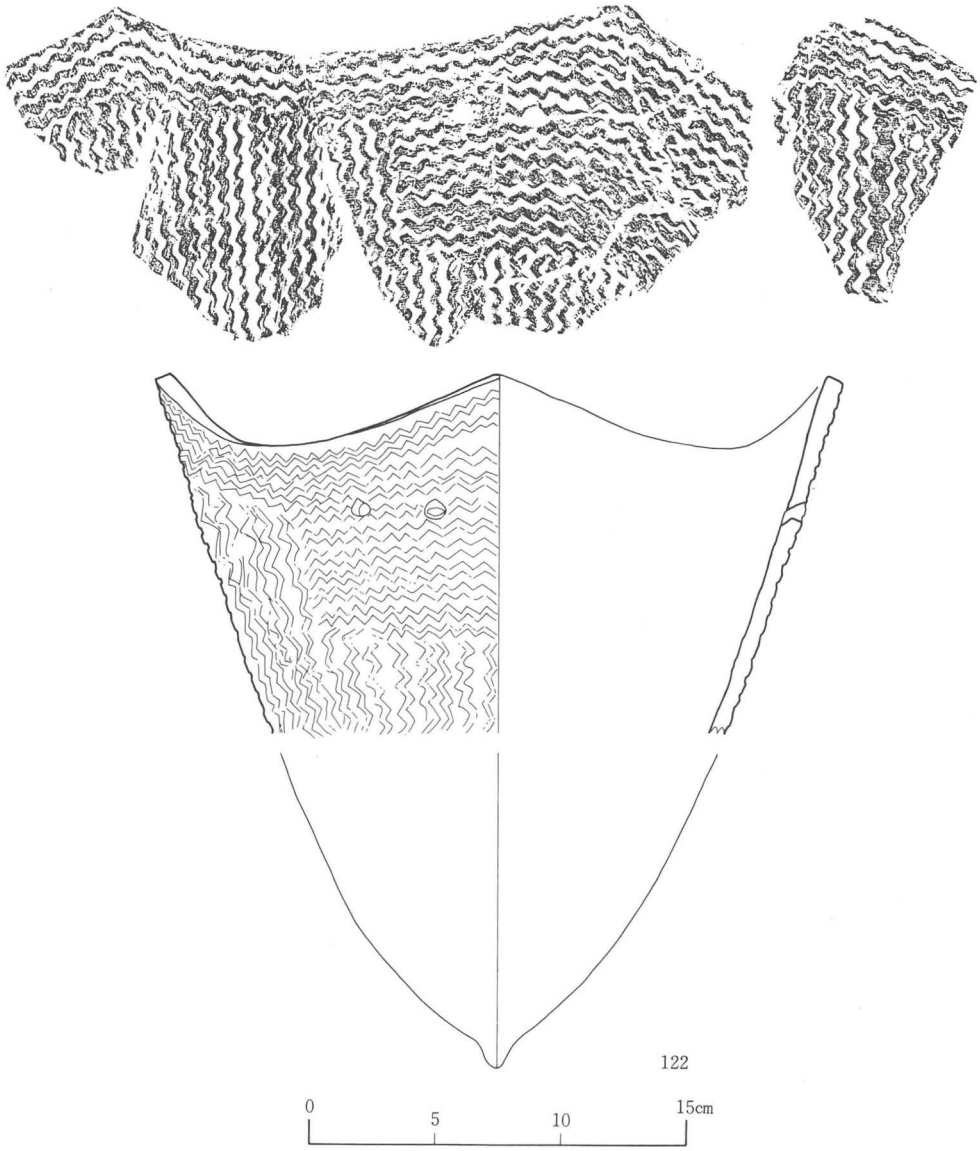
（1）土器

今回の調査では、第11層、第12層内よりコンテナ箱で30箱分の縄文土器が出土している。第11層内から20数点の土器が出土しているだけで、大部分は第12層内から出土している。縄文土器の分類は、層位的事実より第11層内出土土器をⅠ群土器とし、第12層内出土土器をⅡ群土器に区分した。Ⅱ群土器を器形、施文方法の違いからA・B・C・D・E・Fの7タイプに分類をおこない、さらに文様の違いからBタイプをB_1～B_5に細分をおこなっている。文様の名称は、片岡肇氏の論文にしたがって、ネガテイブな楕円文で舟形状を呈するものを舟形沈文、長楕円状を呈するものを長楕円沈文とし、以下長方形沈文・菱形沈文と称することにした。[注①] 次に挿図・図版中の土器を分類毎に記しておく。

分　類	挿　図	図　版	土器番号
Ⅰ群土器	第19・20図	二七	122～143
Ⅱ-A群土器	第21図	二八	144～154
Ⅱ-B_1イ群土器	第22～28図	二八～三五	155～300
B_1ロ群土器	第29・30図	三六～三八	301～351
B_1ハ群土器	第31・32図	三八～四一	352～429
Ⅱ-B_2イ群土器	第22・33・34図	四一～四四	156・158・430～505
B_2ロ群土器	第35図	四四～四五	506～531
Ⅱ-B_3群土器	第36図	四六～四七	532～579
Ⅱ-B_4群土器	第37図	四七～四八	582～610
Ⅱ-B_5群土器	第38図	四八～四九	611～643
Ⅱ-C群土器	第39図	四九～五〇	644～659
Ⅱ-D群土器	第40・41図	五一～五三	660～701
Ⅱ-E群土器	第42図	五三	702～712
Ⅱ-F群土器	第42図	五三	713

Ⅰ群土器(第19・20図、図版二七)

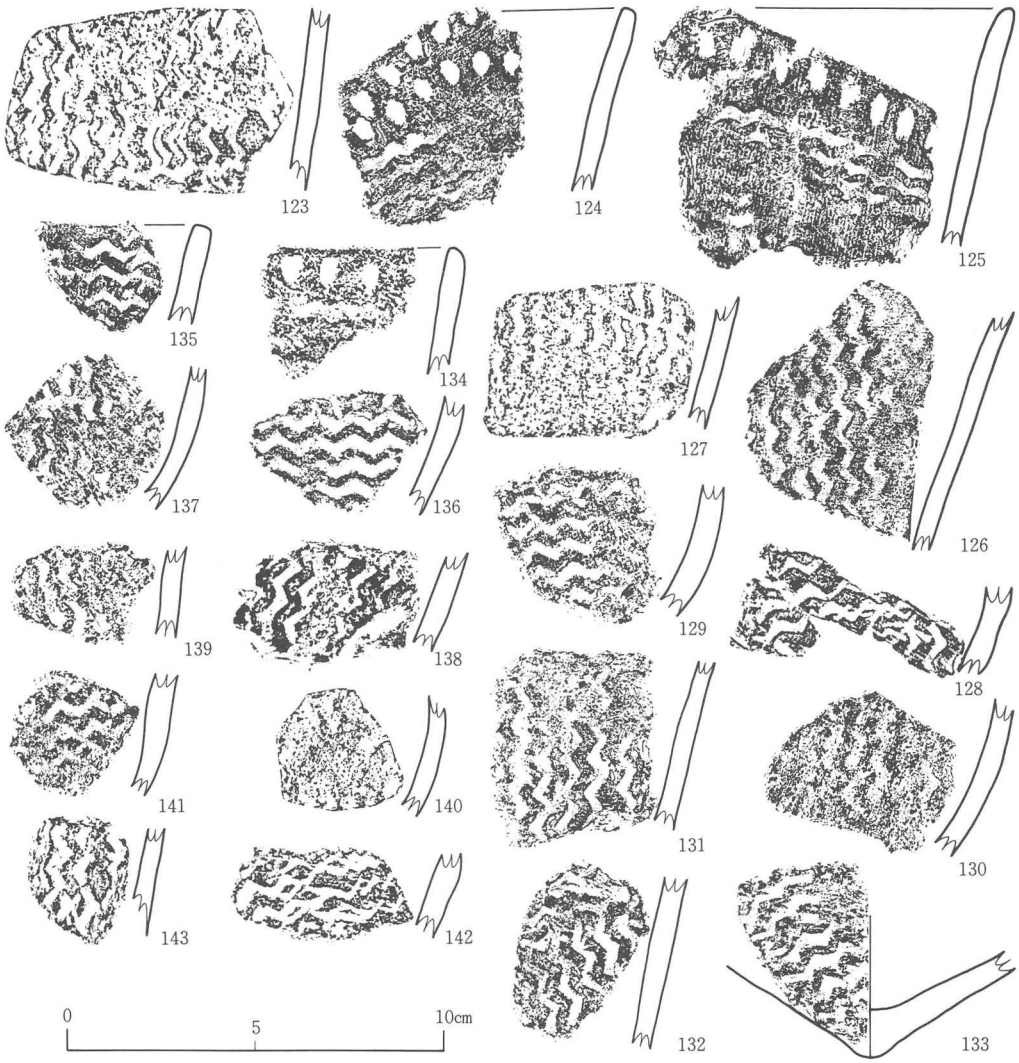
体部全面に山形文を施文し、口縁部は波状となる。Ⅱ群土器に比較して器壁は厚く、全体にしっかりした感じを受ける。20数点出土しているが、すべて第11層内より出土している。中でも大半が第11-C層内から出土している。(122)は、口径26.4cm、残存器高14.3cmを測り、ほぼ全形を復元することができた。器形は、直線的に斜上方に開く口縁部に端部は面をもって終っている。底部は欠損しているが、(133)のような底部であったと推測される尖底深鉢形土器である。口縁部は、残存で2ヵ所の波頂部が残っており、全体で4ヵ所の波頂部をもつ波状口縁になると思われる。口縁部外面に横方向、胴部に縦方向と一部に横方向の山形文で全面施文している。口縁下に補修孔が2孔認められるほか表面に煤の付着が認められる。内面は、丁寧なナ



第19図　Ⅰ群土器実測図・拓影

デ調整を施している。山形文は、横方向の施文ののち縦方向の施文をおこない、５条２単位で長さ2.6cm、直径0.57cmの原体が復元できる。(123)(126)(130)(136)(142)は、(122) と同一個体と考えられる。

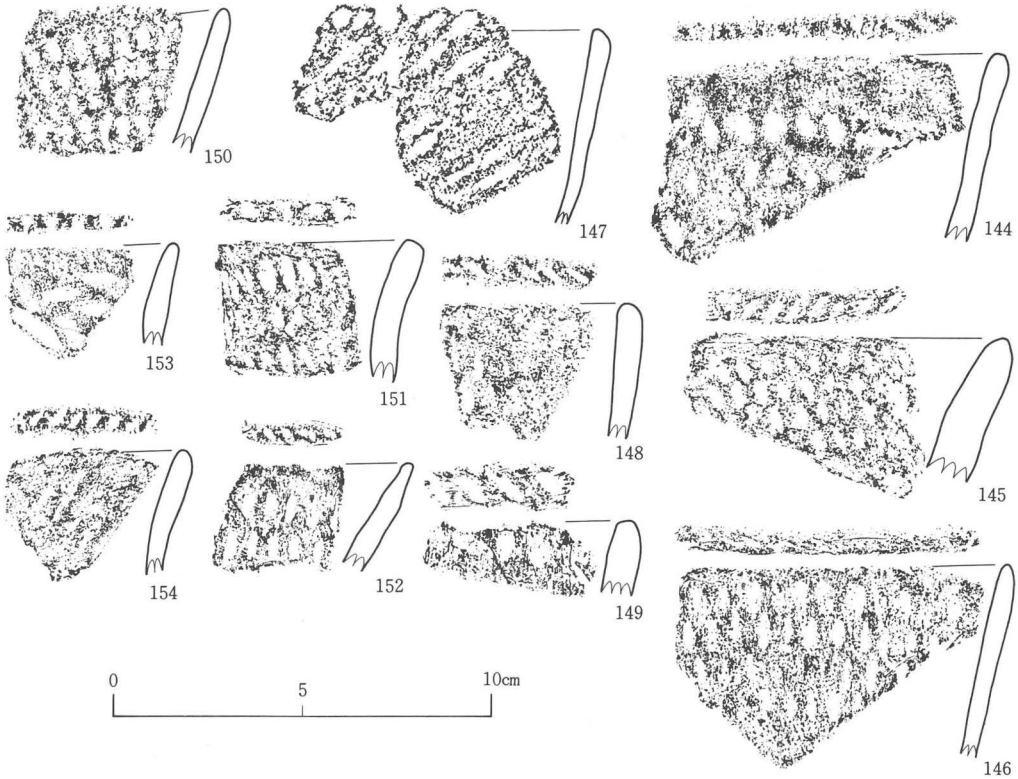
(124)と(125)は、同一個体と考えられる波状口縁の小型深鉢形土器である。直線的に斜め上方に開く口縁部は、面をもって終る。口縁部外面に１列ないし２列の刺突文を施し、その下に５条の山形文を横走施文している。内面は、丁寧にナデ調整が施されている。



第20図　Ⅰ群土器拓影

Ⅱ-A群土器(第21図、図版二八)

比較的器壁が厚く、口唇部に刻目施す。(144)は、わずかに外反する口縁部に端部は丸く終る。口縁部外面で舟形状のネガテイブな楕円文（以下舟形沈文と記す）を横方向に施文する。口唇部の刻目は浅い。(145)は、器壁の厚さ1.1cmで最も厚い。わずかに外反する口縁部に端部は面をもって終っている。口唇部の刻目も深く、しっかりしている。口縁部外面には舟形沈文を横方向に施文している。(147)の刻目は、口縁端部外面の角に施文され、刻目原体は胴部施文原体と同一原体を使用している。



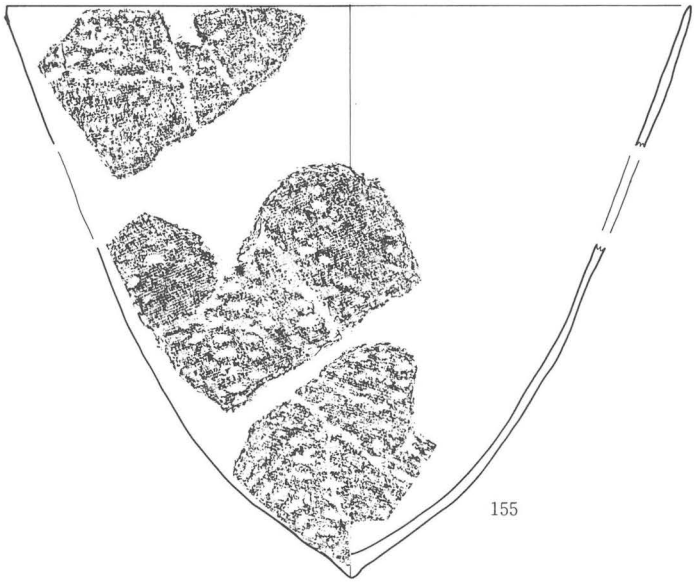
第21図　Ⅱ-A群土器拓影

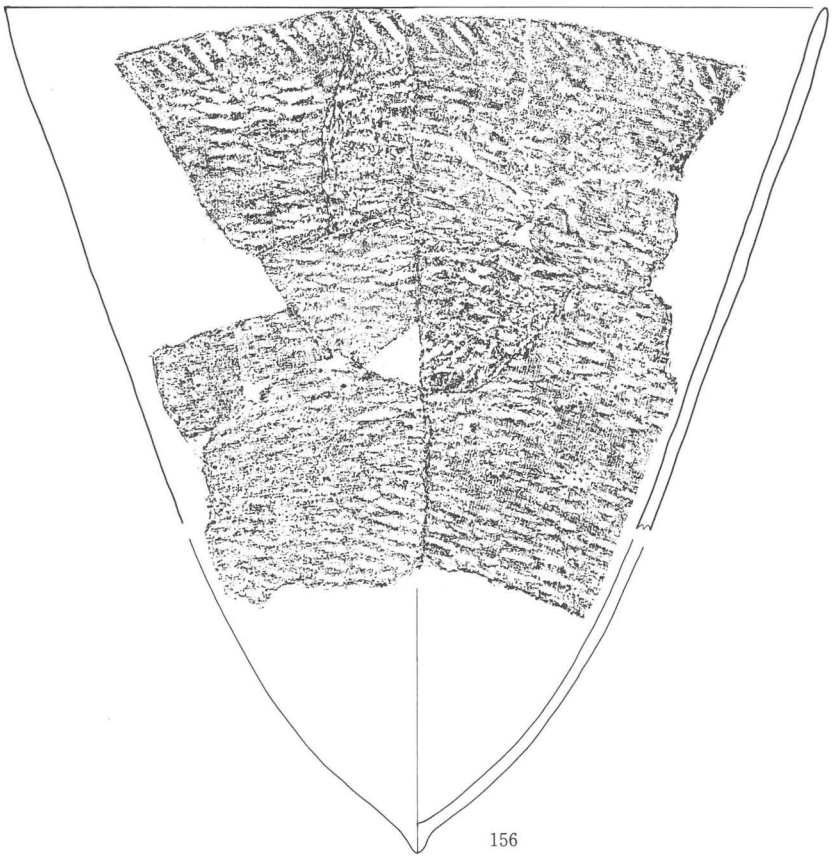
Ⅱ-B_1群土器(第22～32図、図版二八～四一)

胴部外面の文様に舟形沈文を施文するもの。舟形沈文の長軸線が、土器の中軸線と直交するものを舟形沈文イ、斜めに交わるものを舟形沈文ロ、平行するものを舟形沈文ハにそれぞれ区別をしている。口縁部の形状は、舟形沈文イを施文するタイプの土器がわずかに外反し、舟形沈文ロタイプの土器が大きく外反し、舟形沈文ハタイプの土器が直口する場合が多い。器形は、尖底から胴部下半が少しふくらんだのち斜め上方に広がり、口縁部は外反する。口縁端部は、尖り気味に丸くおさめ、外面に刻目を施す。胴部全面を底部末端まで密接に舟形沈文を施す。

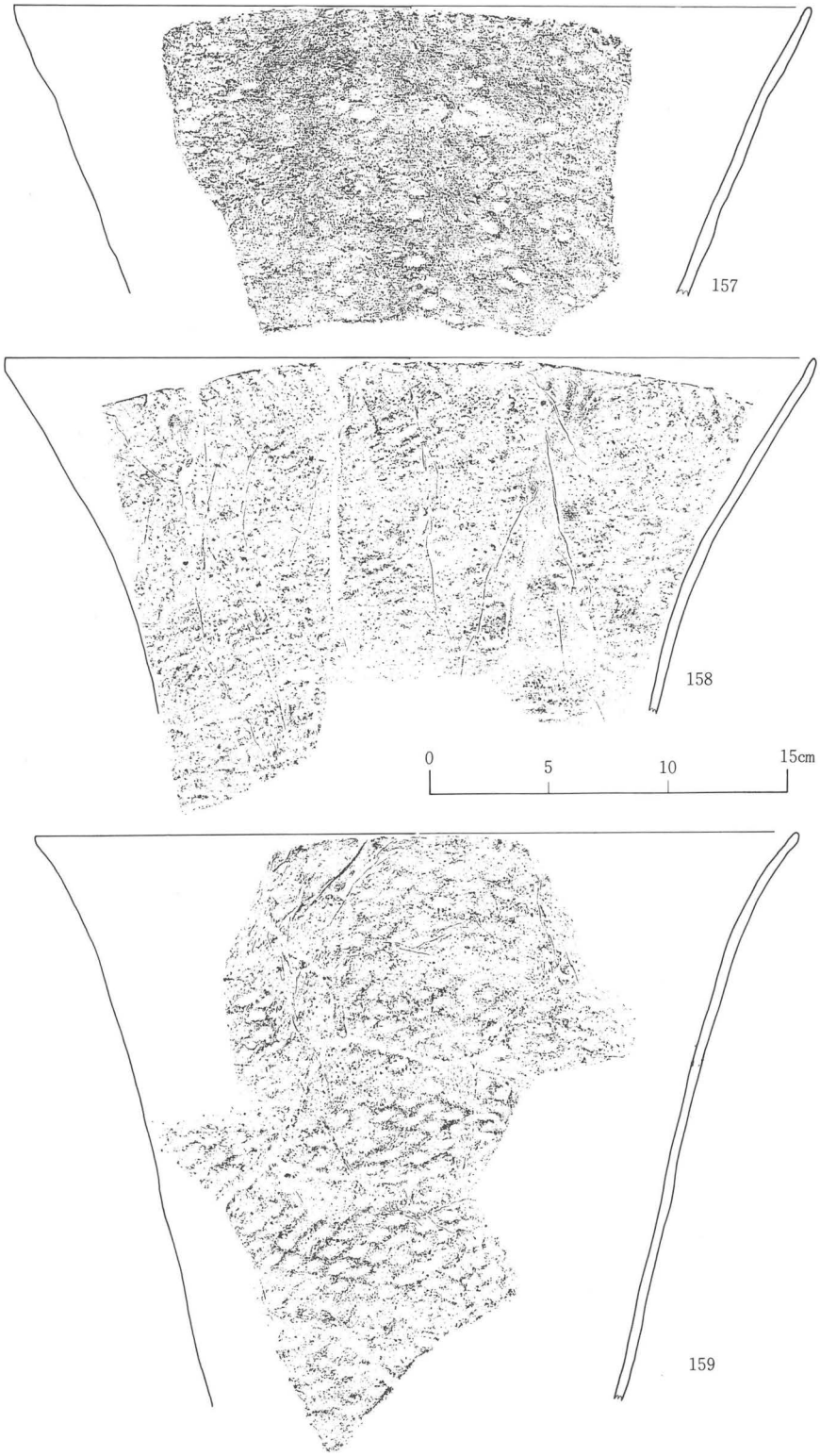
(155)は一括で出土し、ほぼ全体が復元できる。復元口径27.3cm、復元器高22cmを測る中型の尖底深鉢形土器である。乳房状の尖底から外方へ広がり、口縁部は直線状に開き、端部は尖り気味に丸く終る。口縁端部に刻目を施し、体部全面に舟形沈文イを施文する。(159)は、復元口径32.2cmで底部を欠損し、残存器高24.0cmを測る。胴部下半で少し内側にふくらんだのち、直線的に斜上方に広がり、口縁部は外反し端部は丸く終る。端部の刻目はなく、口縁直下より舟形沈文イを全面に密接施文している。

(301)は、口縁部がやや内弯し、端部に刻目を施したのち全面に舟形沈文ロを密接施文する。舟形沈文ロは、比較的施文が深くおこなわれており、舟形沈文イと原体の刻み方、割付の違いが認められる。(352・353)(354～366)は、直口する口縁部に端部は丸く終る。端部外面に刻目を施

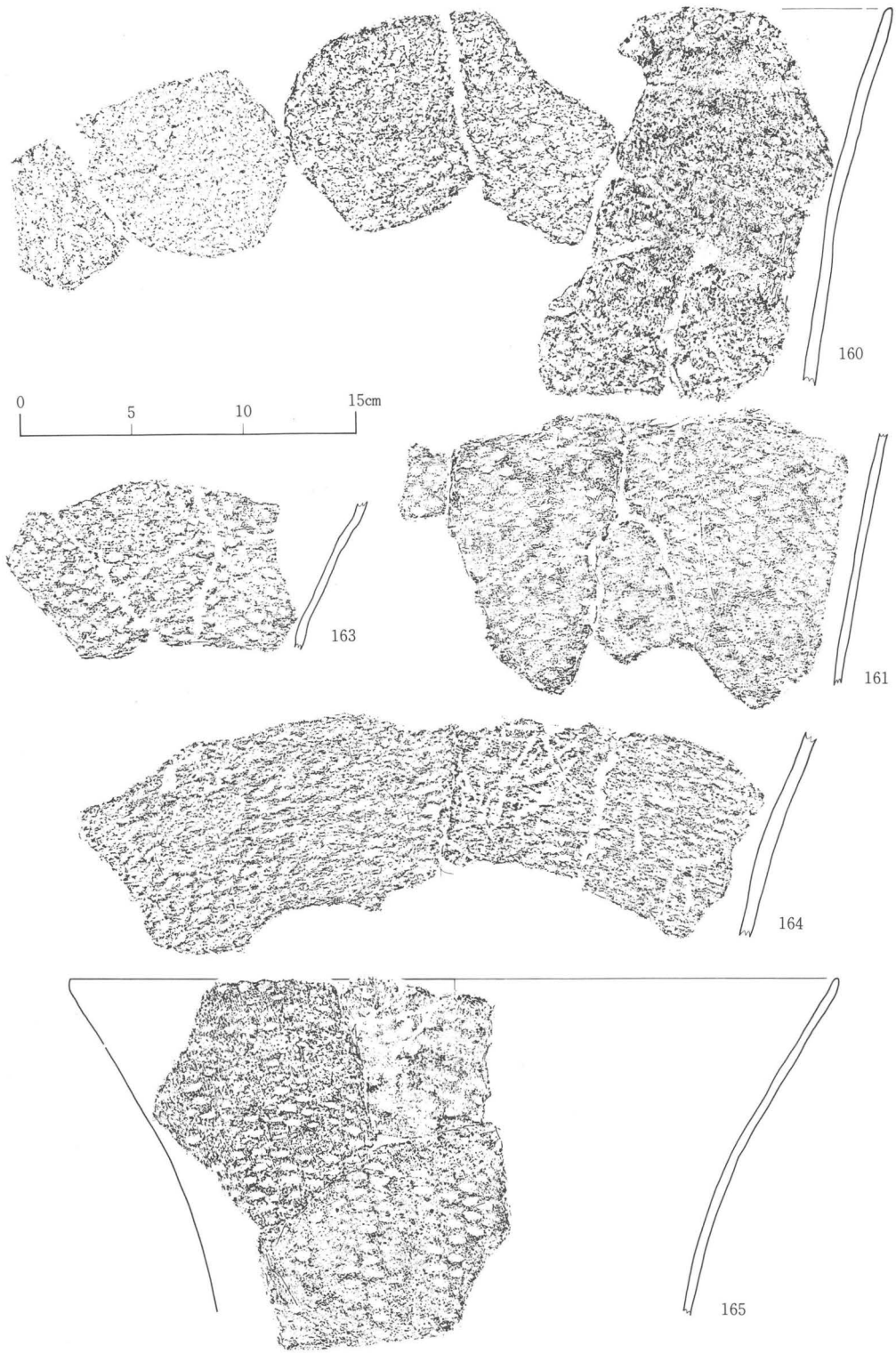




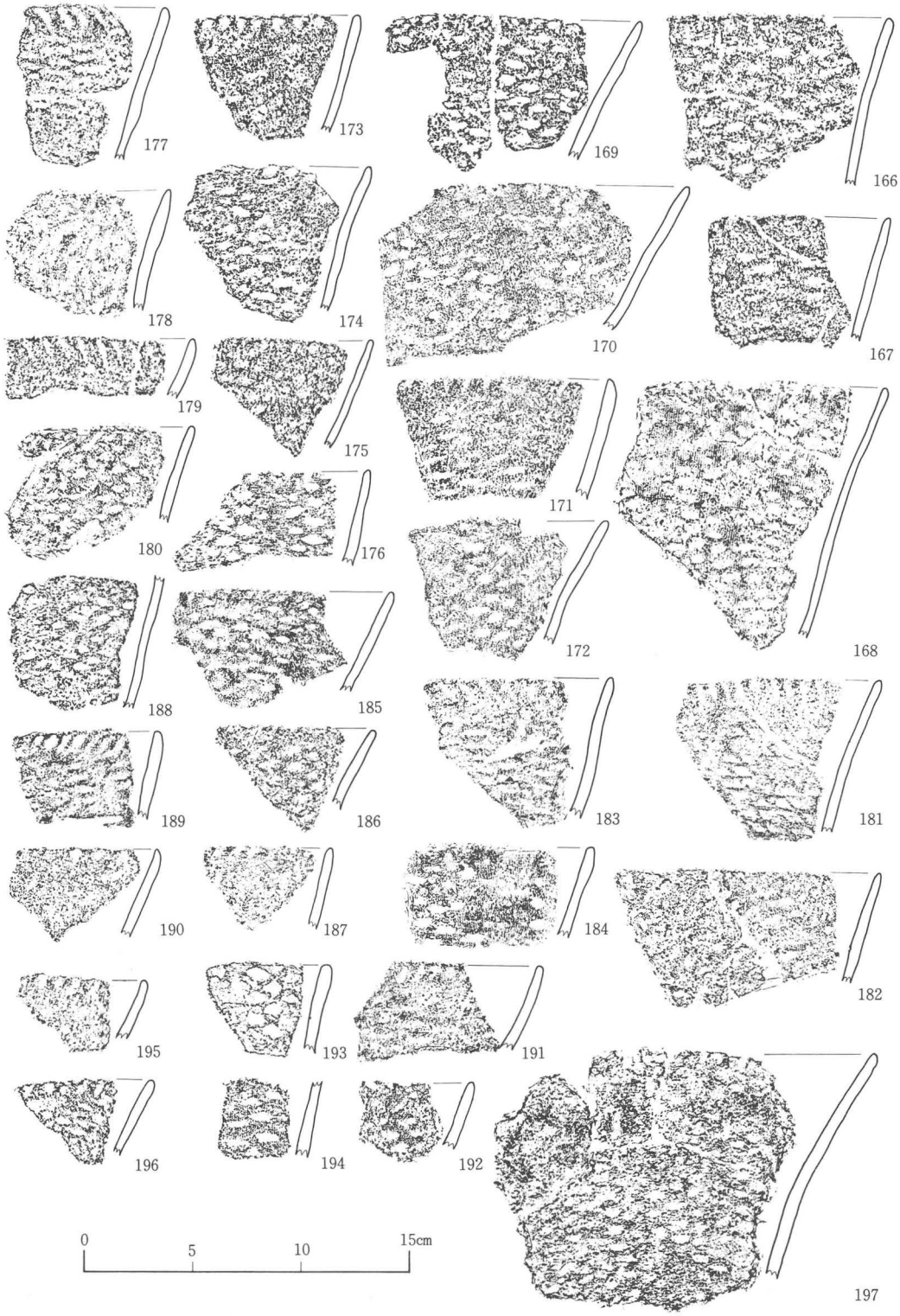
第22図　Ⅱ-B₁イ群・Ⅱ-B₂イ群土器実測図・拓影



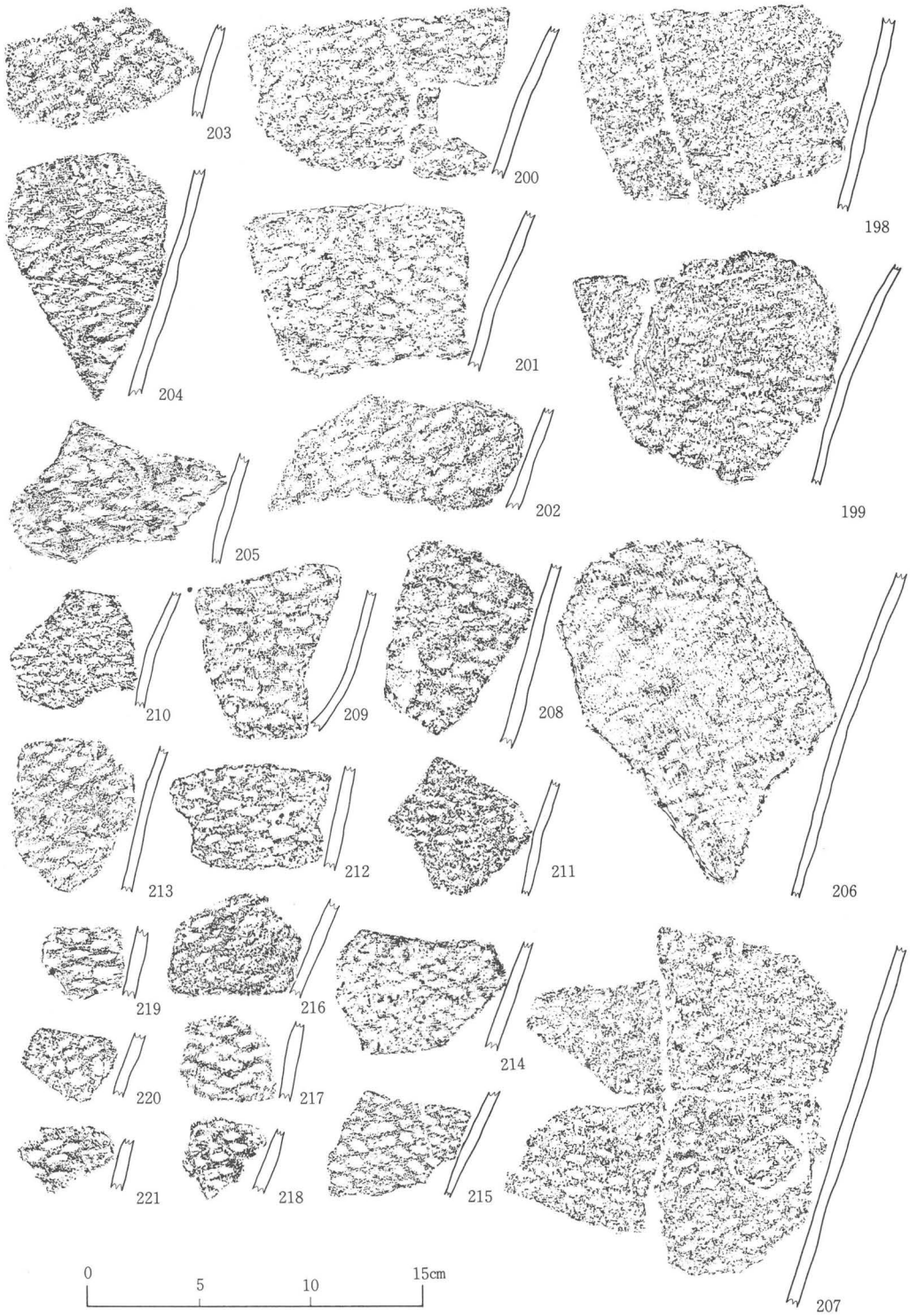
第23図　Ⅱ-B₁イ・Ⅱ-B₂イ群土器実測図・拓影



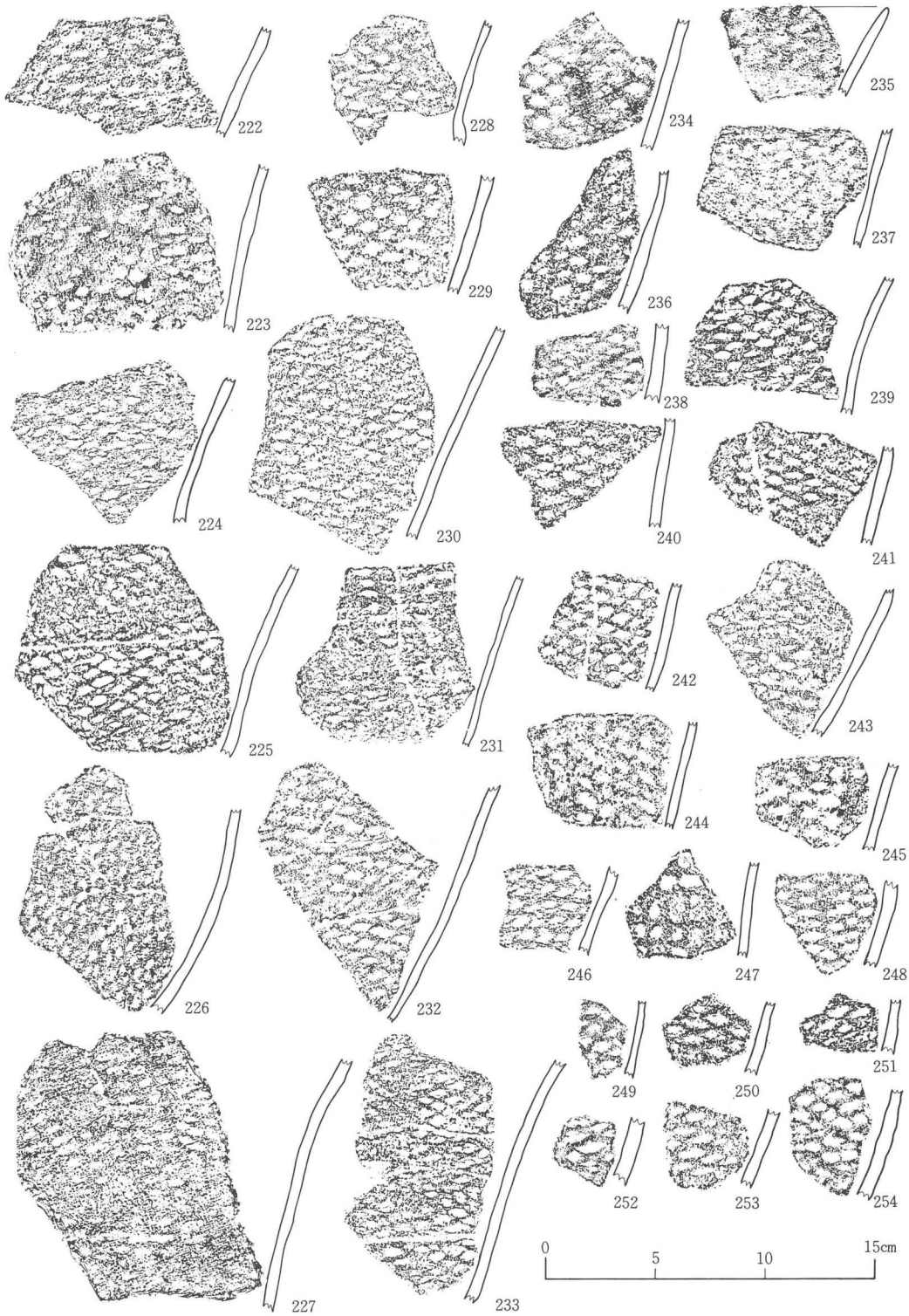
第24図　Ⅱ-B₁イ群土器拓影



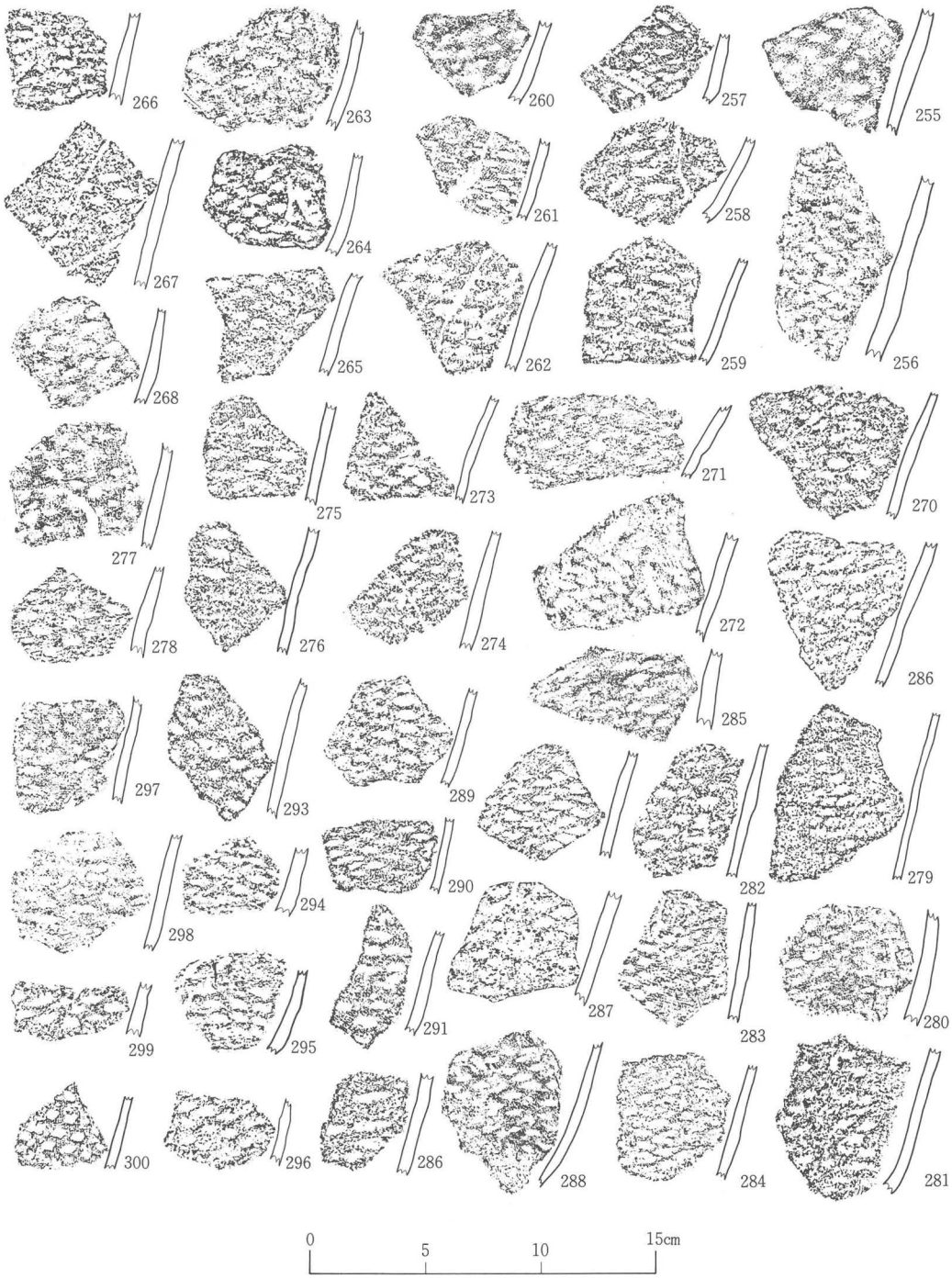
第25図　Ⅱ-B₁イ群土器拓影



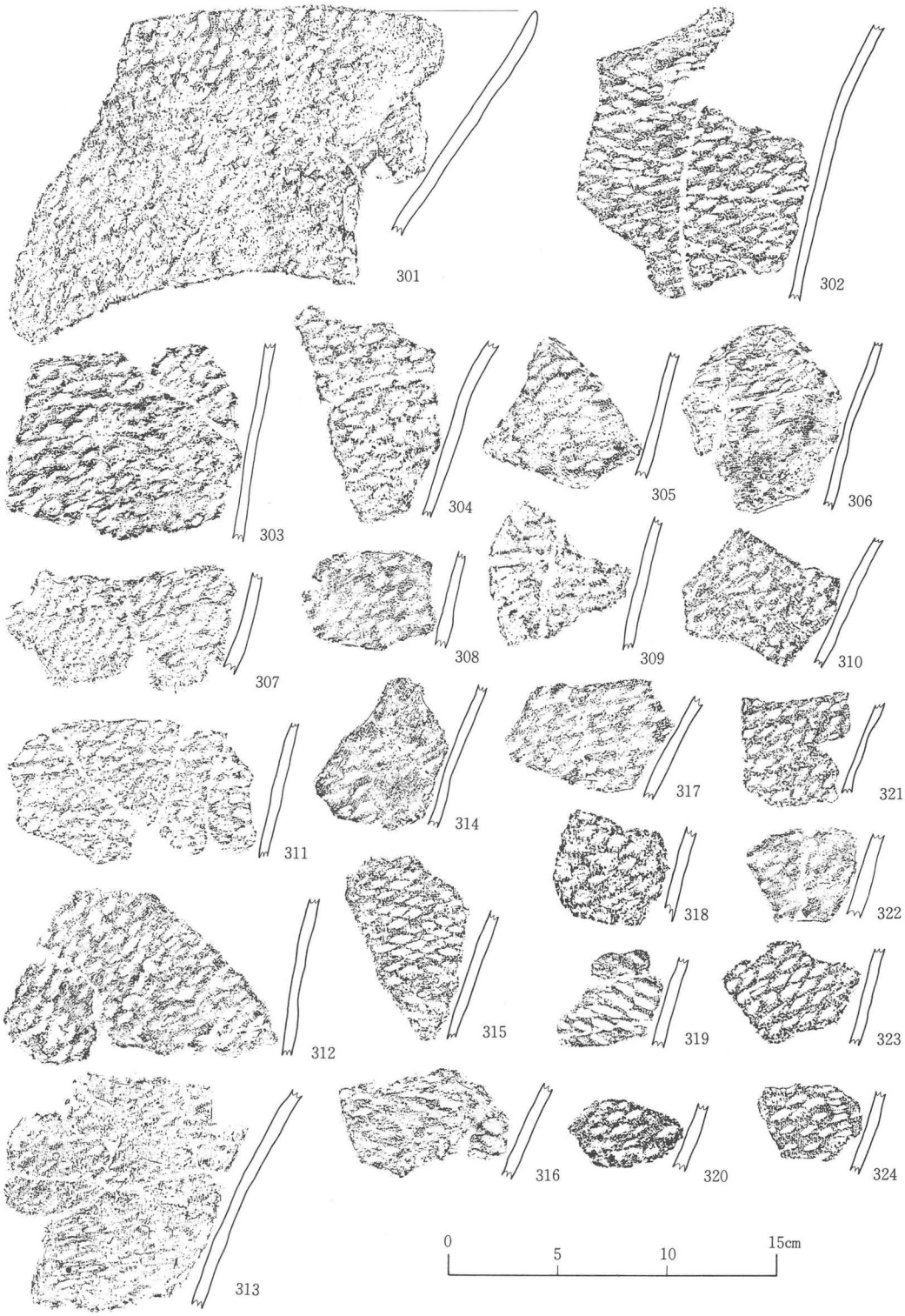
第26図　Ⅱ-B₁イ群土器拓影



第27図　Ⅱ-B₁イ群土器拓影



第28図　Ⅱ-B₁イ群土器拓影



第29図　Ⅱ-B₁口群土器拓影

し、口縁部外面に横方向に舟形沈文ハを密接施文している。胴部以下は欠損しているため不明であるが、(645)のように縦方向の施文になると思われる。

Ⅱ-B_2群土器(第22～23、33～35図、図版四一～四五)

ネガテイブな楕円文で施文するが、楕円文が長楕円ないし平行線状を呈するもので、線の細いタイプを長楕円沈文イ、太く粗いものを長楕円沈文ロに区別する。口縁部は、イ・ロとも外反することなく、直線的に開き大型になるタイプが多い。(156)は、復元口径32.3cm、復元器高33.6cmを測る大型の尖底深鉢形土器である。胴部下半より直線的に開き、口縁部は直口になる。口縁部外面に刻目を施すが、この原体は胴部外面の長楕円沈文イの原体と同一のものと思われる。胴部全面に長楕円沈文イを縦方向に密接施文している。(158)はわずかに外反する口縁部に端部に刻目を施し、胴部外面に長楕円沈文イを密接施文する。

Ⅱ-B_3群土器(第36図、図版四六～四七)

ネガテイブな楕円文で矢羽根状を呈する。(532～536)(538～540)(542～544)のように口縁部に施文される場合が多い。この場合、口縁端部刻目が長く施され、口縁以下を逆向きに施文することによって矢羽根状の文様を描いている。(545)のように胴部に縦方向に施文するものもあるが、総じて同一原体の施文の向きを変えることによって描いている。

Ⅱ-B_4群土器(第37図、図版四七～四八)

ネガテイブな楕円文で長方形状を呈するもの。(582)(584)のように市松様に並ぶものと(585～588)のように平行に規則正しく並ぶものがある。(585)(590)のように2条単位で施文しているのがよくわかる例もある。

Ⅱ-B_5群土器(第38図、図版四八～四九)

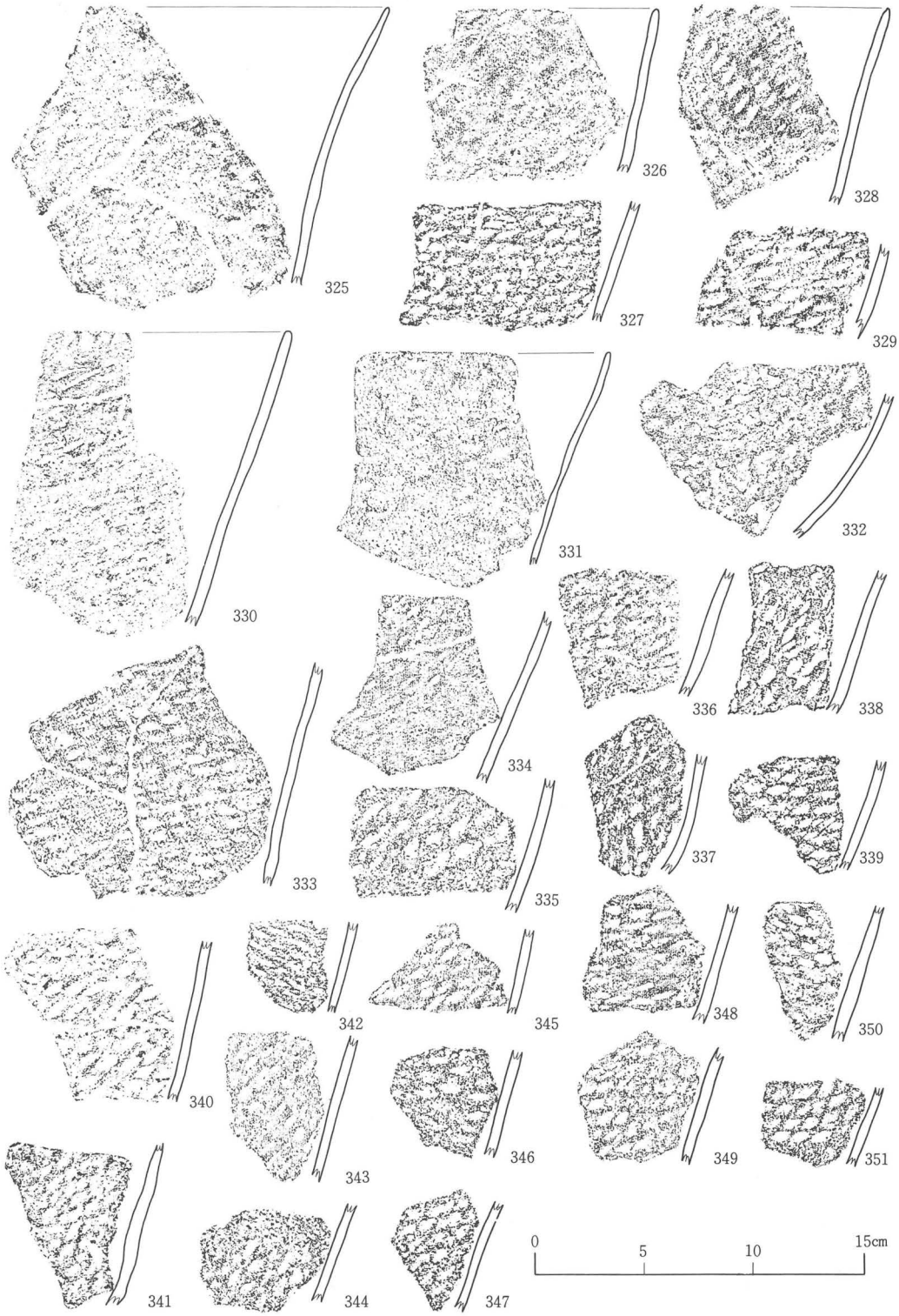
ネガテイブな楕円文で菱形状(菱形沈文)を呈するもの。(611)は、格子目文になる。(612～614)(620)の菱形沈文は、割付の線が明確で格子目文に類似する。(594)(595)は切り口の平坦な棒状の工具の先で刺突を施しているように見える。施文の非常に浅い土器である。

Ⅱ-C群土器(第39図、図版四九～五〇)

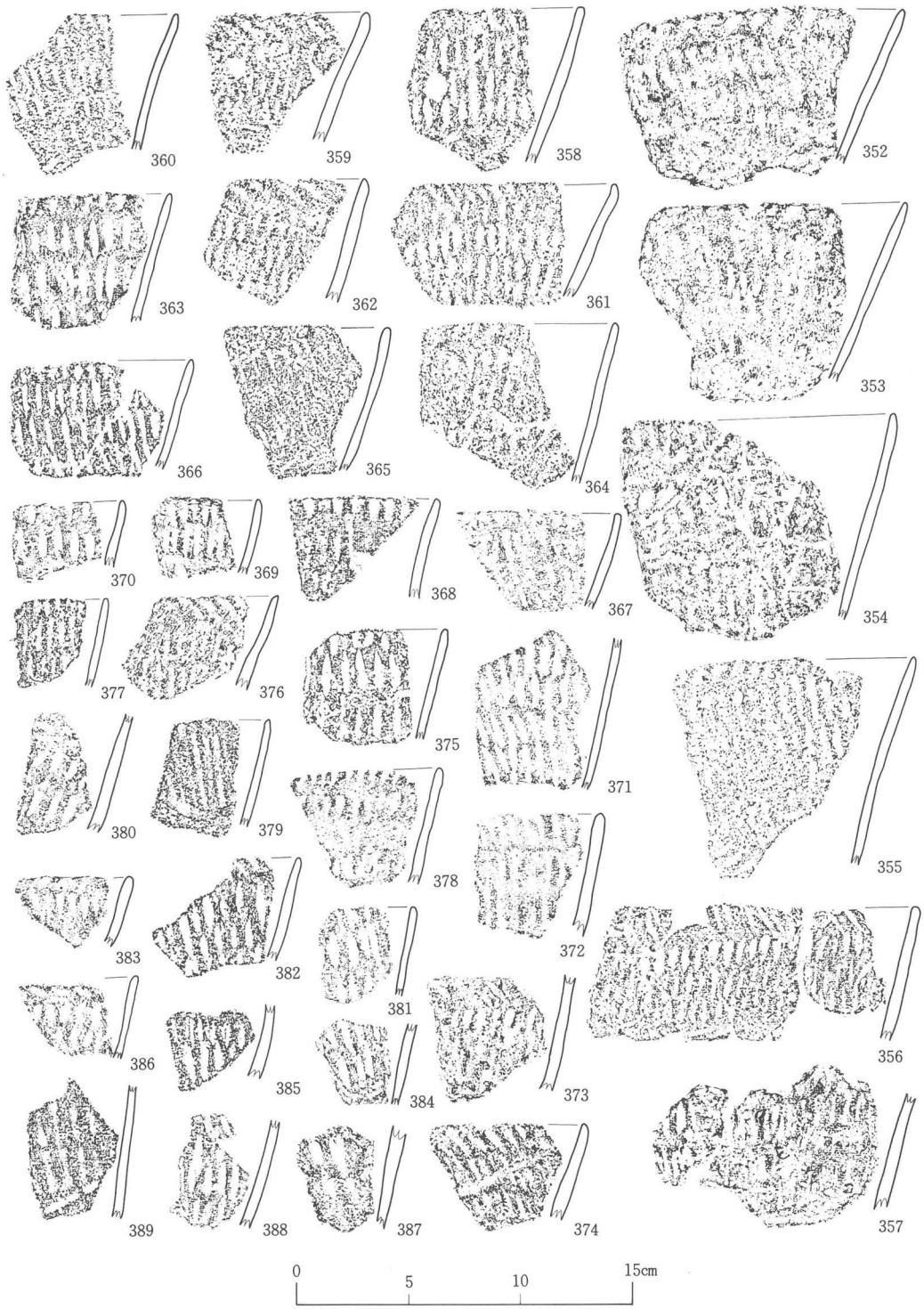
ネガテイブな楕円文で、口縁部文様と胴部文様の施文方向を変えるもの。(648)は胴部中央で少しふくらんだのち、口縁部は大きく外反する。口縁端部に刻目を施し、口縁部外面に舟形沈文イで横方向に密接施文し、胴部を同一原体で縦方向に密接施文している。(645) は口縁部と胴部で原体を変えて施文している。

Ⅱ-D群土器(第40・41図、図版五一～五三)

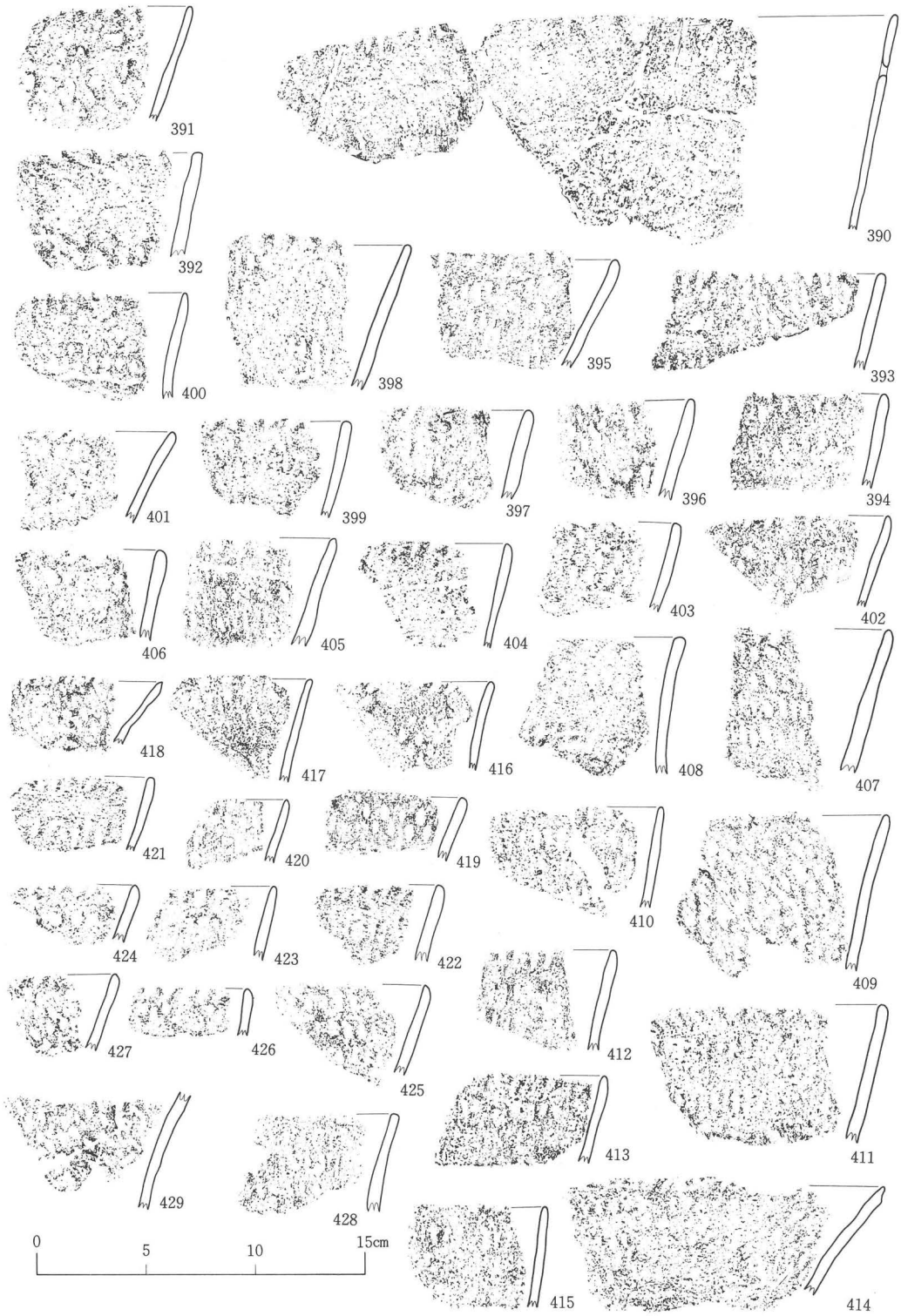
山形文を施文するもの。山形文と舟形沈文を組み合わせたものが多い。この場合、口縁部に山形文、胴部にネガテイブな楕円文を施している。山形文はⅠ群土器に施文されている山形文と違って、谷と谷の波長が長く、条数2～3条のものが多い。(660)は、わずかに外反する口縁部に砲弾形の胴部がつき、胴部下半は少しふくらみをもつ。底部は、欠失しているが乳房状の尖底になると思われる。口縁端部に浅い刻目を施し、外面には山形文を横走施文し、胴部には斜方向に舟形沈文ロを全面施文している。山形文は3条2単位と考えられ、土器表面にあらわ



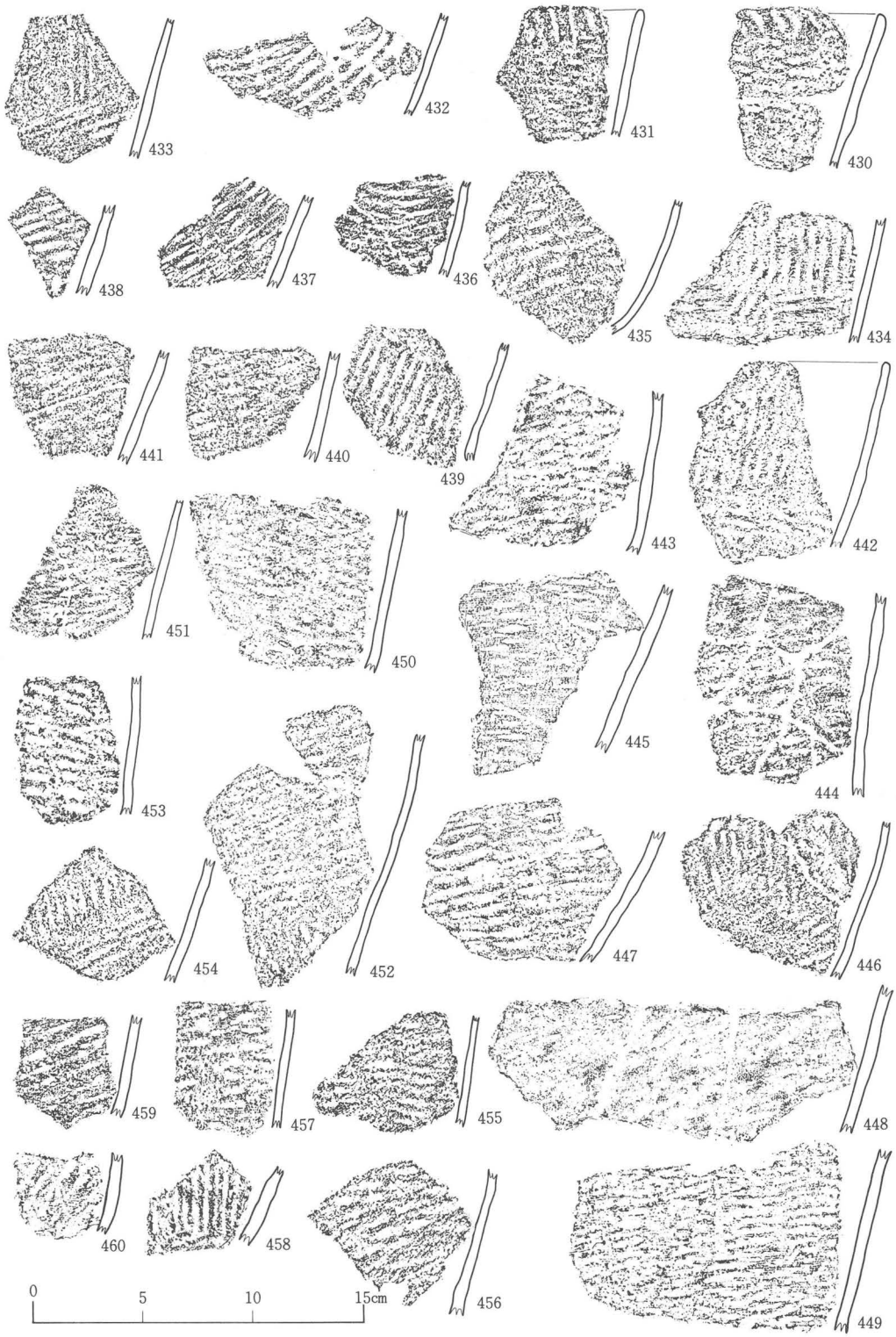
第30図　Ⅱ-B₁口群土器拓影



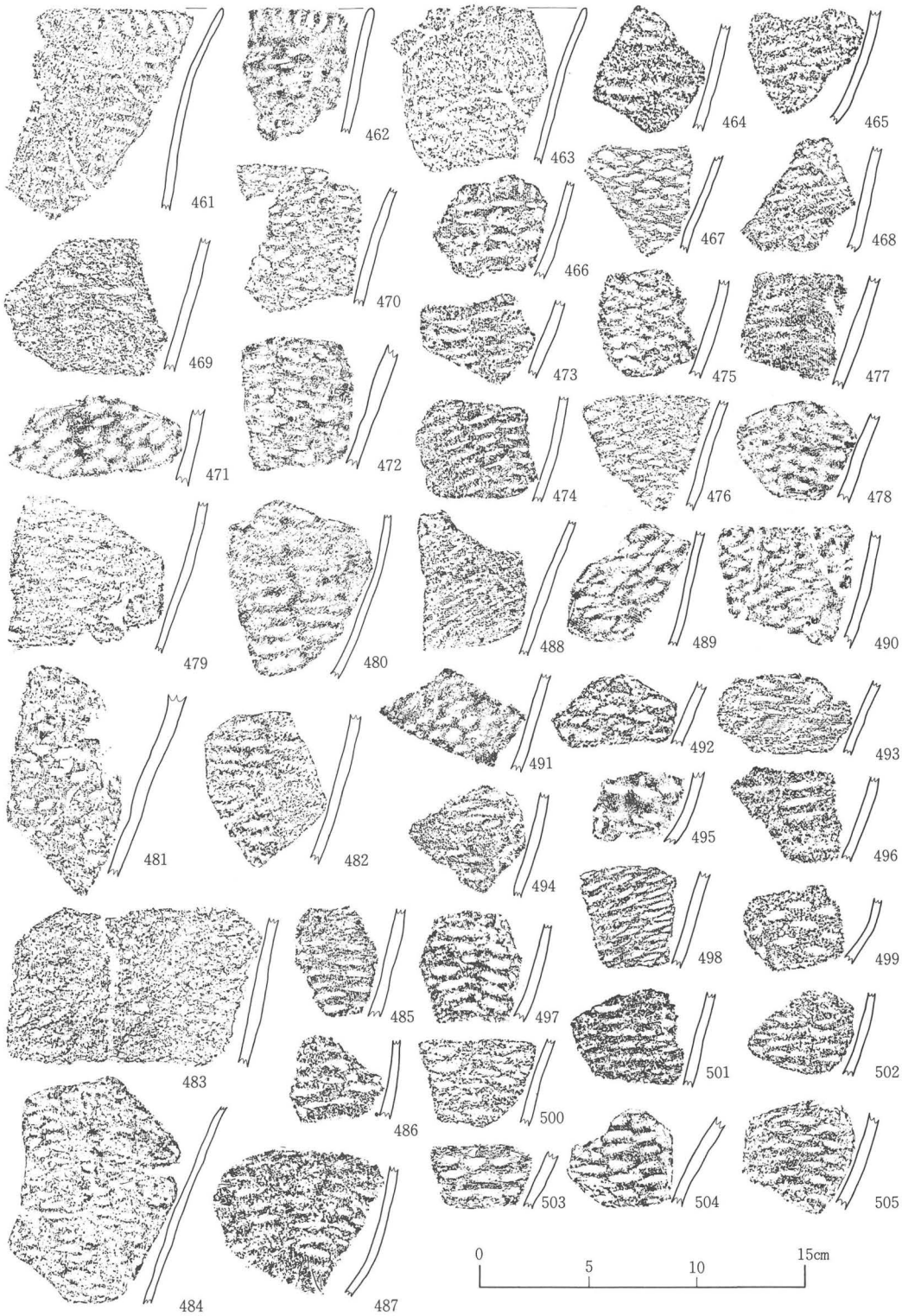
第31図　Ⅱ-B₁ハ群土器拓影



第32図　Ⅱ-B₁ハ群土器拓影

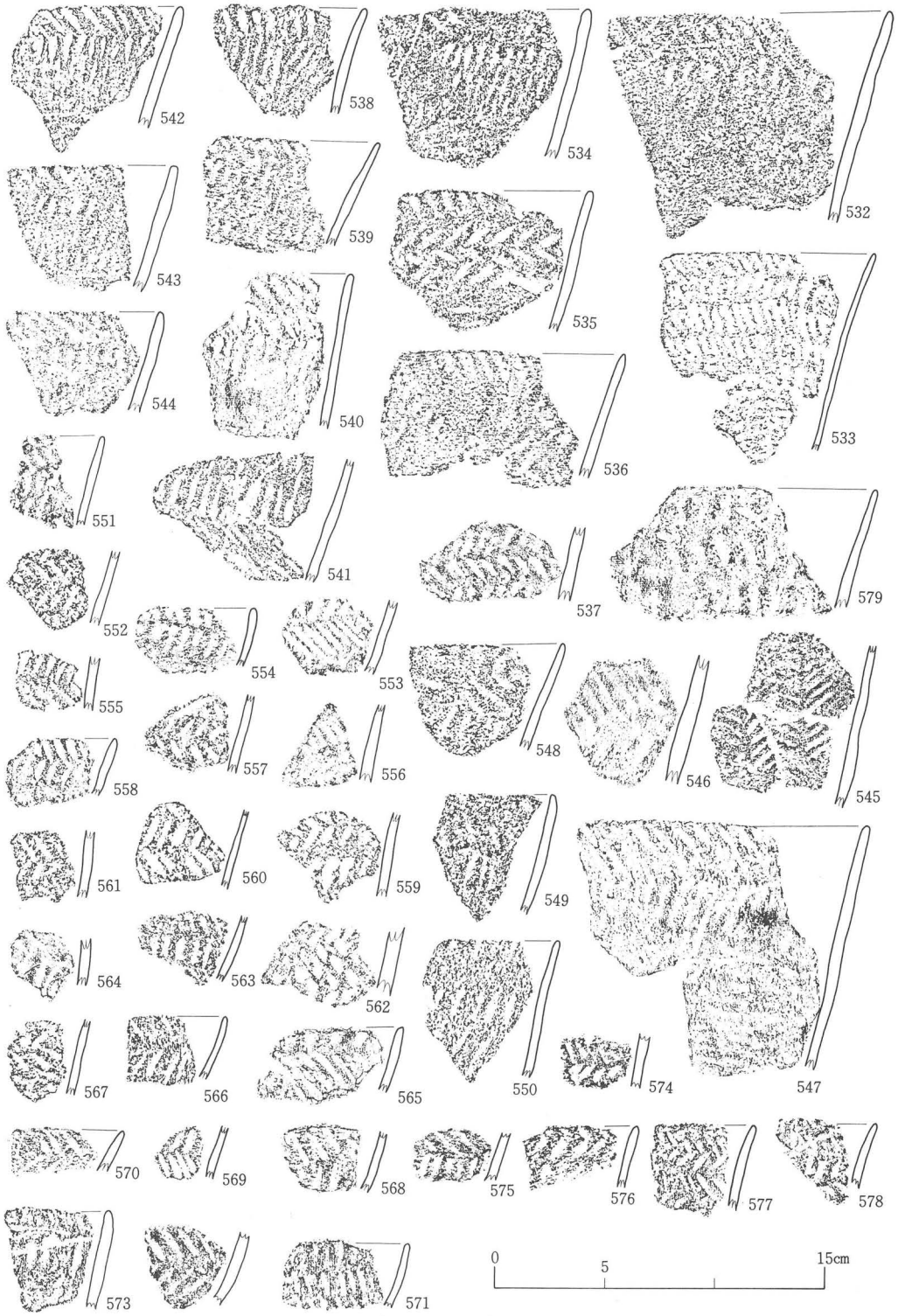


第33図　Ⅱ-B₂イ群土器拓影

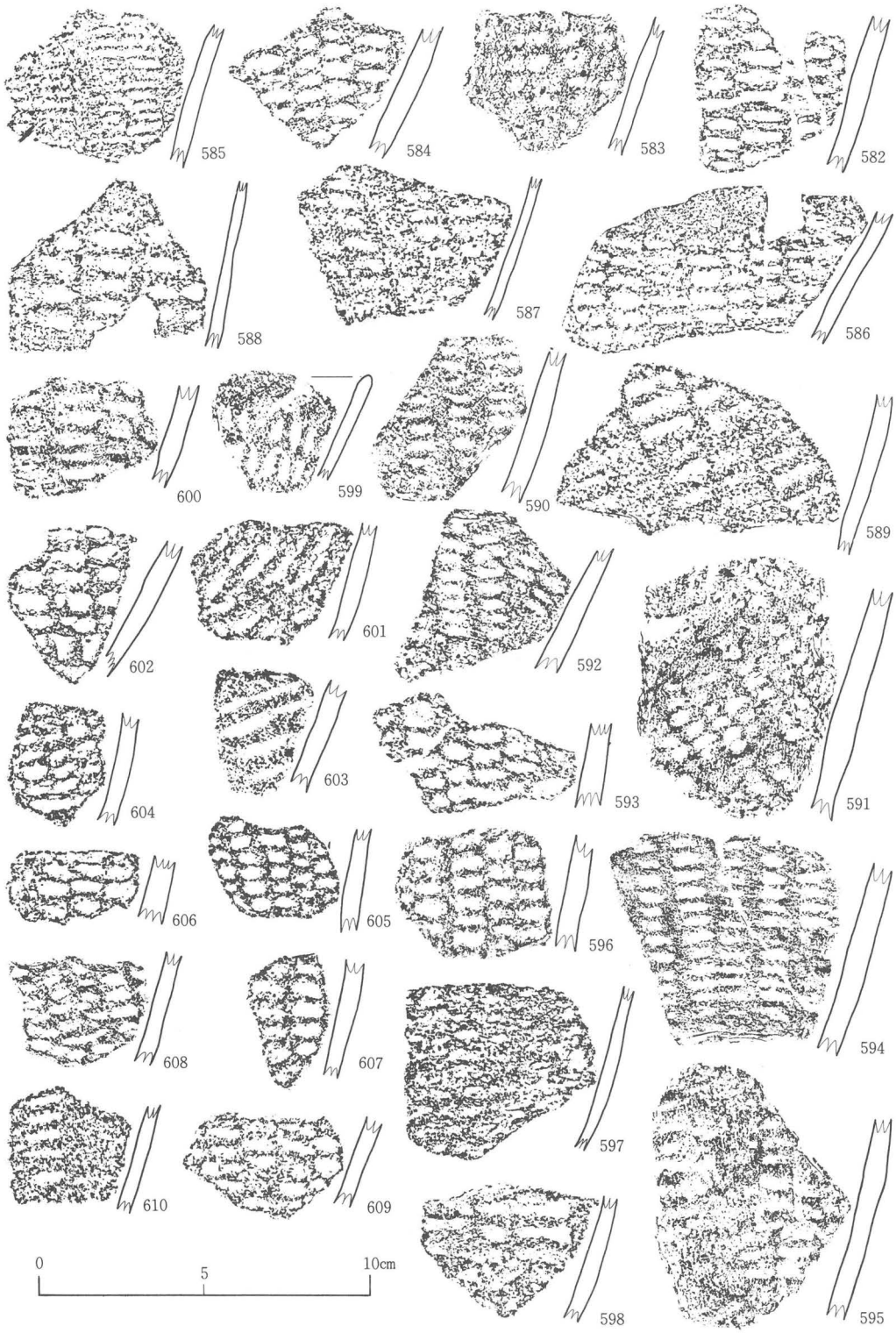


第34図　Ⅱ-B₂イ群土器拓影

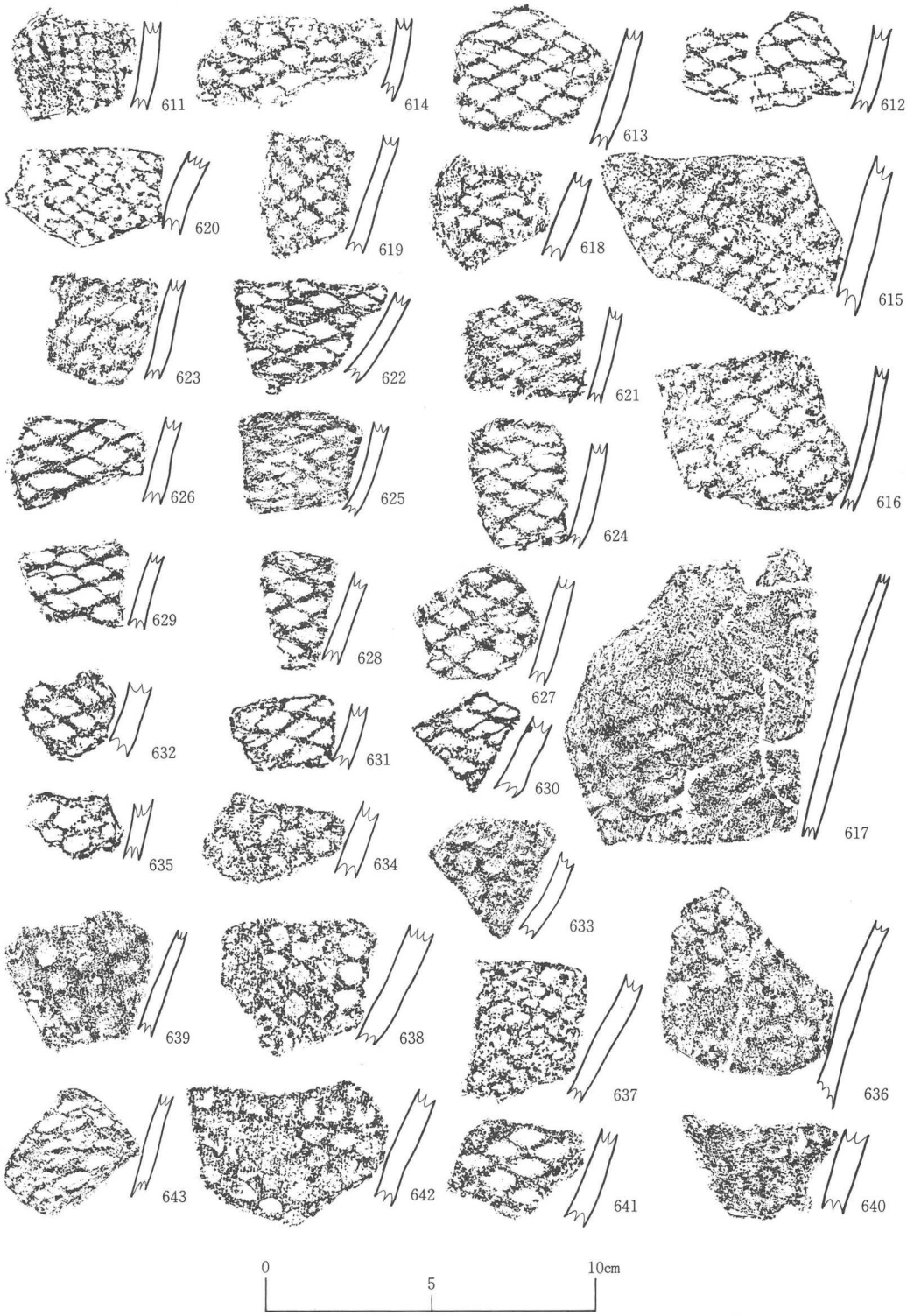
第35図　Ⅱ-B₂口群土器拓影



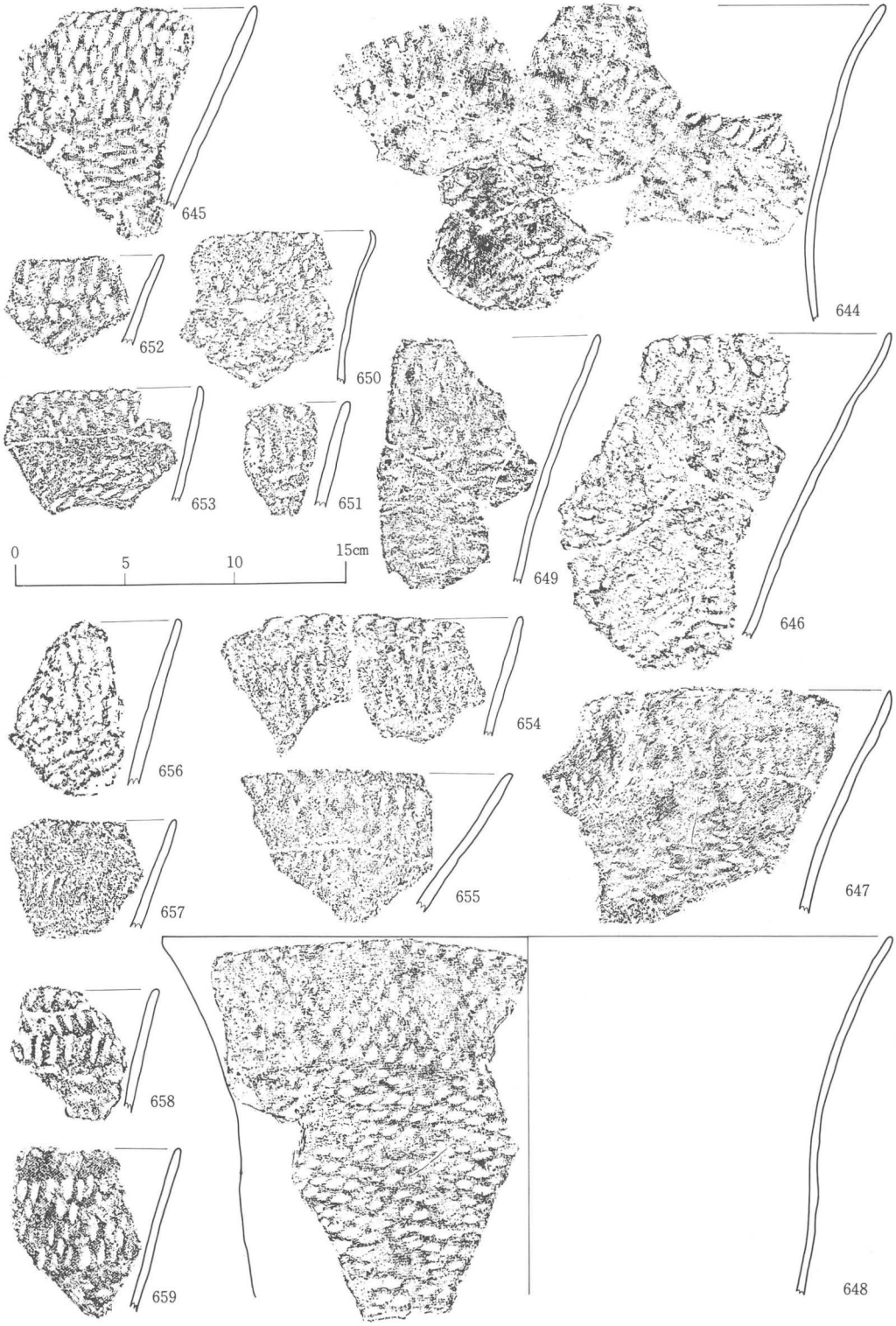
第36図　Ⅱ-B₃群土器拓影



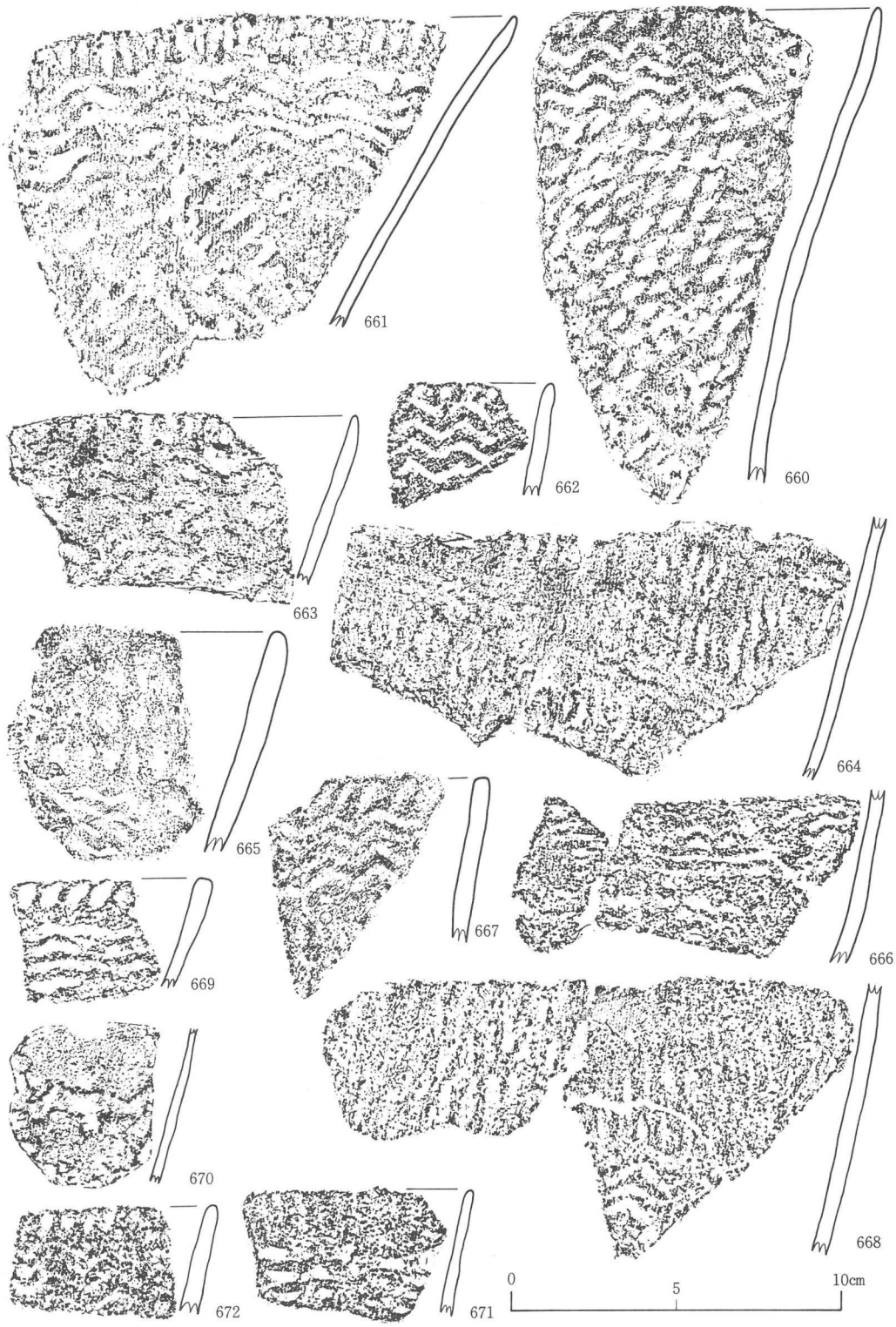
第37図　Ⅱ-B$_4$群土器拓影



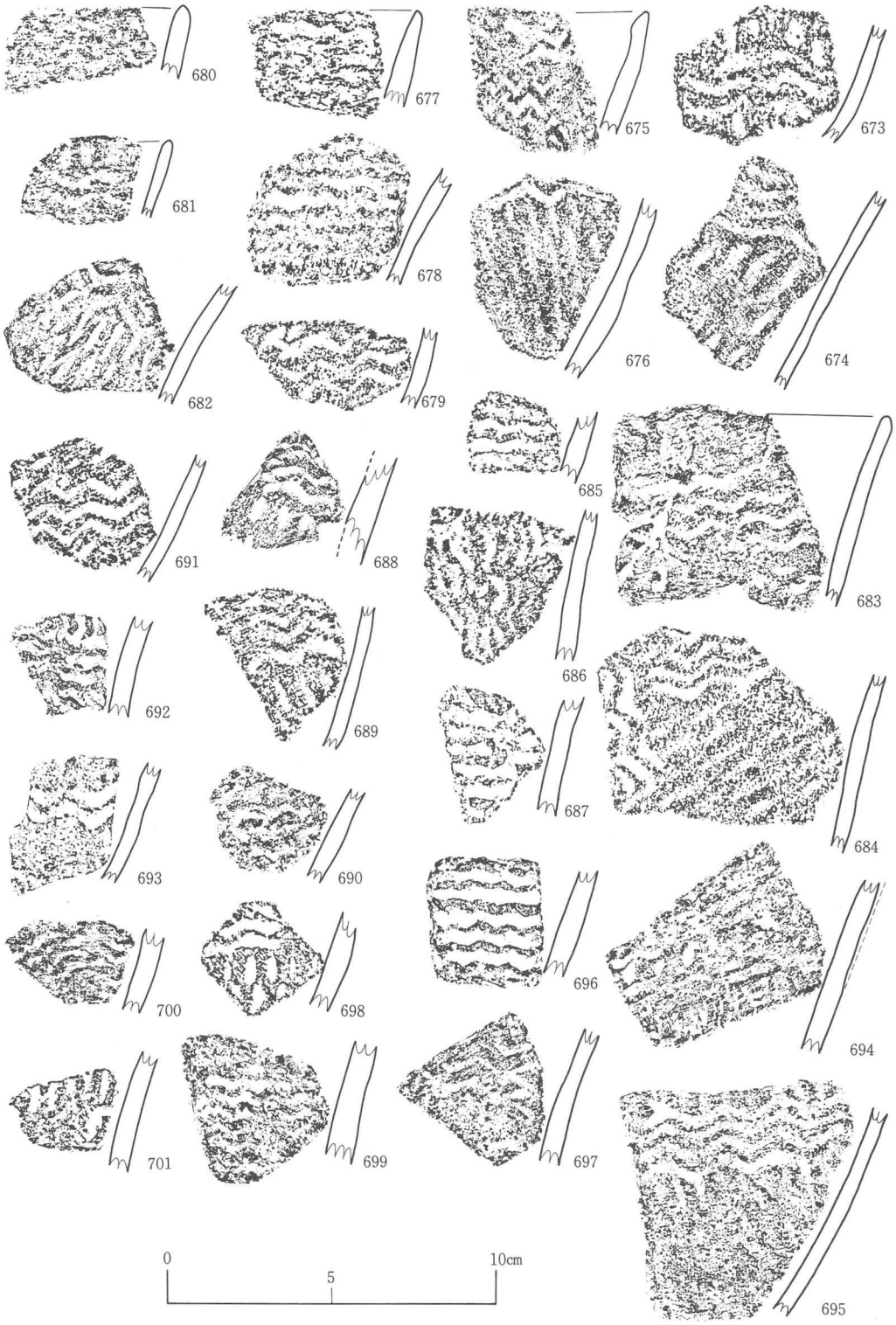
第38図　Ⅱ-B_5群土器拓影



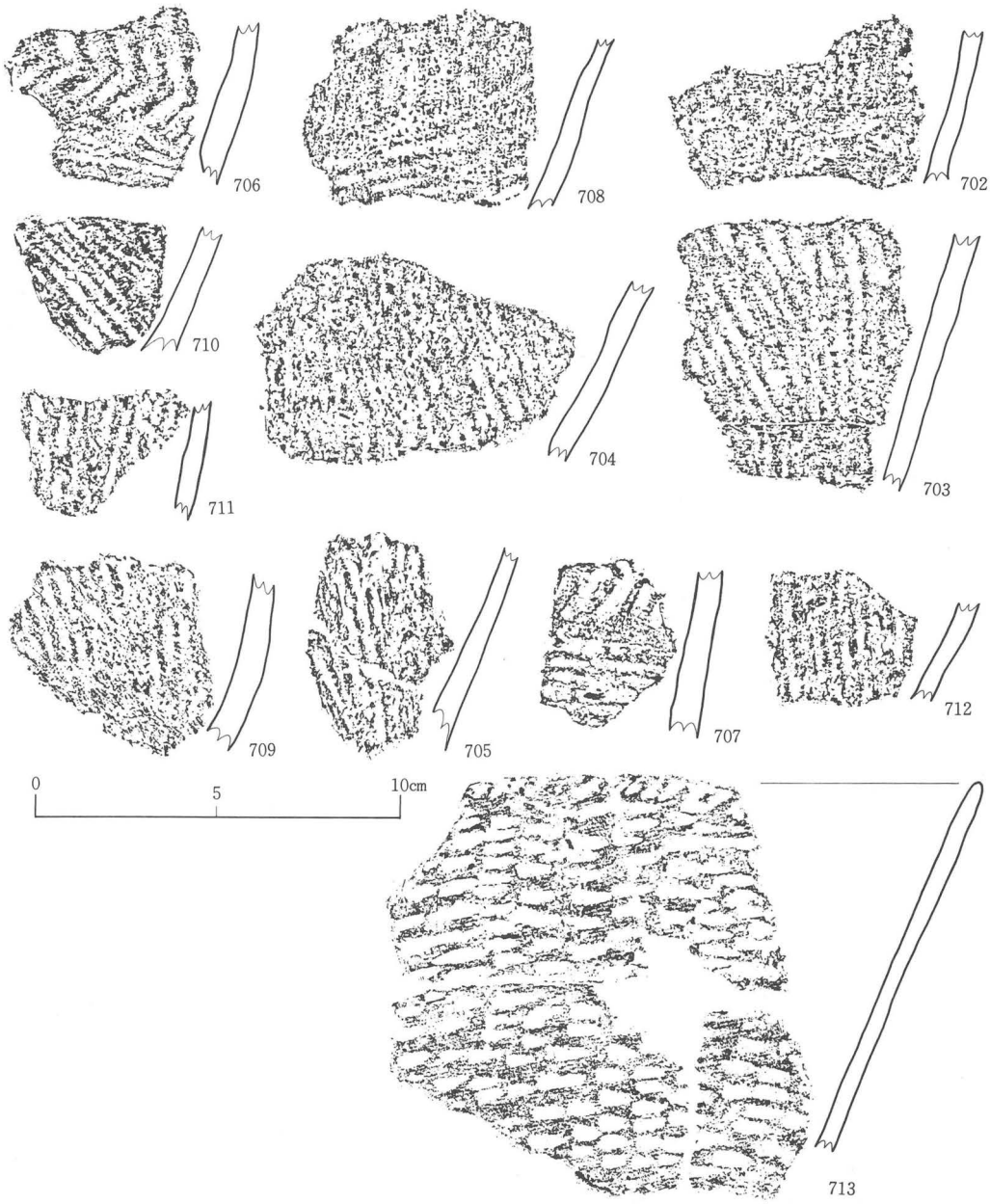
第39図　Ⅱ-C群土器拓影



第40図　Ⅱ-D群土器拓影



第41図　Ⅱ-D群土器拓影

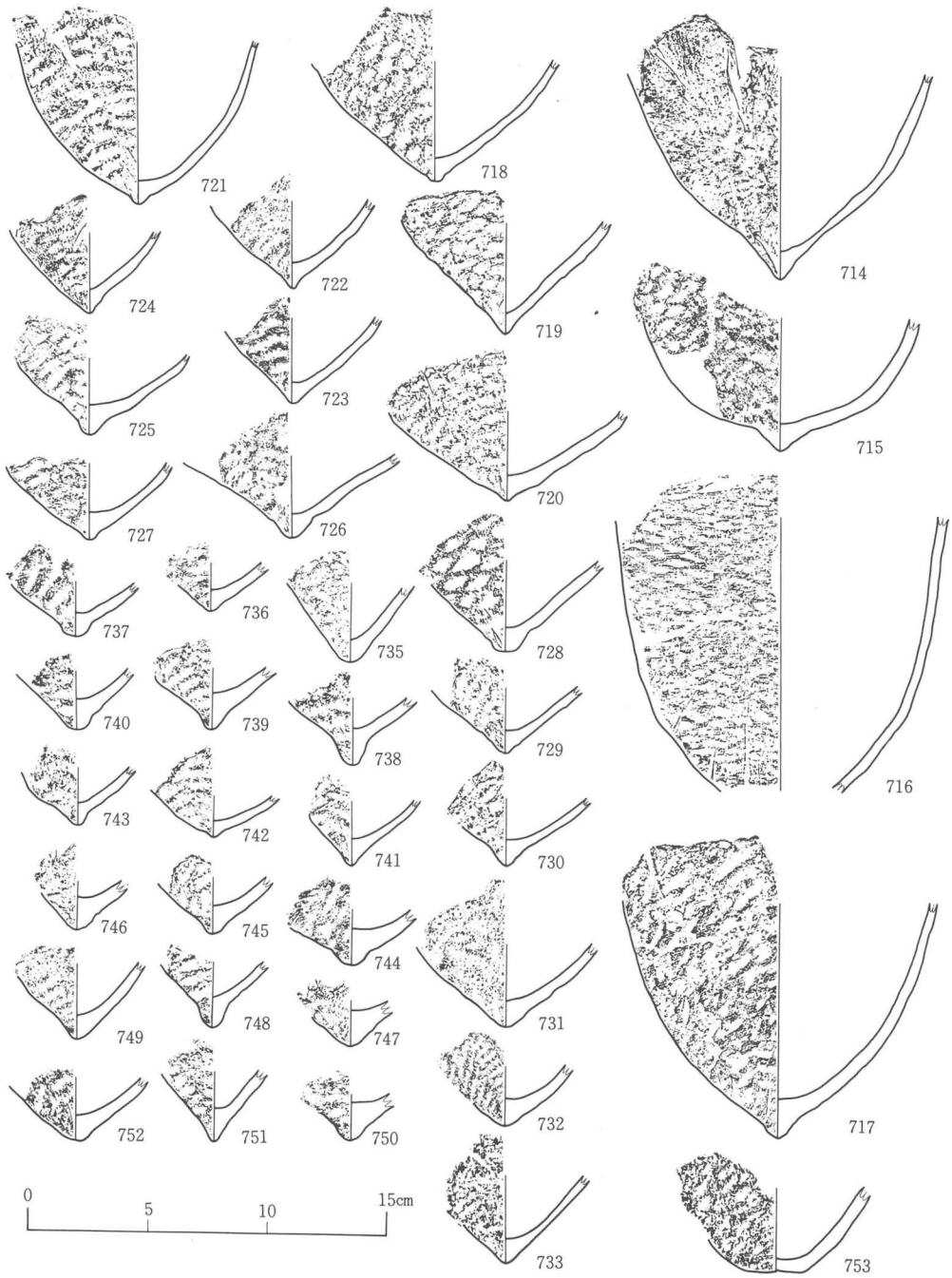


第42図　Ⅱ-E・F群土器拓影

れた原体の大きさは、長さ2.6cm、直径0.99cm以上のものが想像される。(661)も３条の山形文を２列横走施文し、胴部に舟形沈文ロを縦走施文している。

Ⅱ-E群土器(第42図、図版五三)

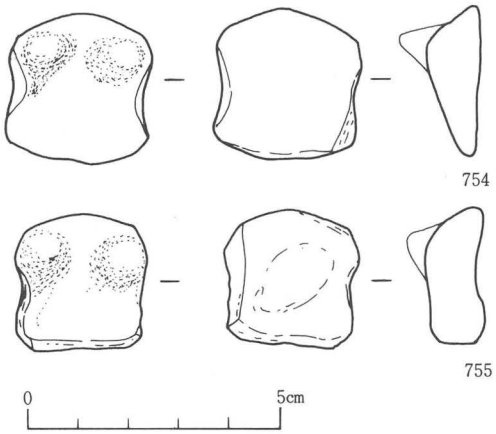
縄文あるいは撚紋を施文していると思われるが明瞭ではない。(702～712)土器表面の風化が激しく撚りの判別は困難である。出土量は少なく、１～２個体分が出土しているのみ。



第43図　底部実測図・拓影

Ⅱ-F群土器(第42図、図版五三)

刺突文を施すもの。1点出土している。(713)は、復元口径34.0cmを測る。斜上方に直線的に開く胴部に直口する口縁部をもつ。口縁端部に刻目を施し、胴部に半載した円棒状の先端で刺突を密接施文する。内面は丁寧なナデ調整を施す。刺突文は、半載の円棒の先端で口縁部に平行して右から左へ刺突し、左端で止め原体を器面から一度離すようにして密接施文している。



第44図　土偶実測図

その他の土製品(第44図、図版二九)

土偶　2点出土している。いずれも第12層内より、Ⅱ群土器と共伴している。詳細は、すでに資料紹介をおこなっているので[注②]、そちらに譲るが、簡単に概観しておきたい。(754)は、高さ3.0cm、幅2.8cm、厚さ1.0cmを測り、XXVF16aケ区より出土している。形態は、ほぼ方形状を呈し、上端と下端は丸く終っている。頭部、手、足は省略しており、上端をわずかに丸く山形状につくる。胴部をくびらせており、胸部に二つの大きな乳房を突き出すように貼付けている。(755)は高さ2.6cm、幅2.7cm、厚さ1.1cmを測り、XXVF14tテ区より出土している。形態は(754)と全く同じで方形状を呈している。

その他に用途・形態とも不明な土製品が20数点出土している(図版五五)。いずれも、土器の胎土・色調・焼成と共通しており、土器の一部であるかもしれない。

底部

今回の調査の結果、総数で211点の底部が出土しているが、(735)を除いてすべて乳房状の尖底を呈している。このことから、少なくとも211個体以上の縄文土器が出土したことになり、他の遺跡の出土量と比較すると、圧倒的に多い出土量である。

(735)は、残存状態が悪いが平底になると考えられる資料である。底部外面の中央部が歪に凹み、わずかに平坦面をもつ。胴部下半外面は、ネガテイブな楕円文を施文し、底部外面まで及んでいる。その他の底部は、大部分が先端を細く尖らし、先端のわずかな部分を除いて全体に押型文を施文している。施文方法は、先端から胴部に縦方向に放射状に施文している。

注①　片岡肇「神宮寺式土器の再検討―特にその施文原体を中心にして―」『考古学ジャーナル　72』1972年

②　下村晴文・橋本正幸「大阪府東大阪市神並遺跡出土の土偶と有舌尖頭器」『古代文化、第35巻第6号』1983年

縄文土器出土地点一覧表（第１表）

	出土地点	備考		出土地点	備考
Ⅰ群土器(第19～20図　図版二七　巻頭カラー写真)			Ⅱ-A群土器(第21図　図版二八)		
122	XXVF15cツ　11-C層	色褐10YR4/6　口径(推)26.4cm　器高(残)14.3cm　波状口縁。全面に山形文を施文	144	XXVF14tケ　12-3層	色黒褐10YR3/2，7.5YR3/2 口径(推)26.3cm、器高(残)5.5cm
123	XXVF16cセ　11-C	色灰黄褐10YR4/2，暗褐10YR3/3	145	XXVF17cチ　12-1	色明赤褐5YR5/6 器壁がなく、口唇部の刻目も深い
124	XXVF b Line 15b～16b　畔内 12	色褐灰5YR4/2，黒褐5YR2/1 (125)と同一個体　波状口縁，口縁部に山形文・刺突文を施す	146	XXVE16tニ　12-5	色褐7.5YR4/4，7.5YR4/6 口径(推)58.3cm、器高(残)5.4cm
125	XXVF b Line 14b-15b　畔内 11-C	色黒褐5YR3/1，黒赤褐5YR3/2 波状口縁	147	XXVF15aケ　12-1	色褐7.5YR5/1，7.5YR4/3
126	XXVF16cセ　11-C	色黒褐10YR3/1，褐7.5YR4/3	148	XXVE15tセ　12-5	色明褐7.5YR5/6
127	XXVF16cク　11-C T.P. 28.815	色灰褐7.5YR4/2	149	XXVE15tク　12-1	色にぶい赤褐5YR4/3
128	XXVF16c	色褐灰7.5YR4/1	150	XXVF14-16t　12-3畔	色褐7.5YR4/3，暗褐7.5YR3/3
129	XXVF15bケ　11-C	色暗灰黄2.5Y5/2，黄褐2.5Y5/4	151	XXVF14aニ　12-1	色黄褐10YR5/6
130	XXVF16cセ　11-C T.P. 28.796	色にぶい褐7.5YR5/4	152	XXVF17bノ　12-2	色暗褐7.5YR3/3， にぶい赤褐5YR4/4
131	XXVF16cセ　11-C	色灰黄褐10YR5/2，暗褐10YR3/4	153	XXV14aテ　12-1	色にぶい赤褐10YR5/4
132	XXVF16cセ　11-C	色黒褐2.5Y3/2，黒褐10YR3/1	154	XXVE14tセ　12-2	色褐10YR4/4
133	XXVF15bケ　11-C	色灰褐7.5YR5/2，褐灰7.5YR4/1 底部、末端まで山形文を施文	Ⅱ-B₁イ群土器(第22～28図　図版二八～三五)		
134	XXVF15bト　12-1		155	XXVE16tチ　12-1	色灰褐7.5YR4/2，褐7.5YR4/4 復元完形　口径(推)27.1cm、復元器高22.5cm
135	XXVF16cテ　11-C	色黒褐10YR2/2，10YR2/3	157	XXVF16aケセ　12-5 O.P.＋28.206m	色暗褐2.5YR3/2　暗赤褐色
136	XXVF15cク　11-C	色黒褐2.5Y3/2，にぶい黄褐10YR4/3	158		
137	XXVF15cト　11-C T.P. 28.815	色黒褐10YR2/2	159	XXVE16tタ　12-3 T.P. 29.527	色褐灰7.5YR4/1　口径(推)32.2cm
138	XXVF15cト　11-C	色暗灰黄2.5Y4/2，褐10YR4/4	160	XXVF16aクケ　12-6	色黒褐7.5YR3/1-3/2 口径(推)57.9cm、器高(残)8.8cm
139	XXVF16cク　11-C T.P.28.774	色暗褐10YR3/4，黒褐10YR3/2	161	XXVE15tト　12-7	色にぶい黄褐10YR5/4
140	XXVF16ク　11-C T.P. 28.808	色褐10YR4/6	163	XXVE15tト　12-7	色褐10YR4/4，灰黄褐10YR5/2
141	XXVF16c　11-C	色にぶい褐7.5YR5/4，にぶい黄褐10YR5/3	164	XXVF16aセ　12-6	色黒褐10YR2/4 胴部径22.4cm、器高(残)9.4cm
142	XXVF16cテ　11-C	色黒褐10YR2/2，10YR3/2	165	XXVE16tタ　12-6	色褐灰7.5YR4/1 口径(推)38.4cm、器高(残)11.0cm
143	XXVF16cテ　11-C	色黒褐10YR2/2	166	XXVE t Line　畔 12-5　15・16t	色極暗褐7.5YR2/3

	出土地点	備考		出土地点	備考
167	XXVE t Line 14t-15t	㊀黒褐7.5YR3/1，褐灰7.5YR4/1	192	XXVE14tソ 12-2	㊀黒褐7.5YR3/1
168	XXVE16tタ 12-3	㊀褐灰7.5YR4/1 口径(推)25.3cm、器高(残)12.0cm	193	XXVF15aク 12-4	㊀褐7.5YR4/3
169	XXVF16aク 12-5	㊀褐灰5YR4/1，5/1	194	XXVE15tナ 12-3	㊀明褐7.5YR5/6
170	XXVF16aセ 12-6	㊀灰褐5YR4/2，明赤褐	195	XXVE15t 12-4畔内	㊀褐10YR5/6
171	XXVF16aク 12-4	㊀にぶい褐7.5YR5/4	196	XXVE15tシ 12-4	㊀黒褐7.5YR3/2
172	XXVF16aセ 12-6	㊀黒褐5YR3/1，4/1	197	XXVF15aソ 12-1 T.P. 29.191	㊀橙5YR6/8 口径(推)31.8cm、器高(残)11.4cm
173	XXVE14t-15t 12-5 畔内	㊀灰褐7.5YR5/2	198	XXVF16aセ 12-6-括	㊀灰褐7.5YR4/2
174	XXVF16aク 12-5	㊀褐灰5YR4/1	199	XXVF16aソ 12-5	㊀黒7.5YR2/1
175	XXVE16tタ 12-3	㊀褐7.5YR4/6	200	XXVF16aセ 12-6	㊀褐灰5YR4/1
176	XXVE t Line 12-3 13t-14t 畔内	㊀黒褐7.5YR3/1，3/2，3/2	201	XXVF16aケ 12-4	㊀黒褐5YR3/1、器高(残)7.6cm
177	XXVE15tサ 12-3	㊀橙5YR6/6，6/8	202	XXVE15tト 12-7	㊀灰褐5YR5/2，明赤褐5/6
178	XXVE15tヌ 12-7	㊀褐灰5YR5/1	203	XXVE t Line 15-16t 畔内	㊀黒7.5YR2/1
179	XXVE t Line 畔 14t-15t	㊀褐7.5YR4/6	204	XXVE16tタ 12-3	㊀赤褐5YR4/6
180	XXVE16tタ 12-5	㊀明褐7.5YR5/6	205	XXVF16tヌ 12-4	㊀赤褐7.5YR4/6
181	XXVF17aナ 12-5	㊀褐灰7.5YR5/1，4/1	206	XXVF16aケ 12-3 T.P. 29.575m	㊀灰褐7.5YR6/2
182	XXVE15tテ 12-括	㊀褐10YR5/6	207	XXVF16aクケ 12-5	㊀黒褐5YR3/1-3/1
183	XXVE15tツ 12-2	㊀灰褐5YR5/2，褐灰5YR4/1，橙5YR6/8	208	XXVE t Line 12-4 14t-15t 畔	㊀暗赤褐5YR3/2，3/3
184	XXVE14tス 12-5	㊀黒褐5YR3/1	209	XXVE15tト 12-4	㊀灰褐7.5YR6/2
185	XXVE15tト 12-6	㊀灰褐5YR4/2，褐灰5YR5/1	210	XXVE15tノ 12-3	㊀灰褐7.5YR6/2
186	XXVE16tタ 12-2	㊀赤褐5YR4/6，褐7.5YR4/6	211	XXVF16aクケ 12-5	㊀黒褐5YR3/2
187			212	XXVF16aク 12-5	㊀褐灰5YR4/1
188	XXVE15t 12-5	㊀灰褐5YR5/2，6/2	213	XXVE16tナ 12-5	㊀黒褐7.5YR3/2
189	XXVE15tソ 12	㊀褐7.5YR4/4，4/6	214	XXVE15tテ 12-7	㊀明褐7.5YR5/6
190			215	XXVE15tト 12-7	㊀黒褐7.5YR3/2，褐7.5YR4/3
191	XXVF16aウ 12-2	㊀暗赤褐5YR3/3	216	XXVE16tナ 12-1	㊀暗褐7.5YR3/4

	出土地点	備考		出土地点	備考
217	XXVE16tナ 12-5	㊀黒褐7.5YR3/2	242	XXVE14tフ 12-5	㊀黒褐7.5YR3/2，3/2
218	XXVE15tネ 12-3	㊀暗褐7.5YR3/4	243	XXVE15tテト 12	㊀暗褐10YR3/4
219	XXVF16aカ 12-2	㊀灰褐7.5YR4/2，5/2	244	XXVE15tノ 12-5	㊀黒褐7.5YR3/1，橙7.5YR6/8，6/6
220	XXVE16tヌ 12-4	㊀褐7.5YR4/3，4/4	245	XXVE15tト 12-7	㊀黒褐5YR2/1
221	XXVE16tサ 12-2	㊀褐7.5YR4/3	246	XXVE15tテト 12	㊀極暗赤5YR2/4
222	XXVE15tト 12-7	㊀褐7.5YR4/6	247	XXVE15tト 12-6	㊀褐灰5YR5/1
223	XXVE16tタ 12-3	㊀褐7.5YR4/6	248		
224	XXVE15tテト 12	㊀暗褐7.5YR3/4	249	XXVE15tト 12-7	㊀橙7.5YR6/6
225	XXVE t Line 15t-16t 畔内	㊀灰褐7.5YR4/2	250	XXVF15aチ 12-1	㊀明褐7.5YR5/6
226	XXVE15tセ 12-6	㊀褐灰5YR6/1	251	XXVE t Line 畔内	㊀黒褐7.5YR3/1，3/2
227	XXVE16tタ 12-3	㊀褐7.5YR4/4	252	XXVF16aス 12-3	㊀褐7.5YR4/6
228	XXVE15tニ 12-7	㊀黒褐10YR2/3	253	XXVE15tト 12-6	㊀にぶい褐7.5YR5/3
229	XXVF16aク 12-5	㊀黒褐10YR2/2	254	XXVF17bツ 12	㊀褐灰7.5YR6/1
230	XXVF16aク 12-5	㊀褐灰7.5YR4/1	255	XXVF16aセ 12-括	㊀褐7.5YR4/3
231	XXVF16aケ 12-5	㊀黒褐5YR2/2	256	XXVE16tナ 12-5	㊀褐7.5YR4/6，明褐7.5YR5/6
232			257	XXVE t Line 13-15t 畔内	㊀黒褐7.5YR3/2，3/1
233	XXVF16aケ 12-5	㊀黒褐7.5YR3/1	258	XXVE15tニ 12-3	㊀にぶい黄橙10YR6/3
234	XXVF16aソ 12-5	㊀褐灰10YR5/1	259	XXVE14-16t 12-3 畔	㊀黒褐7.5YR3/1
235	XXVF16aネ 12-4	㊀にぶい褐7.5YR5/4	260	XXVE16t 第9層	㊀灰褐7.5YR5/2，黒褐7.5YR3/1
236	XXVE15-16t 12-5 畔内	㊀灰褐5YR4/2	261	XXVE15tノ 12-7	㊀明赤褐5YR5/6
237	XXVE15tテ 12-7	㊀明褐7.5YR5/6	262	XXVF16aオ 12-4	㊀黒褐5YR3/1，褐灰7.5YR4/1
238	XXVE14テネ 12-4	㊀灰褐7.5YR4/2	263	XXVE16tタ 12-3	㊀褐7.5YR4/3
239	XXVF15tト 12-6	㊀褐灰10YR4/1，6/1	264	XXVF15aチ 12-2	㊀褐7.5YR4/3
240	XXVE15tネ 12-2	㊀褐灰7.5YR4/1	265	XXVF16aケ 12-4	㊀黒褐10YR3/1
241	XXVF17bツ 12-2	㊀灰褐7.5YR6/2	266	XXVE14tセ 12-1	㊀褐灰7.5YR4/1

	出土地点	備考		出土地点	備考
267	XXVE15tニ 12	㊀暗赤褐5YR3/2	292		
268	XXVF16aシ 12-2	㊀にぶい褐7.5YR5/4，5/3	293	XXVE15tシ 12-4	㊀にぶい橙5YR6/4，灰褐5YR5/2
269	XXVE14Line 14s-14t 12-6 畔内	㊀褐灰7.5YR4/1，5/1	294	XXVE14tネ 12-2	㊀灰褐7.5YR5/2，4/2
270	XXVE15tテ 12-7	㊀にぶい褐7.5YR5/4，橙7.5YR6/6	295	XXVF16aセ 12-3	㊀褐7.5YR4/4
271	実 1083		296	XXVE15tニ 12-3	㊀灰褐7.5YR4/2
272	XXVF16bウ 12-1	㊀黒褐5YR3/1	297	XXVE16tナ 12-5	㊀黒褐10YR3/2
273	XXVE15tト 12-5	㊀にぶい橙7.5YR6/4	298		
274	XXVF16aク 12-4	㊀黒褐7.5YR3/1，3/2，褐灰7.5YR 4/1，5/1，6/1	299	XXVF17cク 12-5	㊀にぶい黄褐10YR5/4
275	XXVE15tネ 12-4	㊀灰褐5YR4/2	300	XXVE14tト 12-4	㊀褐7.5YR4/3
276	XXVF16aイ 12-3	㊀黒褐5YR3/1	Ⅱ-B_1ロ群土器(第29～30図 図版三五～三八)		
277			301	XXVF16aト 12-6-括	㊀黒褐5YR3/1 口縁端部に刻目。全面に(推)口径33.2cm、舟形沈文口を施文。表面の風化激しい
278	XXVF16aツ 12-1	㊀褐7.5YR4/3，褐10YR4/4	302	XXVE t Line 15-16t 12-5 畔内	㊀黒7.5YR3/1 雲母が多い (303)(316)と同一個体か
279	XXVF15aケ 12-1	㊀灰褐7.5YR4/2，黒褐3/1	303	XXVE16tナ 12-5	㊀黒褐5YR3/1
280	XXVE16tチ 12-1	㊀赤褐5YR4/6，黄褐10YR5/6	304	XXVE16tナ 12-5	㊀黒褐7.5YR3/2
281	XXVF17bツ 12	㊀黒褐7.5YR3/1	305	XXVE15tノ 12-5	㊀黒褐5YR3/1
282	XXVF16aク 12-5	㊀にぶい赤褐5YR5/3	306	XXVF16aク 12-4	㊀褐灰5YR4/1
283	XXVF17cク 12-2	㊀赤褐5YR4/6	307	XXVE16tナ 12-3	㊀にぶい赤褐5YR4/4
284	XXVF16aケ 12-5	㊀灰褐5YR4/2	308	XXVE16tナ 12-5	㊀褐7.5YR4/3
285	XXVF16aクケ 12-5	㊀暗赤褐5YR3/3，にぶい赤褐5YR5/4	309	XXVE15tス 12-6 T.P. 29.145	㊀黒褐10YR3/2
286	XXVE15tツ 12	㊀灰褐7.5YR4/2	310	XXVE15tノ 12-5	㊀黒褐7.5YR3/1
287	XXVFaシ 12-4	㊀褐10YR4/4	311	XXVE15tテト 12	㊀褐7.5YR4/4
288	XXVE15tス 12-6-括	㊀明赤褐5YR5/6	312	XXVE15tソ 12-5	㊀褐灰5YR4/1
289			313	XXVE16tヌ 12-3	㊀褐7.5YR4/6
290	XXVE15tト 12-5	㊀黒褐5YR3/1，褐7.5YR4/3	314	XXVE16t	㊀灰褐5YR4/2
291	XXVE15tト 12-5	㊀褐灰5YR4/1，5/1	315	XXVF16aウ 12-5	㊀にぶい褐7.5YR5/3、角閃石を多く含む

	出土地点	備考		出土地点	備考
316	XXVE15tサ 12	色黒10YR2/1, 1/1	341	XXVE15tテ 12-7	色明赤褐5YR5/6
317	XXVE16tナ 12-5	色黒褐10YR3/2	342	XXVE15tシ 12-3	色灰褐7.5YR4/2
318	XXVF14aニ 12-3		343	XXVE14tケコセソ 12-2	色褐7.5YR4/6
319	XXVE14tニ 12-3	色黒褐7.5YR2/2	344	XXVE15tノ 12-4	色灰褐5YR4/2
320	XXVE15tネ 12-4	色黒10YR1/1	345	XXVE15tト 12-7	色灰褐7.5YR4/2
321	XXVE15tテト 12	色暗褐7.5YR3/3	346	XXVE15tネ 12-4	色灰褐7.5YR4/2
322	XXVE16tナ 12-5	色黒褐10YR2/3	347	XXVE15tト 12-3	色黒褐5YR2/2, 3/1
323	XXVE15tト 12-5	色黒褐5YR3/1, 2/1	348	XXVE t Line 12-5 畔	色黒褐7.5YR3/2
324	XXVE15tノ 12-5	色黒7.5YR2/1	349	XXVE15tテト 12	色赤褐5YR4/6
325	XXVF16aト 12-6	色灰褐7.5YR4/2, にぶい黄褐10YR5/3	350	XXVE16tニ 12-4	色暗褐7.5YR3/4
326	XXVF15tツ 12-6	色褐灰5YR5/1, 橙5YR6/6	351	XXVE t Line 14t-15t 12-4 畔	色にぶい赤褐5YR4/3, 4/4
327	XXVE t Line 15-16t 畔内	色黒7.5YR2/1	Ⅱ-B_1ハ群土器(第31・32図 図版三八～四一)		
328	XXVE15tハ 12-2	色褐灰7.5YR4/1	352	XXVE18t 3	色褐灰7.5YR4/1。口縁部に横方向に舟形沈文ハを施す。原体の末端の痕跡顕著
329	XXVF16aウ 12-1	色黒褐7.5YR3/1	353	XXVE16t 9	色黒褐7.5YR2/1
330	XXVF16aク 12-4	色褐灰7.5YR4/1	354	XXVF16aイ 12-2	色黒褐5YR3/1, 2/1
331	XXVE16tタ 12-3	色赤褐5YR4/6	355	XXVE16tタ 12-2	色暗赤灰2.5YR3/1
332	XXVF16aケ 12-5	色褐灰7.5YR4/1, 5/1	356	XXVE14tス 12-3	色黒褐5YR2/1
333	XXVE15tト 12-3	色にぶい赤褐5YR4/4	357	XXVE16tニ 12-3	色褐7.5YR4/4
334	XXVF14tケコセソ 12-2	色灰褐7.5YR4/2	358	XXVE14tセソ 12-2	色極暗赤褐5YR2/3, 黒褐1/2
335	XXVE14tネ 12-4	色灰褐7.5YR4/2	359	XXVE t Line 15t-16t 12-1 畔内	色褐灰5YR4/1
336	XXVF16aケ 12-5	色灰褐7.5YR4/2	360	XXVF17bケ	色褐7.5YR4/3
337	XXVF16aウ 12-5	色明赤褐5YR5/6、雲母が多い	361	XXVE16bヌ 12-2	色褐10YR4/4
338	XXVE15tノ 12-5	色灰褐7.5YR4/2, 5/2	362	XXVE t Line 15t-16t 12-3 畔	色褐灰7.5YR4/1
339	XXVF15aエ 12-3	色黒褐7.5YR2/2, 3/2, 3/1	363		
340	XXVE15tト 12-6	色褐灰5YR5/1, 明赤褐5YR5/6	364	XXVE15tソ 12-3	色黒褐7.5YR2/2, 3/1

	出土地点	備考		出土地点	備考
365	XXVE15tノ 12-3	㊀灰褐7.5YR5/2	390	XXVE16tナ 12-3	㊀褐7.5YR4/4 口縁部に穿孔がある
366	XXVE14tス 12-3	㊀黒褐7.5YR3/1	391	XXVE14tスセソ 12-4	㊀灰褐7.5YR4/2
367	XXVE16tタ 12-1	㊀褐7.5YR4/3	392	XXVE16t 12-3	㊀黒褐10YR3/2
368	XXVF17bク 12-3	㊀黒褐7.5YR2/2	393	XXVE16tナ 12-3	㊀にぶい褐7.5YR5/4
369	XXVE15tキ 12-2	㊀黒褐7.5YR3/1	394	XXVE t Line 14-15t 12-4 畔	㊀褐灰7.5YR5/1, 4/1
370	XXVE14tソ 12-3	㊀黒褐7.5YR3/2	395	XXVF16aセ 12-3	㊀灰褐7.5YR5/2
371	XXVF17aナ 12-5	㊀灰褐5YR4/2	396	XXVE t Line 15t-16t 畔内	㊀暗褐7.5YR3/3, 3/4
372	XXVEtタ 12-2	㊀黒褐5YR3/1	397	XXVE14tノ 12-2	㊀灰褐7.5YR5/2
373	XXVF17cス 12-3	㊀黄褐2.5Y5/3	398	XXVE t Line 14t-15t 12-3 畔内	㊀暗赤褐5YR3/2
374			399	XXVE15tテ 12-括	㊀褐7.5YR4/6, 10YR4/4
375	XXVE14t 12	㊀褐灰7.5YR4/1	400	XXVF16aク 12-5	㊀褐7.5YR4/4
376	XXVF16aク 12-1	㊀暗赤褐5YR3/4	401	XXVF16aテ 12-7	㊀褐7.5YR4/4
377	XXVF16aキ 12-4	㊀褐灰5YR4/1	402	XXVE15tテト 12	㊀にぶい黄褐10YR5/4
378	XXVF15aイ 12-1	㊀黒褐7.5YR2/2	403	XXVE14tケセ 12-2	㊀褐7.5YR4/6
379	XXVE14 Line 14s-14t 12-6 畔内	㊀灰褐7.5YR4/2	404	XXVE16tタ 12-3	㊀にぶい黄褐10YR5/4
380	XXVE14tセ 12-2	㊀黒褐7.5YR2/2	405	XXVE15tツ 12-括	㊀黒褐5YR3/1
381	XXVE14tソ 12-4	㊀黒褐7.5YR3/2	406	XXVE15tテ 12-7	㊀明褐7.5YR5/6
382	XXVF16エ 12-5	㊀褐7.5YR4/4	407	XXVE15tテ 12-括	㊀褐7.5YR4/3
383	XXVF16aア 12-1	㊀褐7.5YR4/6	408	XXVE15tト 12-3	㊀にぶい褐7.5YR5/4
384	XXVE14tト 12-4	㊀黒褐5YR3/1	409	XXVE16tナ 12-4	㊀にぶい褐7.5YR5/4
385	XXVE14tソ 12-2	㊀褐灰7.5YR4/1	410	XXVE14tケ 12-1	㊀灰褐7.5YR4/2, 5/2
386	XXVF15aウ 12-1	㊀褐灰10YR6/1	411	XXVF16aク 12-2	㊀にぶい褐7.5YR5/3
387	XXVE14tニ 12-3	㊀黒褐7.5YR2/2	412	XXVF16aケ 12-2	㊀褐7.5YR4/4
388	XXVE t Line 14t-15t 畔内	㊀褐7.5YR4/3, 4/4	413	XXVE t Line 15t-16t	㊀黒7.5YR3/1, 2/1
389	XXVF16bウ 12-4	㊀灰黄褐10YR4/2	414	XXVE15tノ 12-6	㊀暗赤褐5YR3/3 口径(推)37.0cm、器高(残)6.0cm

	出土地点	備考
415	XXVE14tテ 12-5	㊀褐灰7.5YR4/1
416		
417	XXVF15aケ 12-1	㊀黒褐7.5YR3/1
418	XXVE15tテ 12-7	㊀明赤褐5YR5/6
419	XXVF14bコ 12-1	㊀にぶい褐7.5YR5/3
420	XXVE16t 9 N0.35	㊀にぶい褐7.5YR5/3
421	XXVF16aツ 12-4	㊀暗褐7.5YR4/3
422	XXVF16aカ 12-1	㊀褐7.5YR4/3
423	XXVF16aキ 12-4	㊀褐7.5YR4/3
424	XXVE t Line 15t-16t 12-3 畔	㊀黒褐5YR3/1
425	XXVF14aス 12-1	㊀にぶい赤褐5YR4/4
426	XXVE14t-15t 12-2 畔内	㊀灰褐7.5YR5/2, 4/2
427	XXVE t Line 15-16t 畔内	㊀黒褐7.5YR3/2
428	XXVF16aト 12-5	㊀褐7.5YR4/6
429	XXVF17aナ 12-5	㊀黒7.5YR3/1
Ⅱ-B_2イ群土器(第22・第33～34図 図版四一～四四)		
156	XXVE15tキ 12-2	口径(推)32.35cm、器高(残)22.8cm 復元推定器高33.0cm
158	XXVE16tタ 12-6 T.P. 29.267	㊀褐灰7.5YR4/1 口径(推)34.2cm
430	XXVE15tサ 12-3	㊀橙5YR6/6
431	XXVE 14t	㊀黒褐7.5YR3/1
432	XXVF16aソ 12-5	㊀黒褐7.5YR3/2
433	XXVE14t-15t 12-5 畔内	㊀暗赤褐5YR3/4
434		
435	XXVE t Line 15t-16t 12-3 畔内	㊀黒褐7.5YR3/1
436	XXVE14 Line 14s-14t 12-5 畔内	㊀黒褐5YR4/1

	出土地点	備考
437		
438	XXVF17bカ 12-4	㊀黒褐7.5YR3/2
439	XXVE14tケセ 12-2	㊀灰黄褐10YR4/2
440	XXVE t Line 15-16t 畔内	㊀黒褐5YR3/1
441	XXVE15tサ 12-4	㊀黒褐5YR3/1
442	XXVE15tト 12-3	㊀褐灰7.5YR4/1
443	XXVE15tサ 12	㊀明赤褐5YR5/8, 橙5YR6/8
444		
445	XXVE14tケコセソ 12-2	㊀黒褐7.5YR3/2
446	XXVE14 Line 14s-14t 12-6 畔内	㊀黒褐7.5YR3/1
447	XXVE14tケセ 12-2	㊀灰褐5YR5/2
448	XXVF16aク 12-4	㊀灰褐7.5YR4/2
449	XXVE14tス 12-3	㊀灰褐7.5YR4/2 O.P.＋28.083m
450	XXVE15tキ 12-3	㊀灰褐5YR5/2
451		
452	XXVF16aソ 12-4	㊀赤褐5YR4/6
453	XXVE15tノ 12-2	㊀灰褐7.5YR4/2
454	XXVE15tネ 12-6	㊀明褐7.5YR5/6
455	XXVE t Line 14t-15t 12-4 畔	㊀黒褐5YR3/2, 3/1
456	XXVF16aウ 12-2	㊀にぶい赤褐2.5YR4/4
457	XXVE15セネ 12-3	㊀黒褐7.5YR3/2
458	XXVE15t 12-4 畔内	㊀赤褐5YR4/6
459	XXVEtツ 12	㊀褐灰7.5YR4/1
460	XXVE16tチ 12-1	㊀にぶい赤褐5YR4/4
461	XXVF15aエ 12-2-括	㊀暗褐7.5YR3/3

	出土地点	備考		出土地点	備考
462	XXVE14t 第9層 N0.8	㊀黒褐7.5YR3/1	487	XXVE16t 第9層 N0.43	㊀褐7.5YR4/3
463	XXVF16aコ 12-3	㊀黒褐7.5YR3/2	488	XXVE15tネ 12-4	㊀灰褐7.5YR4/2
464	XXVE15tノ 12-2	㊀灰褐7.5YR4/2	489	XXVE15tト 12-6	㊀橙7.5YR6/6
465	XXVE15tネ 12-3	㊀黒褐7.5YR3/1	490	XXVF16aテ 12-7	㊀にぶい黄褐10YR5/4
466	XXVE14 Line 14s-14t 12-3 畔内	㊀灰褐7.5YR4/2, 5/2	491	XXVE15t 12-括	㊀灰褐5YR4/2
467	XXVE15tテト 12	㊀暗赤褐5YR3/6	492	XXVF17bス 12-2	㊀灰褐7.5YR4/2, 5/2
468	XXVE 14 Line 14s-14t 12-5 畔内	㊀黒褐7.5YR3/2	493	XXVE15tノ 12-5	㊀黒7.5YR2/1
469	XXVE15tノ 12-5	㊀黒褐5YR2/1	494	XXVE14 Line 14s-14t 12-5	㊀褐灰5YR4/1
470	XXVF16aセ 12-6	㊀明赤褐5YR5/6	495		
471	XXVE16tタ 12-3	㊀黒褐10YR3/2	496	XXVE14 14s-14t	㊀暗赤褐5YR3/2
472	XXVF16bウ 12-2	㊀灰黄褐10YR4/2	497	XXVE14tツ 12-3	㊀灰褐7.5YR4/2
473	XXVE14 Line 14s-14t 12-5 畔内	㊀黒褐7.5YR3/1, 3/2	498		
474	XXVE14tb 12-3	㊀褐灰10YR6/1, 5/1	499	XXVE15tツ 12-3	㊀褐灰7.5YR6/1, 5/1
475	XXVF17bク 12-2	㊀褐灰7.5YR6/1, 5/1	500	XXVE15tネ 12-3	㊀暗赤褐5YR3/4
476	XXVE t Line 15-16t 12-5 畔	㊀黒褐7.5YR3/1	501	XXVE15t 第9層 N0.16	㊀黒褐7.5YR3/1
477	XXVE15tネ 12-3	㊀明赤褐5YR5/8	502	XXVF17bウ 12-3	㊀黒7.5YR2/1
478	XXVE15tツ 12-4	㊀褐灰5YR4/1	503	XXVE15tサ 12-4	㊀褐灰7.5YR5/1
479	XXVF16aソ 12-4	㊀明赤褐5YR3/2	504	XXVE15tシ 12-2	㊀黒褐10YR2/2
480	XXVF16aク 12-4	㊀にぶい橙7.5YR6/4	505	XXVE15t 第9層 N0.19	㊀褐7.5YR4/4
481	XXVE15tセ 12-6-括	㊀赤褐5YR4/6	Ⅱ-B_2ロ群土器(第35図　図版四四～四五)		
482	XXVF16aノ 12-3	㊀にぶい赤褐5YR4/4	506	XXVF16aト 12-5	㊀暗赤褐5YR3/2　器高(残)8.4cm
483	XXVF16aコ 12-3	㊀黒褐7.5YR3/1	507	XXVF16aウ 12-2	㊀黒褐7.5YR3/1　O.P.＋28.205m 器高(残)8.7cm
484	XXVE15tスツ 12-5	㊀褐7.5YR4/3	508	XXVE15tノ 12-3	㊀褐灰5YR4/1
485	XXVE14 Line 14s-14t 12-6 畔内	㊀黒褐7.5YR3/1	509	XXVE14 Line 14s-14t 12-6 畔内	㊀黒褐7.5YR3/1
486	XXVE14 14s-14t 12-4	㊀黒褐7.5YR3/1	510	XXVF17bス 12-2	㊀黒褐7.5YR3/2 胴部で施文の方向が変わる

	出土地点	備考
511	XXVE15tニ 12-1 XXVE15tニ 12-2 の2地点から出土	㊀褐10YR4/4
512	XXVF14aセ 12-1	㊀暗褐10YR3/4，褐10YR4/6
513	XXVE15tナ 12-3	㊀暗褐10YR3/3，3/4
514	XXVF15aコ 12-2	㊀黒褐7.5YR3/2
515		
516	XXVE14tソセ 12-2	㊀黒7.5YR2/1，2/1
517	XXVE15tエ 12-3	㊀褐7.5YR4/4
518	XXVF17cス 12-3	㊀にぶい黄褐10YR5/4
519	XXVF17cス 12-2	㊀にぶい黄褐10YR5/4
520	XXVE15tト 12-3	㊀黒褐5YR3/1
521	XXVF16bエ 12-1 O.P.＋28.092m	㊀にぶい褐7.5YR5/4
522	XXVF17cス 12-2	㊀にぶい黄橙10YR6/3
523	XXVE15tサ 12-3	㊀灰褐5YR5/2
524	XXVE15tナ 12-4	㊀褐灰7.5YR4/1
525	XXVE14tケコセソ 12-2	㊀暗褐10YR3/4
526	XXVF16aノ 12-2	㊀褐7.5YR4/4
527	XXVF15aサ 12-2	㊀灰黄褐10YR5/2
528	XXVE14tト 12-1	㊀褐7.5YR4/3，4/4
529	XXVE16tナ 12-3	㊀褐7.5YR4/3
530	XXVE15tニ 12-2	㊀黒7.5YR2/1
531	XXVF17cク 12-3	㊀にぶい黄褐10YR5/4
Ⅱ-B$_3$群土器(第36図　図版四六～四七)		
532	XXVE t Line 15t-16t 12-3	㊀黒褐7.5YR3/2
533		
534	XXVE t Line 15t-16t 12-2 畔内	㊀褐灰7.5YR5/1

	出土地点	備考
535	XXVE t Line 14s-14t 12-5	㊀褐灰7.5YR4/1
536	XXVF16aソ 12-4	㊀褐灰5YR5/1
537	XXVE16tナ 12-1	㊀褐7.5YR4/4
538		
539	XXVF17cク 12-2	㊀にぶい赤褐5YR4/4
540	XXVE15t 12-4 畔内	㊀褐7.5YR4/6
541		㊀暗赤褐5YR3/2
542	XXVE14tス 12-3	㊀にぶい橙7.5YR6/4
543	XXVE t Line 14t-15t 12-1 畔内	㊀にぶい赤褐5YR5/4，褐7.5YR4/6
544	XXVF16aケ 12-2	㊀褐7.5YR4/3
545	XXVE14tス 12-2	㊀褐灰7.5YR4/1
546	XXVF17cス 12-3	㊀にぶい黄褐10YR5/4
547	XXVE14tテ 12-3	㊀黒褐5YR3/1，褐灰5YR4/1
548	XXVE15tノ 12-5	㊀黒5YR2/1
549	XXVE14tネ 12-4	㊀にぶい赤褐5YR4/3
550	XXVF16aウ 12-2	㊀褐7.5YR4/4
551		
552	XXVF15aオ 12-2	㊀黒褐5YR3/1
553	XXVE t Line 14t-15t 畔内	㊀黒褐5YR2/1，3/1
554	XXVE16tヌ 12-4	㊀褐7.5YR4/3，4/6
555		
556	XXVE14tソ 12-2	㊀黒褐7.5YR3/2，暗褐3/3
557	XXVE15tネ 12-2	㊀灰褐7.5YR4/2
558	XXVE t Line 13t-14t 12-3 畔内	㊀黒褐7.5YR2/2，3/2
559	XXVE14tセ 12-1	㊀暗赤褐2.5YR3/6

	出土地点	備考		出土地点	備考
560			586	XXVF16aテ 12-5	㊐赤褐5YR4/6
561	XXVF17a 12	㊐褐7.5YR4/3	587	XXVE15tノ 12-5	㊐褐灰7.5YR4/1
562	XXVF15aケ 12-1	㊐褐7.5YR4/4	588	XXVE15tニ 12-3	㊐灰褐5YR5/2，4/2
563	XXVE14tネ 12-3	㊐黒7.5YR2/1	589	XXVE 14 Line 14s-14t 12-5 畔内	㊐褐灰7.5YR4/1
564	XXVF17cク 12-2	㊐暗褐10YR3/3	590	XXVE15tテ 12-3	㊐褐7.5YR4/6
565	XXVE16tチ 12-1	㊐褐10YR4/4	591	XXVE16tタ 12-3	㊐暗褐10YR3/4
566	KUMの註記なし	㊐明褐7.5YR5/6	592	XXVE15tネ 12-2	㊐橙5YR6/6
567	XXVE t Line 13t-14t 畔内12-2	㊐黒7.5YR2/1，黒褐7.5YR3/1	593	XXVF14aチ 12-1	㊐にぶい褐7.5YR5/4
568	XXVE15tシ 12-4	㊐黒褐7.5YR3/1	594	XXVF16bオ 12-2	㊐にぶい黄褐10YR4/3
569			595	XXVF16bウ 12-1	㊐褐7.5YR4/3
570	XXVE15tト 12-1	㊐明赤褐5YR5/8，橙6/8	596	XXVF16bウ 12-2	㊐暗褐10YR3/3
571	XXVE14-16t 12-3畔	㊐暗褐7.5YR3/3	597	XXVE14tヌ 12-4	㊐黒褐7.5YR3/1
572	XXVE t Line 13t-14t 畔内 12-3	㊐黒褐10YR3/2，3/2	598	XXVE 14 Line 14s-14t 12-6 畔内	㊐灰褐7.5YR4/2
573	XXVE15tナ 12-4	㊐褐灰5YR4/1，橙6/6，明褐灰7/2	599	XXVF17a 12	㊐にぶい赤褐5YR4/3，5/4
574			600	XXVF14bエ 12-1	㊐褐10YR4/4
575			601	XXVE 14 Line 14s-14t 12-6 畔内	㊐黒褐7.5YR3/2
576			602	XXVF14aス 12-1	㊐灰黄褐10YR5/2
577			603	XXVF15bウ 12-1	㊐黒褐10YR3/2
578			604	XXVF15aス 12-1	㊐褐灰10YR5/1
579			605	XXVF16aテ 12-4	㊐にぶい褐7.5YR5/3
Ⅱ-B_4群土器(第37図　図版四七～四八)			606	XXVF14aキ 12-4	㊐にぶい褐7.5YR5/4
582	XXVF14aク 12-3	㊐にぶい褐7.5YR5/4	607	XXVF15aカ 12-1	㊐灰褐7.5YR5/2
583	XXVE16tナ 12-5	㊐黒褐10YR3/3，3/2	608	XXVF15aヌ 12-1	㊐にぶい褐7.5YR5/3
584	XXVE14tコ 12	㊐暗赤褐5YR3/2	609	拓 430	
585	XXVF16aク 12-1	㊐褐7.5YR4/3	610	XXVE15tケ 12-3	

	出土地点	備考
Ⅱ-B5群土器(第38図　図版四八～四九)		
611	XXVE15t 12	㊀にぶい橙7.5YR6/4、格子目文
612	XXVF15aニ 12-2	㊀暗赤褐5YR3/2
613	XXVF16aウ 12	㊀にぶい赤褐5YR5/4
614	XXVE15tト 12-4	㊀明赤褐2.5Y5/6
615	XXVF16aト 12-6	㊀褐7.5YR4/3
616	XXVE15tノ 12-2	㊀褐灰7.5YR5/1，橙5/6
617	XXVF16aト 12-6	㊀灰褐7.5YR5/2，5/2
618	XXVE16tチ 12-2	㊀褐7.5YR4/6
619	XXVE14tケ、コ、セ、ソ 12-2	㊀灰赤2.5YR5/2
620		
621	XXVE15tサ 12-2	㊀赤褐5YR4/8
622	XXVEt Line 14t-16t 12-1 畔内	㊀暗赤褐5YR3/6
623	XXVF16bエ 12-1	㊀褐7.5YR4/3
624	XXVE15tノ 12-1	㊀にぶい橙5YR6/4
625	XXVE15tナ 12-4	㊀橙5YR6/8
626	XXVEt Line 15t-16t 畔内 12-3	㊀暗赤褐5YR3/2，3/3
627	XXVF16aカ 12-1	㊀灰褐5YR5/2，5/2
628	XXVF16aク 12-5	㊀褐7.5YR4/3
629	XXVF16aカ 12-1	㊀明赤褐
630	XXVF15a 12-1	㊀褐7.5YR4/3
631	XXVF16aウ 12-1	㊀褐7.5YR4/6
632	XXVF16aシ 12-4	㊀明褐7.5YR5/6
633	XXVF14aイ 12-5	㊀赤褐5YR4/6
634	XXVF14aス 12-5	㊀明赤褐5YR5/6
635	XXVF16aネ 12-2	㊀褐7.5YR4/3
636	XXVF14aシ 12-2	㊀赤褐5YR4/6
637	XXVF14aイ 12-5	㊀明褐7.5YR5/6
638	XXVF14bエ 12-2	㊀褐7.5YR4/6，褐10YR4/6
639	XXVE15tテ 12-括	㊀褐10YR4/6
640	XXVF14aエ 12-5	㊀明褐7.5YR5/6
641	XXVF17bキ 12-1	㊀極暗赤褐5YR2/3，灰黄褐10YR4/2
642		
643	XXVE14tヌ、ネ、ソ	㊀褐灰7.5YR4/1，5/1
Ⅱ-C群土器(第39図　図版四九～五〇)		
644		口径(推)29.0cm、器高(残)15.2cm
645	XXVE15tス 12-6 一括	㊀褐灰5YR4/1，5/1、口縁部は横方向、胴部は縦方向に原体の異なる舟形沈文イを施文。口径(推)26.4cm、器高(残)9.8cm
646	XXVE16t　第9層	㊀灰褐7.5YR5/2
647	XXVE15tテ O.P.＋27.776m	㊀灰褐5YR5/2、器高(残)10.9cm
648	XXVE15tト 12層基底	㊀黒褐5YR3/1、口縁部は様方向、胴部は縦方向に同一原体の沈文イを施文
649	XXVEt Line 15-16t 畔内	㊀黒褐7.5YR3/2，3/2，3/1
650	XXVE15tテ、ト 12層基底	㊀赤褐5YR4/6
651	XXVE15t 12-3 畔内	㊀褐灰5YR5/1
652	XXVE15tナ 12-4	㊀灰褐5YR5/2
653	XXVF16aト 12-6	㊀明赤褐5YR3/2
654	XXVE14tテ、チ 12-5	㊀黒褐5YR3/1，3/1
655	XXVE15tテ、ト 12層基底	㊀赤褐5YR4/8
656		
657		
658	XXVE15tニ 12-4	㊀灰褐5YR5/2

	出土地点	備考
659	XXVE15tニ 12-4	㊀灰褐5YR6/1
Ⅱ-D群土器(第40～41図　図版五一～五三)		
660	XXVE15tノ 12-5	㊀黒褐7.5YR3/1　口縁部に山形文、胴部に舟形沈文口を施文。器高(残)7.4cm
661	XXVE15tネ 12-3	㊀黒褐5YR3/1，3/1　口径(推)27.0cm 器高(残)10.8cm
662	XXVF15aケ 12-1	㊀黒褐7.5YR3/1
663	XXVE15tネ 12-3	㊀黒褐10YR3/2，2/3
664	XXVF16aセ 12-3	㊀褐灰7.5YR4/1
665	XXVF15tト 12-1 畔内	㊀にぶい褐7.5YR5/4
666	XXVF15aチ 12-1	㊀黒褐7.5YR3/1，3/2
667	XXVE16tニ 12-3	㊀褐7.5YR4/6，4/4
668	XXVF16aイ 12-3	㊀黒褐7.5YR3/1
669	XXVF14aツ 12-2	㊀黒褐5YR3/2，3/1
670	XXVF16aイ 12-5	㊀にぶい赤褐5YR5/4
671	XXVF15aイ 12-2	㊀黒褐7.5YR3/2
672	XXVE14tト 12	㊀黒褐7.5YR3/1
673	XXVE t Line 13-14t 12-2 畔内	㊀黒褐7.5YR3/1，3/2　㊁やや甘 ㊂角閃石多く、長石、石英、雲母、くさり礫など含む
674	XXVE15tテ 12-3	㊀にぶい褐7.5YR5/4　㊁良好 ㊂小さい長石、角閃石、極小の雲母石英を含む
675	XXVE15b 12-1　畔内	㊀褐10YR4/6　㊁良好 ㊂小さい長石、角閃石多数、極小の雲母、石英を含む
676	XXVE15tテ 12-括	㊀にぶい赤褐5YR4/4　㊁良好 ㊂小さい長石を多数、極小の雲母、石英を含む
677	XXVF14aヤ 12	㊀灰褐7.5YR4/2，褐5/4　㊁良好 ㊂小さい長石、角閃石、極小の石英雲母を含む
678	XXVF14a 12-2	㊀黒褐10YR3/3　㊁良好 ㊂極小の長石を多数、角閃石、石英雲母を含む
679	XXVE t Line 15t-16t 12-5 畔	㊀黒7.5YR3/1，黒褐3/1　㊁やや甘 ㊂雲母を多く、長石、角閃石、くさり礫など少し含む
680	XXVF15aト 12-1	㊀褐7.5YR4/6　㊁良好 ㊂小さい長石、角閃石多数、極小の雲母を含み粗い
681	XXVF15aイ 12-1	㊀褐7.5YR4/6，にぶい黄褐10YR5/3 ㊁良好　㊂極小の角閃石、長石多数含む
682	XXVF14 12-3	㊀にぶい褐7.5YR5/4 ㊂極小の角閃石、長石、少量の雲母を含む
683		
684	XXVF16aセ 12-5	㊀暗赤褐5YR3/3，にぶい橙5/3　㊁甘 ㊂角閃石多く、長石、雲母、くさり礫など少し含む
685	XXVF14aネ 12-1	㊀褐7.5YR4/6　㊁良好 ㊂極小の長石、角閃石、雲母を含む
686	XXVE14tソ 12-3	㊀黒褐7.5YR3/2，褐灰4/1 ㊁やや甘　㊂角閃石やや多く、長石雲母少し含む
687	XXVF14aキ 12-2	㊀黒褐7.5YR3/2，暗赤褐5Y R 3/4 ㊁良好　㊂極小の長石、角閃石をまばらに含む
688	XXVF16aク 12-7	㊀にぶい黄橙10YR6/3　㊁良好 ㊂極小の長石、角閃石、雲母を多数含む
689	XXVE t Line 12-2 畔内	㊀にぶい赤褐5YR4/3，4/4　㊁やや甘 ㊂角閃石やや多く、長石、石英、雲母、くさり礫少し含む
690	XXVF14aイ 12-2	㊀にぶい赤褐5YR5/4　㊁良好 ㊂極小の長石、角閃石、石英を含む
691	XXVE t Line 畔内	㊀黒7.5YR2/1　㊁やや甘 ㊂雲母を多く、角閃石、長石、石英など少し含む
692	XXVF15b 12-1　畔内	㊀黒褐10YR3/2　㊁良好(硬質) ㊂極小の長石、角閃石、雲母を若干含む
693	XXVF16aイ 12-2	㊀褐7.5YR4/4　㊁良好 ㊂小さい角閃石を多数、長石を含む
694	XXVF15bス 12-1	㊀にぶい黄褐10YR5/4　㊁良好 ㊂小さい角閃石を多数、極小の雲母長石含む
695	XXVE t Line 15t-16t 12-3 畔内	㊀黒褐7.5YR3/1，5YR3/1　㊁やや甘 ㊂角閃石やや多く、長石、雲母、くさり礫など含む
696	XXVF14aネ 12-1	㊀黒5YR2/1　㊁良好 ㊂角閃石、長石、雲母など少し含む
697		
698	XXVE15bエ 12-1	㊀にぶい黄褐10YR5/3　㊁良好 ㊂極小の角閃石、長石など含む
699	XXVF15bス 12-1	㊀にぶい黄褐10YR5/4　㊁良好 ㊂小さい長石、角閃石を多数、極小の雲母を含む
700	XXVF15bケ 12-1	㊀灰黄褐10YR5/2，4/2　㊁良好 ㊂極小の長石、角閃石、石英、雲母を含む
701	XXVF14aツ 12-1	㊀褐7.5YR4/3　㊁良好 ㊂極小の長石、角閃石、雲母、石英を含む
Ⅱ-E群土器(第42図　図版五三)		
702	XXVF14aウエクケ 12-1	㊀にぶい赤褐5YR4/4　㊁やや甘 ㊂チャート、角閃石、石英を含む
703	XXVF14aウエクケ 12-1	㊀褐10YR4/4，黒褐2/3　㊁やや甘 ㊂角閃石と雲母を多く、長石を少し含む
704	XXVF14aウエクケ 12-1	㊀褐7.5YR4/6　㊁やや甘 ㊂角閃石、雲母を多く、長石を含む
705	XXVF14aウエクケ 12-1	㊀褐10YR4/4　㊁やや甘 ㊂角閃石と雲母を多く、細かい長石を含む
706	XXVF14aウエクケ 12-1	㊀褐10YR4/4　㊁やや甘 ㊂角閃石と雲母を多く、5.0～6.0mmの長石を含む

	出土地点	備考
707	XXVF14aウエクケ 12-1	(色)褐10YR4/4, 黒褐3/2 (焼)やや甘 (胎)雲母を多く含む
708	XXVF14aウエクケ 12-1	(色)にぶい赤褐5YR4/4 (焼)やや甘 (胎)角閃石、石英を含む
709	XXVF14aウエクケ 12-1	(色)褐7.5YR4/6, 暗褐10YR3/3 (焼)やや甘 (胎)角閃石、雲母、長石を含む
710	XXVF14aウエクケ 12-1	(色)褐7.5YQ4/4, 暗褐10YR3/3 YR (焼)やや甘 (胎)角閃石を多く含み、雲母、長石を含む
711	XXVF14aウエクケ 12-1	(色)暗褐10YR3/4, にぶい黄褐4/3 (焼)やや甘 (胎)雲母を多く、長石、角閃石を含む
712	XXVF14aウエクケ 12-1	(色)暗褐10YR3/3, 灰黄褐4/2 (焼)やや甘 (胎)チャート、角閃石を含む

Ⅱ-F群土器(第42図　図版五三)

	出土地点	備考
713	XXVE15t 1-ネ 12-5、12-6	(色)褐灰5YR4/1 (焼)やや甘 器高(残)11.0cm (胎)角閃石、長石、石英、雲母、くさり礫など少し含む

底　部(第43図　図版五四～五五)

	出土地点	備考
714	XXVE15tテ 12-3 T.P.29.285	(色)褐7.5YR4/3, 暗圧黄2.5Y4/2 灰 (焼)やや甘 (胎)雲母を多く含み、角閃石も含む
715	XXVE15tチ 12-括	(色)灰褐5YR6/2, 5/2 (焼)やや甘 (胎)角閃石、長石、雲母を少し含む
716		
717		
718	XXVF16aクケ 12-6	(色)灰黄褐10YR5/2 (焼)甘 (胎)角閃石、くさり礫やや多く、長石石英、雲母少し含む
719	XXVE15tテト 12	(色)灰褐7.5YR4/2, 褐灰4/1 (焼)やや甘 (胎)角閃石、長石、雲母、くさり礫など少し含む
720	XXVE15tノ 12-3	(色)灰褐7.5YR4/2, にぶい褐5/3 (焼)やや甘 (胎)長石、角閃石、石英、雲母、くさり礫など少し含む
721	XXVF16aク 12-4	(色)灰褐7.5YR5/2, 黒褐3/1 (焼)甘 (胎)角閃石、長石、雲母、くさり礫など少し含む
722	XXVE14tツ 12-2	(色)褐灰7.5YR4/1, 黒褐3/1 (焼)やや甘 (胎)角閃石多く、長石、石英、雲母、くさり礫含む
723	XXVF16aク 12-4	(色)褐灰7.5YR4/1, 褐4/3 (焼)甘 (胎)角閃石、長石、雲母、くさり礫など少し含む
724	XXVE15tト 12-3 OP＋28.079m	(色)褐7.5YR4/4, 黄褐2.5Y5/3 (焼)やや甘 (胎)雲母を多く含み、角閃石も含む
725	XXVE15tチ 12-4	
726	XXVF17bツ 12-1	(色)にぶい褐7.5YR5/3, 5/4 (焼)やや甘 (胎)角閃石、長石、雲母、くさり礫少し含む
727	XXVE14tノ 12-2	(色)にぶい赤褐5YR4/3, 黒褐7.5YR3/2 (焼)やや甘 (胎)角閃石、雲母、長石、くさり礫少し含む
728	XXVE15-16t 12-5 畔内	(色)褐灰5YR5/1, 4/1 (焼)やや甘 (胎)角閃石やや多く、長石、雲母、くさり礫含む
729	XXVE14tテ 12-3	(色)褐灰10YR4/1, 黒褐10YR3/2 (焼)甘 (胎)角閃石、長石、くさり礫少し含む

	出土地点	備考
730		
731		
732	XXVF15aケ 12-1 T.P.29.575	(色)にぶい赤褐5YR5/4 (焼)甘 (胎)角閃石、長石、くさり礫、雲母など含む
733		
734	XXVE15tニ 12-2	(色)灰褐7.5YR4/2, 黒褐3/1 (焼)やや甘 (胎)角閃石、長石、石英、金雲母、くさり礫など少し含む
735	XXVE 14 Line 14s-14t 12-5 畔内	(色)橙7.5YR6/6 (焼)やや甘 (胎)角閃石、雲母、長石を含む
736	XXVF14オシ 12-3	(色)褐灰7.5YR5/1, 6/1 (焼)やや甘 (胎)長石、角閃石、石英、雲母を含む
737	XXVE15tツ 12-2	(色)橙7.5YR6/6 (焼)甘 (胎)長石、角閃石、雲母、くさり礫など少し含む
738	XXVE15tニ 12-2 T.P.29.197	(色)暗褐7.5YR3/4, 褐10YR4/6 (焼)やや甘 (胎)角閃石、雲母を多く、長石を含む
739	XXVE14tノ 12-2 OP＋27.688m	(色)黒褐7.5YR3/1, 3/2, 灰褐4/2 (焼)甘 (胎)角閃石、石英、雲母、くさり礫など少し含む
740	XXVF15aス 12	(色)にぶい褐7.5YR5/4, 5/4 (焼)甘 (胎)角閃石やや多く、長石、くさり礫雲母を少し含む
741	XXVE16tタ 12-3	(色)にぶい橙5YR6/3 (焼)やや甘 (胎)角閃石、石英、雲母を含む
742	XXVE15tノ 12-3	(色)灰褐5YR5/2, 7.5YR5/2 (焼)やや甘 (胎)長石、角閃石、くさり礫、雲母など含む
743	XXVE15-16t 畔 12-3	(色)暗赤褐5YR3/2 (焼)甘 (胎)角閃石やや多く、長石、雲母など少し含む
744	XXVE 14 Line 14s-14t 12-5	(色)褐灰7.5YR4/1 (焼)甘 (胎)角閃石やや多く、長石、石英、くさり礫含む
745	実 1836	
746	XXVE15tネ 12-2	(色)褐灰5YR4/1 (焼)甘 (胎)長石、角閃石、くさり礫、雲母など含む
747	XXVE14tソ 12-1 OP＋28.118m	(色)にぶい橙7.5YR6/4, にぶい褐5/3 (焼)甘 (胎)角閃石、長石、雲母、くさり礫など含む
748	XXVE14tス 12-3 OP＋28.001m	(色)灰褐7.5YR4/2, 褐灰4/1 (胎)角閃石、長石、雲母など少し含む
749		
750	XXVF15aツ 12-1 T.P.29.026	(色)明赤褐5YR5/6, 黒褐2/1 (焼)甘 (胎)長石やや多く、角閃石、雲母、くさり礫など含む
751		
752		
752	XXVE15tノ 12-3	(色)橙7.5YR6/6, 灰褐6/2 (焼)やや甘 (胎)角閃石、長石、雲母、くさり礫など含む
753		

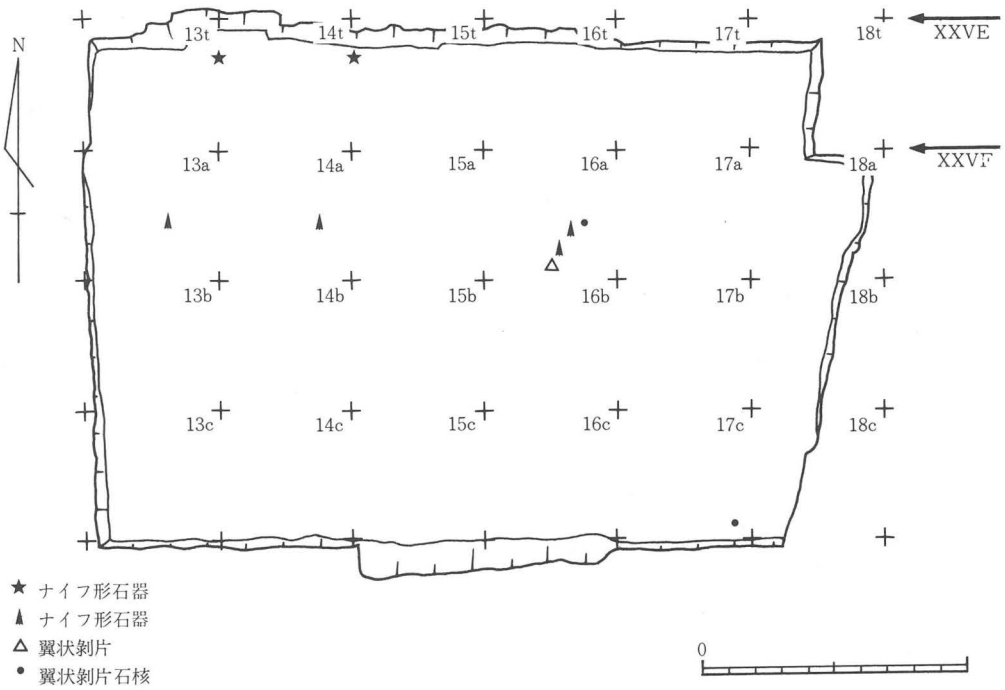
（2）石器

旧石器

神並遺跡第1・2次発掘調査において、縄文早期～中・近世の堆積層より旧石器として遺物認定し得える石器遺物10点を混在遺物内より選別することができた。石器遺物は、プライマリーな堆積層序を欠如し基本層序に相当する第12層、縄文早期の包含層下部から主として検出された遊離遺物で理解できる。しかしながら、石器資料体は原位置的状況において浮上しているが、顕著な流出作用によるローリング等は観察できず、本来の層序は中位段丘礫層直上面（漸移層）に包含していた可能性が強いと考えられ縄文早期以降においての複次的な攪乱作用による堆積遺物である。

第45図に図示する旧石器平面分布図は、微地形を呈する緩傾斜面上において、狭小的な範図に複数の旧石器が集中するXXVF16aグリッドと拡散的（バラツキ）に分布傾向を示すXXVF14a、17cグリッドで分布区分できXXVE13～15tライン付近に極めて、分布度合が濃く調査対象区域外に及ぶ北部地域にも旧石器が包含している可能性は、強いと思われる。

旧石器のカテゴリーに帰属する石器遺物類の内訳は、瀬戸内技法による国府型ナイフ形石器1点、翼状剥片4点、翼状剥片石核1点、縦長ナイフ形石器1点、横長ナイフ形石器1点、縦長剥片1点、横長剥片1点である。



第45図　旧石器平面分布図

縦長ナイフ形石器(第46-1図、図版五七-1)

XXVE14～15tライン、第12-3層。縦長剥片素材の形状を残す完形品で、粗質のサヌカイトを用材としており、器体面に著しいコーテイングが覆っている。切出形を呈する傾斜角刃縁部は、ポジティヴ(主要剥離面)な剥離面の両縁部にかけて、細部2側縁調整(鈍角)を施す。片面側のネガティヴ(背面)な剥離面の先端部は、ポジティヴな片鋭縁刃部形成面である。打面部は2面調整剥離を有する。中央横断面、三角形を呈する。最大長46.2mm、最大幅25.8mm、最大厚0.87mm、重量9.1g、刃縁部角19度。

国府型ナイフ形石器(第46-2図、図版五七-2)

XXVE13～14tライン、第5層。尖端部を折損するナイフ形石器は、ネガティヴ(背面)な右片面中央に打面縁細部調整剥離痕を複数残す。ポジティヴ(腹面)側は、左片縁部より細部1側縁調整剥離(鋭角)による打面部を除去しているが僅かに小打面痕残部する。腹面片刃縁部には、背面片刃縁部方向より非連続的にマイクロフレーキングが観察でき刃縁中央に翼状剥片生産過程で派生したヒンジフラクチャーな刃縁形成面を有する。中央横断面、三角形を呈する。緻密なサヌカイト用材を使用。最大長50.6mm、最大幅22.4mm、最大厚0.84mm、重量8.6g、刃縁部角32度。

横長ナイフ形石器(第46-3図、図版五七-3)

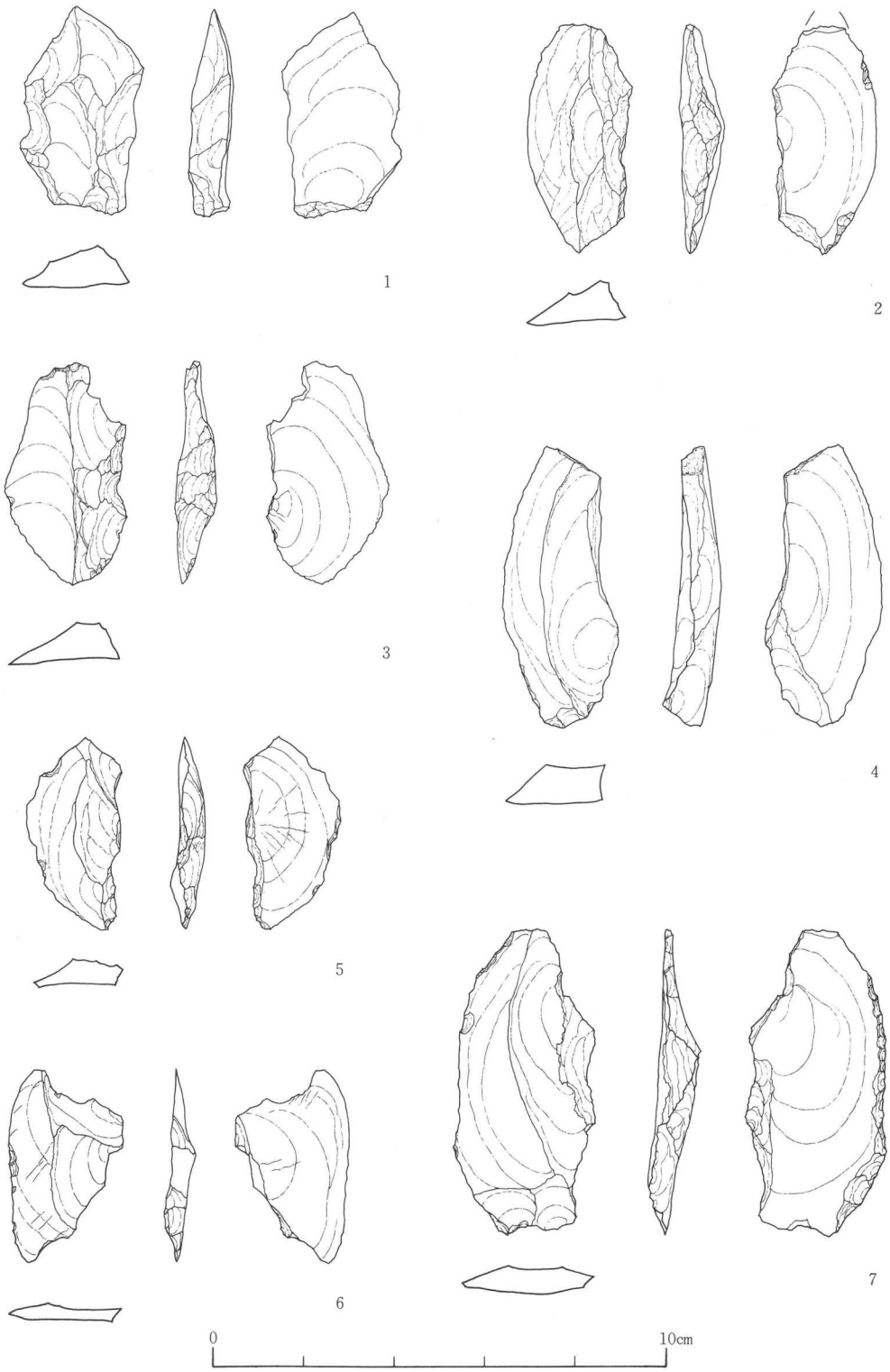
XXVE19tグリッド、第2層。横長剥片素材のナイフ形石器は、完形品で尖端部原礫面を残部し、ネガティヴ(背面)な左片縁部は縦位方向のネガティヴ面による先行剥離面が刃縁形成面を有する。ポジティヴ(腹面)な左片縁部から背面側中央部まで細部1側縁調整(鈍角)によって、ネガティヴな先行剥離面を切断している。腹面左片縁の打面部は完全に除去されず僅かに残部する。中央横断面、台形を呈する。緻密なサヌカイト用材を使用。最大長48.5mm、最大幅26.6mm、最大厚0.90mm、重量8.4g、刃縁部角28度。

翼状剥片(第46図4～8、図版五七-4～8)

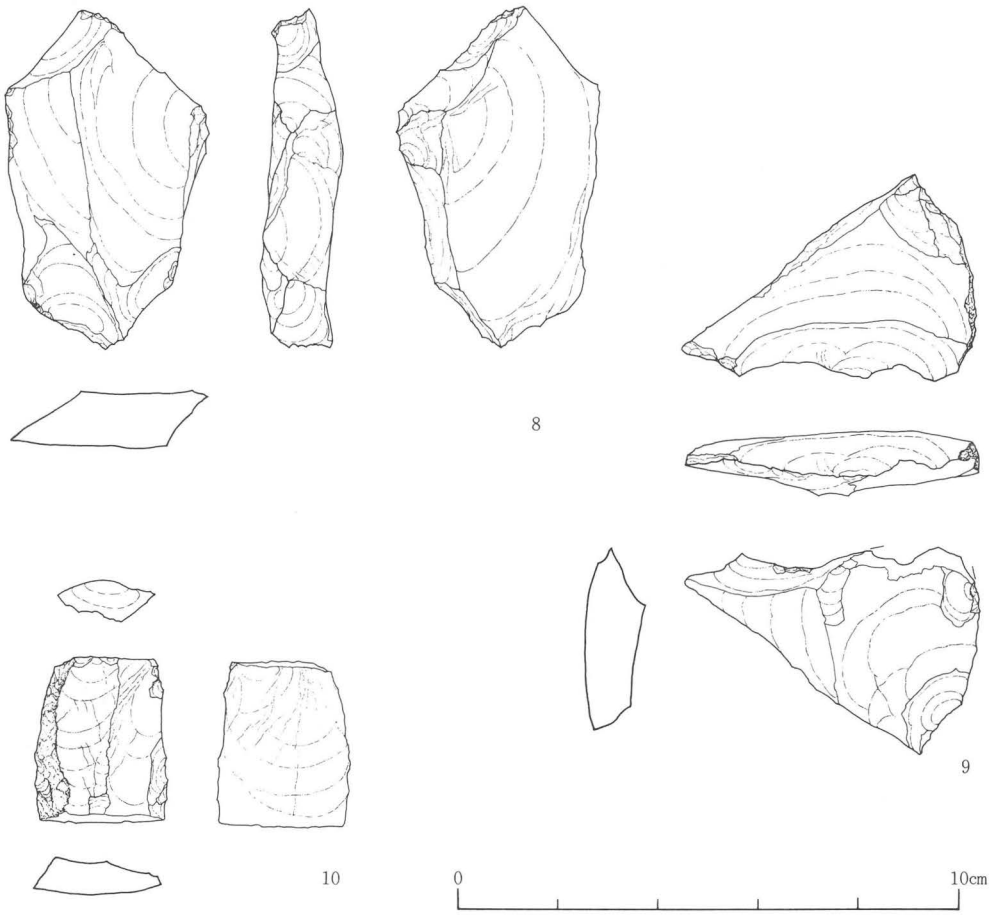
No 4～6においては、XXVF16aグリッド、第12-1～3層。4は、完形品で上端部は原礫面を残部する。ポジティヴ(腹面)な左片縁部は小形の打面調整剥離痕3面構成でネガティヴ(背面)側のポジティヴな底面には、刃縁部と末端部にマイクロフレーキングが観察される。中央横断面、台形を呈する。サヌカイト用材を使用。最大長61.2mm、最大幅24.4mm、最大厚13.0mm、重量14.9g、打面剥離角95度。

No 5は、完形でポジティヴ(腹面)な左片縁部は4面構成による打面調整剥離痕を残部し、ネガティヴ(背面)側の右片縁部にはネガティヴな打面縁調整剥離痕が2面残る。刃縁部には、非連続的にマイクロフレーキングが観察できる。中央横断面、平行四辺形を呈する。緻密なサヌカイト用材を使用。最大長42.4mm、最大幅21.6mm、最大厚0.69mm、重量5.3g、打面剥離角120度。

No 6は、疑似的な翼状剥片の形状を有する横長剥片で、左片縁部のポジティヴな剥離面を切り縁部中央に孤立するマイクロフレーキングが観察される。打面調整剥離痕は、5面構成。



第46図　旧石器、ナイフ形石器1～3、翼状剥片4～7実測図(1)



第47図　旧石器・翼状剥片8、翼状剥片石核9、縦長剥片10実測図(2)

中央横断面、片凸を呈する。緻密なサヌカイト用材を使用。最大長42.2mm、最大幅25.5mm、最大厚0.59mm、重量4.2g、打面剥離角125度。

7は、XXVF14aグリッド、第12-1層。上端部は折損しており、ネガティヴ(背面)側、底面(ポジティヴ)末端部に縦位の第2次細部調整剥離を施す。両面縁のポジティヴな刃縁部には連続細部浅形調整(鈍角)によって、スクレイパーエッヂ面を形成する。打面調整は、石理との関係で複数のステップフレーキングが観察でき、打面縁調整剥離痕が1面残部する。中央横断面、台形を呈する。サヌカイト用材を使用。最大長67.0mm、最大幅30.7mm、最大厚12.5mm、重量17.2g、打面剥離角132度。

8は、XXVE15tグリッド、第12-3層。極厚形を素材とする翼状剥片で、ネガティヴ(背面)な上端部折面である。末端部にネガティヴな2面細部調整剥離を残し、先行剥離面(ポジティヴ、ネガティヴ)を切っている。打面調整剥離痕は、5面構成。中央横断面、平行四辺形を呈する。サヌカイト用材を使用。最大長67.4mm、最大幅41.2mm、最大厚12.0mm、重量36.5g、打面剥離角128度。

翼状剥片石核(第47図-9、図版五七-9)

XXVF16aグリッド、第12-3層。翼状剥片石核の上面観は、ポジティヴな底面で下端部には、最大長47.0mm前後の翼状剥片を剥取した剥離痕を1面残存する。下面観は、ネガティヴな剥離痕を石核体面に複数残部する。上端縁部には、山形打面調整剥離痕が一面認められるが打面中央より片縁打面部にかけて新しい欠損面であるが、打面調整の復原剥離数は2面以上であろう。下端部は、ポジティヴな底面からの打撃による打面で、右片縁部は原礫面を残部する。流状構造を有する粗質なサヌカイト用材を使用。最大長58.8mm、最大幅41.2mm、最大厚11.3mm、重量24.0g、復原剥離角140度。

縦長剥片(第47-10図、図版五七-10)

XXVF17cグリッド、第12-4層。下端部を折損する剥片は、一面打面部を有し背面側を構成するネガティヴな2面縦長剥離痕が残る。打面片縁部には、ローリングによる著しい原礫面が折損上縁部にかけて残部し、対向する片縁部はポジティヴ(主要剥離面)側より折損上位に細部1側縁調整(鈍角)を施したナイフ形石器の可能性も考えられるが、下端部折損のため不明。中央横断面、片凸を呈する。転礫素材のサヌカイト用材を使用。最大長33.1mm、最大幅26.3mm、最大厚0.82mm、重量10.2g。

縄文早期、石器概要

神並遺跡第2次発掘調査において、出土した石器概要について記述すると中位段丘礫層を基盤とする微地形上に神宮寺式系統を主体とする土器群に膨大な石器群が共伴した。プライマリーな遺存状態の良好な遺物包含層は、2枚相層関係をもって存在する。しかしながら、XXVE14～16t ライン付近では、台地平坦面より南部方向へ緩やかに傾斜面を呈した地形的な堆積条件下において、2次的な堆積による遊離遺物の可能性が高い縄文早期相当に帰属されると考えられる石器も上層位より出土しており合せて報告する。

基本的層序についての詳細は、既述されているので石器遺物を包含する第11・12層とで層序型式学的に考慮され区分できる。第11・12層の石器遺物の分布の在り方について記すると両層序の包含層は調査区域全体的な規模で石器廃棄行為に及んでいるのではなく限定された小範囲に集中的に廃棄処分した可能性が考慮でき土器廃棄と共有して整合する。

第11層は、密接山形文土器を主とする遺物包含層である。微砂粒を含有するシルト層の層厚1m前後を測りa～c層に大別できる。上位部のa～b層にかけて散漫的(バラツキ)に分布するのに相違して、第11-C層に至ってはXXVF14～16cラインに傾斜するバンド状の包含層を形成しXXVF14～16cグリッド付近に位置する凹地部に石器分布度合が高く集中する。

第12層は、神宮寺式土器を主とする包含層で、分層不可能な単純包含層は毎時10cmレベル単位的に細分化が実施され平均層厚35cmを測る砂礫を含有するシルト層が、XXVEtライン13～16、XXVFa～cライン14～17グリッドにかけての範囲で南西方向へ緩傾斜面から変換する凹地部に

第2表　石器組成表

器種　　層序	第2･3層	第9層	第11層	第12層	小　計	石器組成比	全体占有比
有舌尖頭器			1	3	4	0.30	0.07
尖頭器	2	2		9	13	0.97	0.24
石鏃		10		107	117	8.79	2.16
石錐				13	13	0.97	0.24
スクレイパー		2		296	298	22.38	5.50
スクレブラ				1	1	0.075	0.01
石匙		1			1	0.075	0.01
2次加工ある剥片			3	262	265	19.90	4.89
微細剥離痕ある剥片				172	172	12.92	3.17
楔形石器			2	438	440	33.05	8.12
敲石＋磨石				2	2	0.15	0.03
磨石				4	4	0.30	0.07
砥石				1	1	0.075	0.01
小　計	2	15	5	1,308	1,331	99.94	
線状痕のある礫				1	1		0.01
局部磨製石製品				1	1		0.01
石核			1	105	106		1.95
剥片			10	3,966	3,976		73.4
合　計	2	15	16	5,381	5,415		99.89

かけて石器分布面が形成しており、石器密度の濃厚な14・15t、14～16a、17bラインにおいて、斉一性の強い石器群が石器遺物総数の78%以上、集中して廃棄処分されている。

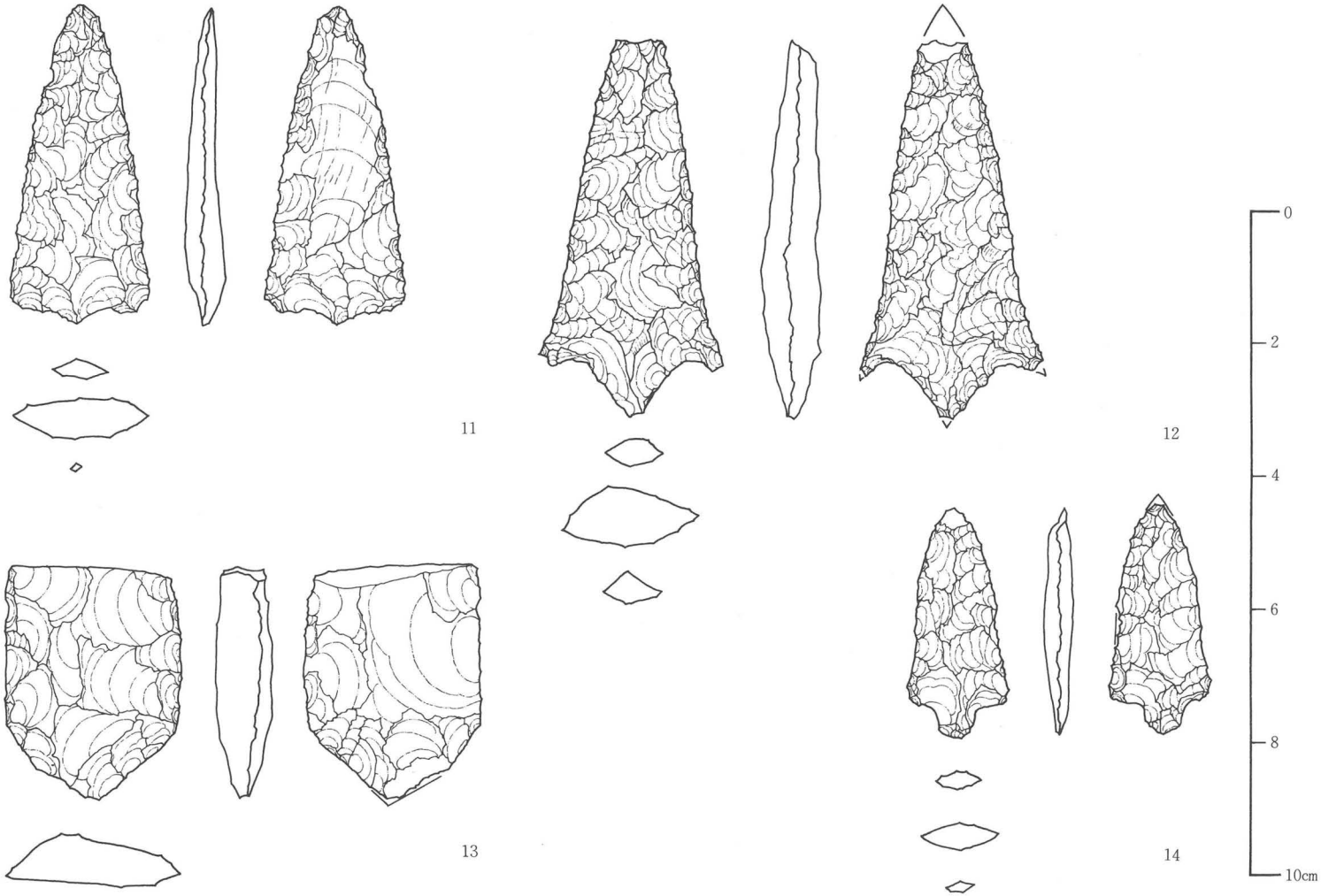
第11・12層の石器について

検出した石器技術の特徴を定義し、17器種による分類設定によった。石器、石製品、石核、剥片類の総数5,415点に及ぶ石器遺物である。石器石材の問題については、他地域圏からの搬入された石材は認められず石器用材に供給された目的石材の99%以上を占める割合で、二上山北麓地域に分布するサヌカイトを使用している。

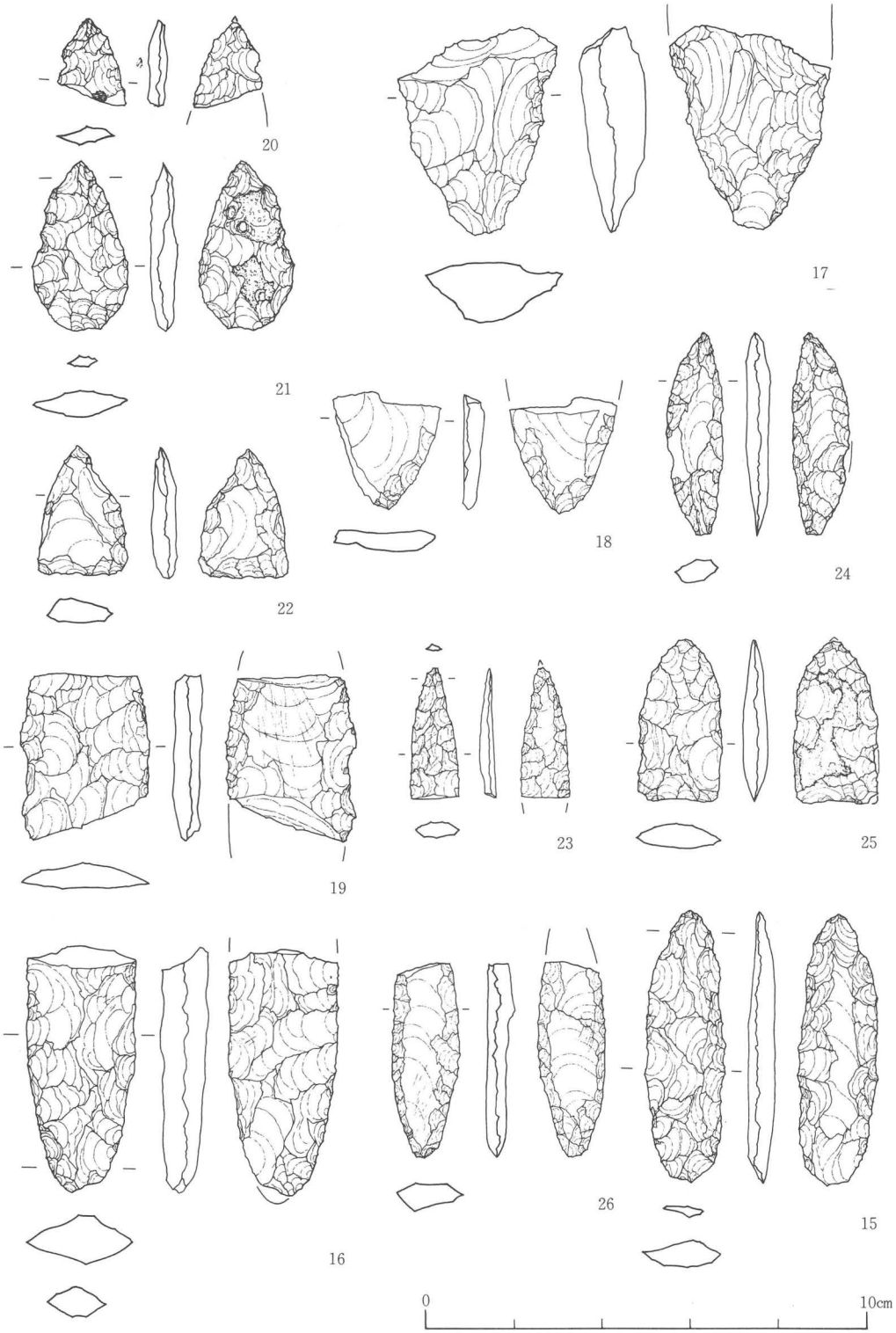
第11層内に包含している石器類の数量17点出土しており器種の内訳は、有舌尖頭器(1点、0.58%)2次加工ある剥片(3点、1.76%)楔形石器(2点、1.76%)石核(1点、0.58%)剥片(10点、5.8%)類の数値を示す微量の石器量は、本層序の石器組成を把握するまでに至っていない。

第12層において、一括性資料が保障される石器組成の内容は、定形化した石器・有舌尖頭器、木葉・柳葉形尖頭器、石鏃、石錐、スクレイパー(縦形･横形凸形刃、直線形刃、抉入凹形刃)、スクレブラ、(379点)不定形石器、2次加工ある剥片、微細剥離痕ある剥片、楔形石器(剪断面のない楔形、剪断面を有する楔形、折れ面を有する楔形、剥片)、敲石、磨石、砥石、(884点)、線状痕のある礫、局部磨製石製品、石核、剥片による分類整理を試みた。定形化した石器30%、不定形石器70%との占有率関係を示す。(第2・3表)

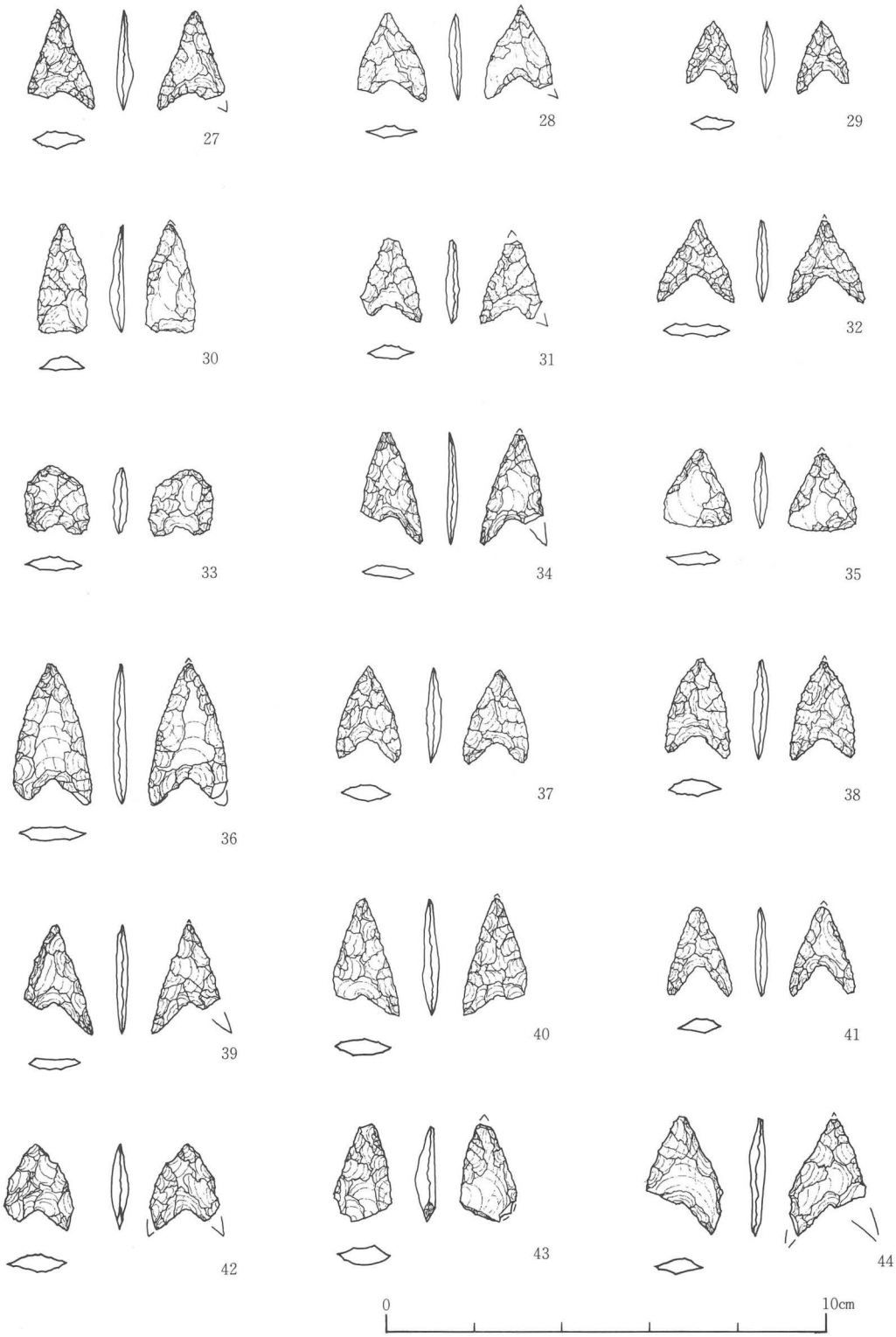
石器遺物全体総数の完形度を供した石器15%を選択した石器組成を中心に以下報告する。



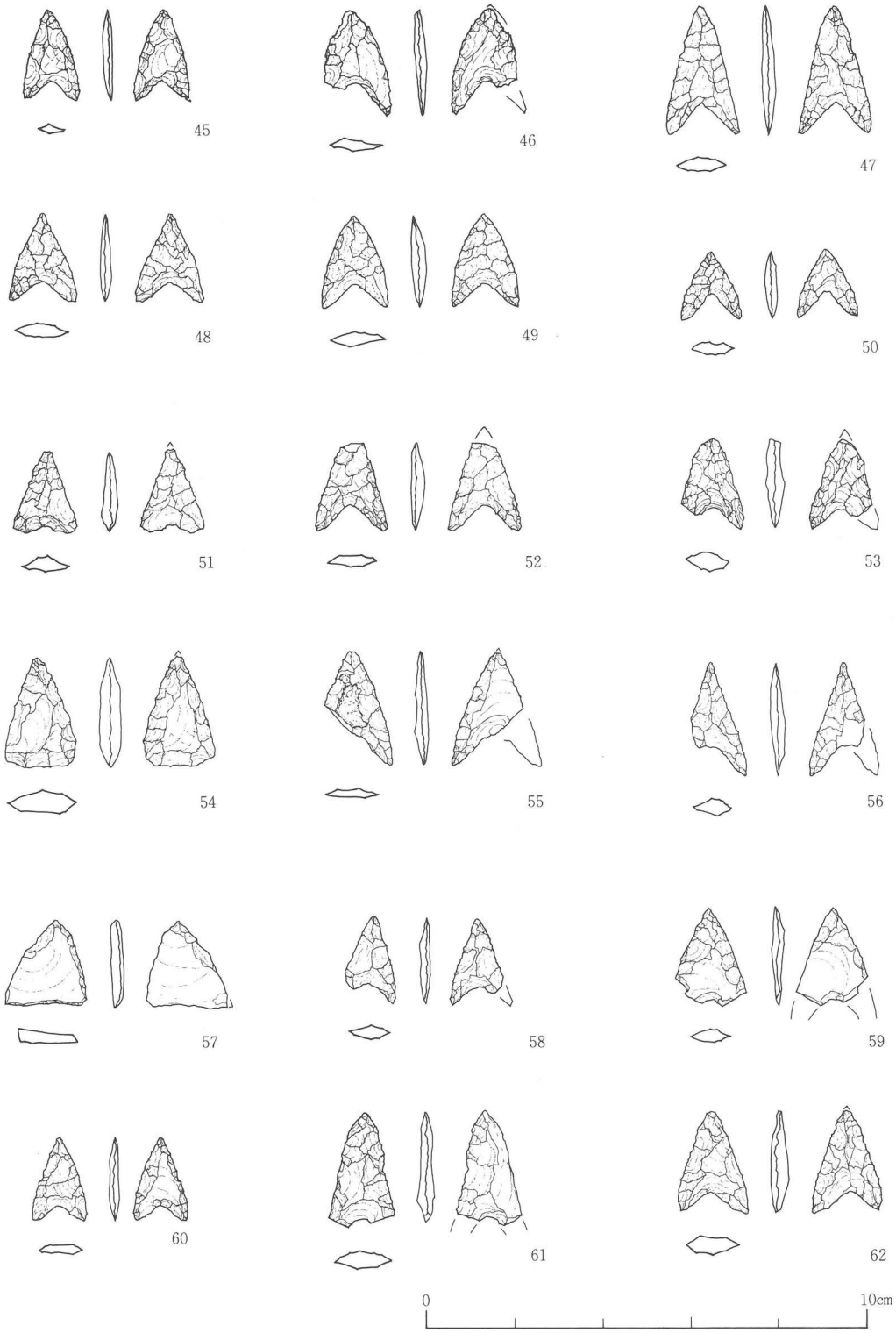
第48図　有舌尖頭器実測図11～14　scale 1 ： 1



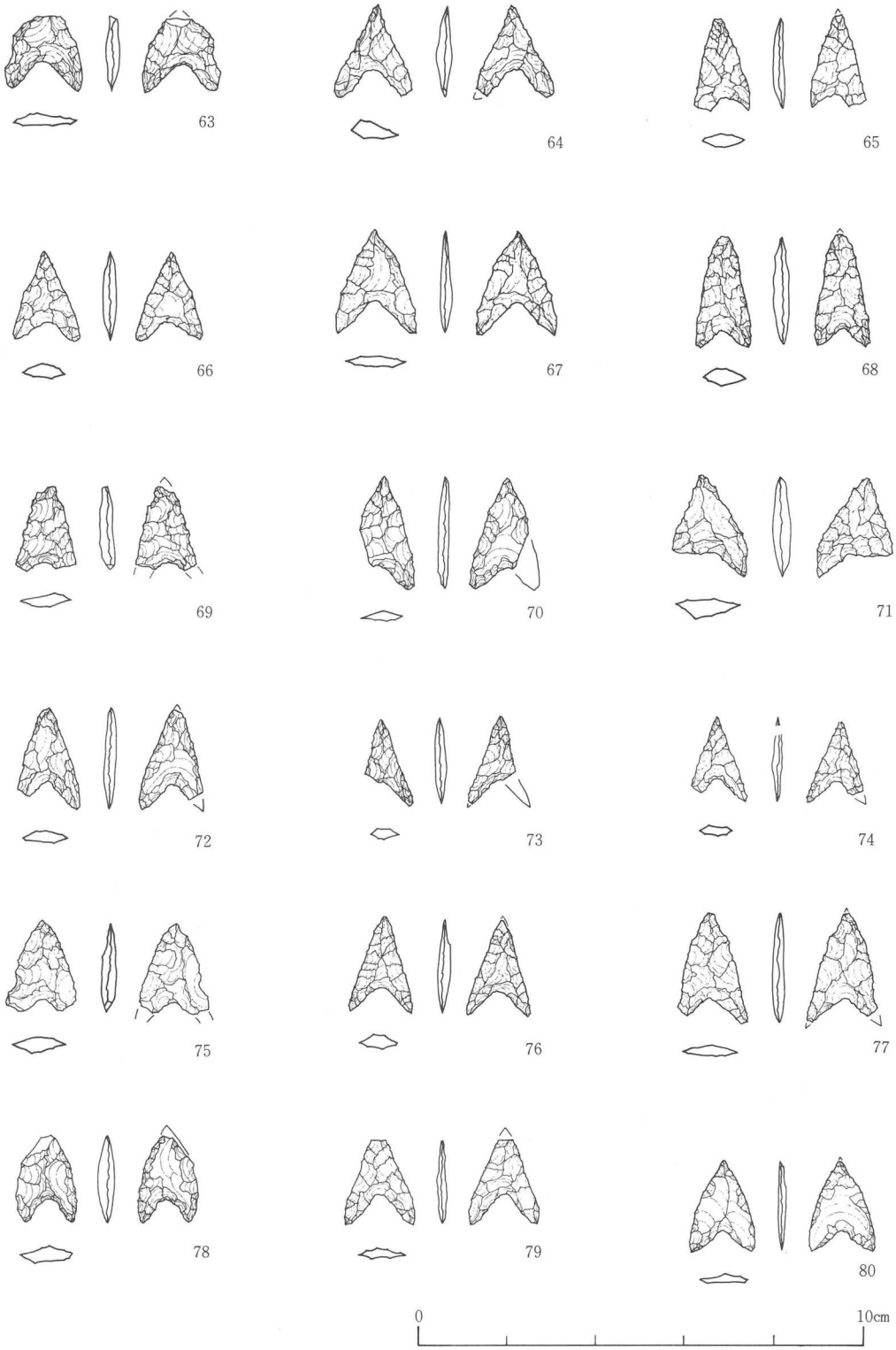
第49図 尖頭器実測図15～26 scale 3 : 2



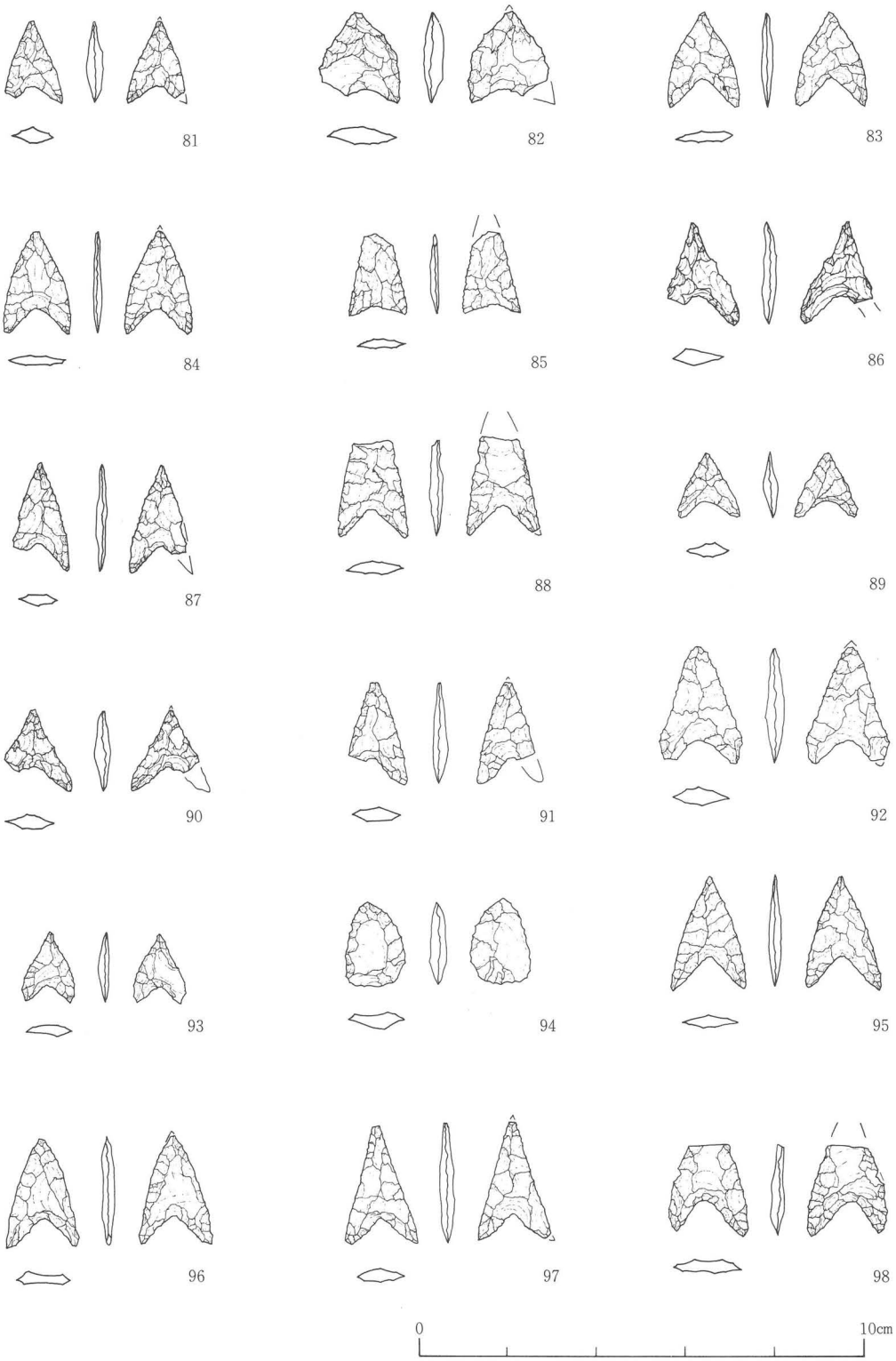
第50図　石鏃実測図27～44(1)　scale 3 ： 2



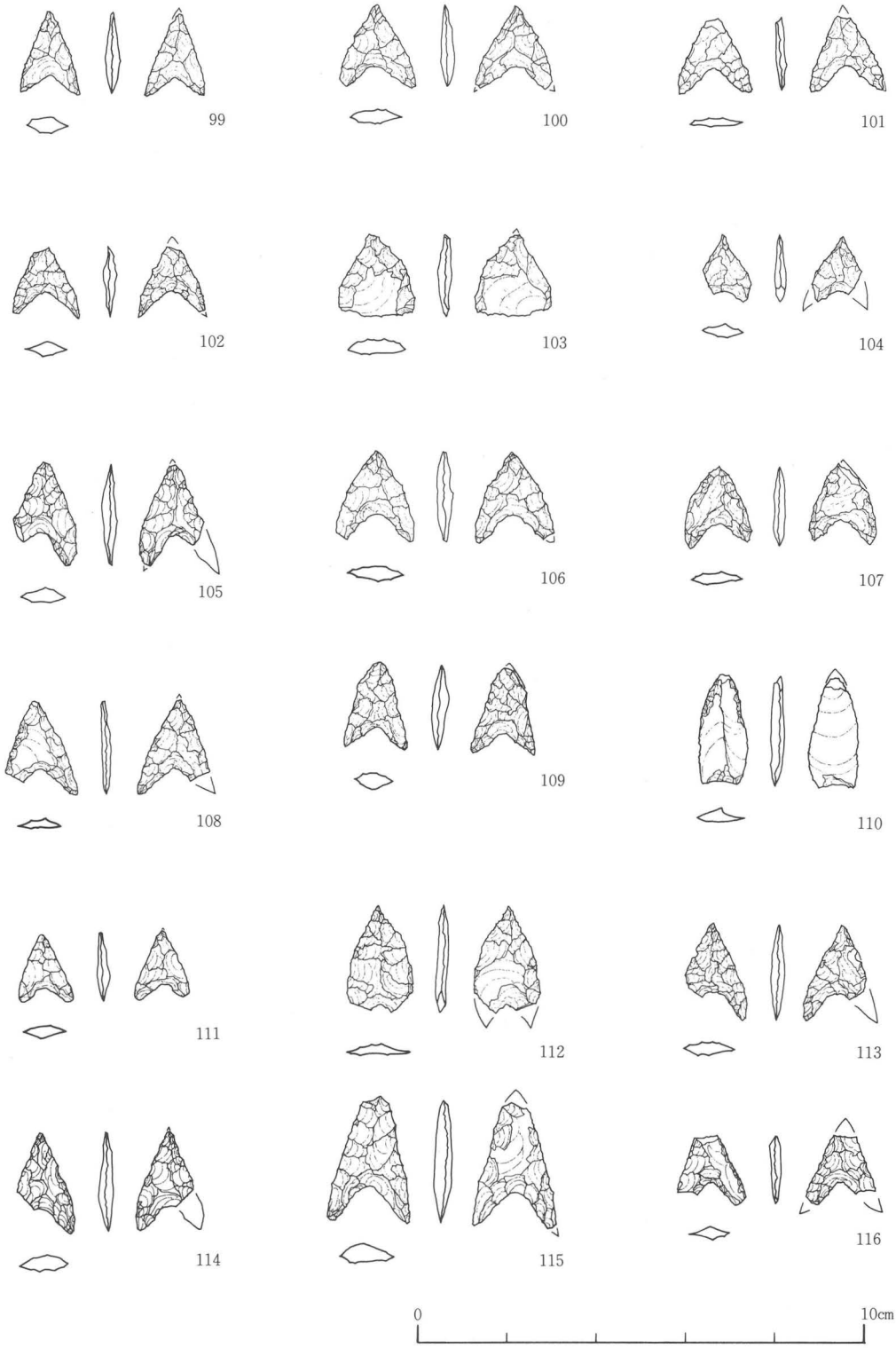
第51図　石鏃実測図45～62(2)　scale 3 ： 2



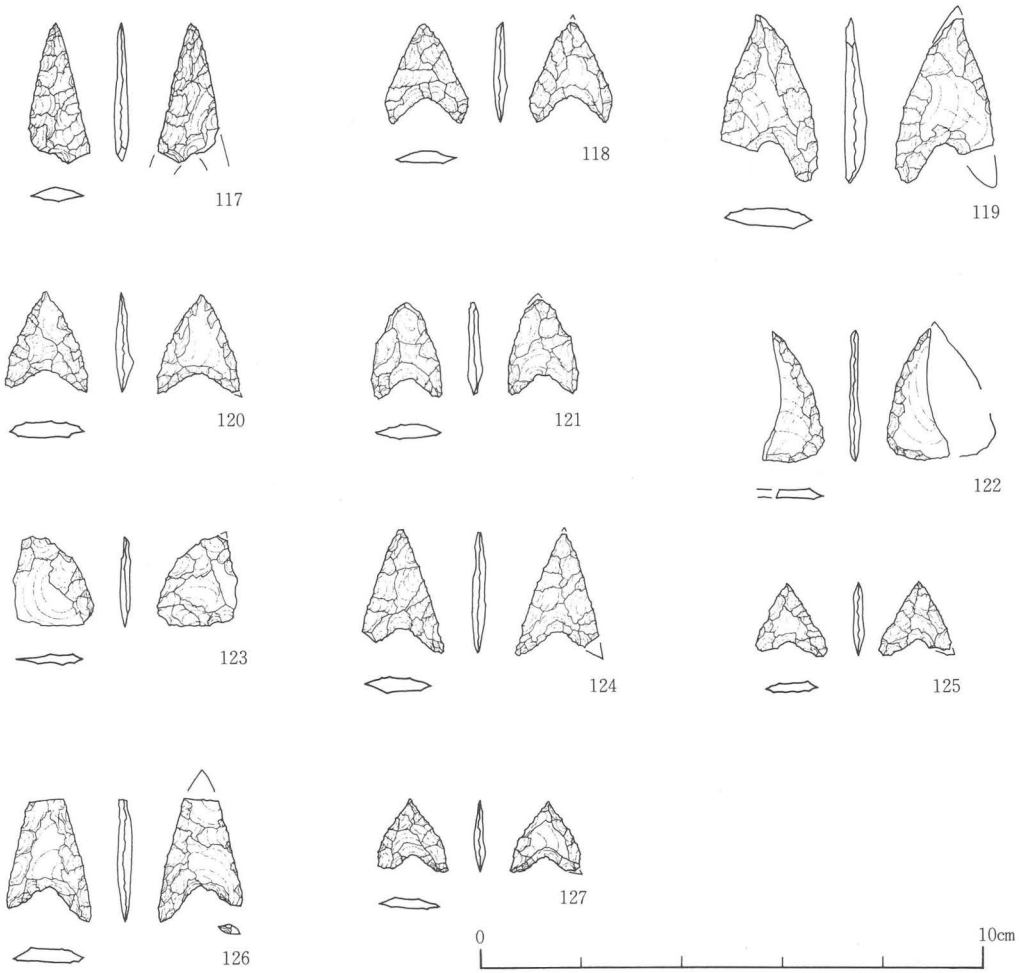
第52図　石鏃実測図63～80(3)　scale 3 ： 2



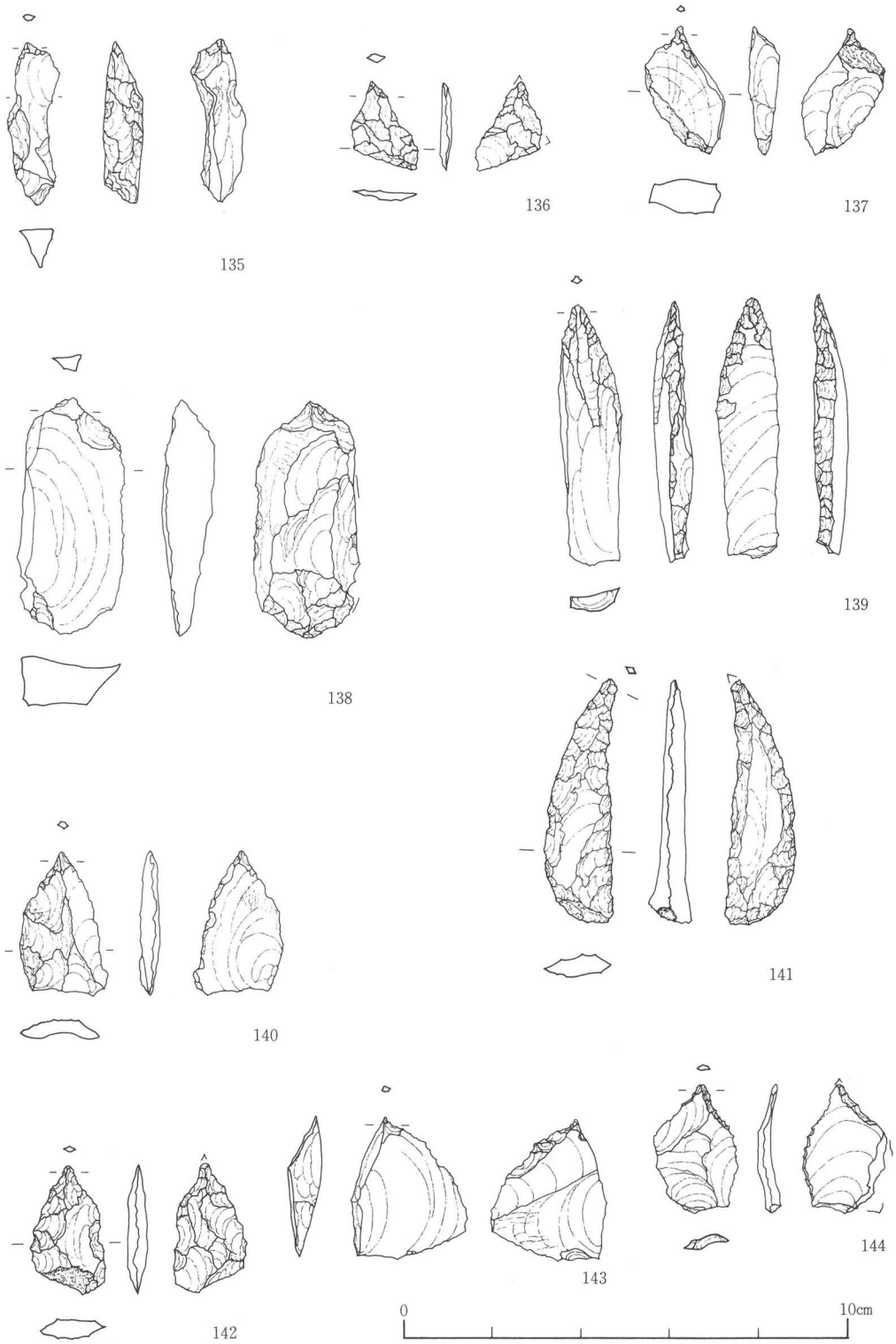
第53図　石鏃実測図81～98(4)　scale 3 ： 2



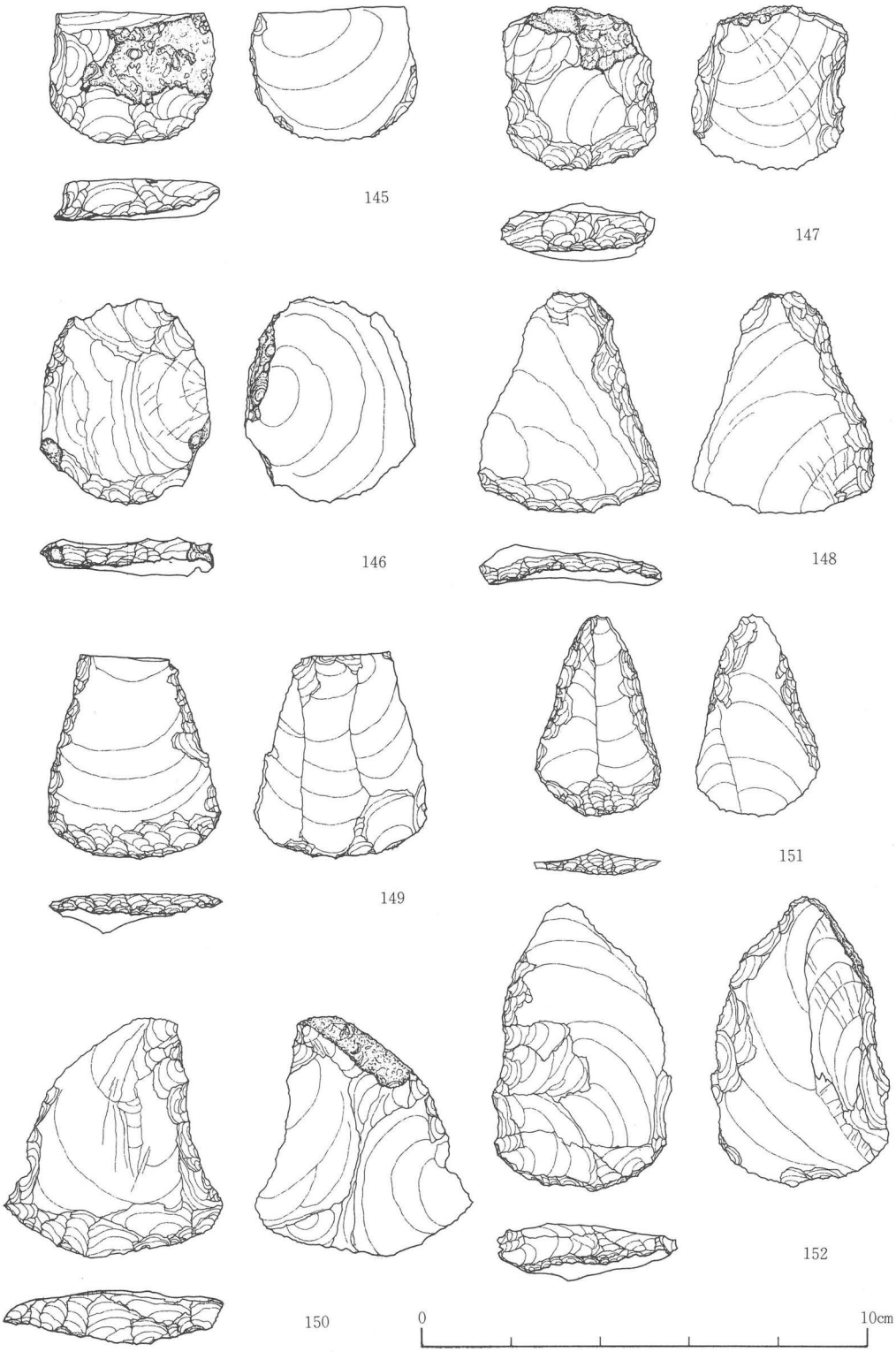
第54図　石鏃実測図99～116(5)　scale 3 ： 2



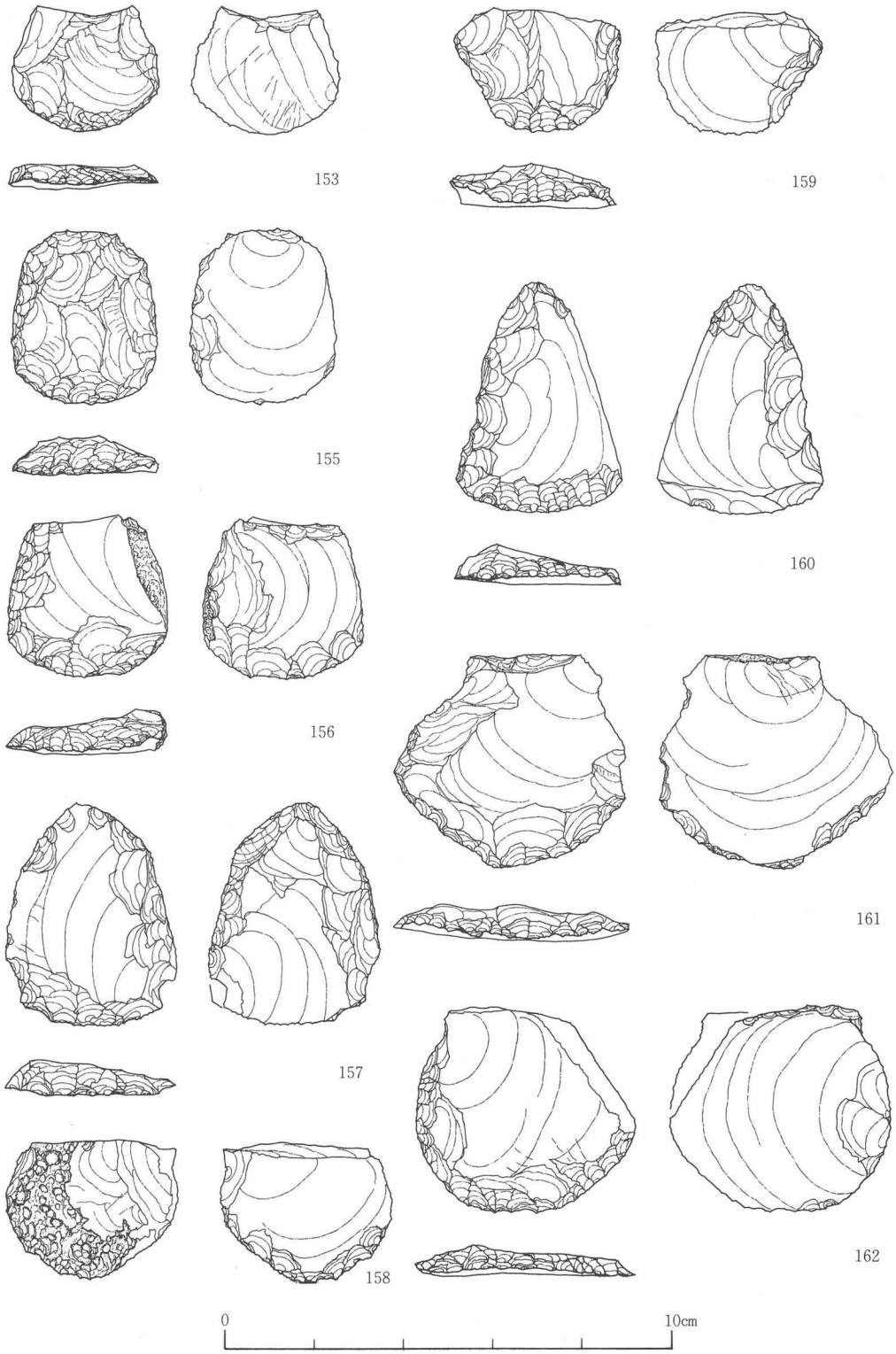
第55図　石鏃実測図117～127(6)　scale 3 ： 2



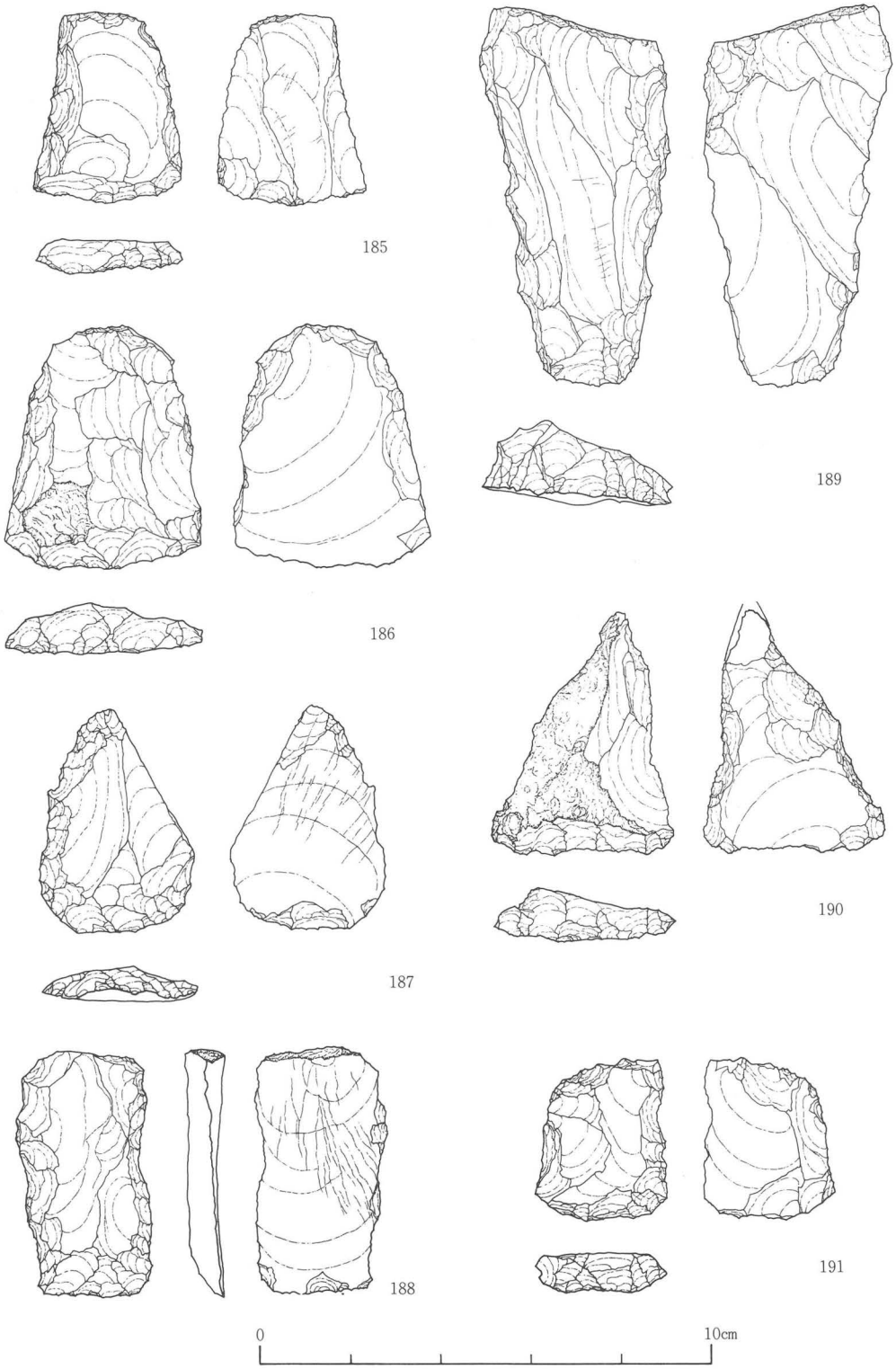
第56図　石錐実測図135～144　scale 3 ： 2



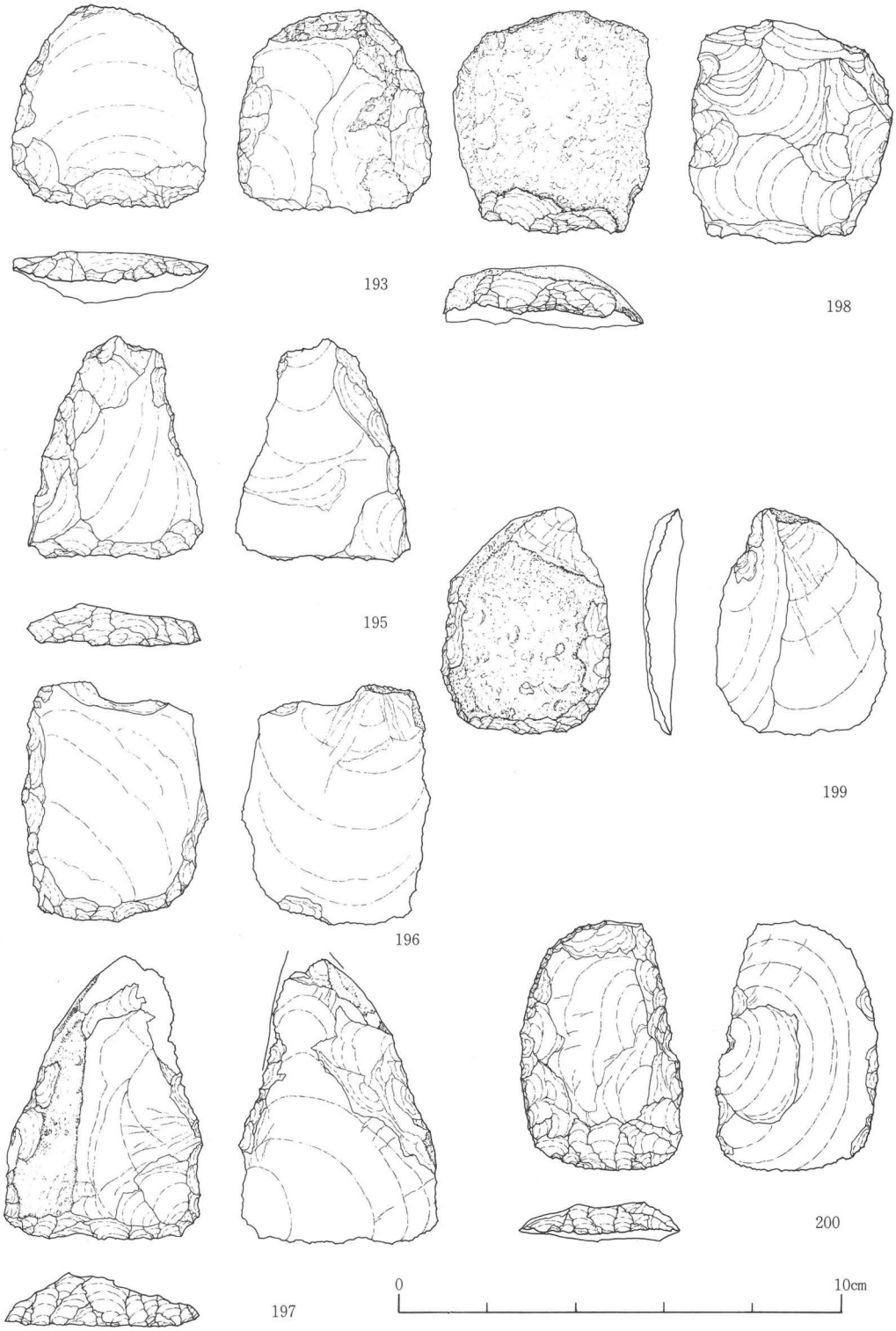
第57図　スクレイパー実測図145～152(1)　scale 3 ： 2



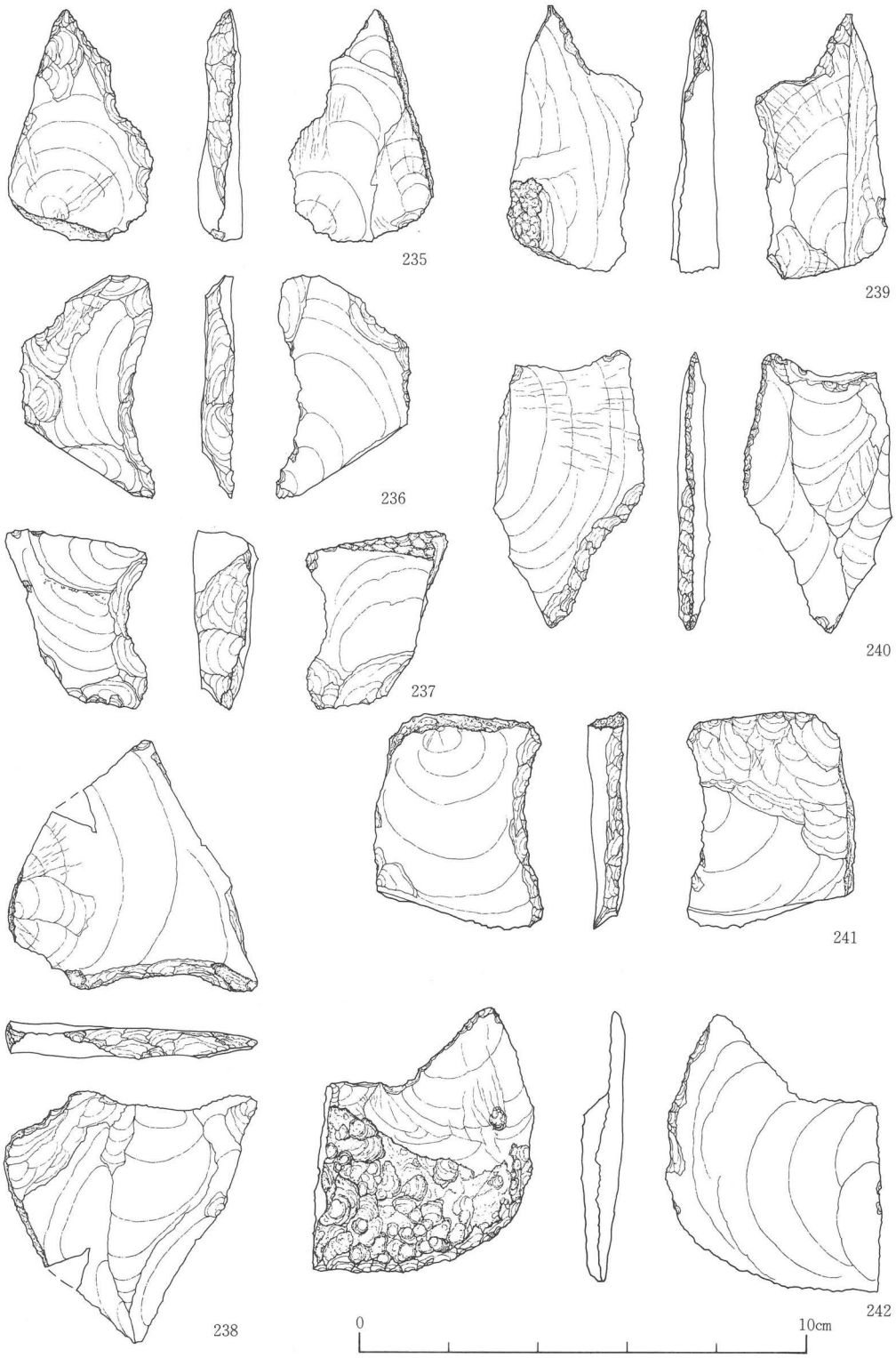
第58図　スクレイパー実測図153～162(2)　scale 3 ： 2



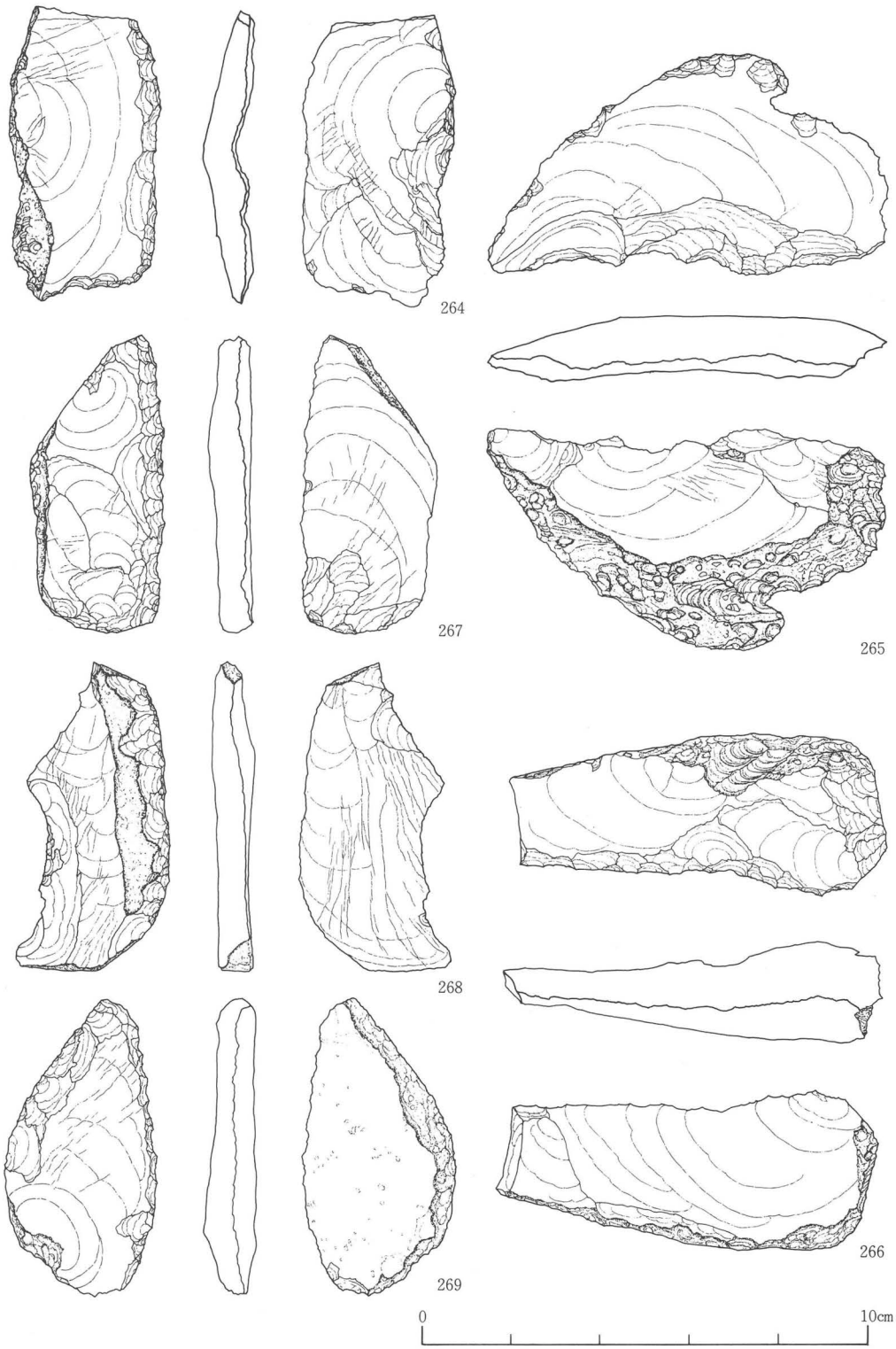
第59図　スクレイパー実測図185～191(3)　scale 3 ： 2



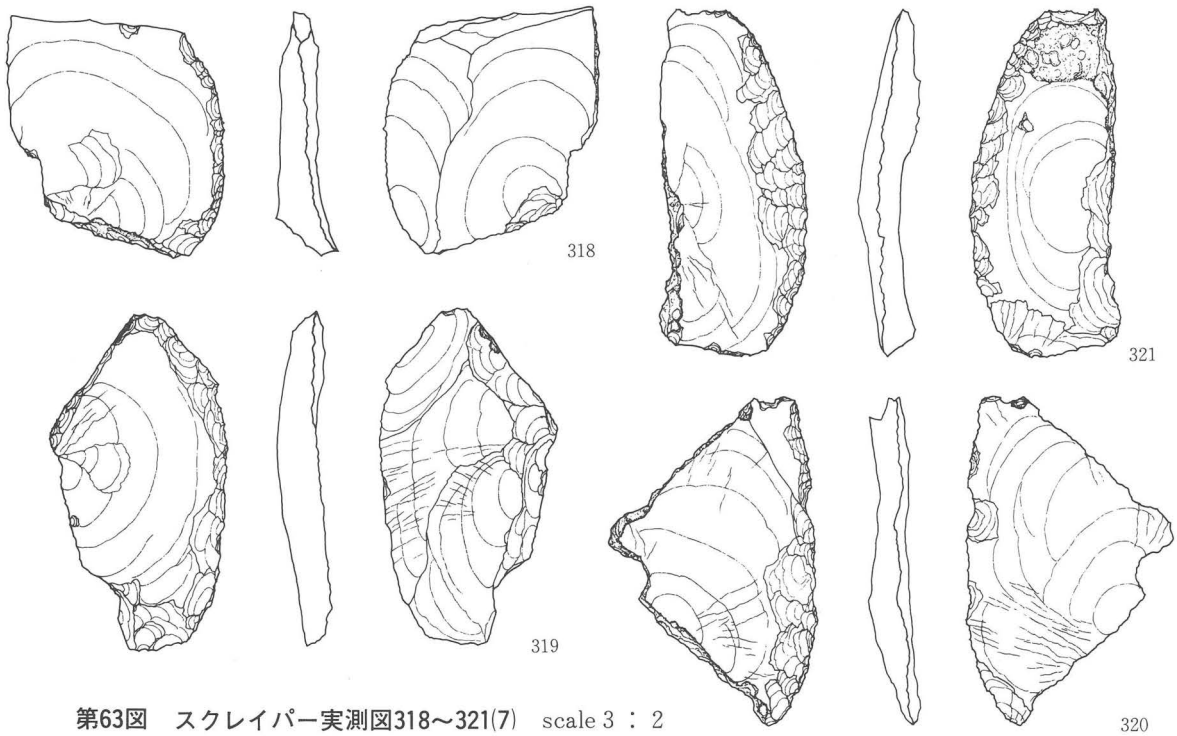
第60図　スクレイパー実測図193～200(4)　scale 3 ： 2



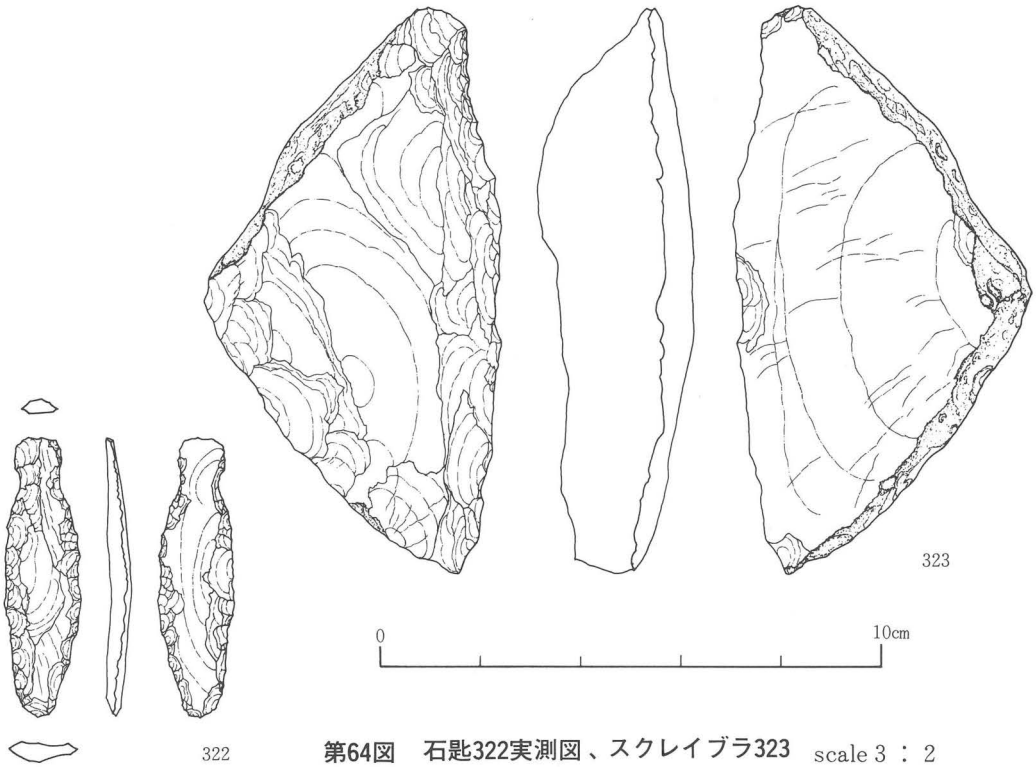
第61図　スクレイパー実測図235～242(5)　scale 3 ： 2



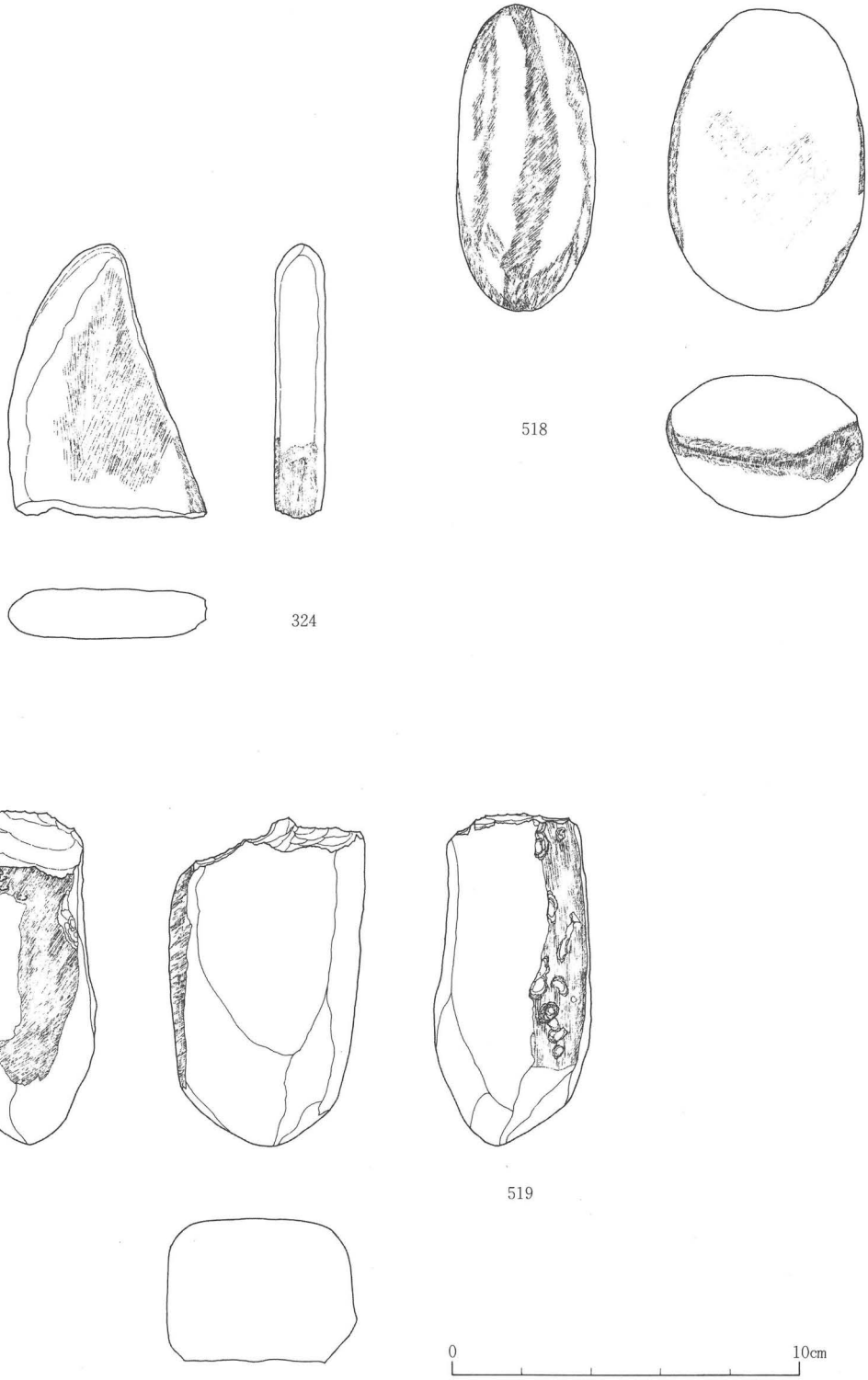
第62図　スクレイパー実測図264～266(6)　scale 3 ： 2



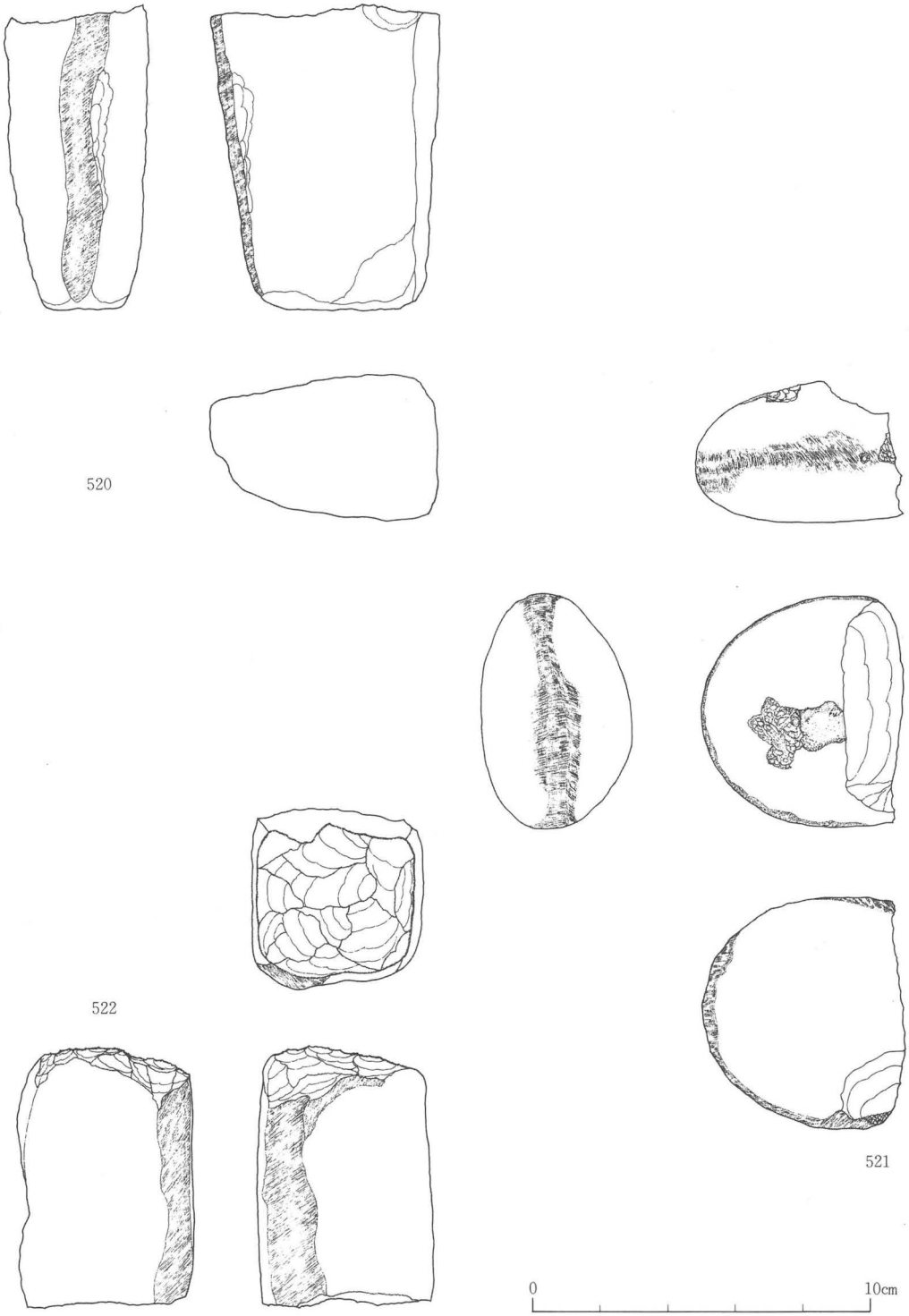
第63図　スクレイパー実測図318～321(7)　scale 3 ： 2



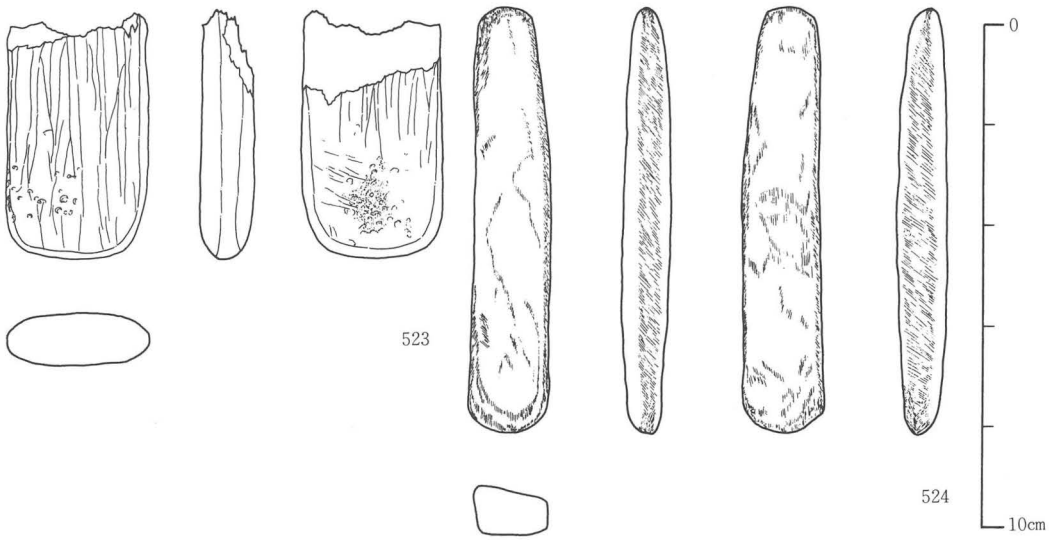
第64図　石匙322実測図、スクレイブラ323　scale 3 ： 2



第65図　砥石324、磨石518、磨石十敲石519実測図(1)　scale 2 ： 1



第66図　磨石520、磨石十敲石521～522実測図(2)　scale 2 ： 1



第67図　線状痕のある礫523、局部磨製石製品524実測図

第３表　グリッド別石器一覧表

器種＼グリッド	XXVE t line						XXVF a line						XXVF b line						XXVF c line						合計
	13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18	
有舌尖頭器				1					1	1		1											1		4
尖　頭　器		1	6	1				1	1			1					1						1		13
石　　鏃		13	36	11				2	6	36	1				1	5	5						1		117
石　　錐		2	3	1				1	1	4					1										13
スクレイパー																									
縦形凸形刃	1	4	18	2				9	6	7						2						1			50
直線形刃		9	22	4			1	4	8	11		1			1	2	1						1		65
楔形凸形刃		3	5					5	1	3						1									18
直線形刃		10	19	2				5	7	11						1	7								62
挟入凹形刃		2	10	2				5	5	6				1											31
折損品(形態不明)	1	8	19	1				1	7	25				1		1	7						1		72
スクレプラ		1																							1
石　　匙			1																						1
２次加工ある剥片		51	85	16				17	32	54	1				1		5				1			2	265
微細剥離痕ある剥片	2	20	44	8				21	18	32	2			2	2	9	10					1	1		172
楔形石器																									
剪断面のない楔形		3	3	2				3	4	8						1									24
剪断面を有する楔形		8	16	5				7	4	17	1			1	1	4	4					4	2		74
折れ面を有する楔形	1	10	27	3				10	10	35				1		3	6								106
削　片	1	28	54	15				5	32	56	3	1			4	15	12				1	2	7		236
敲石＋磨石		1	1																						2
磨　　石			4																						4
砥　　石								1																	1
線状痕のある礫		1																							1
局部磨製石製品										1															1
石　　核	3	18	21	3				14	11	23	1				2	5	2				1		1		106
剥　　片	14	485	1,286	210			1	146	374	1,034	36	2		18	22	85	205	4		5	3	13	31	2	3,976
総　　計	23	678	1,680	286			2	257	528	1,364	45	6		25	35	134	265	4		5	6	21	47	4	5,415

第4表　有舌尖頭器計測表

（単位：mm、g）

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	細部調整	素材面	中央断面形	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量
2665	48—11	58—11	XXVF16aエ	11-A	片両縁非連続	片面中央	片凸		サヌカイト	48.0	21.0	0.65	4.7
2553	48—12	58—12	XXVF15aホ	12-2	両面		両凸	尖端	サヌカイト	56.2	27.2	0.93	10.3
3062	48—13	58—13	XXVF17cシ	12-1	片両縁非連続	片面片縁	片凸	尖端～身部	サヌカイト	35.4	26.5	0.72	9.1
3452	48—14	58—14	XXVF18aニ	12-1	両面		両凸	尖端（新欠）	サヌカイト	35.4	16.0	0.45	1.9

第5表　尖頭器計測表

（単位：mm、g）

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	細部調整	素材面	中央断面形	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量
2747	49—15	59—15	XXVE14tト	12-2	片縁非連続	片面	両凸	中央～基部	サヌカイト	19.8	15.2	0.46	1.1
1742	49—16	59—16	XXVE15t	9	片両縁	片面原面	両凸		サヌカイト	38.2	22.2	0.62	4.9
2292	49—17	59—17	XXVE15tサ	12-1	両面縁	両面中央	片凸		サヌカイト	29.3	21.2	0.59	3.9
4097	49—18	59—18	XXVE15t	12-1	片両縁	片面中央	片凸	尖端、基部	サヌカイト	38.0	29.2	0.65	8.9
3071	49—19	59—19	XXVE15tタ	12-2	両面		両凸	尖端～中央	サヌカイト	55.6	25.0	10.7	16.6
3815	49—20	59—20	XXVE15tテ	12-4	両面		片凸	尖端～中央	サヌカイト	48.2	36.9	14.5	21.0
3879	49—21	59—21	XXVE15tス	12-4	両面縁非連続	両面中央	片凸	尖端～中央	サヌカイト	26.0	24.0	0.49	3.0
2684	49—22	59—22	XXVF15aウ	12-1	両面縁	両面中央	両凸		サヌカイト	40.6	13.2	0.55	3.5
1746	49—23	59—23	XXVE16t	9	片両縁	片面	片凸	中央～基部	サヌカイト	29.2	11.0	0.36	1.3
2794	49—24	59—24	XXVF17bト	12-1	片両縁	片面原面	両凸		サヌカイト	36.3	19.4	0.55	4.2
3243	49—25	59—25	XXVF17cス	12-2	両面縁	両面	両凸	尖端～中央	サヌカイト	43.9	15.7	0.60	4.5
1023	49—26	59—26	XXVF18a	2	片両縁	片面	片凸		サヌカイト	61.0	18.3	0.59	7.3

第6表　石鏃計測表

（単位：mm、g）

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	基部形態	細部調整	素材面	中央断面形	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量
2125	50—27	60—27	XXVF14aセ	12-1	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	23.0	15.3	0.37	0.7
1741	50—28	60—28	XXVE14t	9	凹基	片縁非連続	片面	両凸	尖端、片脚	サヌカイト	20.2	15.6	0.30	0.7
1747	50—29	60—29	XXVE14t	9	凹基	両面		片凸		サヌカイト	16.2	11.8	0.29	0.3
1748	50—30	60—30	XXVE14t	9	平基	片両縁非連続	片面	片凸		サヌカイト	25.1	11.2	0.34	0.8
1749	50—31	60—31	XXVE14t	9	凹基	両面		両凸	尖端、片脚	サヌカイト	18.9	13.8	0.36	0.6
1750	50—32	60—32	XXVE14t	9	凹基	片両縁	片面	両凹		サヌカイト	18.7	17.3	0.25	0.5
1834	50—33	60—33	XXVE14t	12-0	凹基	片両縁	片面	片凸		サヌカイト	15.1	14.5	0.37	0.9
2801	50—34	60—34	XXVE14tス	12-2	凹基	片両縁	片面	片凸	尖端、片脚	サヌカイト	25.5	14.2	0.25	0.7
2870	50—35	60—35	XXVF14aケ	12-2	平基	両面縁非連続	両面	片凸		サヌカイト	17.8	15.4	0.28	0.6
4351	50—36	60—36	XXVE14～15t	12-4	凹基	両面縁	両面	片凸		サヌカイト	31.9	17.7	0.26	1.5
4363	50—37	60—37	XXVE14～15t	12-5	凹基	両．面		両凸		サヌカイト	21.4	14.7	0.39	0.8
1732	50—38	60—38	XXVE15t	9	凹基	両面		両凸		サヌカイト	21.9	14.5	0.34	1.0

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	基部形態	細部調整	素材面	中央断面形	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量
1732	50—39	60—39	XXVE15t	9	凹基	片両縁	片面	片凸	片脚	サヌカイト	24.7	15.3	0.28	0.7
1762	50—40	60—40	XXVE15t	9	凹基、片脚鏃	両面		両凸		サヌカイト	26.7	14.3	0.39	1.0
2337	50—41	60—41	XXVE15tタ	12-1	凹基	片両縁	片面	両凸		サヌカイト	21.5	14.5	0.27	0.5
2338	50—42	60—42	XXVE15tタ	12-1	凹基	両面		両凸	両脚	サヌカイト	20.0	15.7	0.38	0.9
2339	50—43	60—43	XXVE15tタ	12-1	尖基	片縁非連続	片面、原面	両凸	尖端	サヌカイト	22.0	13.1	0.45	1.1
2378	50—44	60—44	XXVE15tチ	12-1	凹基	両面縁	両面	両凸	両脚	サヌカイト	26.5	17.8	0.36	1.2
2478	51—45	61—45	XXVE15tツ	12-1	凹基	両面縁	両面	両凸		サヌカイト	20.4	12.5	0.23	0.5
2576	51—46	61—46	XXVE15tネ	12-1	凹基	片両縁非連続	片面	片凸	尖端、片脚	サヌカイト	24.2	14.9	0.28	0.8
2598	51—47	61—47	XXVE15tニ	12-1	凹基	片両縁	片面	両凸		サヌカイト	29.0	16.9	0.31	1.0
2603	51—48	61—48	XXVE15tノ	12-1	凹基	両面		両凸		サヌカイト	20.0	15.3	0.29	0.6
2631	51—49	61—49	XXVE15tヌ	12-1	凹基	両面		両凸		サヌカイト	20.9	15.1	0.32	0.8
3182	51—50	61—50	XXVE15tノ	12-2	凹基	両面		両凸		サヌカイト	15.3	13.7	0.26	0.3
3212	51—51	61—51	XXVE15tシ	12-2	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	18.6	14.1	0.37	0.6
3221	51—52	61—52	XXVE15tツ	12-2	凹基	両面		片凸	尖端	サヌカイト	19.9	16.5	0.32	0.9
3222	51—53	61—53	XXVE15tソ	12-2	凹基	両面		両凸	尖端、片脚	サヌカイト	20.5	14.0	0.43	0.7
3284	51—54	61—54	XXVE15tキ	12-2	平基	両面縁	両面	片凸		サヌカイト	24.9	16.3	0.48	2.0
3286	51—55	61—55	XXVE15tキ	12-2	凹基	両面縁、片非連続	両面	片凸	片脚	サヌカイト	26.1	15.8	0.29	0.7
3288	51—56	61—56	XXVE15tケ	12-2	凹基	両面		両凸	片脚(新欠)	サヌカイト	26.0	12.6	0.37	0.7
3390	51—57	61—57	XXVE15tニ	12-3	平基	片非連続、片孤立	両面	片凸		サヌカイト	19.5	18.1	0.33	1.2
3424	51—58	61—58	XXVE15tチ	12-3	凹基	片両縁	片面	両凸	片脚	サヌカイト	19.2	11.6	0.37	0.4
3469	51—59	61—59	XXVE15tツ	12-3	凹基	両面縁非連続	両面	片凸	両脚	サヌカイト	22.2	15.9	0.29	0.7
3470	51—60	61—60	XXVE15tツ	12-3	凹基	片両縁	片面	片凸		サヌカイト	19.0	12.2	0.25	0.5
3472	51—61	61—61	XXVE15tツ	12-3	凹基	片縁非連続	片面	両凸	両脚	サヌカイト	25.6	14.4	0.39	1.1
3473	51—62	61—62	XXVE15tツ	12-3	凹基	両面		両凸	両脚	サヌカイト	22.5	15.9	0.41	1.0
3516	52—63	62—63	XXVE15tス	12-3	凹基	片両縁	片面	片凸	尖端	サヌカイト	16.4	17.1	0.30	0.6
3599	52—64	62—64	XXVE15tキ	12-3	凹基	両面		片凸	片脚	サヌカイト	20.4	17.0	0.42	0.7
3684	52—65	62—65	XXVE15tキ	12-3	凹基	両面		両凸	片脚部折りとり	サヌカイト	20.3	12.7	0.30	0.7
3689	52—66	62—66	XXVE15tサ	12-3	凹基	片両縁	片面	片凸		サヌカイト	20.0	15.2	0.32	0.7
3811	52—67	62—67	XXVE15tシ	12-3	凹基	片両縁	両面	両凸		サヌカイト	23.4	17.9	0.24	0.7
3853	52—68	62—68	XXVE15tト	12-2	凹基	両面		両凸		サヌカイト	25.2	12.2	0.37	1.0
2477	52—69	62—69	XXVE15tツ	12-1	凹基	両面		片凸	尖端、両脚	サヌカイト	18.5	13.5	0.31	0.6
3608	52—70	62—70	XXVE15t	12-0	凹基	片両縁	片面	片凸	片脚	サヌカイト	24.6	12.5	0.20	0.4
4147	52—71	62—71	XXVE15～16t	12-1	片脚凸基	両面		片凸		サヌカイト	23.2	16.8	0.45	1.0
2317	52—72	62—72	XXVF15aト	12-1	凹基	両面縁	両面	片凸	尖端、片脚	サヌカイト	22.6	13.9	0.25	0.5
2382	52—73	62—73	XXVF15aコ	12-1	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	19.7	11.2	0.23	0.2

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	基部形態	細部調整	素材面	中央断面形	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量
2481	52—74	62—74	XXVF15aク	12-1	凹基	両面		片凸	片脚	サヌカイト	19.5	12.4	0.24	0.3
2505	52—75	62—75	XXVF15aコ	12-1	凹基	片縁非連続	片面	両凸	両脚	サヌカイト	20.3	15.7	0.39	0.9
2685	52—76	62—76	XXVF15aエ	12-1	凹基	両面縁	両面	両凸		サヌカイト	21.4	14.2	0.29	0.5
2887	52—77	62—77	XXVF15a	12-1	凹基	両面		片凸	片脚	サヌカイト	24.3	15.7	0.30	0.8
1065	52—78	62—78	XXVE16t	3	凹基	片両縁	片面	片凸	尖端(新欠)	サヌカイト	19.3	13.5	0.33	0.7
1780	52—79	62—79	XXVE16t	9	凹基	両面		片凸	尖端	サヌカイト	18.6	15.4	0.23	0.4
1781	52—80	62—80	XXVE16t	9	凹基	両面縁	両面	片凸		サヌカイト	20.2	14.5	0.16	0.4
2494	53—81	63—81	XXVE16tナ	12-1	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	18.6	13.0	0.36	0.6
2612	53—82	63—82	XXVE16tニ	12-1	凹基	両面非連続	両面	両凸	尖端、片脚	サヌカイト	21.5	17.6	0.45	1.4
3231	53—83	63—83	XXVE16tナ	12-2	凹基	両面		片凸		サヌカイト	21.0	16.1	0.26	0.6
3652	53—84	63—84	XXVE16tチ	12-3	凹基	片両縁	片面	片凸		サヌカイト	23.3	14.8	0.20	0.6
3800	53—85	63—85	XXVE16tタ	12-4	凹基	片両縁	片面	片凸	尖端	サヌカイト	18.0	13.0	0.24	0.5
2990	53—86	63—86	XXVE16tナ	12-2	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	23.5	15.9	0.32	0.7
2354	53—87	63—87	XXVF16aツ	12-1	凹基	両面		両凸	片脚(新欠)	サヌカイト	24.4	12.6	0.24	0.5
2357	53—88	63—88	XXVF16aサ	12-1	凹基	片両縁	片面	片凸	尖端	サヌカイト	21.7	16.6	0.28	0.8
2359	53—89	63—89	XXVF16aシ	12-1	凹基	両面		両凸		サヌカイト	14.5	13.9	0.33	0.3
2359	53—90	63—90	XXVF16aシ	12-1	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	18.3	15.0	0.33	0.7
2362	53—91	63—91	XXVF16aタ	12-1	凹基	両面		両凸	尖端、片脚	サヌカイト	22.8	13.4	0.36	0.6
2364	53—92	63—92	XXVF16aチ	12-1	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	25.3	18.2	0.40	1.2
2367	53—93	63—93	XXVF16aツ	12-1	凹基	片縁非連続	片面	片凸		サヌカイト	15.6	11.8	0.22	0.3
2388	53—94	63—94	XXVF16aツ	12-1	円基	両面縁片縁非連続	両面	片凸		サヌカイト	18.8	13.6	0.38	0.8
2391	53—95	63—95	XXVF16aカ	12-1	凹基	両面		両凸		サヌカイト	25.0	17.0	0.32	0.8
2393	53—96	63—96	XXVF16aク	12-1	凹基	両面縁	両面	片凸		サヌカイト	19.2	16.4	0.29	0.8
2399	53—97	63—97	XXVF16aス	12-1	凹基	両面		片凸	尖端	サヌカイト	26.5	16.2	0.32	0.8
2403	53—98	63—98	XXVF16aツ	12-1	凹基	両面縁	両面	片凸	尖端	サヌカイト	20.8	17.6	0.32	1.0
2411	54—99	64—99	XXVF16aネ	12-1	凹基	両面		両凸	尖端	チャート	18.5	13.7	0.37	0.5
2503	54—100	64—100	XXVF16aト	12-1	凹基	両面		片凸	片端	サヌカイト	18.4	17.0	0.30	0.6
2768	54—101	64—101	XXVF16aウ	12-2	凹基	両面		片凸	尖端	サヌカイト	16.6	16.2	0.25	0.4
2825	54—102	64—102	XXVF16aク	12-2	凹基	両面		両凸	尖端	サヌカイト	16.2	15.2	0.33	0.4
2826	54—103	64—103	XXVF16aク	12-2	平基	両面縁非連続	両面	片凸	尖端	サヌカイト	18.6	17.2	0.34	0.7
2827	54—104	64—104	XXVF16aケ	12-2	凹基	両面		両凸	両脚	サヌカイト	14.7	10.7	0.26	0.3
2828	54—105	64—105	XXVF16aケ	12-2	凹基	片両縁	片面	片凸	尖端、片脚	サヌカイト	22.7	14.7	0.32	0.5
2911	54—106	64—106	XXVF16aテ	12-2	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	19.8	17.5	0.36	0.8
3053	54—107	64—107	XXVF16aク	12-1	凹基	両面縁	両面	片凸	尖端(新欠)	サヌカイト	17.4	14.8	0.26	0.5
3250	54—108	64—108	XXVF16aイ	12-3	凹基	片両縁	片面	片凸	尖端、片脚	サヌカイト	21.4	16.0	0.25	0.5

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	基部形態	細部調整	素材面	中央断面形	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量
3255	54—109	64—109	XXVF16aウ	12-3	凹基	両面		両凸	尖端	サヌカイト	19.0	14.6	0.36	0.7
3406	54—110	64—110	XXVF16aテ	12-3	凹基	両縁非連続	両面	片凸	尖端	サヌカイト	24.5	10.9	0.28	0.7
3577	54—111	64—111	XXVF16aテ	12-4	凹基	両面		両凸		サヌカイト	15.0	12.7	0.31	0.4
3617	54—112	64—112	XXVF16aウ	12-4	凹基	片両縁	片面	片凸	両脚	サヌカイト	23.6	14.6	0.25	0.9
3658	54—113	64—113	XXVF16aト	12-3	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	21.7	14.0	0.33	0.6
3834	54—114	64—114	XXVF16aノ	12-4	凹基	両面		両凸	片脚	サヌカイト	22.4	12.7	0.34	0.5
3835	54—115	64—115	XXVF16aノ	12-4	凹基	片非連続	片面	片凸	尖端、片脚	サヌカイト	27.8	18.6	0.44	1.6
2402	54—116	64—116	XXVF16aツ	12-1	凹基	片両縁	片面	両凸	尖端、両脚	サヌカイト	25.9	15.2	0.24	0.4
2498	55—117	65—117	XXVF16aカ	12-1	凹基	両面		片凸	両脚	サヌカイト	27.6	11.9	0.26	0.7
2443	55—118	65—118	XXVF16bエ	12-1	凹基	片両縁	片面	片凸		サヌカイト	19.8	16.3	0.27	0.6
2444	55—119	65—119	XXVF16bオ	12-1	凹基	両面縁	両面	片凸	尖端(新欠)片脚	サヌカイト	32.3	19.2	0.42	2.2
2920	55—120	65—120	XXVF16bオ	12-2	凹基	両面縁非連続	片面	片凸		サヌカイト	19.6	16.6	0.31	0.8
4286	55—121	65—121	XXVF16	12-2	凹基	両面		片凸		サヌカイト	18.6	13.9	0.30	0.8
3013	55—122	65—122	XXVF16bチ	12-1	円基	両面縁	両面	片凸	片縁尖端～基部	サヌカイト	25.4	12.3	0.20	0.6
4012	55—123	65—123	XXVF17aナ	12-5	平基	両面縁非連続	両面	片凸	尖端	サヌカイト	17.7	15.4	0.22	0.5
3016	55—124	65—124	XXVF17bウ	12-2	凹基	両面		片凸	片脚	サヌカイト	24.3	16.4	0.33	0.8
3017	55—125	65—125	XXVF17bウ	12-2	凹基	片両縁	片面	片凸	片脚	サヌカイト	13.9	14.2	0.20	0.3
3018	55—126	65—126	XXVF17bウ	12-2	凹基	両面縁片非連続	両面	片凸	尖端、片脚部折りとり	サヌカイト	24.6	16.6	0.29	1.0
3268	55—127	65—127	XXVF17cシ	12-4	凹基	片両縁	片面	片凸		サヌカイト	14.7	13.8	0.23	0.3

第7表　石錐計測表

(単位：mm)

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	先端部		素材面	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚
					細部調整	断面						
2673	56—135	66—135	XXVE14tナ	12-1	両面	三角形	両面		サヌカイト	36.2	12.5	0.96
2721	56—136	66—136	XXVE14tツ	12-1	両面	両凸	片面	尖端片縁	サヌカイト	11.6	13.8	0.26
3550	56—137	66—137	XXVF14aキ	12-1	両面	両凸	両面、原面		サヌカイト	29.6	18.0	0.74
3177	56—138	66—138	XXVE15tニ	12-2	両面	片凸	両面		サヌカイト	52.6	23.9	10.4
3695	56—139	66—139	XXVE15tト	12-3	両面	両凸	両面		サヌカイト	58.6	13.4	0.76
2763	56—140	66—140	XXVF15aシ	12-2	両面	両凸	両面		サヌカイト	32.9	18.1	0.48
2890	56—141	66—141	XXVF15bエ	12-2	両面	両凸	両面、原面	尖端	サヌカイト	54.5	15.4	0.97
2495	56—142	66—142	XXVE16tナ	12-1	両面	両凸	片原面	尖端	サヌカイト	28.6	17.1	0.52
2406	56—143	66—143	XXVF16aテ	12-1	両面	両凸	両面		サヌカイト	31.7	26.1	0.77
2693	56—144	66—144	XXVF16aウ	12-1	片孤立	片凸	両面	尖端	サヌカイト	28.0	18.3	0.44

第8表　スクレイパー計測表

(単位：mm)

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	刃縁形態	刃縁調整	素材面	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚
4214	57—145	67—145	XXVE13～14t	12-3	縦形、凸刃	片両縁	両面、原面	上位	サヌカイト	37.9	30.6	0.93
4361	57—146	67—146	XXVE14st	12-6	縦形、凸刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	45.4	38.5	0.91
3554	57—147	67—147	XXVF14aチ	12-2	縦形、凸刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	37.5	35.0	12.9
3554	57—148	67—148	XXVF14aチ	12-2	縦形、凸刃	片両縁	両面		サヌカイト	49.0	40.6	0.90
3634	57—149	67—149	XXVF14aウ	12-3	縦形、凸刃	片両縁	両面		サヌカイト	45.0	38.8	0.89
1731	57—150	67—150	XXVF15t	9	縦形、凸刃	片両縁	両面		サヌカイト	54.0	48.6	12.0
1731	57—151	67—151	XXVF15t	9	縦形、凸刃	片両縁	両面		サヌカイト	44.6	27.7	0.60
1732	57—152	67—152	XXVF15t	9	縦形、凸刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	64.3	40.2	0.81
2378	58—153	68—153	XXVE15tチ	12-1	縦形、凸刃	片両縁	両面	片縁、上位	サヌカイト	32.7	27.9	0.55
2574	58—155	68—155	XXVE15tソ	12-1	縦形、凸刃	片両縁	片面		サヌカイト	38.2	32.8	0.81
4339	58—156	68—156	XXVE15t	12-2	縦形、凸刃	両面縁	両面、原面		サヌカイト	35.5	36.8	10.3
3428	58—157	68—157	XXVE15tツ	12-3	縦形、凸刃	片両縁	両面		サヌカイト	49.2	38.0	0.86
3771	58—158	68—158	XXVE15tタ	12-4	縦形、凸刃	片両縁	両面、原面	上位	サヌカイト	38.4	31.3	0.80
3815	58—159	68—159	XXVE15tケ	12-4	縦形、凸刃	片両縁	両面	上位	サヌカイト	37.2	27.7	10.3
2510	58—160	68—160	XXVF15aコ	12-2	縦形、凸刃	片両縁	両面		サヌカイト	51.3	36.5	0.93
3828	58—161	68—161	XXVF16aス	12-4	縦形、凸刃	両面縁	両面、原面		サヌカイト	52.1	47.5	0.78
3966	58—162	68—162	XXVF16aソ	12-5	縦形、凸刃	片両縁	両面		サヌカイト	46.4	49.3	0.71
1730	59—185	71—185	XXVF15t	9	縦形、直刃	両面縁	両面		サヌカイト	42.2	32.7	0.74
4160	59—186	71—186	XXVE14～15t	12-6	縦形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	53.5	43.4	11.6
4361	59—187	71—187	XXVE14st	12-6	縦形、直刃	片両縁	両面		サヌカイト	49.7	34.5	0.82
2954	59—188	71—188	XXVF14aス	12-2	縦形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	54.2	29.6	0.87
2479	59—189	71—189	XXVE15tツ	12-1	縦形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	85.1	41.7	18.6
2600	59—190	71—190	XXVE15tナ	12-1	縦形、直刃	片両縁	片面、原面	上位(新欠)	サヌカイト	53.5	40.9	13.0
4025	59—191	71—191	XXVE15tセ	12-0	縦形、直刃	両面縁	両面		サヌカイト	35.0	28.8	0.88
2457	60—193	72—193	XXVE15tク	12-2	縦形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	45.6	43.8	11.4
4323	60—195	72—195	XXVF15b	12-1	縦形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	49.9	39.6	0.96
3233	60—196	72—196	XXVE16tナ	12-2	縦形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	55.0	42.4	0.69
2902	60—197	72—197	XXVF16aサ	12-2	縦形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	64.6	44.0	11.0
2919	60—198	72—198	XXVF16bエ	12-2	縦形、直刃	片両縁	片原面		サヌカイト	51.4	45.8	14.1
3028	60—199	72—199	XXVF17bク	12-2	縦形、直刃	片両縁	片面、原面		サヌカイト	51.8	38.4	0.9
3631	60—200	72—200	XXVF17cカ	12-1	縦形、直刃	片両縁	両面		サヌカイト	56.5	36.4	0.90
2572	61—235	77—235	XXVF14aオ	12-1	挟入、凹刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	52.0	33.0	0.95
2948	61—236	77—236	XXVE14tセ	12-2	挟入、凹刃	片両縁	両面		サヌカイト	49.8	29.9	0.73
3796	61—237	77—237	XXVF14aキ	12-4	挟入、凹刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	40.0	33.9	15.5

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	刃縁形態	刃縁調整	素材面	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚
2600	61—238	77—238	XXVE15tナ	12-1	抉入、凹刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	57.9	57.2	0.80
3515	61—239	77—239	XXVE15tシ	12-3	抉入、凹刃	両面縁	両面、原面		サヌカイト	59.0	27.3	10.4
3817	61—240	77—240	XXVE15tト	12-4	抉入、凹刃	片両縁非連続	両面、原面		サヌカイト	62.8	32.9	0.72
2231	61—241	77—241	XXVF15aス	12-1	抉入、凹刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	47.2	38.2	0.93
2922	61—242	77—242	XXVF16bオ	12-2	抉入、凹刃	片両縁非連続	両面、原面		サヌカイト	60.5	48.7	0.87
2277	62—264	80—264	XXVE14tス	12-1	横形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	64.6	33.1	12.0
2870	62—265	80—265	XXVF14aケ	12-2	横形、直刃	両面縁	両面、原面		サヌカイト	88.1	49.6	15.0
2301	62—266	80—266	XXVE15tト	12-1	横形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	85.6	37.1	22.3
3094	62—267	80—267	XXVF15aオ	12-2	横形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	66.5	30.6	10.0
3234	62—268	80—268	XXVE16	12-2	横形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	68.6	32.8	10.0
3131	62—269	80—269	XXVF17bイ	12-3	横形、直刃	片両縁	片面、原面		サヌカイト	66.6	34.0	12.2
4129	63—318	86—318	XXVE15tツ	12-0	横形、凸刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	49.0	42.4	13.0
3390	63—319	86—319	XXVF15tニ	12-3	横形、凸刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	67.2	35.9	10.0
2405	63—320	86—320	XXVF16aツ	12-1	横形、凸刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	64.8	40.8	10.0
3564	63—321	86—321	XXVE15tサ	12-3	横形、凸刃	両面縁	両面、原面		サヌカイト	68.2	28.2	12.4

第9表　石匙、スクレイブラ計測表

（単位：mm）

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	刃縁形態	刃縁調整	素材面	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚
1732	64—322	86—322	XXVE15t	9	縦形、直刃	両面縁	両面	下位	サヌカイト	55.4	15.3	0.44
4357	64—323	87—323	XXVE14st	12-4	横形、直刃	片両縁	両面、原面		サヌカイト	111.29	61.2	29.9

第10表　砥石、磨石、敲石計測表

（単位：mm）

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	使用痕	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚
2524	65—324	87—324	XXVF14aス	12-1	片一面体、片側縁一面体砥面部	上位		80.0	58.0	15.0
3927	65—518	100—518	XXVE15tツ	12-4	片斜位線条痕、周縁磨面			87.9	56.2	39.6
3992	65—519	100—519	XXVE15tト	12-5	片斜位線条痕、周縁磨面＋敲打痕	上位		93.7	56.4	43.8
4241	66—520	100—520	XXVE～F15～16ta	12-7	片縁磨面	上位	花崗岩	91.1	60.8	44.0
4355	66—521	101—521	XXVE14st	12-3	周縁磨面、片一面敲打痕	上位	〃	63.4	68.5	45.0
4268	66—522	101—522	XXVE15tシ	12-7	片縁磨面、片端部敲打痕	上位	砂岩	75.8	51.9	51.8

第11表　線状痕のある礫、局部磨製石製品計測表

（単位：mm）

石器番号	挿図番号	図版番号	グリッド	層序	備考	折損部位	石材	最大長	最大幅	最大厚
2799	67—523	102—523	XXVE14t	12-2	両面礫皮面に多条の縦位線状痕、両面微細な敲打痕	上位	粘板岩	49.9	28.3	10.4
2404	67—524	102—524	XXVF14aツ	12-1	両面礫皮面に局部的研磨痕			85.0	16.2	10.0

Ⅳ．神並遺跡出土のサヌカイト遺物の石材産地分析

藁科哲男、東村武信
（京都大学原子炉実験所）

神並遺跡の第２次調査で出土した縄文時代早期のサヌカイト製石剝片80点の産地分析の結果が得られたので報告する。

石器石材の産地を客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイト、黒曜石製遺物の産地推定を行なっている[(1)]。蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。

サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分のK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、 V、Zr、Nbの元素を中心に分析を行なう。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。サヌカイトでは、K/Ca、Ti/Ca、Fe/Sr、Rb/Sr、V/Sr、Zr/Sr、Nb/Srをそれぞれ用いた。これら分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと、遺物の元素組成を対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は、風化のためサヌカイト製は表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なう。今回分析したサヌカイト製遺物の結果を第12表に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するために原石群との比較をする。相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT^2検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する[(2)]。遺物の産地推定の結果は、第５表に示すサヌカイト原産地25箇所の31個の原石群と比較して、確率の高い原石産地のものだけを選んで第13表に記した。

原石産地（確率）の欄にマハラノビスの距離D^2の値で記した遺物については、このD^2の値が原石群の中で最も小さなD^2値である。この値が小さいほど、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほゞ間違いないと判断されたものである。

今回分析した80点のサヌカイト製遺物のうち、53点の遺物には大阪、奈良の両府県に広がる二上山地域からのサヌカイト石材が使用されていると判定された。残りの27点の遺物の元素組成は、サヌカイト原産地の中では、二上山地域の原石群に最も似る傾向が見られるが、この遺物を二上山産と決定することができなかった。これら27点の遺物の原産地を明らかにできなかった理由は二つ考えられる。その一つは、本遺跡の遺物の風化の状態が、縄文時代後期、晩期の試料と異なり全般的に風化層が厚く、中には、風化層の相当厚いものが見られることから、二上山産地原石の中に風化の進行の早い性質のものがあり、表面から深いところまで風化し、圧縮空気によるアルミナ粉末の吹きつけで十分に風化層を取り除くことができず、新鮮面と異なる組成になり、二上山産地の原石と組成が僅かにずれるために、産地が判定できなかったことが考えられる。他の理由は、遺物の中には風化層の相当厚いものが見られ、サヌキトイドのような原石もみられることから、二上山原産地には二上山原石群を作った原石の組成と少し外れる組成の原石が存在し、この組成の原石が本遺跡の石器の原材に使用されていて、二上山産と判定できなかったなどが考えられる。産地分析で判定できなかった遺物を含めて、今回分析した遺物石材の原産地で、二上山以外の原産地の石材が使用された様子は見られなかった。

参考文献

1)　藁科哲男・東村武信(1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学、16：59—89
2)　東村武信(1980)、考古学と物理化学。学生社

第12表　神並遺跡出土のサヌカイト製石器、石片分析結果

試料番号	元素比							
	K/Ca	Ti/Ca	Rb/Sr	Zr/Sr	Fe/Sr	V/Sr	Mn/Sr	Nb/Sr
17525	0.278	0.191	0.228	0.562	3.682	0.048	0.048	0.010
17526	0.247	0.220	0.219	0.566	4.359	0.077	0.054	0.014
17527	0.204	0.156	0.209	0.468	4.682	0.039	0.059	0.019
17528	0.253	0.225	0.222	0.589	4.382	0.059	0.052	0.000
17529	0.238	0.224	0.201	0.576	4.410	0.048	0.060	0.021
17530	0.289	0.142	0.219	0.468	5.332	0.061	0.074	0.015
17531	0.244	0.222	0.208	0.589	4.420	0.069	0.059	0.024
17532	0.208	0.144	0.195	0.444	4.906	0.063	0.064	0.004
17533	0.184	0.138	0.191	0.449	5.006	0.000	0.055	0.178
17534	0.277	0.197	0.237	0.568	3.780	0.063	0.054	0.020
17535	0.244	0.221	0.219	0.570	4.433	0.063	0.069	0.019
17536	0.196	0.142	0.191	0.452	4.869	0.058	0.068	0.060
17537	0.240	0.220	0.209	0.604	4.476	0.072	0.067	0.031
17538	0.263	0.140	0.185	0.485	4.449	0.058	0.038	0.015
17539	0.250	0.129	0.233	0.434	4.860	0.054	0.046	0.025
17540	0.248	0.226	0.213	0.580	4.518	0.075	0.064	0.023
17541	0.274	0.192	0.236	0.610	3.893	0.060	0.061	0.055
17542	0.238	0.222	0.205	0.543	4.328	0.064	0.064	0.036
17543	0.342	0.224	0.217	0.578	4.385	0.067	0.061	0.009
17544	0.198	0.138	0.177	0.434	5.064	0.057	0.071	0.000
17545	0.243	0.213	0.203	0.581	4.364	0.084	0.061	0.029
17546	0.249	0.221	0.203	0.595	4.425	0.079	0.053	0.013
17547	0.240	0.220	0.219	0.573	4.496	0.062	0.067	0.023
17548	0.240	0.222	0.221	0.584	4.498	0.072	0.065	0.013
17549	0.244	0.222	0.208	0.592	4.363	0.080	0.056	0.016
17550	0.232	0.139	0.177	0.447	4.607	0.075	0.051	0.000
17551	0.188	0.143	0.185	0.463	5.268	0.060	0.082	0.000
17552	0.243	0.220	0.218	0.585	4.334	0.060	0.063	0.031
17553	0.244	0.223	0.213	0.569	4.487	0.067	0.060	0.023
17554	0.219	0.155	0.216	0.535	6.546	0.040	0.085	0.007
17555	0.340	0.195	0.250	0.549	3.791	0.063	0.040	0.031
17556	0.194	0.139	0.213	0.462	5.031	0.050	0.060	0.020
17557	0.199	0.144	0.190	0.478	4.604	0.031	0.065	0.015
17558	0.245	0.225	0.210	0.562	4.363	0.085	0.062	0.023
17559	0.195	0.143	0.197	0.476	5.128	0.070	0.071	0.021
17560	0.232	0.206	0.231	0.581	4.462	0.070	0.057	0.010
17561	0.226	0.146	0.208	0.494	4.841	0.080	0.056	0.009
17562	0.244	0.221	0.210	0.561	4.366	0.076	0.062	0.008
17563	0.212	0.191	0.198	0.529	4.802	0.065	0.064	0.020

試料番号	元素比							
	K/Ca	Ti/Ca	Rb/Sr	Zr/Sr	Fe/Sr	Y/Sr	Mn/Sr	Nb/Sr
17564	0.247	0.226	0.205	0.591	4.447	0.069	0.064	0.012
17565	0.240	0.216	0.223	0.586	4.533	0.071	0.060	0.010
17566	0.240	0.221	0.206	0.579	4.455	0.074	0.070	0.006
17567	0.244	0.223	0.220	0.588	4.546	0.095	0.058	0.006
17568	0.241	0.216	0.211	0.545	4.554	0.137	0.063	0.005
17569	0.212	0.131	0.207	0.466	4.722	0.039	0.057	0.000
17570	0.329	0.217	0.206	0.595	4.377	0.067	0.053	0.029
17571	0.192	0.150	0.200	0.453	4.997	0.044	0.058	0.071
17572	0.252	0.223	0.218	0.577	4.356	0.089	0.057	0.016
17573	0.318	0.253	0.244	0.622	3.067	0.069	0.035	0.034
17574	0.248	0.219	0.224	0.609	4.480	0.060	0.053	0.019
17575	0.243	0.224	0.216	0.546	4.395	0.068	0.065	0.000
17576	0.241	0.223	0.213	0.595	4.505	0.071	0.060	0.021
17577	0.241	0.219	0.204	0.596	4.365	0.072	0.060	0.019
17578	0.194	0.139	0.223	0.582	4.444	0.073	0.060	0.227
17579	0.199	0.144	0.211	0.467	4.792	0.033	0.058	0.035
17580	0.245	0.225	0.199	0.599	4.312	0.075	0.050	0.016
17581	0.195	0.143	0.219	0.585	4.391	0.077	0.059	0.015
17582	0.232	0.206	0.210	0.585	4.424	0.065	0.075	0.023
17583	0.226	0.146	0.217	0.576	4.400	0.063	0.070	0.060
17584	0.244	0.221	0.206	0.583	4.467	0.050	0.034	0.032
17585	0.212	0.191	0.204	0.553	4.286	0.076	0.072	0.038
17586	0.247	0.226	0.234	0.571	4.335	0.064	0.056	0.008
17587	0.240	0.216	0.206	0.585	4.448	0.081	0.049	0.017
17588	0.240	0.221	0.223	0.583	4.392	0.066	0.062	0.032
17589	0.244	0.223	0.219	0.569	4.310	0.078	0.065	0.020
17590	0.241	0.216	0.211	0.586	4.227	0.067	0.054	0.018
17591	0.212	0.131	0.215	0.566	4.396	0.056	0.061	0.016
17592	0.329	0.217	0.212	0.577	4.331	0.068	0.064	0.016
17593	0.192	0.150	0.218	0.584	4.264	0.065	0.057	0.000
17594	0.252	0.223	0.204	0.567	4.414	0.080	0.059	0.026
17595	0.318	0.253	0.210	0.570	4.355	0.066	0.059	0.011
17596	0.248	0.219	0.221	0.578	4.288	0.058	0.058	0.000
17597	0.243	0.224	0.223	0.578	4.319	0.063	0.059	0.054
17598	0.241	0.223	0.247	0.573	3.689	0.047	0.055	0.029
17918	0.268	0.195	0.219	0.556	3.856	0.070	0.052	0.099
17919	0.236	0.222	0.214	0.569	4.402	0.069	0.061	0.026
17920	0.272	0.199	0.227	0.595	3.662	0.077	0.045	0.091
17921	0.274	0.197	0.244	0.557	3.694	0.033	0.037	0.010
17922	0.249	0.216	0.222	0.583	4.247	0.072	0.059	0.000
17923	0.246	0.221	0.206	0.566	4.325	0.080	0.059	0.036

第13表　各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	原石群名	分析個数	K / Ca $\overline{X}\pm\sigma$	Ti / Ca $\overline{X}\pm\sigma$	Fe / Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Rb / Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Y / Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Zr / Sr $\overline{X}\pm\sigma$	Nb / Sr $\overline{X}\pm\sigma$
岐阜県	下呂	56	1.475±0.041	0.248±0.010	0.745±0.011	0.283±0.005	0.029±0.005	0.442±0.010	0.040±0.008
奈良県	二上山	57	0.243±0.009	0.227±0.010	4.389±0.145	0.212±0.0088	0.055±0.010	0.582±0.016	0.180±0.010
大阪府	和泉	15	0.433±0.011	0.337±0.011	3.741±0.074	0.299±0.007	0.075±0.010	0.659±0.007	
兵庫県	岩屋第一	17	0.576±0.018	0.249±0.009	3.559±0.096	0.369±0.006	0.056±0.010	0.800±0.023	
	岩屋第二	19	0.482±0.017	0.269±0.007	3.399±0.070	0.337±0.007	0.044±0.008	1.038±0.023	
香川県	五色台 国分寺	32	0.408±0.016	0.259±0.008	3.558±0.061	0.300±0.009	0.040±0.011	0.937±0.026	
	五色台 蓮光寺	20	0.418±0.013	0.255±0.009	3.541±0.060	0.303±0.007	0.043±0.013	0.941±0.022	
	五色台 白峰	57	0.486±0.015	0.267±0.007	3.349±0.070	0.339±0.009	0.041±0.012	1.033±0.023	
	五色台 法印谷	34	0.349±0.013	0.244±0.009	4.590±0.121	0.283±0.011	0.066±0.013	1.105±0.026	
	金山 金山西	34	0.367±0.014	0.223±0.009	4.691±0.124	0.291±0.010	0.064±0.008	1.035±0.023	
	金山 金山東	37	0.437±0.016	0.230±0.006	4.496±0.050	0.320±0.012	0.064±0.009	1.133±0.030	
	*五色台	57	0.785±0.031	0.129±0.008	2.015±0.052	0.495±0.014		0.648±0.025	
広島県	冠山 冠高原	58	0.564±0.023	0.534±0.020	2.940±0.068	0.188±0.006	0.025±0.010	0.421±0.011	
	冠山 冠山東	38	0.266±0.016	0.385±0.033	1.497±0.043	0.047±0.005	0.004±0.007	0.357±0.043	0.017±0.013
	冠山 飯山	34	1.067±0.114	0.523±0.034	2.018±0.066	0.259±0.007	0.019±0.007	0.483±0.012	0.248±0.011
佐賀県	多久第一	53	0.734±0.045	0.417±0.011	4.696±0.194	0.503±0.026	0.051±0.010	0.807±0.020	
	多久第二	23	0.726±0.051	0.420±0.018	5.235±0.372	0.531±0.045	0.061±0.017	0.815±0.029	
	多久第三	8	0.811±0.040	0.369±0.013	5.270±0.200	0.635±0.016	0.069±0.015	0.788±0.039	
	老松山	26	0.624±0.029	0.320±0.011	5.255±0.137	0.538±0.027	0.051±0.010	0.637±0.019	
	寺山	22	0.546±0.022	0.319±0.008	5.525±0.101	0.484±0.014	0.051±0.012	0.597±0.014	
	西有田	17	0.387±0.017	0.352±0.006	6.728±0.154	0.306±0.014	0.172±0.384	0.480±0.021	
長崎県	大串	13	0.943±0.034	0.142±0.006	1.674±0.014	0.246±0.004	0.023±0.006	0.432±0.009	0.064±0.007
	亀岳	17	0.976±0.038	0.157±0.007	1.675±0.017	0.244±0.004	0.017±0.006	0.441±0.006	0.069±0.006
	牟田第一	29	0.697±0.086	0.375±0.017	4.617±0.151	0.824±0.119	0.215±0.028	0.679±0.049	0.316±0.035
	牟田第二	13	0.531±0.044	0.354±0.018	7.530±0.387	1.068±0.091	0.334±0.034	0.942±0.060	0.508±0.043
	川棚	38	0.436±0.017	0.310±0.006	4.190±0.089	0.219±0.007	0.081±0.007	0.739±0.029	0.048±0.007
	福井第一	15	0.563±0.013	0.344±0.009	7.578±0.141	1.163±0.032	0.356±0.013	0.996±0.024	0.554±0.024
	福井第二	25	0.460±0.010	0.334±0.008	7.106±0.100	0.916±0.018	0.286±0.010	0.845±0.016	0.437±0.015
	崎針尾第一	45	0.337±0.026	0.255±0.009	4.037±0.123	0.171±0.012	0.053±0.007	0.383±0.018	0.071±0.013
	崎針尾第二	12	0.553±0.110	0.407±0.028	5.299±0.672	0.340±0.040	0.079±0.010	0.610±0.059	0.115±0.021
熊本県	阿蘇	9	0.889±0.070	0.559±0.031	2.693±0.164	0.294±0.013	0.093±0.008	0.996±0.038	

*：ガラス質安山岩　　$\overline{X}$：平均値　　σ：標準偏差値

第14表　神並遺跡出土のサヌカイト製石器、石片の原材産地推定結果

試料番号	名　称・位　置・層　位	時　　代　(伴出土器)	原石産地（確率）	判　定	遺 物 品 名	備　考	試 料 提 供 者
17525	1-2017-1・XXVF6d・第3層直上	縄文時代早期(押型文式土器)	二上山（$D^2=81$）	二上山	サヌカイト石片	9.5gr	東大阪市文化財協会
17526	2-4025-2・XXVE15tセ・12-0	〃	〃　(30%)	〃	〃	5.1	〃
17527	3-3104-4・XXVF16bコ・12-1,2	〃	〃　($D^2=123$)		〃	31.4	〃
17528	4-2680-2・XXVF14cウ・12-1	〃	〃　(82%)	二上山	〃	6.4	〃
17529	5-2535-4・XXVF14bエ・12-1	〃	〃　(85%)	〃	〃	13.0	〃
17530	6-2717-2・XXVEtケ14t・12-1	〃	〃　($D^2=116$)		〃	5.4	〃
17531	7-4121-14・XXVE t line14t～15t・12-1	〃	〃　(87%)	二上山	〃	9.7	〃
17532	8-2309-2・XXVF15aイ・12-1	〃	〃　($D^2=152$)		〃	4.0	〃
17533	9-2313-2・XXVF15aク・12-1	〃			〃	4.3	〃
17534	10-2344-15・XXVF15aケ・12-1	〃	二上山（$D^2=71$）	二上山	〃	3.6	〃
17535	11-4319-21・XXVF15a・12-1	〃	〃　(86%)	〃	〃	7.9	〃
17536	12-2333-3・XXVE15tケ・12-1	〃	〃　($D^2=166$)		〃	6.6	〃
17537	13-2334-3・XXVE15tシ・12-1	〃	〃　(41%)	二上山	〃	4.4	〃
17538	14-2336-1・XXVE15tタ・12-1	〃	〃　($D^2=105$)		〃	20.9	〃
17539	15-2478-16・XXVE15tツ・12-1	〃	〃　($D^2=151$)		〃	2.1	〃
17540	16-2604-7・XXVE15tノ・12-1	〃	〃　(50%)	二上山	〃	3.3	〃
17541	17-2619-3・XXVEtネ・12-1	〃	〃　($D^2=69$)	〃	〃	4.1	〃
17542	18-4338-3・XXVE15t・12-1(畔内)	〃	〃　(20%)	〃	〃	6.3	〃
17543	19-2498-3・XXVF16a・12-1	〃	〃　($D^2=146$)		〃	8.2	〃
17544	20-2356-11・XXVF16aク・12-1	〃	〃　($D^2=191$)		〃	1.3	〃
17545	21-2398-7・XXVF16aサ・12-1	〃	〃　(13%)	二上山	〃	7.2	〃
17546	22-2437-10・XXVF16aサ・12-1	〃	〃　(25%)	〃	〃	4.3	〃
17547	23-2438-3・XXVF16aヌ・12-1	〃	〃　(83%)	〃	〃	4.0	〃
17548	24-2179・XXVF16bケ・12-1	〃	〃　(47%)	〃	〃	3.3	〃
17549	25-4181-1・XXVE14tツ・12	〃	〃　(43%)	〃	〃	14.6	〃
17550	26-2744-1・XXVE14tソ・12-2	〃	〃　($D^2=152$)		〃	15.7	〃
17551	27-2806-11・XXVE14tテ・12-2	〃	〃　($D^2=176$)		〃	3.1	〃
17552	28-3500-3・XXVF14aキ・12-2	〃	〃　(89%)	二上山	〃	13.6	〃
17553	29-2756-2・XXVF15aエ・12-2	〃	〃　(85%)	〃	〃	3.4	〃
17554	30-2822-3・XXVF16aウ・12-2	〃			〃	4.5	〃
17555	31-2775-12・XXVF16aシ・12-2	〃	二上山（$D^2=170$）		〃	1.6	〃
17556	32-2910-8・XXVF16aツ・12-2	〃	〃　($D^2=165$)		〃	12.2	〃
17557	33-2981-2・XXVF15bケ・12-2	〃	〃　($D^2=146$)		〃	33.3	〃
17558	34-3170-17・XXVE15tチ・12-2	〃	〃　(16%)	二上山	〃	2.9	〃
17559	35-4339-23・XXVE15t・12-2(畔内)	〃	〃　($D^2=151$)		〃	8.2	〃
17560	36-4339-24・XXVE15t・12-2(畔内)	〃	〃　(1%)	二上山	〃	5.3	〃
17561	37-3028-4・XXVF17bク・12-2	〃	〃　($D^2=100$)	〃	〃	10.0	〃
17562	38-4267-5・XXVE15tツ・12層基底	〃	〃　(42%)	〃	〃	1.9	〃
17563	39-4355-20・XXVE14line 14s～14t・12-3(畔内)	〃	〃　($D^2=43$)	〃	〃	5.3	〃

試料番号	名　称・位　置・層　位	時　　代　(伴出土器)	原石産地（確率）	判　定	遺 物 品 名	備　考	試 料 提 供 者
17564	40-3566-4・XXVE15tサ・12-3	縄文時代早期(押型文式土器)	二上山（76%）	二上山	サヌカイト石片	7.1gr	東大阪市文化財協会
17565	41-3478-10・XXVE15tテ・12-3	〃	〃　(27%)	〃	〃	2.7	〃
17566	42-4157-4・XXVE t line 15t～16t・12-3(畔内)	〃	〃　(61%)	〃	〃	7.9	〃
17567	43-4160-4・XXVE t line 14t～15t・12-4(畔内)	〃	〃　(1%)	〃	〃	4.0	〃
17568	44-3713-8・XXVE15tシ・12-4	〃	〃　($D^2=82$)	〃	〃	0.7	〃
17569	45-3879-8・XXVE15tス・12-4	〃	〃　($D^2=149$)		〃	6.6	〃
17570	46-3619-2・XXVF16aウ・12-4	〃	〃　($D^2=122$)		〃	9.5	〃
17571	47-3736-4・XXVF16aク・12-4	〃	〃　($D^2=156$)		〃	6.8	〃
17572	48-3579-5・XXVF16aセ・12-4	〃	〃　(7%)	二上山	〃	12.7	〃
17573	49-4062-3・XXVF16aク～ケ・12-5	〃	〃　($D^2=179$)		〃	4.0	〃
17574	50-4053・XXVE15tチ・12-6	〃	〃　(29%)	二上山	〃	6.0	〃
17575	51-2158-3・RF-3	〃	〃　(29%)	〃	〃		〃
17576	52-3177-12・RF-3	〃	〃　(62%)	〃	〃		〃
17577	53-2599-2・RF-3	〃	〃　(60%)	〃	〃		〃
17578	54-3810・RF-3	〃	〃　($D^2=171$)		〃		〃
17579	55-4121-3・RF-3	〃	〃　($D^2=147$)		〃		〃
17580	56-2802・RF-3	〃	〃　(43%)	二上山	〃		〃
17581	57-2533・RF-3	〃	〃　($D^2=160$)		〃		〃
17582	58-2387-1・RF-3	〃	〃　(25%)	二上山	〃		〃
17583	59-2409-6・RF-3	〃	〃　($D^2=95$)	〃	〃		〃
17584	60-2954-3・RF-3	〃	〃　(96%)	〃	〃		〃
17585	61-3260-1・RF-3	〃	〃　($D^2=48$)	〃	〃		〃
17586	62-4348-2・RF-3	〃	〃　(11%)	〃	〃		〃
17587	63-4339-4・RF-3	〃	〃　(25%)	〃	〃		〃
17588	64-2353-1・UF-1	〃	〃　(59%)	〃	〃		〃
17589	65-3330-1・UF-1	〃	〃　(26%)	〃	〃		〃
17590	66-3513-3・UF-1	〃	〃　(52%)	〃	〃		〃
17591	67-2134・UF-3	〃	〃　($D^2=145$)		〃		〃
17592	68-3997-2・UF-4	〃	〃　($D^2=111$)		〃		〃
17593	69-3644-2・UF-5	〃	〃　($D^2=155$)		〃		〃
17594	70-3550-2・UF-6	〃	〃　(23%)	二上山	〃		〃
17595	71-3779・UF-6	〃	〃　($D^2=105$)		〃		〃
17596	78-　　・Core	〃	〃　(70%)	二上山	〃		〃
17597	79-3792・Core	〃	〃　(64%)	〃	〃		〃
17598	80-3088・Core	〃	〃　($D^2=80$)	〃	〃		〃
17918	72-4214-5	〃	〃　($D^2=49$)	〃	〃		〃
17919	73-2525-1	〃	〃　(64%)	〃	〃		〃
17920	74-3890	〃	〃　($D^2=72$)	〃	〃		〃
17921	75-3604-2	〃	〃　($D^2=97$)	〃	〃		〃
17922	76-4109-2	〃	〃　(20%)	〃	〃		〃
17923	77-2832-3	〃	〃　(32%)	〃	〃		〃

Ⅴ．地層と自然遺物

1）東大阪市神並遺跡周辺の地層

那須孝悌・樽野博幸

（1）はじめに

神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡の発掘調査と、その後の工事の折に、地層の調査を行ない、植物・昆虫等の遺体を検討し、花粉分析を行なった。なお、大型動物の遺体は出土しなかった。

（2）遺跡周辺の地層と地形

生駒山脈の東麓には、南北方向に伸びる活断層の存在が知られており、生駒断層と呼ばれている。この断層は活断層で、東側の生駒山を形成している領家帯古期花崗岩類を主体とする基盤岩類が、西側の大阪層群の上に衝上している。そのため、断層のすぐ西側に位置する正興寺山では、大阪層群の砂層やシルト層が直立または逆転している状態が観察される。断層に伴う、地層の撓曲帯の幅が非常に狭いため、さらに西側へ行くと地層の傾斜角はすぐに小さくなる。

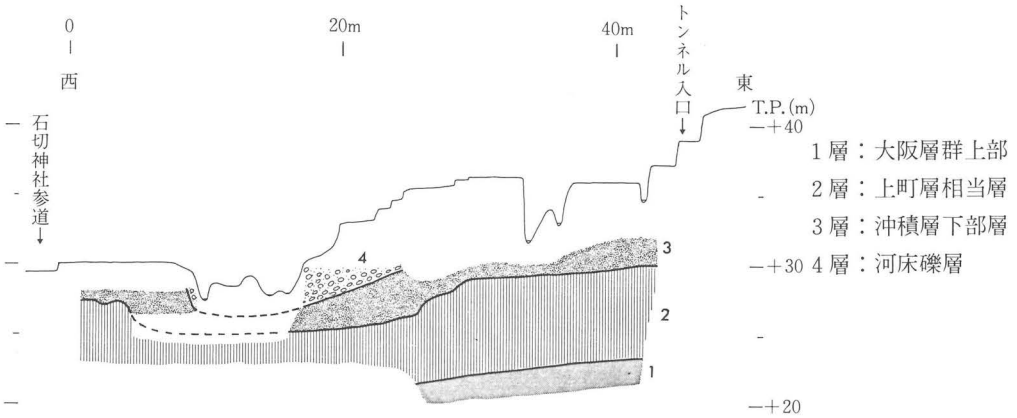
正興寺から130mほど西の、東大阪生駒電鉄トンネル入口付近から水走付近までの間、地層は20～23プロミル(‰)の傾きで西に向って傾斜して河内平野の地下深くに続き、恩智川付近の地下では、Ma12層(上町層中部海成粘土層)の上面は標高－43mの深さに達する。

地表面は中位段丘構成層の傾きとほぼ同じ傾きで西に傾斜している。東石切町では、近鉄奈良線から石切神社までの間に、少なくとも５段の段丘面が認められるが、各々の面は規模も小さく連続性も著しく悪い。各々の面を形成している礫層は赤色土化がすすんでおり、中位段丘構成層および高位段丘構成層に相当するものと思われるが、詳細は明らかでない。

生駒山から流れ出す鬼虎川(新川)は、上記のような段丘面とその構成層および下位の大阪層群を深く下刻して蛇行しながら流下し、不明瞭なトランペット状谷を形成している。現在の川はこの谷底をさらに下刻して、旧谷底を段丘化させている。神並遺跡はこの段丘の面上と段丘崖に立地している。

（3）トンネル入口～石切神社参道間の地質

トンネル入口(標高39ｍ)付近の地下、標高23ｍ以深には、表面が著しく赤色土化したシルト質細粒砂層があり、混入している礫も風化している。径30～40cmの花崗岩亜円礫も全く風化して、長石類は完全に粘土鉱物に変っている。この地層の風化帯直下からは*Cryptomeria japonica*(スギ)の遺体(球果，小枝，葉，種子)が*Fagus microcarpa*(シキシマブナ)の殻斗や堅果と共に多産した。植物遺体としては他に、*Picea* sp.(トウヒ属)，*Abies* sp.(モミ属)，*Actinidia polygama*(マタタビ)，*Isoetes japonica*(ミズニラ)などが産出した。花粉化石群集は*Picea*(トウヒ属)と*Cryptomeria*(スギ属)によって優占される。大阪層群上部の地層だろうと思われる。



第68図　トンネル入口～石切神社参道間の東西地質断面

その上位には、厚さ約7mの青緑色シルト質細粒砂層が重なり、ところどころに厚さ20～40cmの礫層をレンズ状にはさむ。この礫層の礫も、シルト質細粒砂層に含まれる礫も、いずれも亜円礫～亜角礫で多くは風化している。本層の下部から得た花粉化石群集は、*Alnus*(ハンノキ属; 約45%)が優占し、Cupressaceae(ヒノキ科), *Cryptomeria*(スギ属), *Sciadopitys*(コウヤマキ属)がこれに次ぐ。*Picea*(トウヒ属)も約5%含まれ、*Abies*(モミ属)や*Tsuga*(ツガ属)もわずかながら伴われる。また、植物遺体としては、*Sambucus sieboldiana*(ニワトコ)と*Rubus* sp.(キイチゴ属)が得られた。この地層は、海成の証拠は見つからなかったが、中位段丘構成層、即ち上町層に相当するものと思われる。

さらにその上位には、未風化の角～亜円礫層が重なり、シルト層や砂層が挟在される。シルト層からは、*Prunus salicina*(スモモ), *Alnus japonica*(ハンノキ), *Sambucus sieboldiana*(ニワトコ), *Rubus* sp.(キイチゴ属), *Triadenum japonicum*(ミズオトギリ), *Monochoria korsakowii*(ミズアオイ), *Scirpus juncoides*(ホタルイ), *Najas* sp.(イバラモ属), Charophyta(シャジクモ類)などの遺体が産出した。なお、花粉化石群集は*Alnus*(ハンノキ属), *Cryptomeria*(スギ属), *Tsuga*(ツガ属), *Ulmus-Zelkova*(ニレ属・ケヤキ属)によって優占され, *Picea*(トウヒ属)や*Abies*(モミ属)が伴なわれる。この地層はいわゆる沖積層下部に相当するものと思われ、現在の河床礫によって下刻されている。西ノ辻遺跡におけるいわゆる地山層や、鬼虎川遺跡の波蝕崖をなす地層は本層に連続するものと思われる。

2) 神並遺跡から出土した自然木の樹種

布　谷　知　夫

東大阪市神並遺跡から出土した木材9点について樹種名を同定した。その結果について以下に報告する。なお、試料は東大阪生駒電鉄トンネル入口と石切神社参道との間の地下約7mにある礫層(第68図の3層)から採取したものである。

(1) 試料の形状

試料9点のうち、試料No.1は、直径約20cmで、長さ約30cmの幹の部分が半分に割れた状態の

ものである。発掘時にはかなり大きなものであったそうであるが、その一部が試料として提供された。試料No.2～No.5は、直径2～3cm、長さ20～30cmほどの枝あるいは幹の材である。試料No.6～9は、長さ5cm程度の板状になった木片で、外見上は、大径木の一部分が割れ落ちたもののように見える。なお、いずれの試料も、樹皮はまったく付いていなかった。

（2）方法と結果（図版一一五～一一七）

すべての試料の保存状態はよく、光学顕微鏡で観察するための切片を直接切り取るのに十分な硬さを保っていた。それぞれの試料から小ブロックを切り取り、ミクロトームで厚さ20～30μの三断面（木口面、柾目面、板目面）の切片を作成した。これらの切片をサフラニンで染色後、常法によって脱水し、ビオライトを用いて封入し、プレパラートとした。これらのプレパラートを光学顕微鏡で観察し、樹種名を同定した。結果は第15表のようであった。

樹種名同定の根拠は以下のとおりである。

五葉松類

道管はなく、早材から晩材への移行は急。樹脂道がある。分野壁孔は窓型であり、放射仮道管の壁はスムーズ。放射柔細胞は単列で、5～10細胞高。螺旋肥厚はない。

モミ属

道管はなく、樹脂道、樹脂細胞ともない。傷害樹脂道のあるものがある。分野壁孔はスギ型で2個。放射柔細胞の壁は厚く、じゅず状末端壁がある。単列で1～15細胞高。

試料No.1以外の試料は強い物理的圧力を受けて組織がひしゃげた状態の部分が多い。特に試料No.6～9はその影響が強く、板状になっているのは、圧力を受けた結果と思われる。軸方向に取った切片では、どの角度の面を取っても、同じ面に板目面と柾目面とが、不完全な形で見られる。また試料No.3,6,9は菌糸の侵入がめだち、他の試料にも多少の菌糸が見られた。

（3）若干の意見

9個の試料について、五葉松類とモミ属と同定した。木材の樹種同定は、大部分の樹種、特に針葉樹では属までがやっとであり、種までの同定はむつかしい。しかし遺跡からの出土材の場合、その遺跡が作られた時代の気候と、現在の個々の種の分布とを参考にすれば、ある程度までの種の推定は可能である。

第15表　神並遺跡出土材の樹種

試料番号	樹種名	
No.1	*Pinus* sp. (Subgen. *Haploxylon* Koehne)	五葉松類
2	*Pinus* sp. (Subgen. *Haploxylon* Koehne)	五葉松類
3	*Abies* sp.	モミ属
4	*Pinus* sp. (Subgen. *Haploxylon* Koehne)	五葉松類
5	*Abies* sp.	モミ属
6	*Abies* sp.	モミ属
7	*Abies* sp.	モミ属
8	*Abies* sp.	モミ属
9	*Abies* sp.	モミ属

五葉松類は現在の日本には、ゴヨウマツ（ヒメコマツ）、ハイマツ、チョウセンゴヨウの3種が見られる。このうちチョウセンゴヨウの現在の分布は、四国の一部と中部地方の海抜1000mから2000m、場所によっては2500mぐらいの範囲であり、ハイマツは、中部地方以北の高山帯の

樹木である。いっぽう、ゴヨウマツは中部地方以南の山地に見られる樹木であり、現在の大阪にも、犬鳴山、岩湧山など数カ所に分布している。ゴヨウマツは、山地尾根部の乾燥した、排水の良い立地で見られる。

モミ属は我国に5種見られるが、モミ以外の4種(ウラジロモミ、シラベ、オオシラビソ、トドマツ)は亜高山帯の樹木であり、現在の大阪では分布していない。モミは主として太平洋側の、低山から海抜1500mぐらいまでの範囲で見られ、分布の中心は、暖温帯と冷温帯との移行帯、いわゆる中間温帯にある。モミは尾根近くの、やや乾燥した立地で見られ、現在の大阪では、北摂各地や金剛山、岩湧山などで見られる。

したがって、今回同定した自然木は、当時と現在の気候とにそれほど大きな差がないということを前提にして考えて良いとすれば、五葉松類はゴヨウマツ(*Pinus parviflora* Sieb. et Zucc.)、モミ属はモミ(*Abies firma* Sieb. et Zucc.)としてよさそうである。

ゴヨウマツとモミは、それぞれの本来の立地が比較的似かよっているので、近くに生えていることはありうることである。しかしそれは、これらの試料が現地性のものであるということではない。むしろこの2種は、それぞれの種だけで純林をつくるような種ではなく、9個の試料すべてがこの2種ということは、やや不自然というべきだろう。

この点については、この自然木の産出状態や他の遺物からの情報とあわせて考える必要があるだろう。

3) 神並遺跡から出土した昆虫遺体

桂　孝次郎

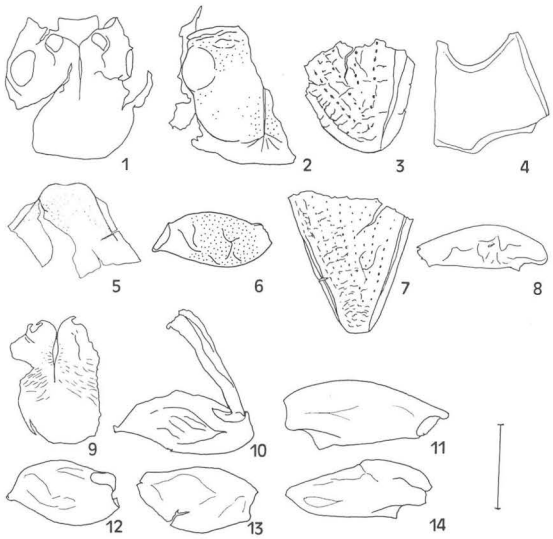
(1) 試料

東大阪市の東石切町および西石切町において、東大阪生駒電鉄敷設工事と国道308号線拡幅工事に先立って実施された遺跡発掘調査の際に得られた昆虫遺体について報告する。昆虫遺体は花粉分析の過程で分離された粗粒残査の中から検出されたので、10%水酸化カリウム水溶液処理(室温で24時間)→余剰の水酸化カリウム水溶液をすてた後、希塩酸で中和→蒸溜水中で軽くゆすりながら試料を泥化→孔径250μmの篩を用いて篩別水洗→70%エチルアルコール中に仮保存→実体顕微鏡の鏡下で昆虫遺体破片を選別、の順に処理されている。

(2) 試料No.82Z17Loc. 2-①から検出された主な種

1.チュウゴクオオミズクサハムシ *Plateumaris constricticollis chugokuensis* Tominaga et Katsura

頭部1点、前胸背1点、左後胸腹板1点、左鞘翅端1点、雄腹部第7節背板1点、左中腿節1点、合計6点が発見された。これらは、いずれも花粉分析用に水酸化カリウム処理および篩別処理されたものなので、それぞれがくっついた状態で発見されたものではない。したがって同一個体かどうかは不明である。鞘翅端の会合部ねじれ幅が広く、第1次間室は鞘翅先端前でおわること



1～6、9～14 *Plateumaris constricticollis chugokuensis* チュウゴクオオミズクサハムシ 1.頭部 2.前胸背 3.左鞘翅端 4.左後胸腹板 5.腹部第7節背板(雄) 6.左中腿節(1～6はサンプルNo.82Z17Loc.2-①) 9.前胸背 10.左中腿節と前脛節 11.左後腿節 12.右前腿節 13.左中腿節 14.右後腿節(9～14はサンプルNo.83219-⑤)
7、8 *Donacia flemora* クロガネネクイハムシ 7.左鞘翅端 8.右後腿節 (7、8はサンプルNo.82Z17Loc.2-①)

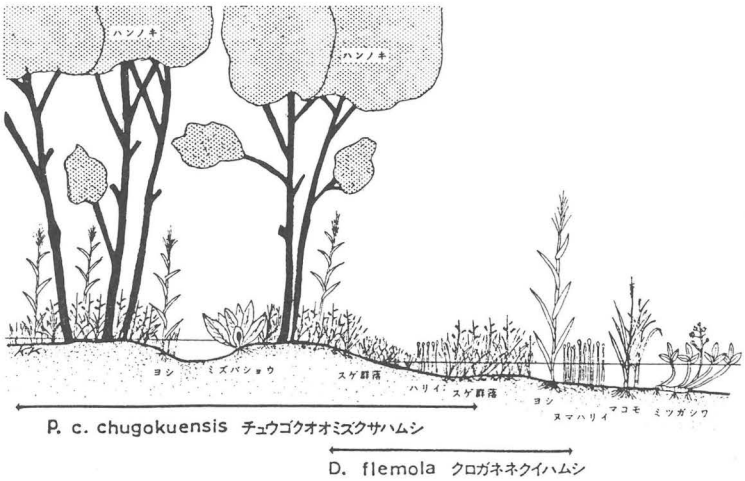
第69図　昆虫遺体の拡大図

から、*Plateumaris*属と判断される。そして前胸背の横シワがなく、亜基部襟帯がはっきりする点で、オオミズクサハムシ *P.constricticollis* にぞくし、雄腹部第7節背板のサイズ及び、先端中央部が凹む点から、その亜種であるチュウゴクオオミズクサハムシと一致した。また頭部・左後胸腹板及び、左中腿節のいずれについても、サイズ及び形状において、チュウゴクオオミズクサハムシと差異がみられないことからも、本種と同定される。

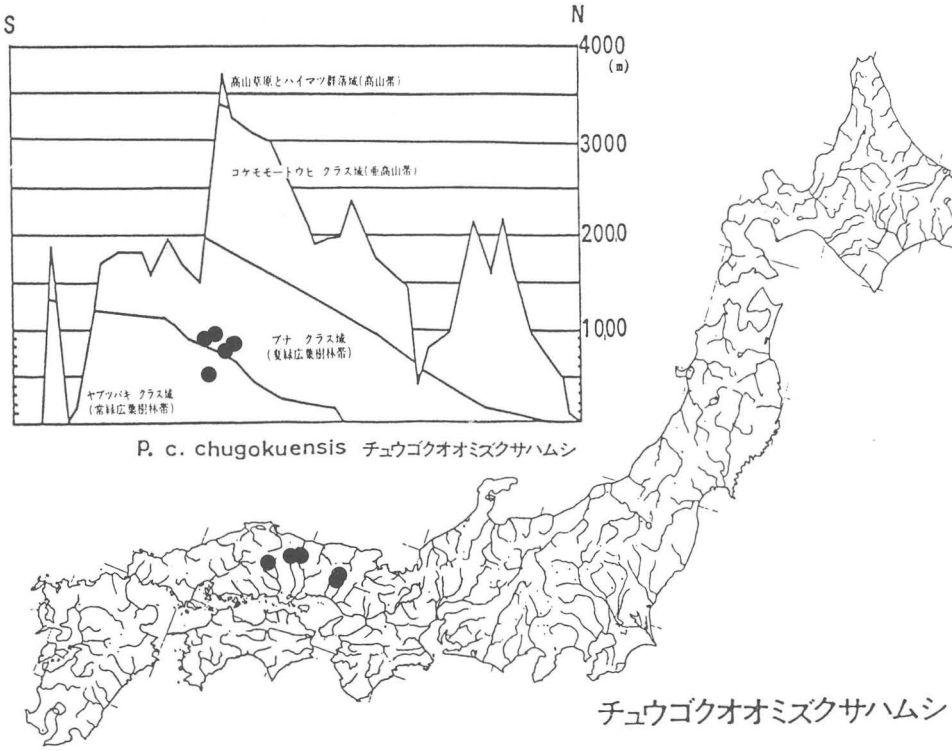
2.クロガネネクイハムシ

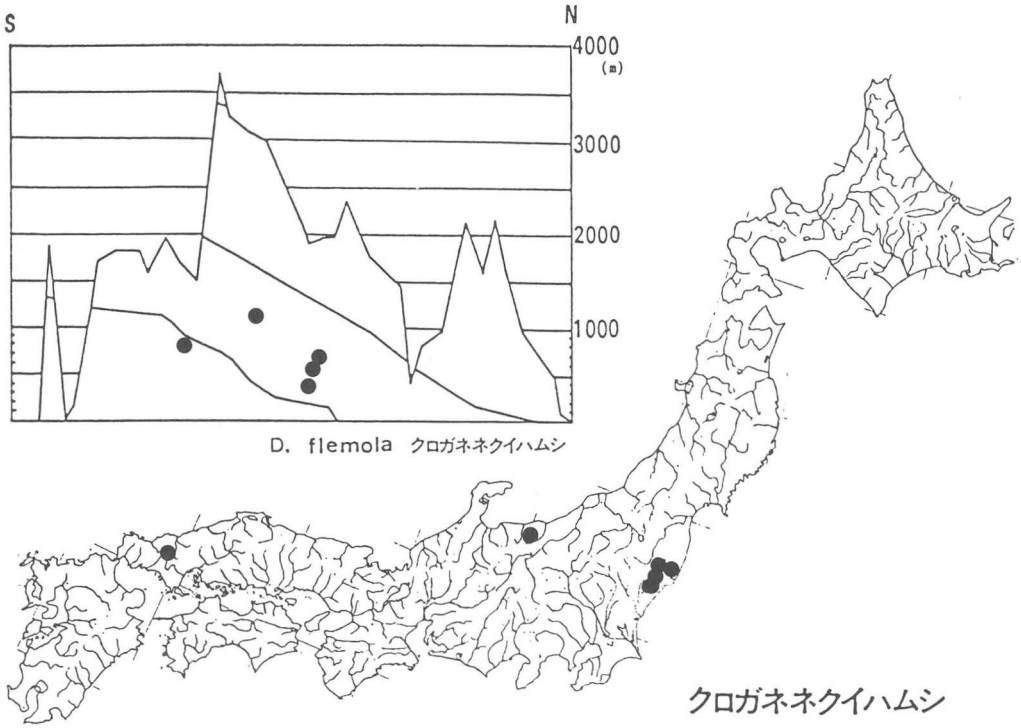
Donacia flemola Goecke

左鞘翅端1点、右後腿節1点、合計2点が発見された。鞘翅端の会合部のねじれ幅がせまく、第1次間室は鞘翅先端に達することから、*Donacia*属と判断される。そして先端部外縁がくびれて突出し、切断状になり、その幅は狭く、会合部より外縁部に向ってより突出する点、及び点刻間の横シワが荒い点などから判断して、クロガネネクイハムシと同定した。右後腿節については、長さが1.7mm、幅0.54mmと小さく、長さと幅の比が3.0以上で*Donacia*属と判断される。そして前歯がなく、基部が少し欠損していることを考慮に入れても、その大きさは非常に小さく、小形種と考えられる。また、小歯から先端までの長さが長いこと、大歯・小歯ともにその発達度が弱いことから、カツラネクイハムシの雄の形状に一見似るが、大歯の突出方向が、下方でなく、より先端方向に向いている点から判断して、クロガネネクイハムシの雌と同定した。



第70図　神並遺跡から出土したネクイハムシ2種の生息環境模式図





第71図　神並遺跡から出土したネクイハムシ2種の現在の分布(垂直分布及び地理的分布)
(野尻湖昆虫グループ・1985に加筆)

第16表　神並遺跡で出土した昆虫化石遺体

神　並 (火山灰層の上位の層準)	ハムシ科 チュウゴクオオミズクサハムシの前腿節 (*Plateumaris constricticollis chugokuensis*) カメムシ科の頭部の破片 直翅類の脛節の破片 その他、甲虫破片(同定不能)
83219-⑤ (火山灰層の上位の層準)	ハムシ科 チュウゴクオオミズクサハムシの前腿節,左中腿節と前脛節,左後腿節,右前腿節,左中腿節,右後腿節。 (*Plateumaris constricticollis chugokuensis*) ゴミムシ科の前胸背 その他、甲虫破片(同定不能)
82Z17Loc2-① (第68図の3層;沖積層下部層)	ハムシ科 チュウゴクオオミズクサハムシの頭部,前胸背,左後胸腹板,左鞘翅端,腹部第7節背板,左中腿節。 (*Plateumaris constricticollis chugokuenis*) クロガネネクイハムシの左鞘翅端, 右後腿節。 (*Donacia flemora*) ハネカクシ科の頭部 ゾウムシ科の頭部 その他、甲虫破片(同定不能)
82Z17-3 (第63図の1層;大阪層群上部)	ハネカクシ科の鞘翅 甲虫の幼虫の大腮 その他、甲虫破片(同定不能)

(3) 古環境について

2種類のネクイハムシ(チュウゴクオオミズクサハムシとクロガネネクイハムシ)が同じ層準で発見されたことから、古環境を推定してみたい。

チュウゴクオオミズクサハムシは日本固有で、兵庫県神崎郡大河内町砥ノ峯高原から岡山県阿哲郡哲西町鯉ヶ窪までの中国地方東部に限って分布し、冷温帯～中間温帯の湿地に生息する。そして湿地のなかでも、上層がハンノキ林などに覆われた少しうす暗い林床の大形のスゲ群落に好んで生息している種である。一方、クロガネネクイハムシは、東シベリア、華北および朝鮮に分布し、日本では福島県阿武隈山地南部・長野県戸隠村・広島県芸北町八幡高原と離れた局所的分布をし、主に冷温帯の湿地に生息する。そして湿地のなかでも、林縁部で、浅い開水面をともなった、少し大形のスゲ(オタルスゲやオニナルコスゲ)群落に好んで生息している種である。

これらの現生の生息環境から考えて、2種類の化石が同時に発見されたことから、気候的には現在の石切神社周辺よりかなり冷涼で、環境はハンノキなどの林が広がり、浅い開水面をともなった湿地で、林床及び林縁に大形のスゲ(オタルスゲやオニナルコスゲなど)の群落が存在したと推定される。

参考文献

1) 久保田正秀・成田行弘　1987。茨木県のネクイハムシ、東北の自然(28)：15～18。
2) 野尻湖昆虫グループ　1985。アトラス・日本のネクイハムシ、182pp・野尻湖昆虫グループ。

Ⅵ. ま と め

1) 中世の遺構について

今回の調査では、後世の削平をうけて本来の遺構面は失われており、ベース面で、若干の遺構を確認したにとどまった。またその故に、出土遺物は僅少であった。ただ、出土遺物の年代観から、１次調査区で検出した12～14世紀の集落が、本調査区へ広がることが判明した。

そこで、１次調査報告書で提起された、12～14世紀の集落＝「神並庄」の平面の規模を自然河川の流域を中心に考察することで、まとめに代えておきたい。

*

自然河川は、２次調査区の北端でその左岸を確認した。流路は北東から南西に向かっている。西に隣接する５次調査区では、両岸を検出しており、報告書[注①]によると、上部幅14ｍ、下部幅６ｍ、深さ４ｍの規模を有し、南西方向に走って調査区外へ抜けている、とされる。この河川右岸には、古墳時代中期と奈良時代の掘立柱建物群から成る集落址が広がっている。本調査区の自然河川下層内の当該期の遺物の出土は、この西側の集落から投棄されたことに拠るものであろう。

ところで、河川右岸では12～14世紀の集落は確認されず、河川西方約200ｍの西ノ辻遺跡で中世集落が出現している。[注②] このことから、この時期の集落は自然河川左岸以東で営まれたことがわかる。そのうち遺構が重複して認められるような集落の中心部の東限は、１次報告書によれば、１次調査区の中央部までであり、集落は東西約80ｍに広がるものと推測される。南北方向は現在までのところ不明であるが、２次調査区の北東に坊の池と呼ばれる溜池があり、その北東方向は現在でも谷状地形が認められることと、集落の西限のあり方から考えると、集落の北限は自然河川の制約を受けていたものと考えられる。即ち河川の左岸に「神並庄」が広がっていた景観が想定されよう。

*

ところが、自然河川の推定流域の北側には、白鳳時代に創建された法通寺が存在する。昭和59年度に実施された発掘調査の成果[注③]によれば、寺の廃絶後に池状遺構が掘られており、出土遺物の年代観から、13世紀後半の時期が与えられるとされている。その一方で、14世紀初めから15世紀後半にかけて史料上に「法通寺庄」なる庄園が散見される。[注④] これは神並庄と同じく、石清水八幡宮を本所とするものである。

このように見ていくと、神並庄――法通寺――法通寺庄の三者の関連が問題となるだろう。少なくとも河川の右岸、即ち法通寺の寺域内で12世紀から14世紀にかけての集落が確認できるかどうか、周辺地域での今後の調査の進展をまって考えていかねばなるまい。

2) 縄文時代の遺構・遺物について

縄文時代に属する遺構は、調査地中央で検出した集石遺構のみである。集石遺構は、調査地の中央部分で約10㎡の範囲で西北から南東方向に楕円状に広がっていた。集石遺構内には、大量の縄文土器・石器が出土しているが、礫には人為的な加工は認められなかった。礫は、生駒山で産する自然石が大半で、炉跡や明確な住居跡の痕跡は認められず、集石遺構がどのような性格をもつものであるかは、今後周辺の調査結果を待って考えなければならない。

今回の調査では、小規模な調査範囲にもかかわらず大量の遺物を検出した。ここでは、縄文土器を中心にして各遺物をまとめておきたい。

土器は、コンテナ箱で30箱分が出土しているが、すべて縄文時代早期の押型文土器に属するものである。今回、出土層位の違いから、Ⅰ群土器とⅡ群土器に区分をおこなった。Ⅰ群土器は、Ⅱ群土器に比較して厚手でしっかりした感じを受ける。器形は、波状口縁になるものが二個体分出土しており、文様は山形文を主とし、刺突文が少量認められる程度で、ポジテイブ楕円文は認められない。山形文を縦・横方向に組合せ、器面全面に施文する。波状口縁をもつ土器は、大川遺跡でも検出されており、Ⅱ群土器には認められないところから、神宮寺式以後に出現してくると思われる。Ⅱ群土器に施文されている山形文は、波長の長い、山のゆるやかなものであり、Ⅰ群土器とⅡ群土器との間には器形・文様に明らかな相違がある。また、Ⅰ群土器は、第11層内より出土しており、Ⅱ群土器が出土する第12層より明らかに上層に位置している。このことから、Ⅰ群土器はⅡ群土器に後出するタイプの土器と考えておきたい。

Ⅱ群土器は、文様の違いからA～Fの6タイプに分類した。Ⅱ-A群土器は、少量出土しており、第21図で図化したものが出土のすべてである。器壁がⅡ群土器の中では比較的厚く、口唇部に刻目を施文することを特徴としている。Ⅱ-A群土器は、大川式に近いタイプの土器と考えられる。Ⅱ-B群としたものが、ネガテイブ楕円文を全面に施文する典型的な神宮寺式タイプの土器であり、本遺跡出土土器量の80%以上を占める。全形を復元できた資料は少ないが、器壁が5㎜前後と非常に薄く、口縁部が直口し、尖底の底部から外方へ直線的に開くタイプと口縁部がわずかに外反し、尖底の底部から胴部がわずかにふくらむタイプに分けられる。いずれのタイプの土器も口縁部に刻目を入れ、胴部全面に縦方向にネガテイブ楕円文を密接施文している。ネガテイブ楕円文の形状は、舟形・長楕円・長方形・菱形と各種にわたるが、器壁が薄いために総じて施文が浅く、原体を明瞭にできる資料は少ない。Ⅱ-C群は、口縁部と胴部の施文方向が異なるもので、同一方向の施文の土器に比して口縁部文様帯を強く意識したものと考えられる。このタイプの土器には、口縁部が外反するものが多く、口縁部文様帯の変化と関連するものかもしれない。Ⅱ-D群は、山形文を施文するものを一括した。山形文は、口縁部と同一方向に施文するものが大半であるが、胴部に縦位方向に施文するものも少量ある。Ⅰ群土器と違って、山形文だけのものはなく、舟形沈文を組み合せて施文している。

その他に、撚糸文と思われるⅡ-E群土器及び刺突文と考えられるⅡ-F群土器が1個体分ずつ

出土している。

以上の出土土器を整理すると、今回の調査で出土した土器は、一部を除いて縄文時代早期の押型文土器であり、中でもⅡ-B群土器に代表されるネガテイブな楕円文をもつ神宮寺式タイプの土器が大半を占めている。Ⅱ-B・C・D群土器は、従来の神宮寺式の特徴をすべて備えており、これまでの資料に大量の資料を補足したことになる。また、Ⅱ-A群土器は、大川式に、Ⅰ群土器は、大川式もしくはそれ以後のタイプに比定でき、Ⅱ-E・F群土器は、神宮寺式よりは、古い様相を残す土器と考えることができた。

さて、Ⅱ群土器の編年上の位置づけであるが、今回の調査では、Ⅰ群土器とともに(11)の有舌尖頭器、Ⅱ群土器とともに(12)の有舌尖頭器が出土している。このことから直ちに、Ⅰ・Ⅱ群土器を草創期まで遡らせることはできないが、最近各地で押型文土器と有舌尖頭器の共伴例が増加していることもあり、混在という形で処理することもできない。有舌尖頭器が押型文土器の古いタイプの時期まで存続したと考えれば、Ⅰ・Ⅱ群土器は、押型文土器の中でも古い位置づけが可能であろう。今回出土した石器には、旧石器に属すると考えられる石器が数点あるので、混在も否定できないが、ここでは従来の編年にしたがって神宮寺式→大川式の変遷を考え、押型文でも古いタイプに属すると考えておきたい。

押型文土器の研究は、最近の資料の増加もあって、かなり活発におこなわれている。中でも施文原体の復元や方法により、押型文土器の編年がすすめられているが、まだ完全な一致をみていない。今回出土の押型文の原体復元、施文方法についても詳細は、一部を発表しているが、[注⑥] 文様の施文[注⑤]が浅いことや器表面の風化が激しいことなどの理由により明確にできなかった。そこで、Ⅱ群土器の文様からタイプ分けをおこなったが、前後の型式とつながる型式細分はできなかった。今後、周辺の調査成果を待って、比較検討をしていく必要がある。

その他に、土製品として土偶が2点出土している。詳細は、すでに資料紹介をおこなっているので、それを参照していただきたい。[注⑦] 押型文土器に土偶が伴う例としては、最古のものであり、貴重な例を加えたことになる。

今回の調査で出土した石器は、膨大な量にのぼる。少量の石器を除いて大部分が押型文土器に伴うものである。石器の器種には、有舌尖頭器・尖頭器・石鏃・石錐・削器・掻器・石匙・楔形石器・敲石＋磨石・磨石・砥石がある。この他に、線刻礫・局部磨製礫が出土している。特に石鏃が112点も出土していることは、遺跡の性格を考える上で興味深いものである。

大阪府下の押型文土器を出土する遺跡は、北から地黄北山遺跡・磯島崎遺跡・穂谷遺跡・神宮寺遺跡・山畑遺跡・大県遺跡・畠中遺跡に本遺跡を加えて8遺跡が確認されている。中でも生駒山西麓には5遺跡が一定の間隔をあけて確認されている。今後、各地で発見される可能性もあるが、生駒山西麓地域が縄文時代早期において一地域を形成していたことに変化はないと思われる。今回出土した土器は、すべて生駒西麓産の土器であり、サヌカイト石材も二上山産のものであることは、出土遺物からは、他地域との交流はうかがえない。土器は、底部の総量から少なくとも211個体分以上が出土しており、短期間のキャンプ的なものとは考えられず、か

なりの期間生活していたと考えられる。今後周辺の調査結果を待って、他地域との比較検討を行う必要がある。

最後に、現場調査を含めて、整理期間中には多くの人達のご協力をいただいている[注⑧]。厚くお礼申し上げます。

注① 西口陽一・宮崎泰史『神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査概要Ⅰ』大阪府教育委員会 1984年

② 松田順一郎氏の御教示に拠る。

③ 下村晴文『法通寺』(財)東大阪市文化財協会 1985年

④ 『藤井寺市史』第4巻史料編下 199ページ、234ページ、239ページ、286ページ

⑤ 片岡肇「神宮寺式土器の再検討―特にその施文原体を中心にして―」『考古学ジャーナル72号』1972年

⑥下村晴文「神並遺跡出土の押型文土器」『紀要Ⅰ』(財)東大阪市文化財協会 1985年

⑦ 下村晴文・橋本正幸「大阪府東大阪市神並遺跡出土の土偶と有舌尖頭器」『古代文化第35巻第6号』1983年

⑧ 落合信生 高石俊哉 山口靖弘 山谷充 原 進 松本卓子 成海節子 秀徳美千子 山田晴子 仲辻英民 坪井康江 辻林美幸 安原文字 田所和佳 山田厚子 西村光 西村光世 八代佳子 中切孝彦

図　　版

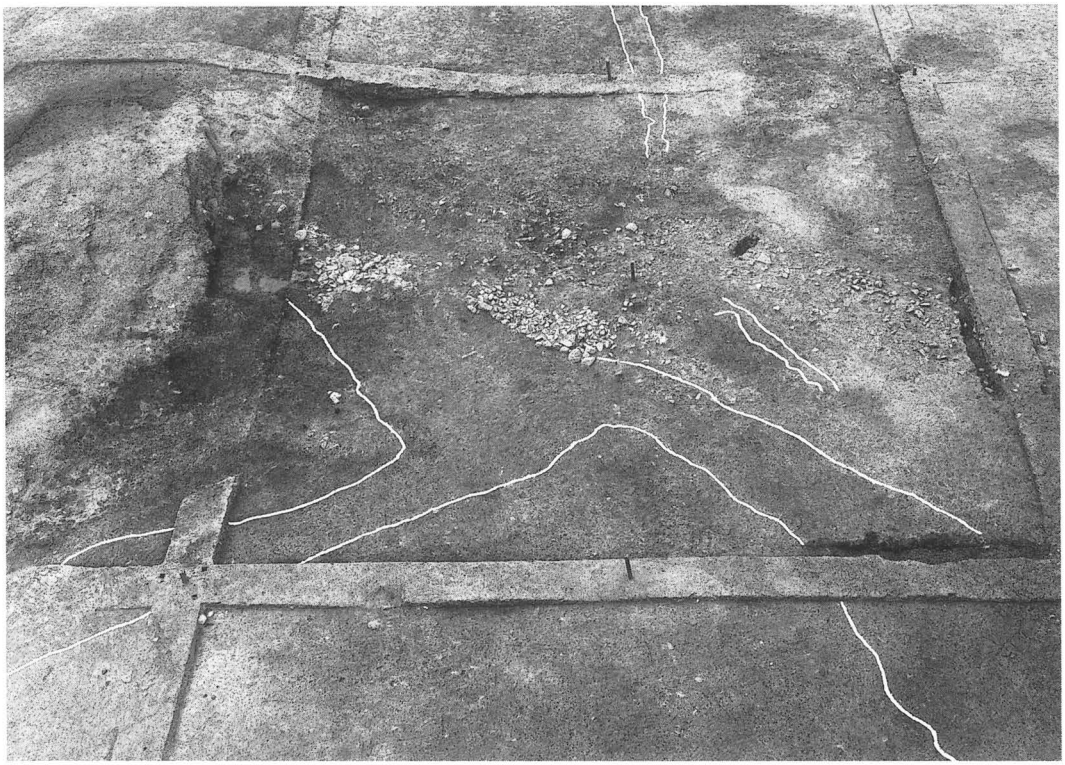
図版一　調査地航空写真

図版二　中世の遺構

1．調査前の状況（東より）

2．中世遺構検出状況（全景、東より）

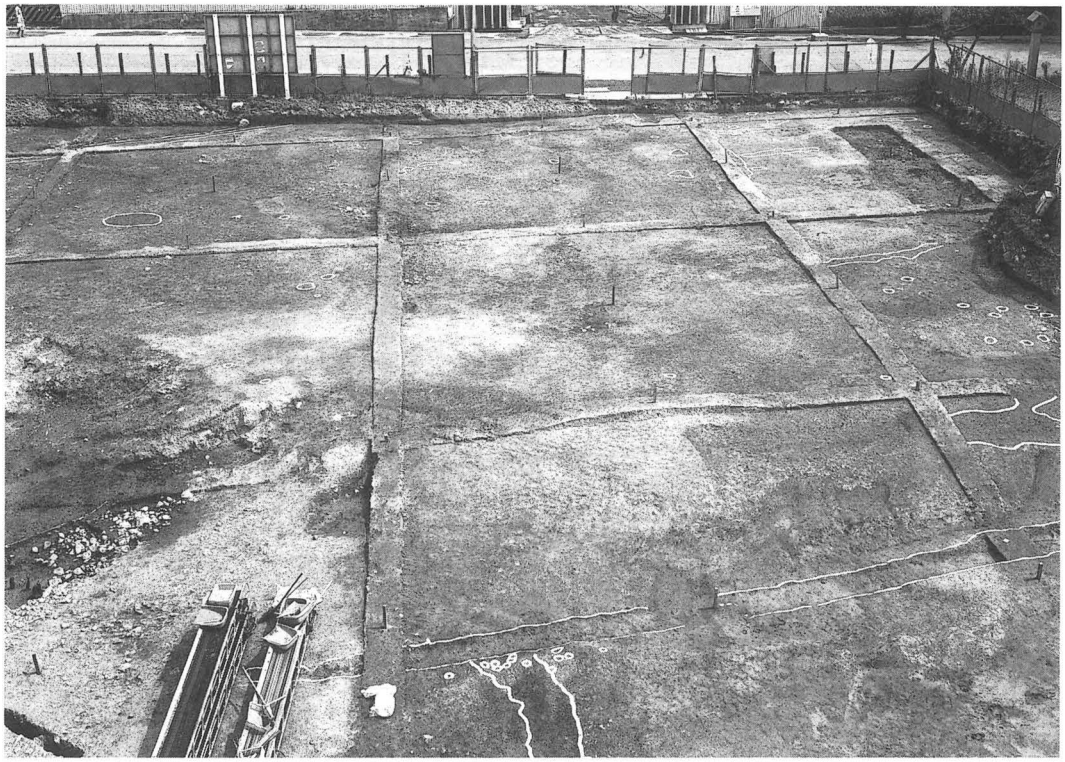
図版三　中世の遺構



1．SD74掘削前の状況（北より）

2．　同上 検出状況（北より）

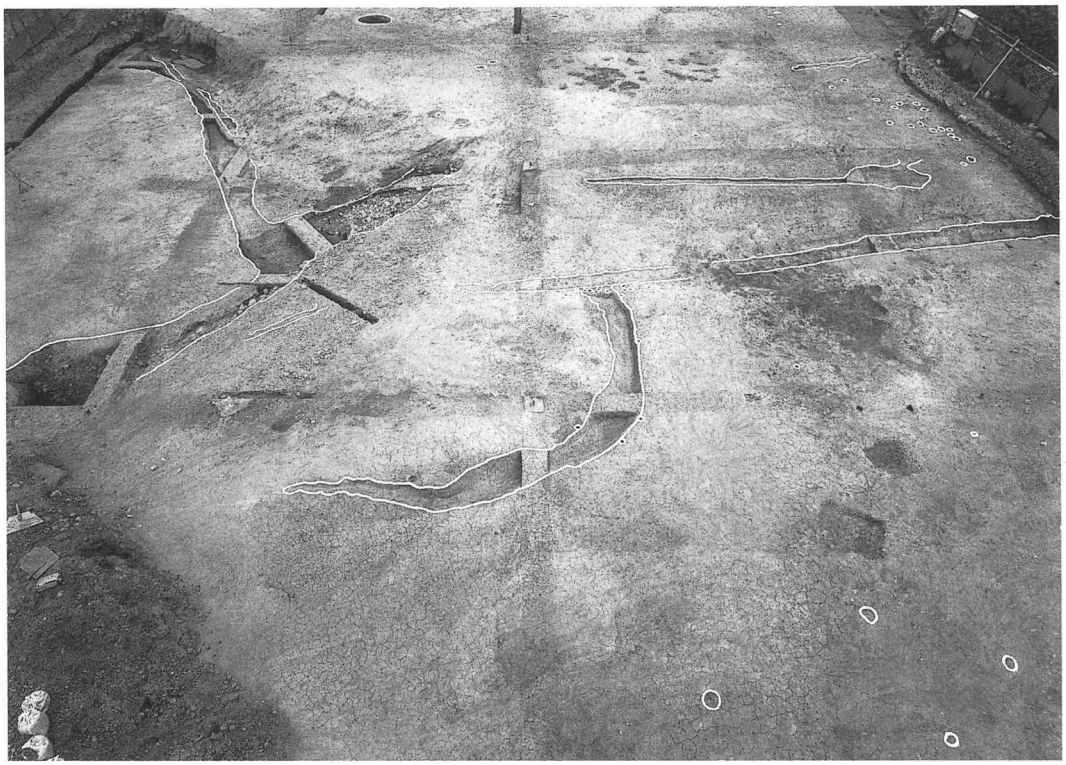
図版四　中世の遺構



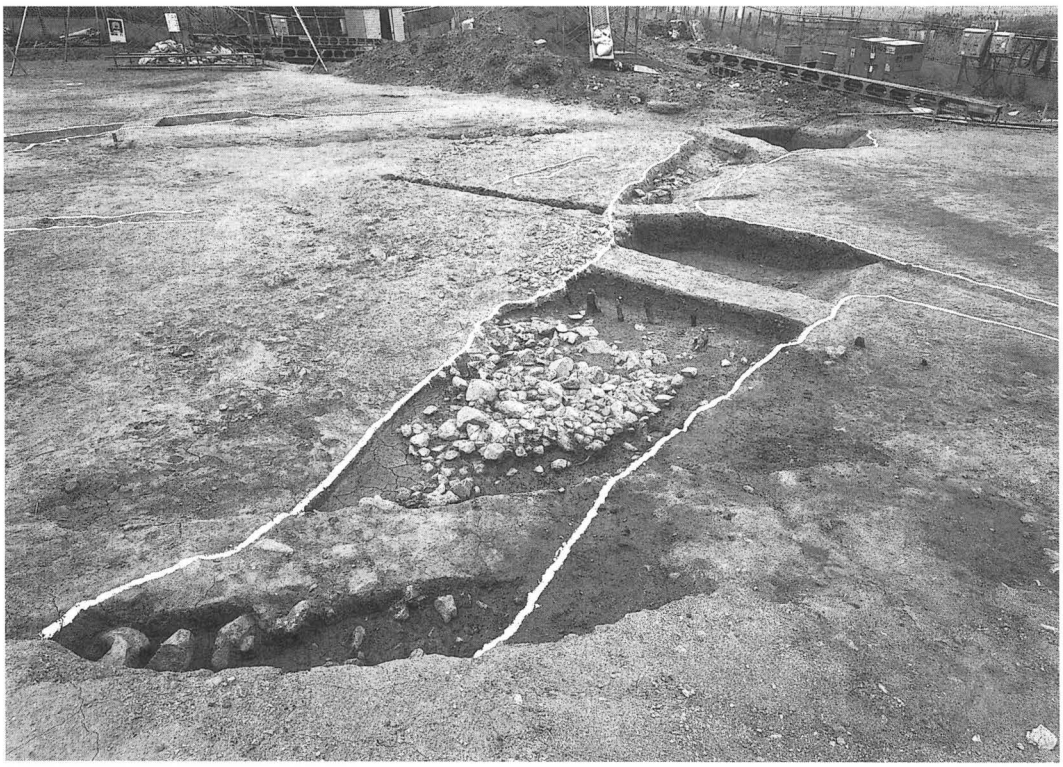
1．調査地南東部　中世遺構掘削前の状況（西より）

2．調査地南東部　中世遺構検出状況（北より）

図版五　中世の遺構



1．調査地西部　中世遺構検出状況（西より）



2．SD74内 石の集積状況（東より）

図版六　中世の遺構

1．SE9 検出状況

2．SE8 検出状況

図版七　中世の遺構

1．SD83(向かって左) 自然河川(右) 検出状況（東より）

2．SD83 検出状況（東より）

図版八　中世の遺構

1．自然河川内土層堆積状況（西より）

2．SD83内土層堆積状況（西より）

図版九　中世の遺構

1．自然河川内遺物出土状況

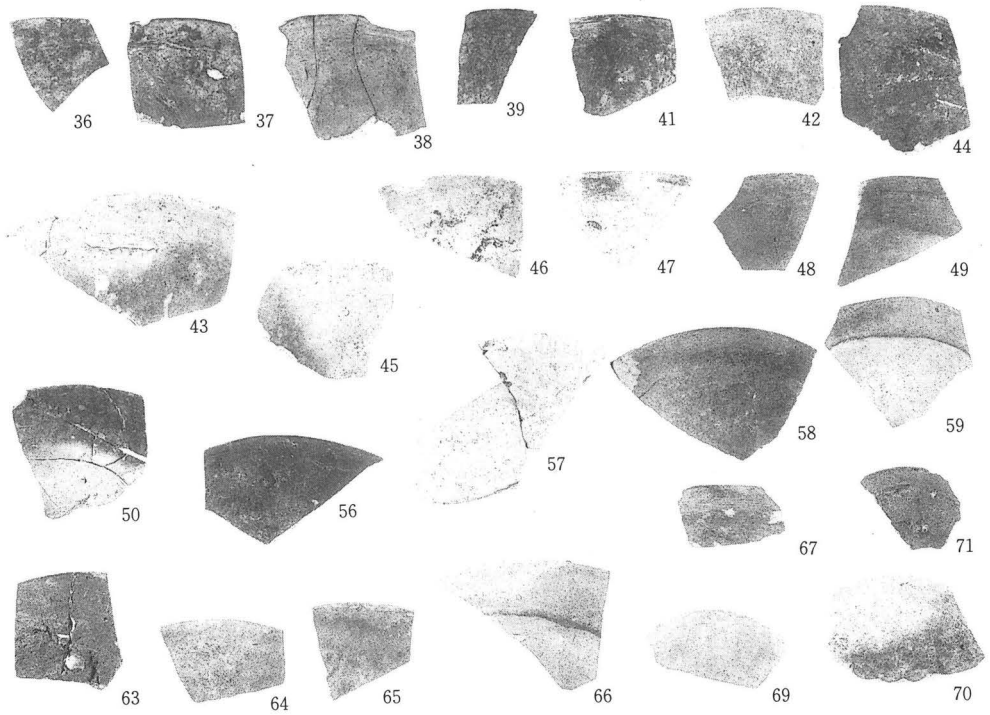
2．　同　上

図版一〇　中世の遺構

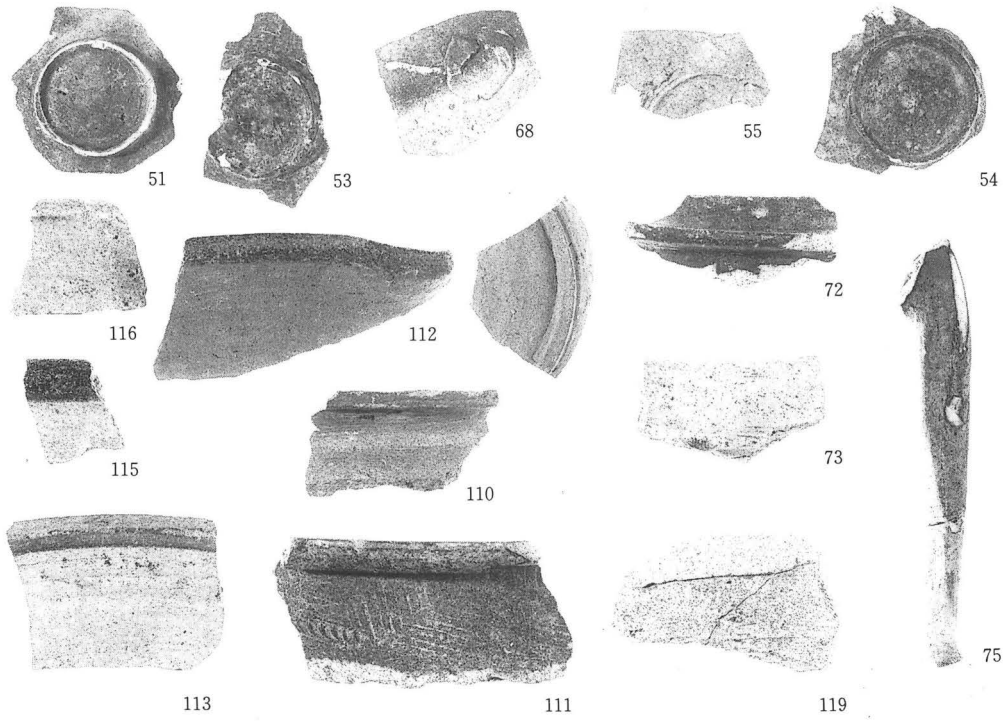
1．自然河川内遺物出土状況

2．　同　上

図版一一　中世の遺物（瓦器・須恵器）



1．瓦器椀（SE9(36、37、39、41、45、47、56、65)
自然河川(42、46、48、49、50、59、63、64、67、69、71)
SD83(43、44、57、58) 第3′層 (38、66、70)



2．SE9　瓦器椀(54) 須恵器鉢(113)
自然河川　瓦器椀(53、55) 瓦質羽釜(73、75)
SD83　瓦器椀(51) 須恵器鉢(112、116)
第3′層　瓦質羽釜(72) 須恵器(110、111) 鉢(115、119)

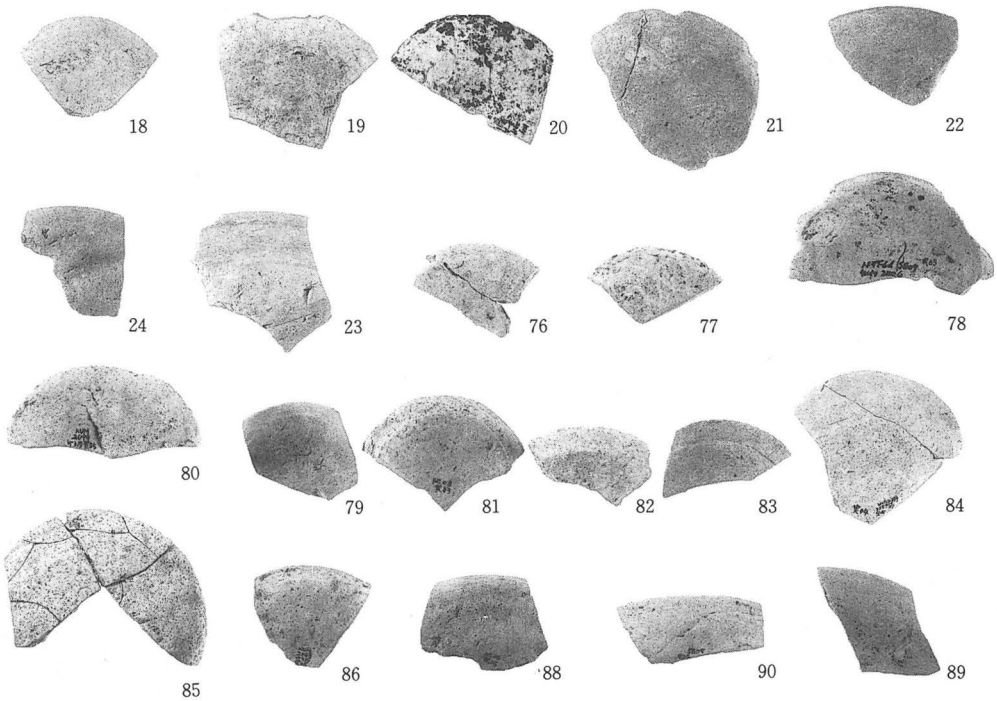
図版一二　中世の遺物(土師器)

26

27

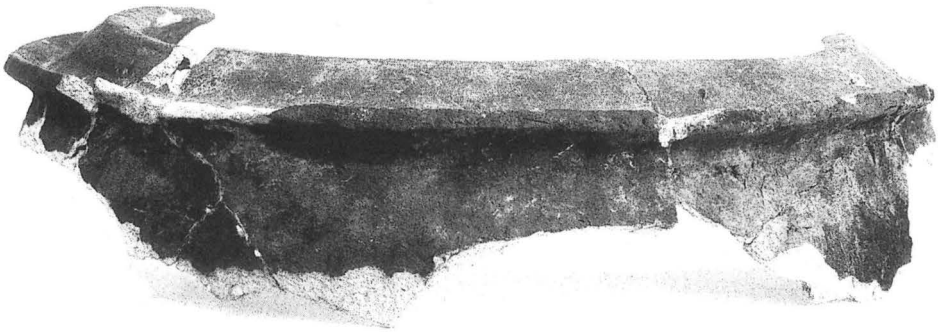
1．自然河川　土師器高杯(26)

2．自然河川　土師器高杯(27)



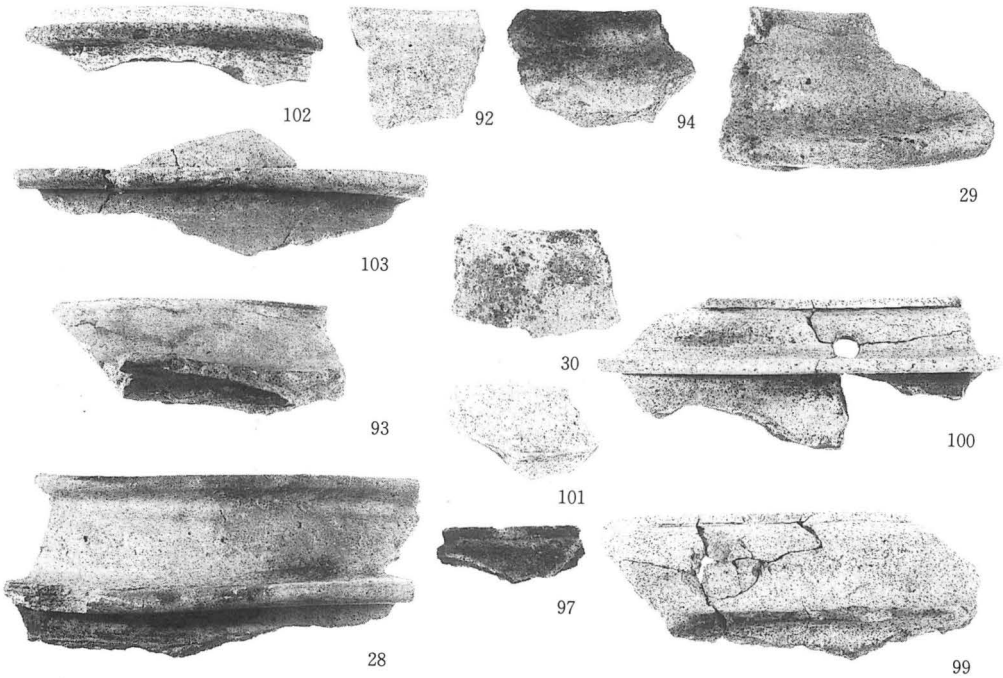
3．SE8　土師器皿(81、84、88、89)　SE9　土師器皿(78、79、83、90)
自然河川　土師器皿(18～20)　林(21～24)

図版一三　中世の遺物（瓦質・土師器羽釜）



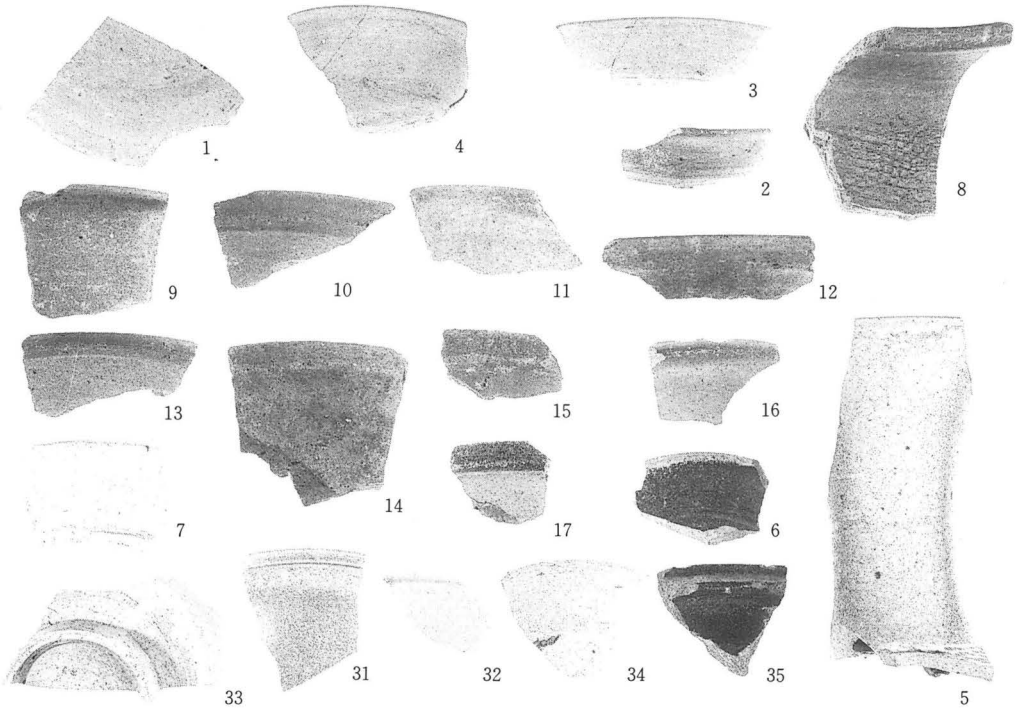
103

1．SE8　瓦質羽釜

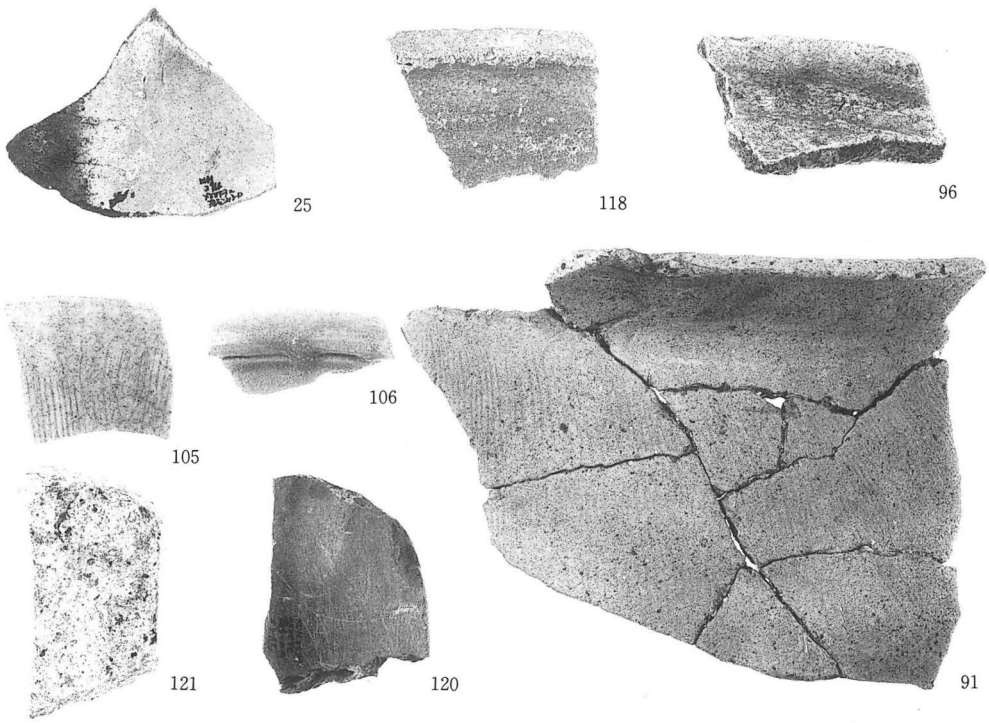


2．土師器羽釜　SE9(103) 自然河川(28～30)
SD83(92～94、97、99、100、102) 第3′層(101)

図版一四　中世の遺物(須恵器・陶磁器・土師器・砥石)



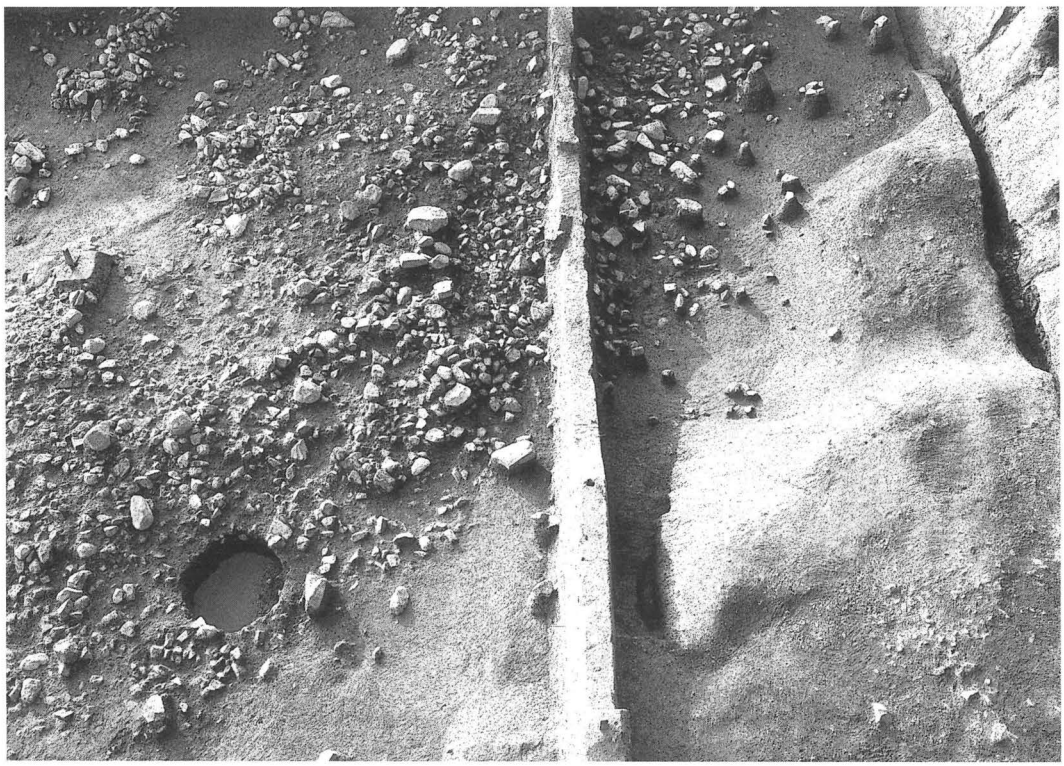
1．自然河川　須恵器蓋(1) 杯(2～4) 壺(5、6) 甕(7、8) 鉢(9～17) 青磁椀(31)
白磁椀(32、33) 陶器(34、35)



2．SE9　白磁椀(106)　自然河川　土師器高杯(25) 陶器鉢(118) 砥石(120、121)
第2層　土師器羽釜(96)　第3層　青磁椀(105)

図版一五　縄文時代の遺構

1．集石遺構全景（南より）



2．集石遺構（東より）

図版一六　縄文時代の遺構

1．集石遺構全景（西より）

2．集石遺構全景（南より）

図版一七　縄文時代の遺構

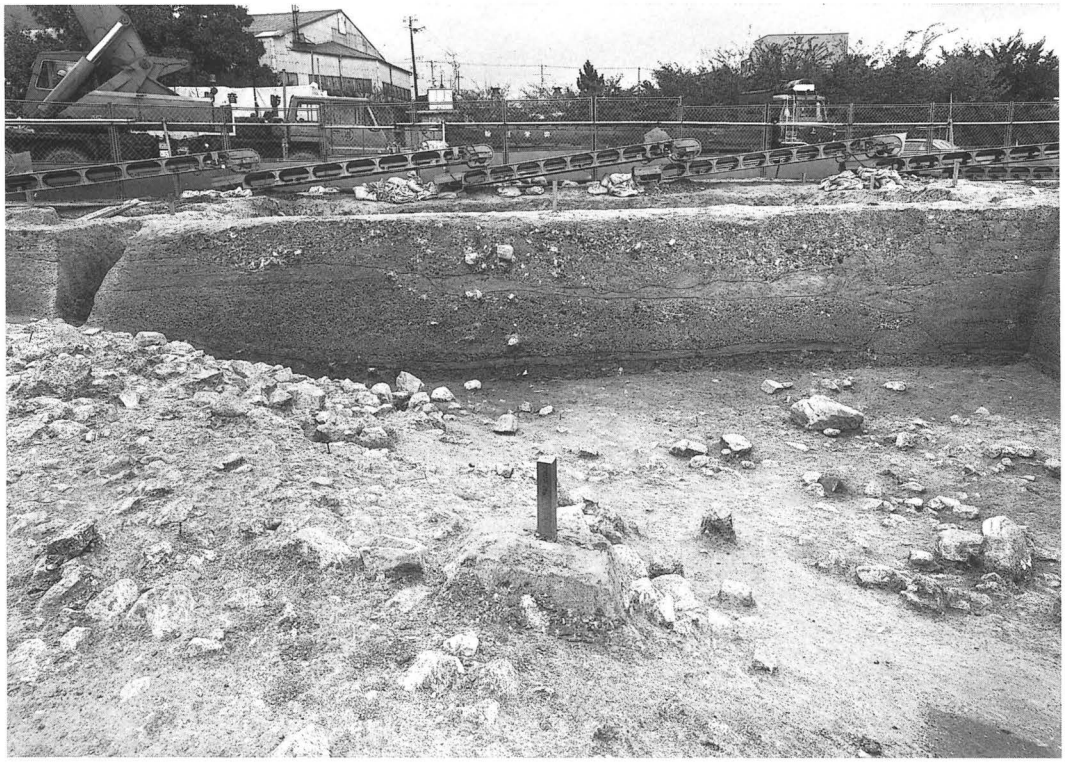
1．調査地西端の礫層

2．集石遺構の側面全景（南東より）

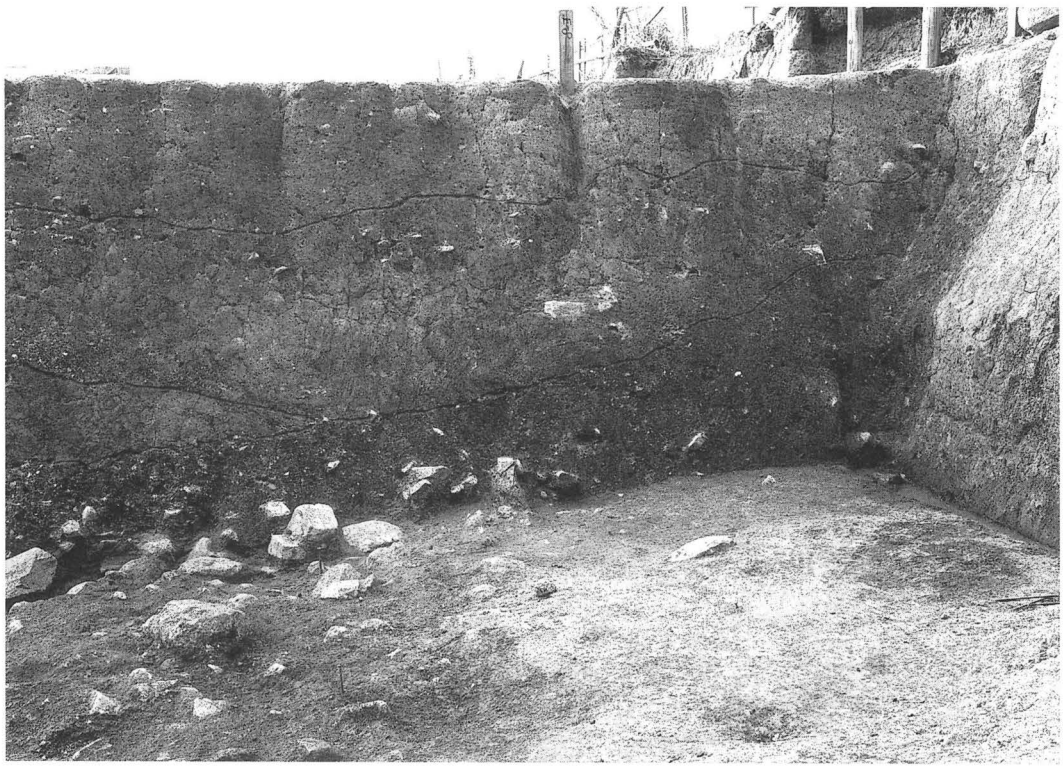
図版一八　縄文時代の遺構

1．集石遺構側面（南より）

2．集石遺構側面（西南より）

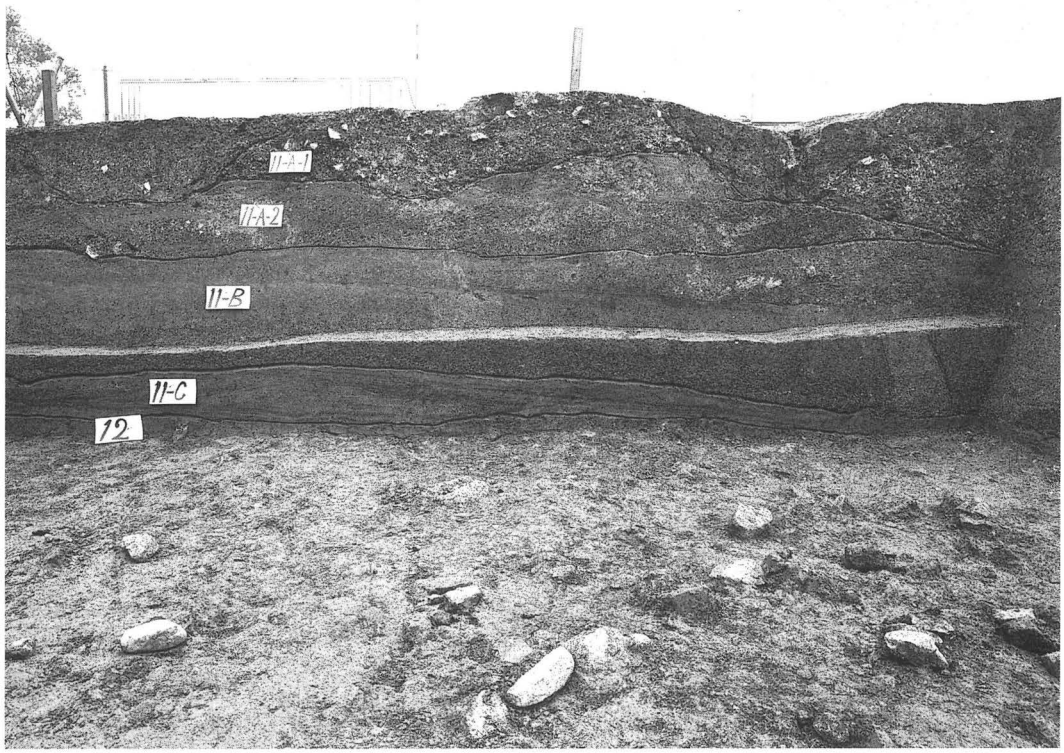


1．16ライン(16a～16b区)土層断面（西より）



2．14ライン(15t区)土層断面（東より）

図版二〇　縄文時代の遺構

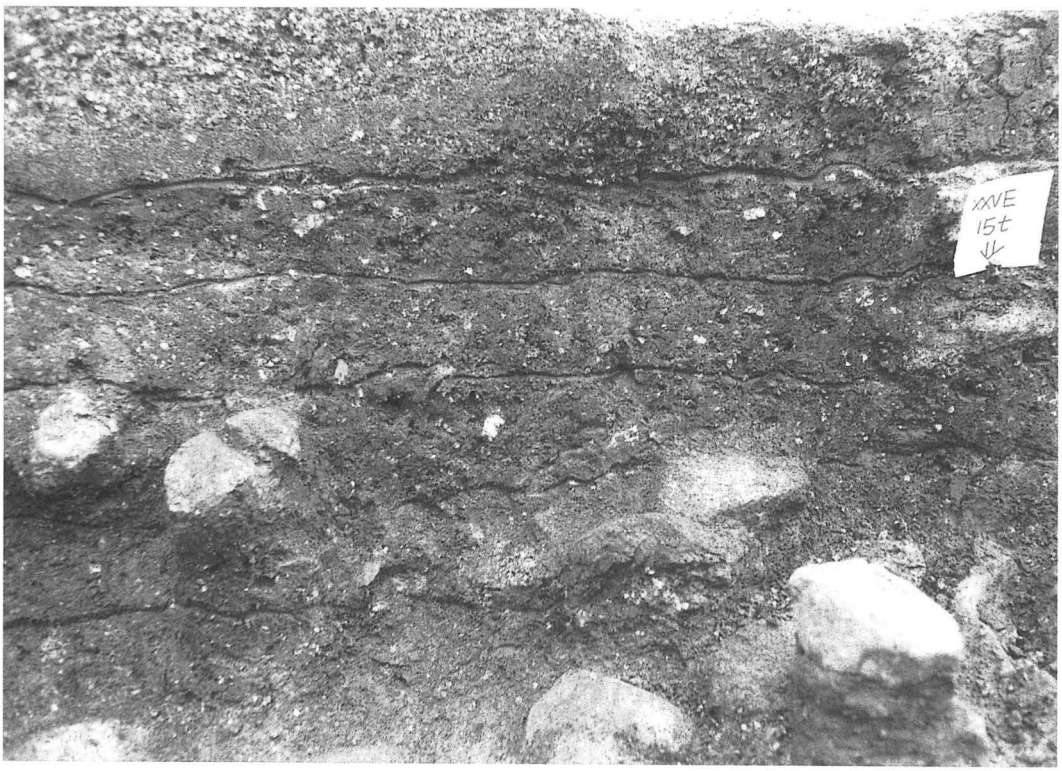


1．14ライン（15a～15b区）土層断面（東より）

2．bライン（14b区）土層断面（北より）

図版二一　縄文時代の遺構

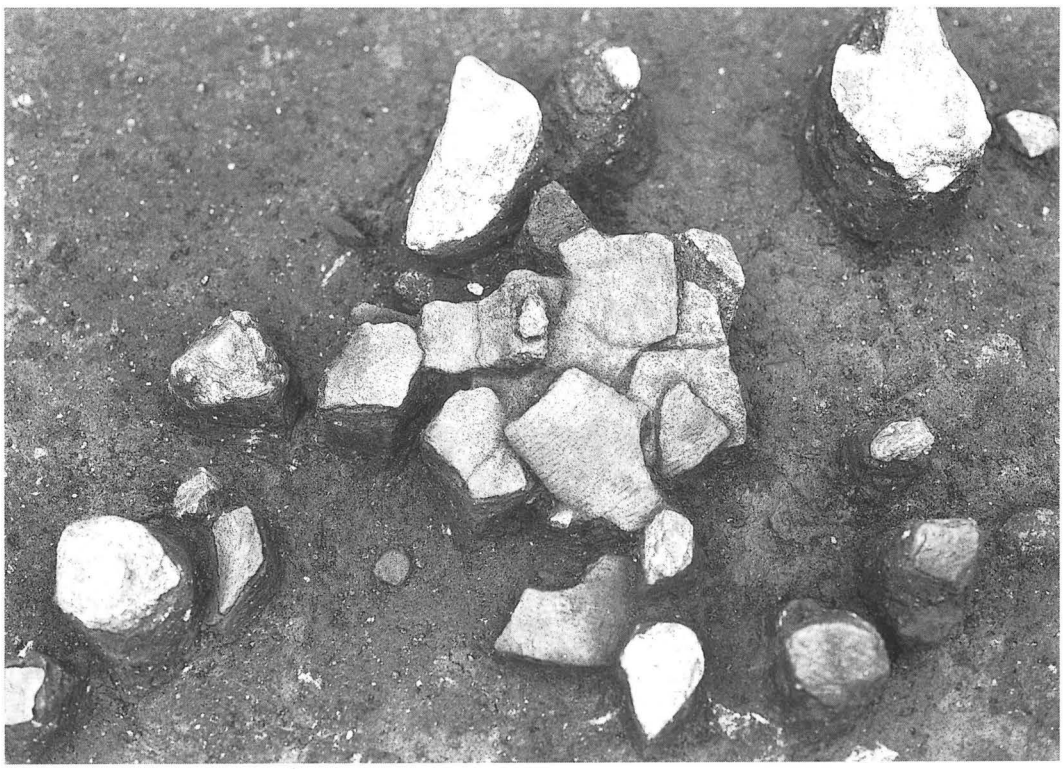
1．14ライン(15a区)土層断面（東より）



2．14ライン(15t区)第12層の分層（東より）

図版二二　縄文時代の遺構

1．縄文土器(122)出土状況



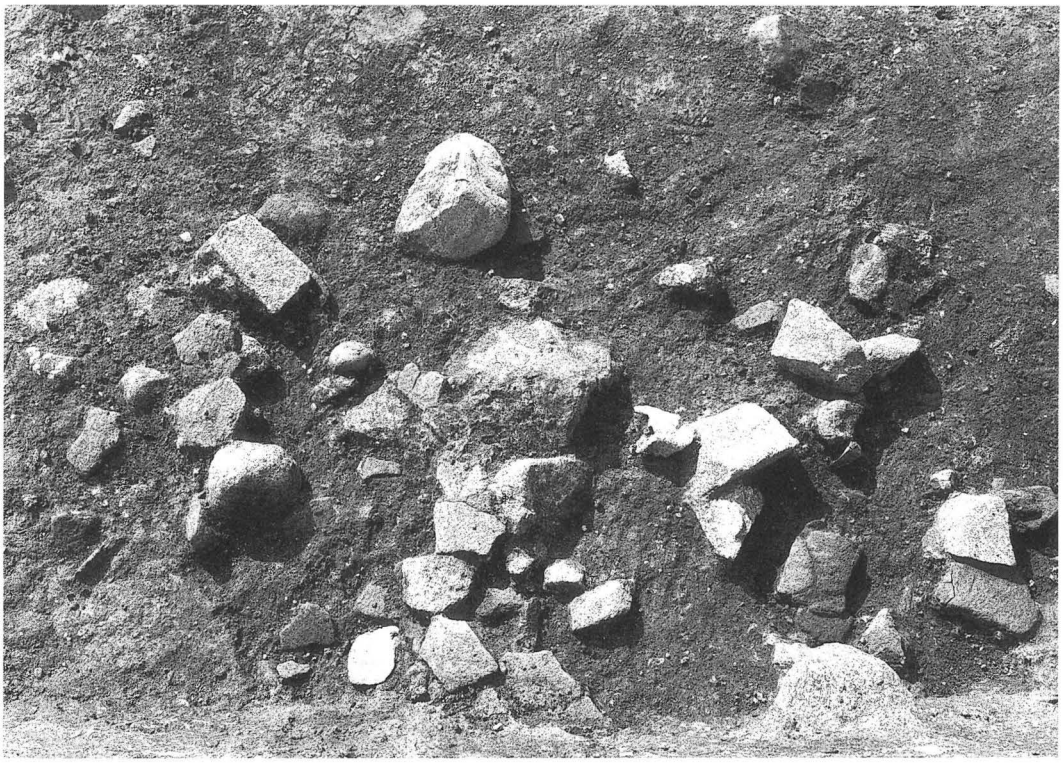
2．縄文土器(156)出土状況

図版二三　縄文時代の遺構

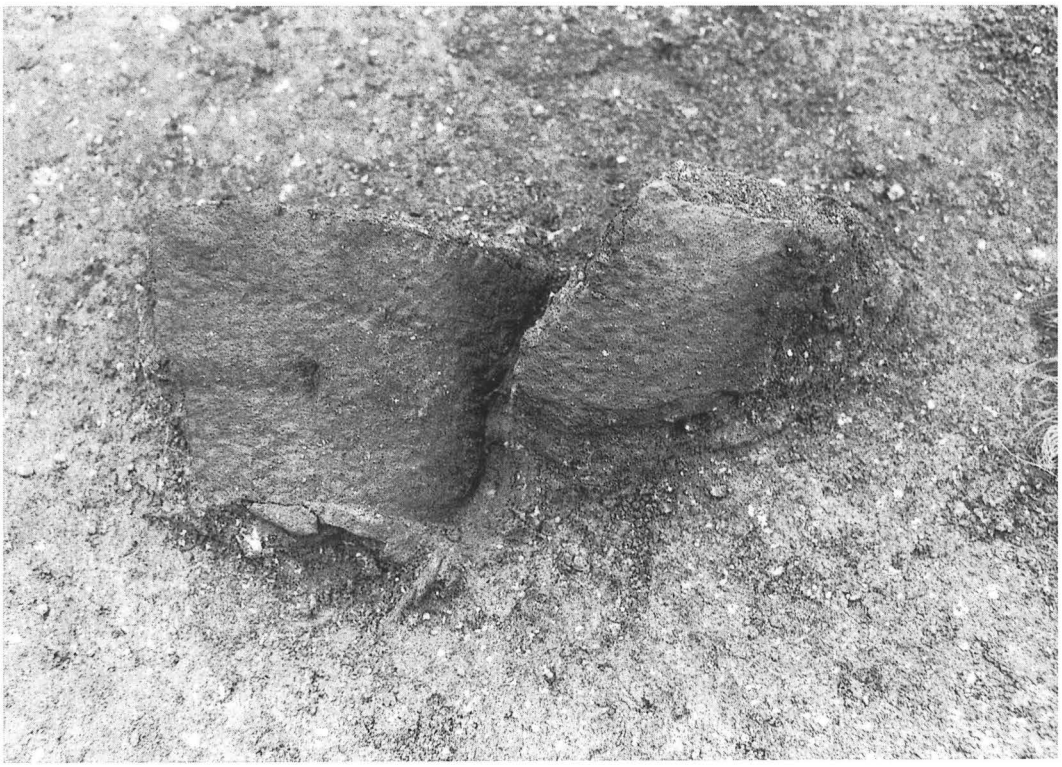
1．縄文土器出土状況

2．縄文土器出土状況

図版二四　縄文時代の遺構

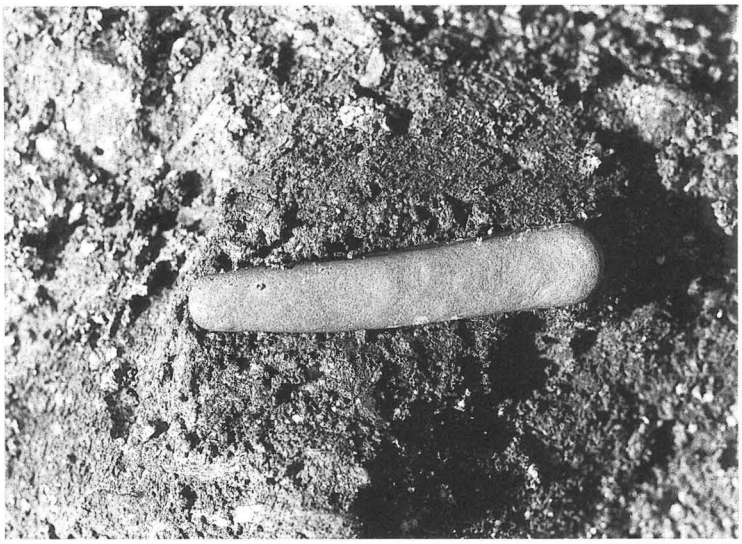


1．縄文土器出土状況

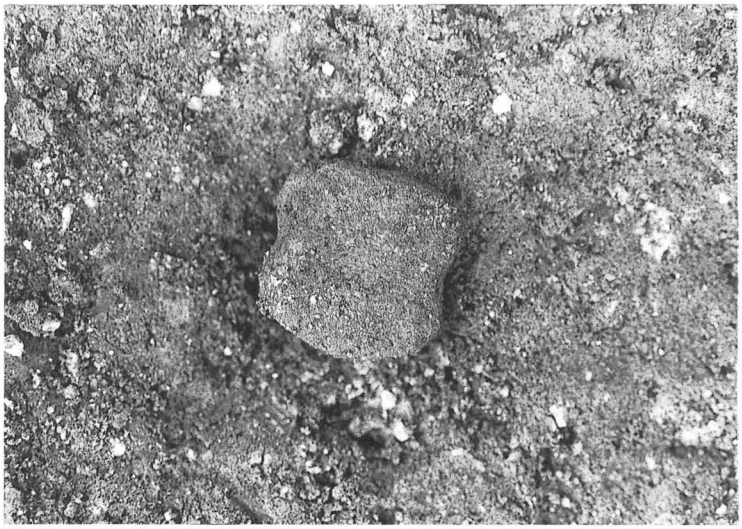


2．縄文土器(157)出土状況

図版二五　縄文時代の遺構



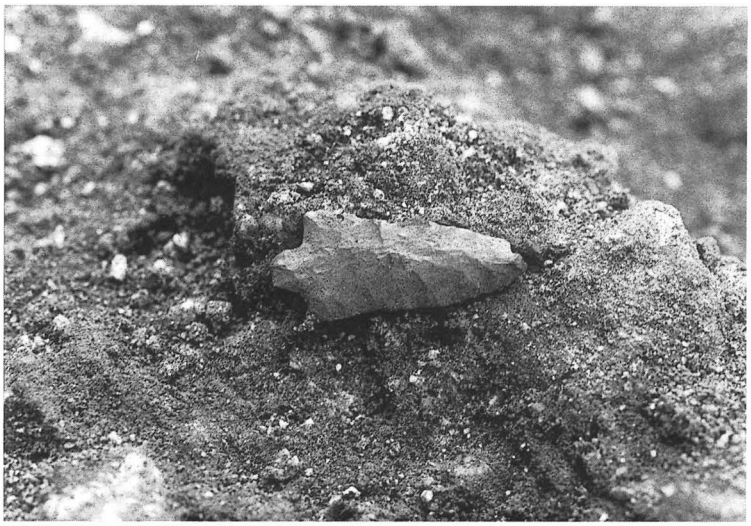
1．局部磨製礫出土状況



2．土偶出土状況

3．縄文土器(645)出土状況

図版二六　縄文時代の遺構

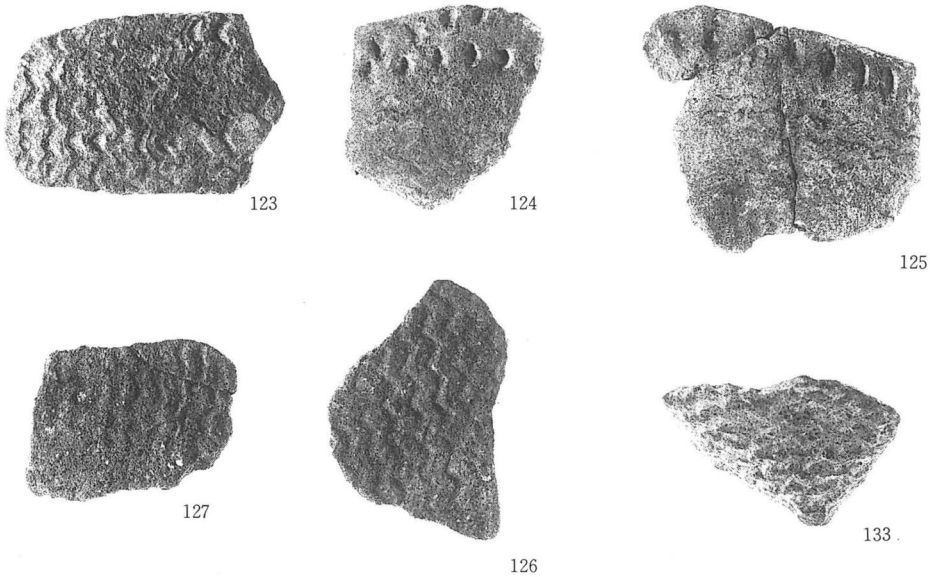


1．有舌尖頭器出土状況

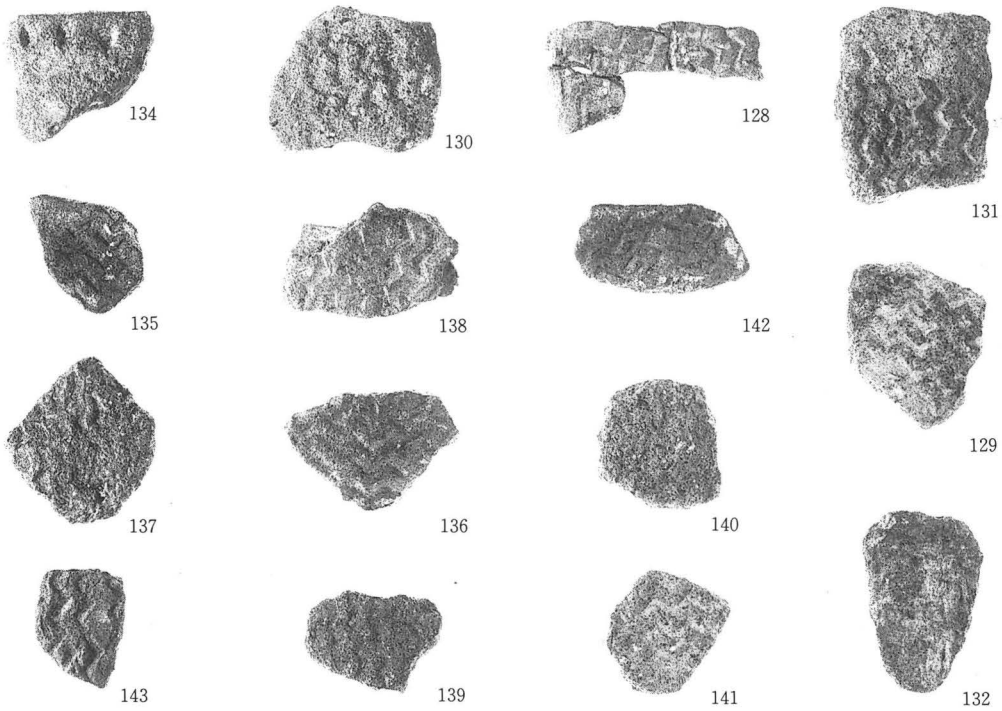
2．有舌尖頭器出土状況

3．石鏃出土状況

図版二七　縄文時代の遺物

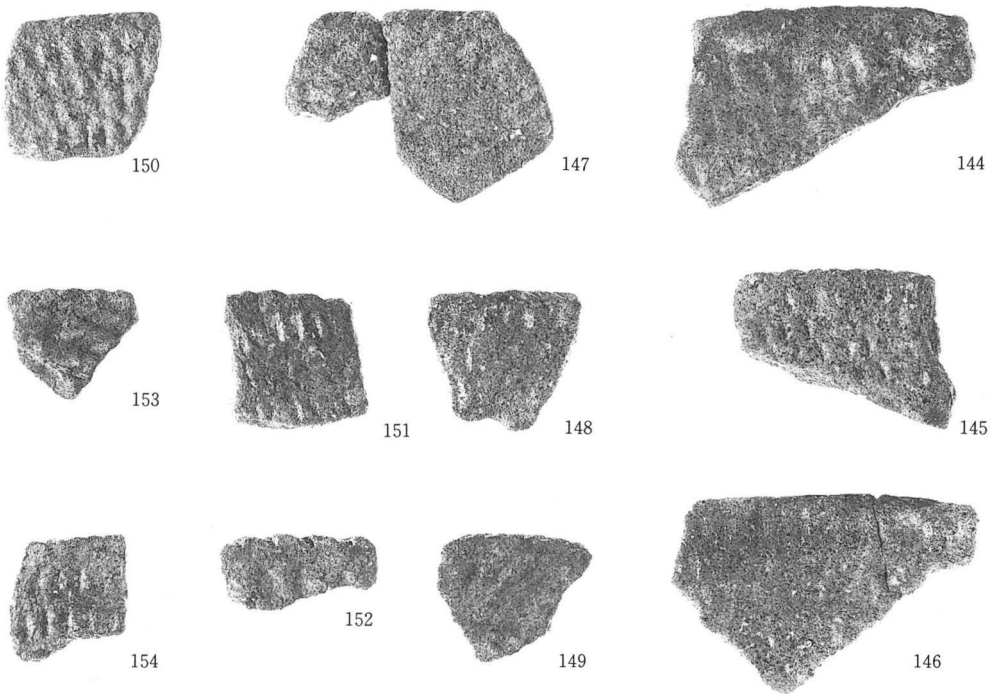


1．縄文土器 深鉢 Ⅰ群土器（½）



2．縄文土器 深鉢 Ⅰ群土器（½）

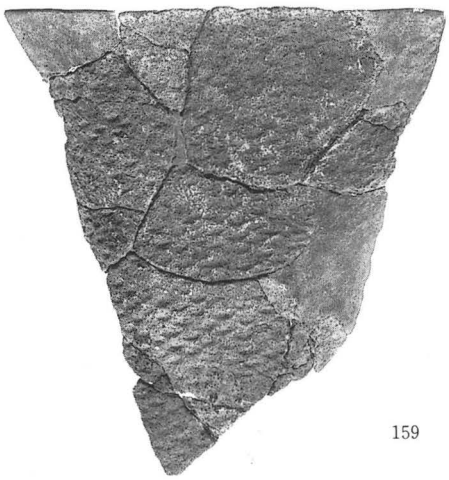
図版二八　縄文時代の遺物



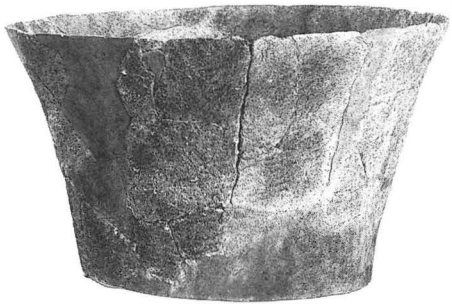
1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-A群土器（½）

2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_1イ群土器（½）

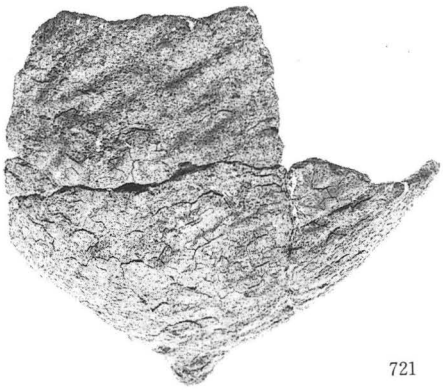
図版二九　縄文時代の遺物



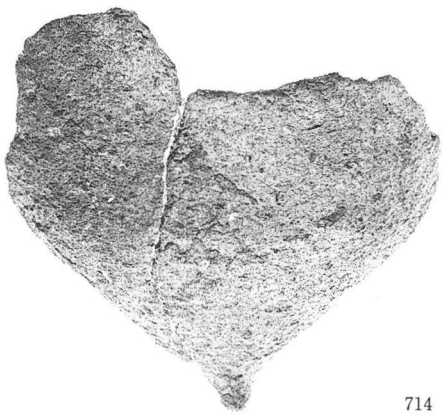
159



158

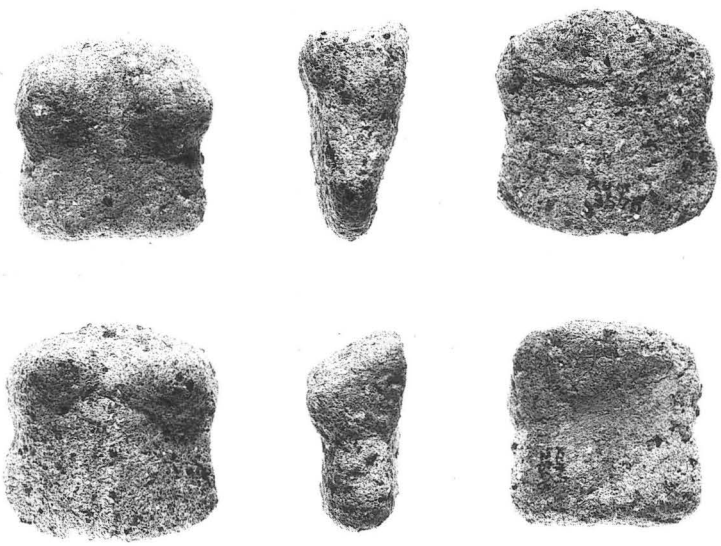


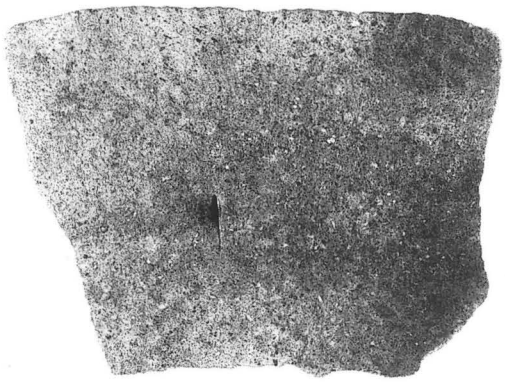
721



714

159 縄文土器 深鉢
　Ⅱ-B_1イ群土器
158 縄文土器 深鉢
　Ⅱ-B_2イ群土器
714・721 縄文土器底部
　土偶

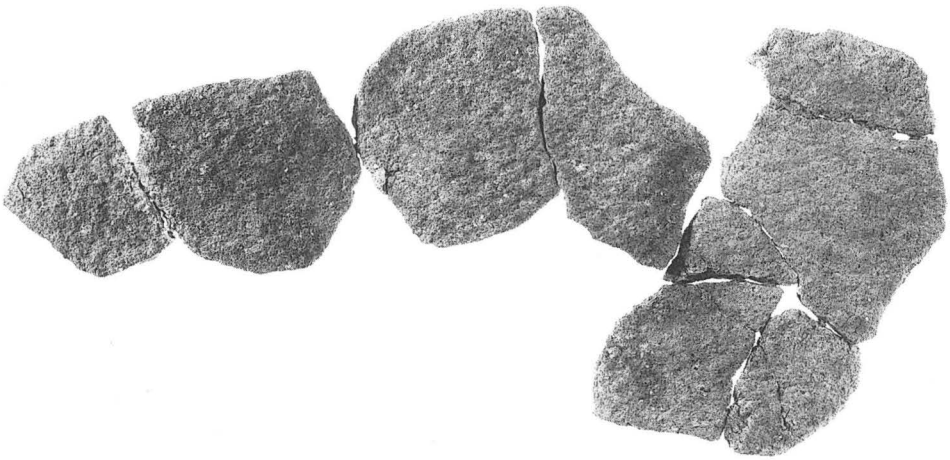




157

165

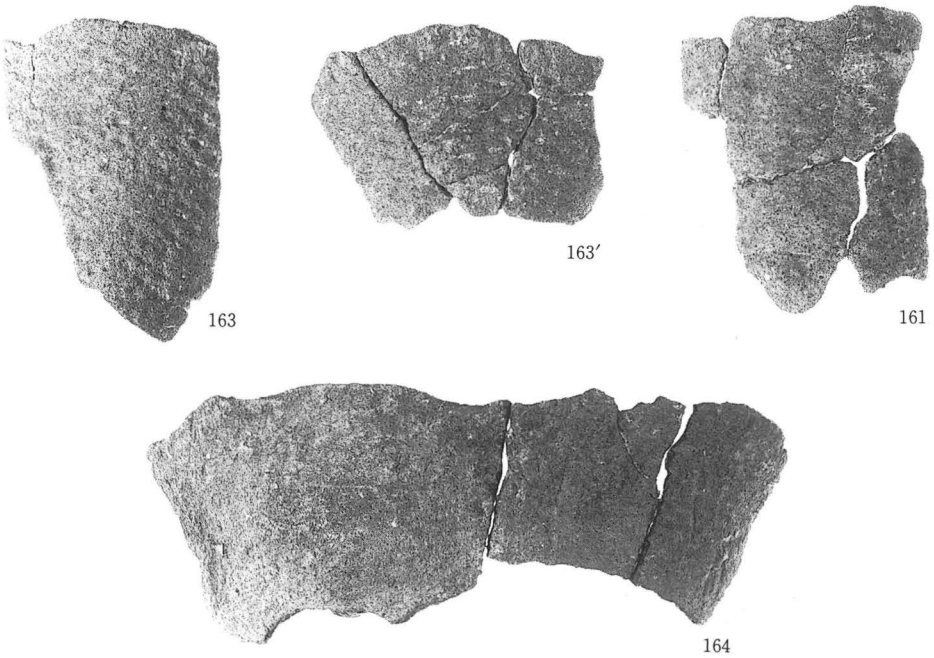
1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（1/3）



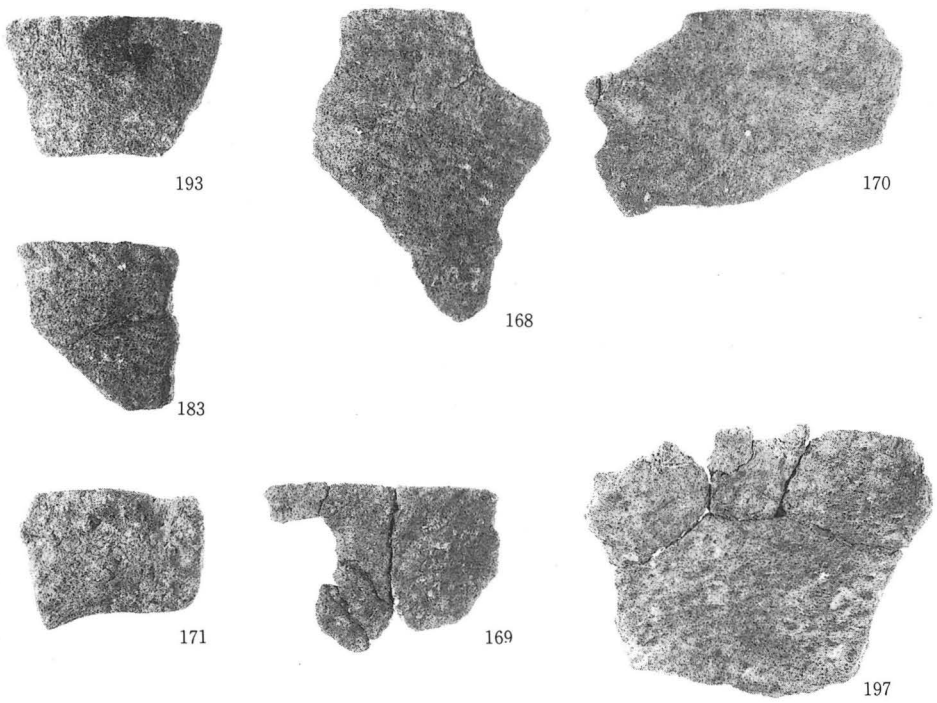
160

2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（1/3）

図版三一　縄文時代の遺物

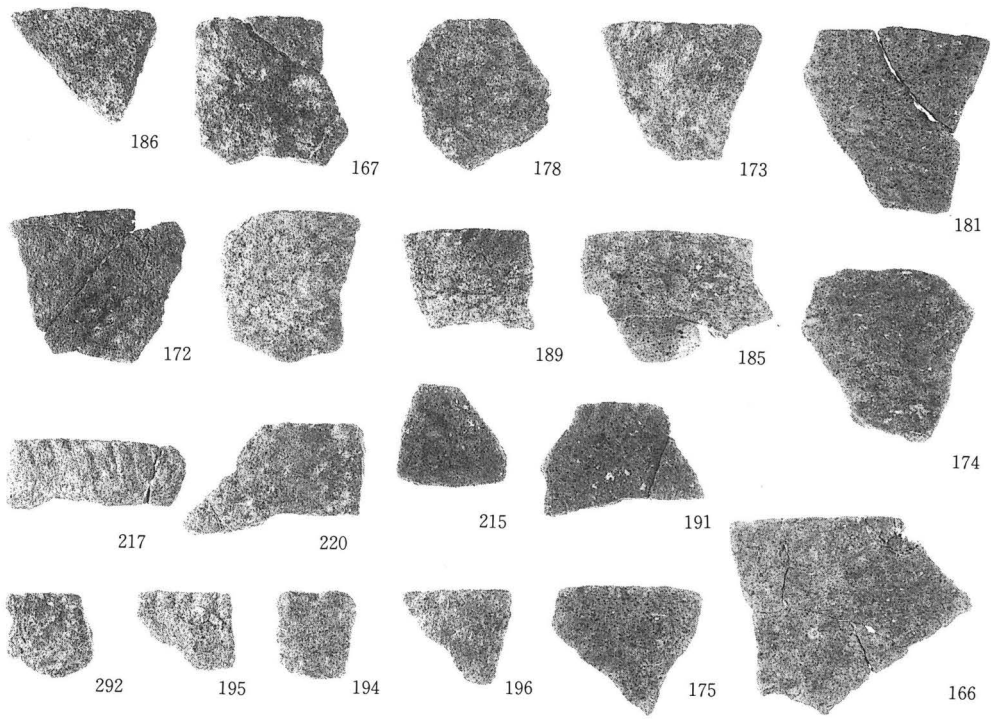


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（1/3）

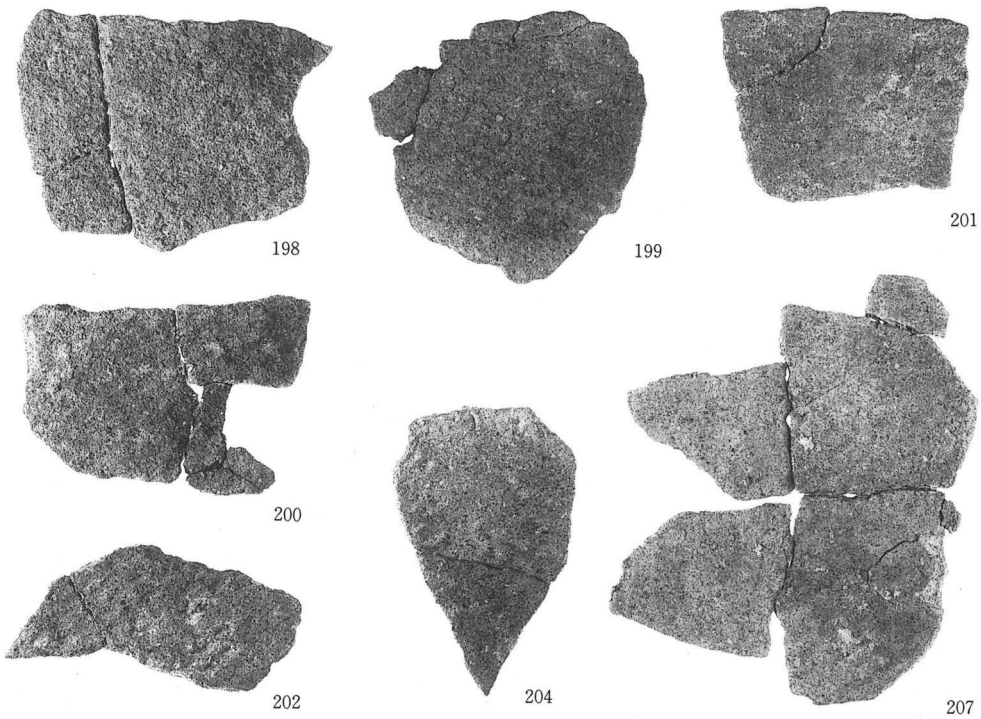


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（1/3）

図版三一　縄文時代の遺物

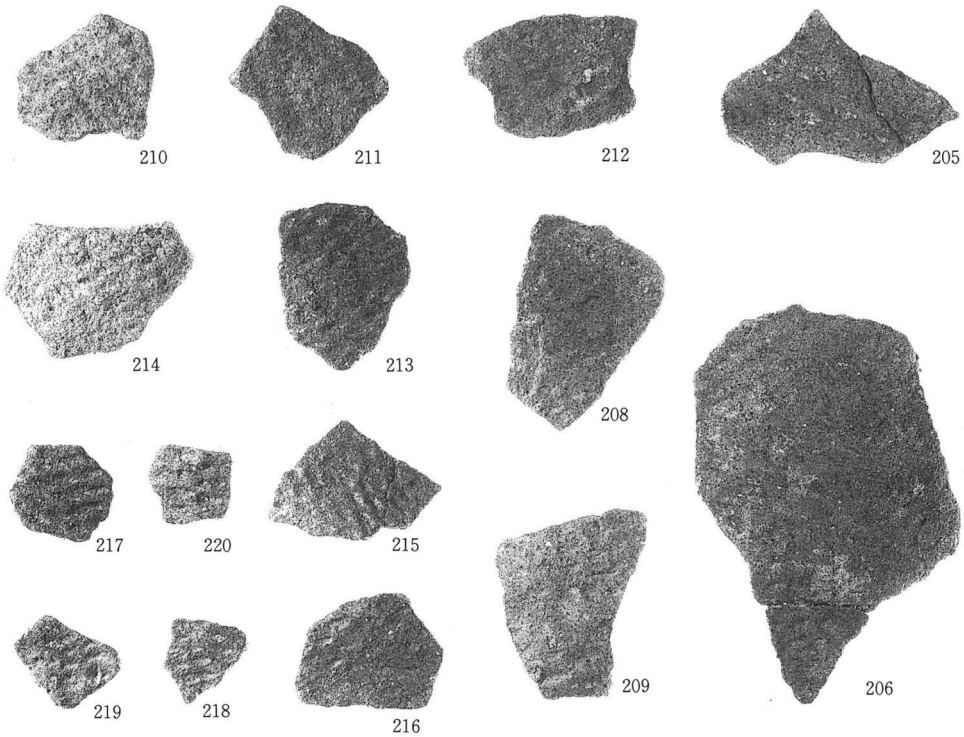


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（⅓）

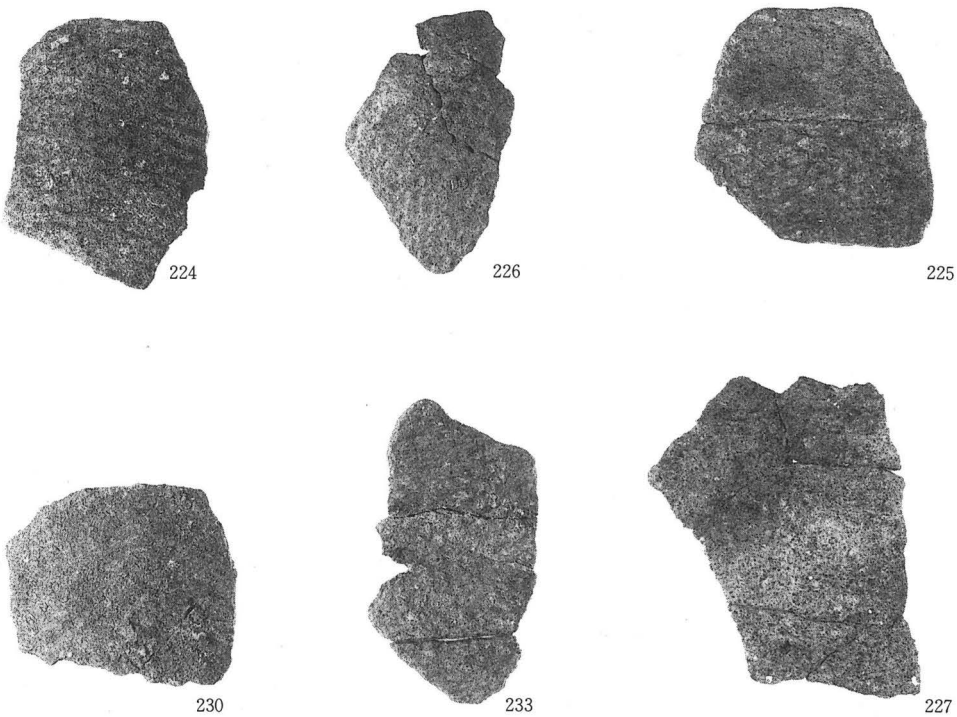


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（⅓）

図版三三　縄文時代の遺物

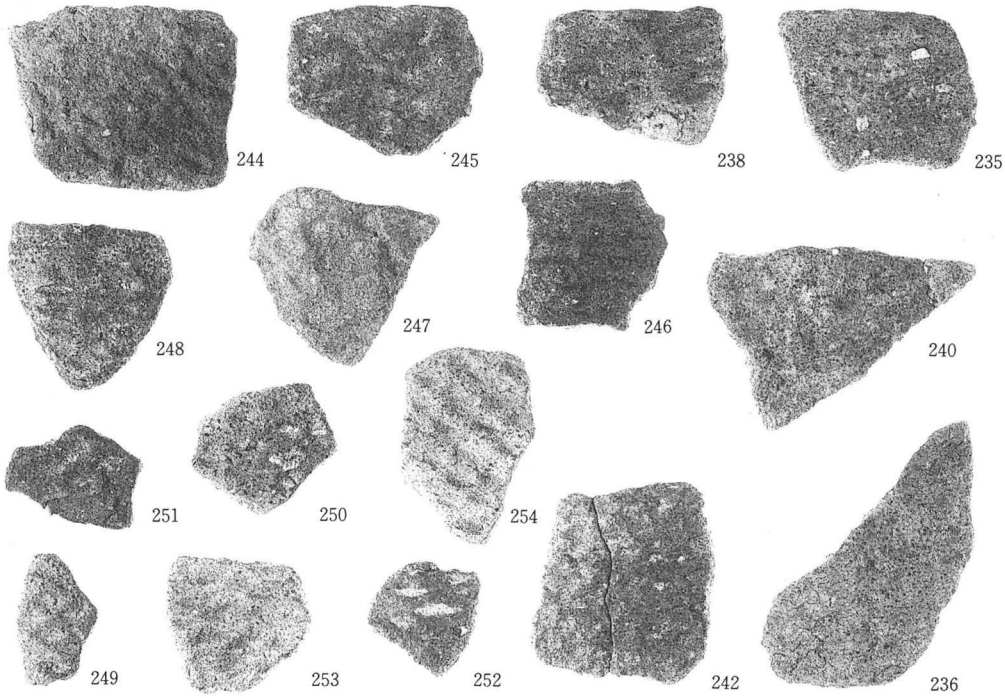


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（1/3）

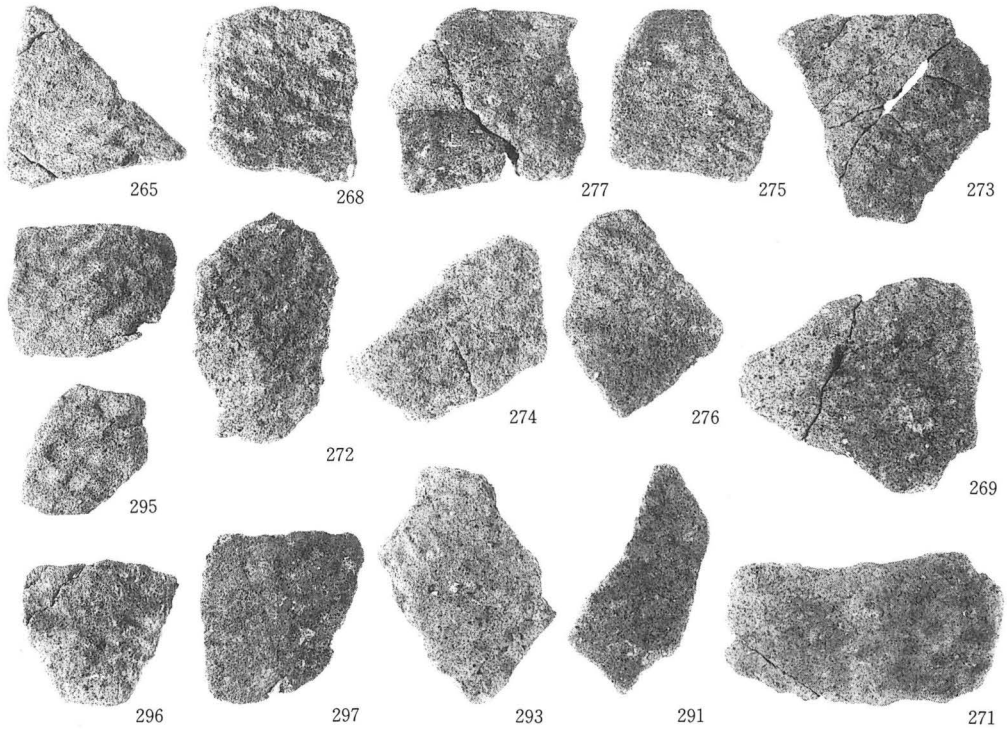


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（1/3）

図版三四　縄文時代の遺物

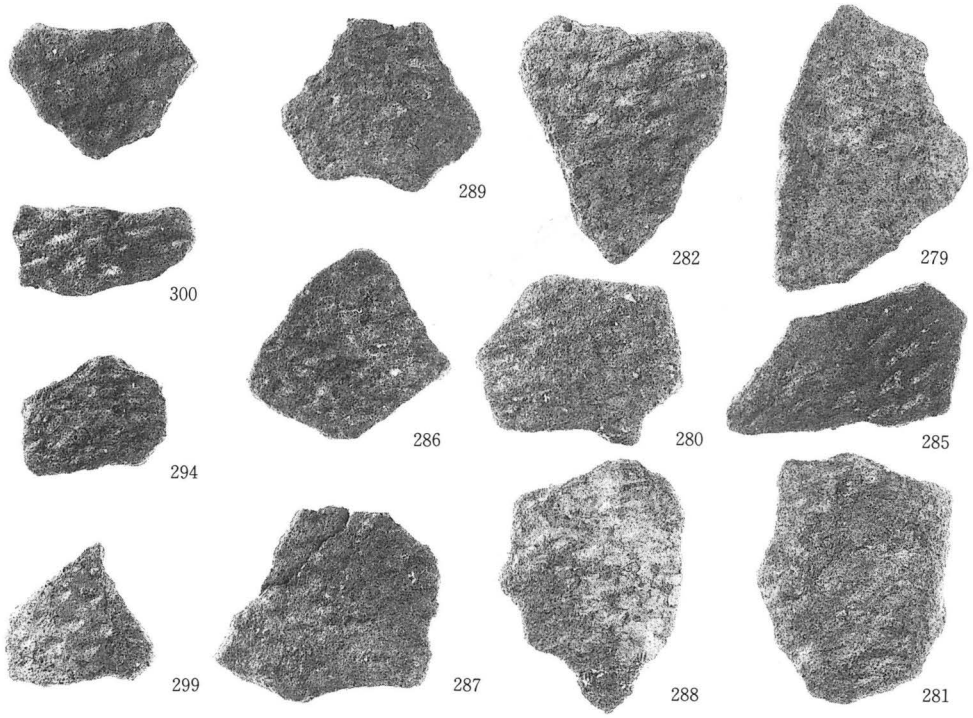


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（½）

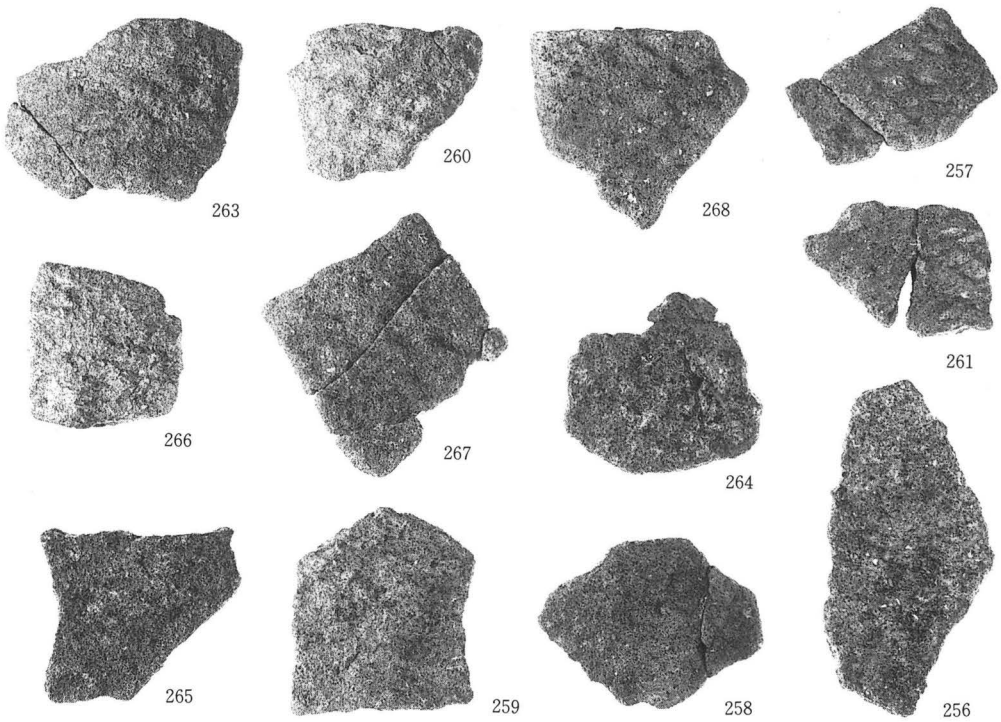


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（½）

図版三五　縄文時代の遺物



1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（½）

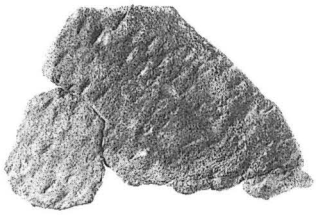


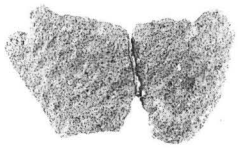
2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁イ群土器（½）

図版三六　縄文時代の遺物

313

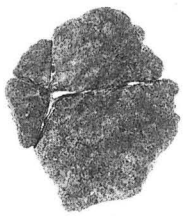
301


312


307

1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_1ロ群土器（1/3）

317


306

302

304

315

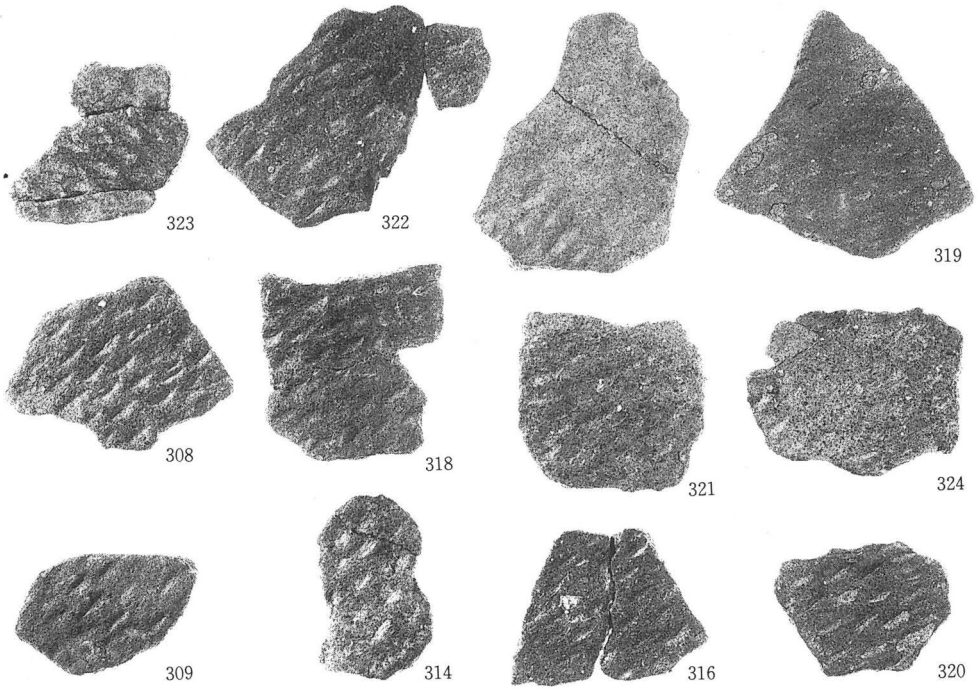
309

310

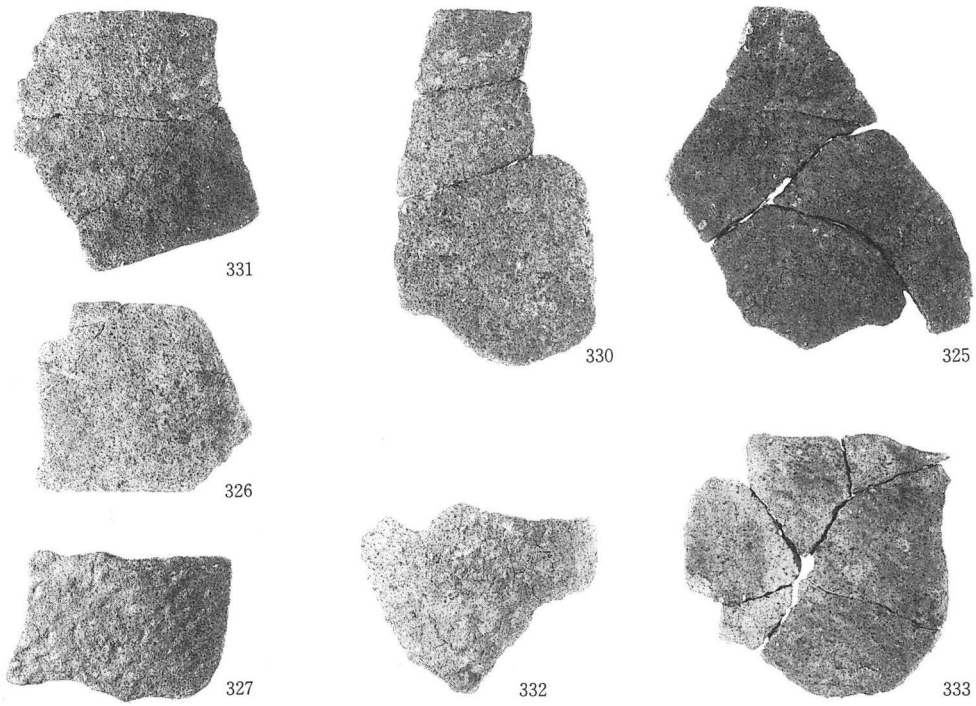
303

2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_1ロ群土器（1/3）

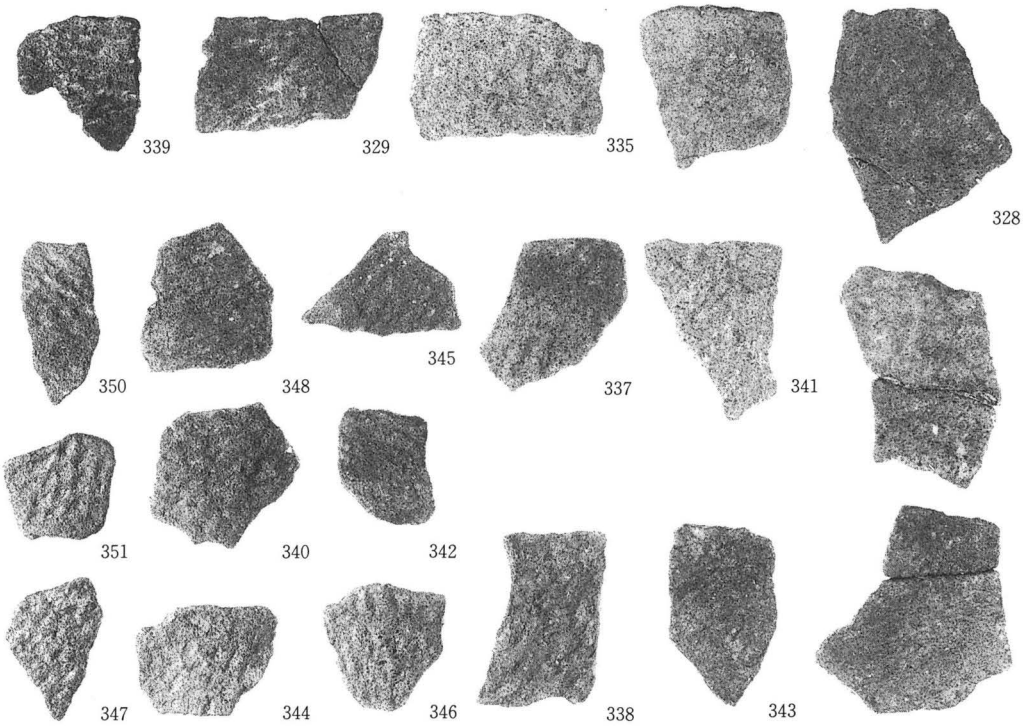
図版三七　縄文時代の遺物



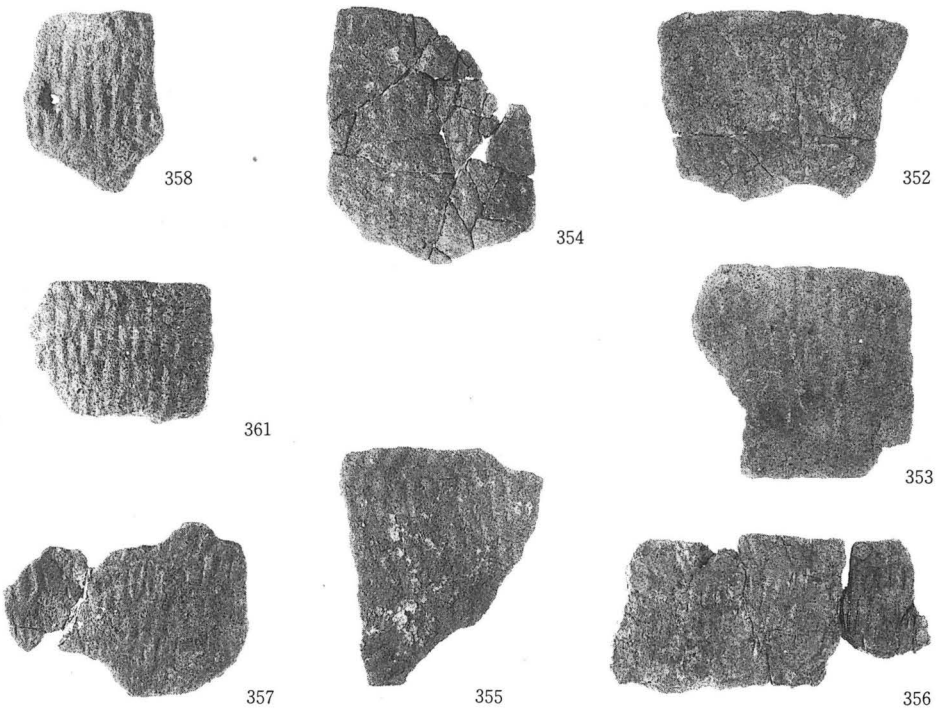
1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁ロ群土器（½）



2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁ロ群土器（⅓）

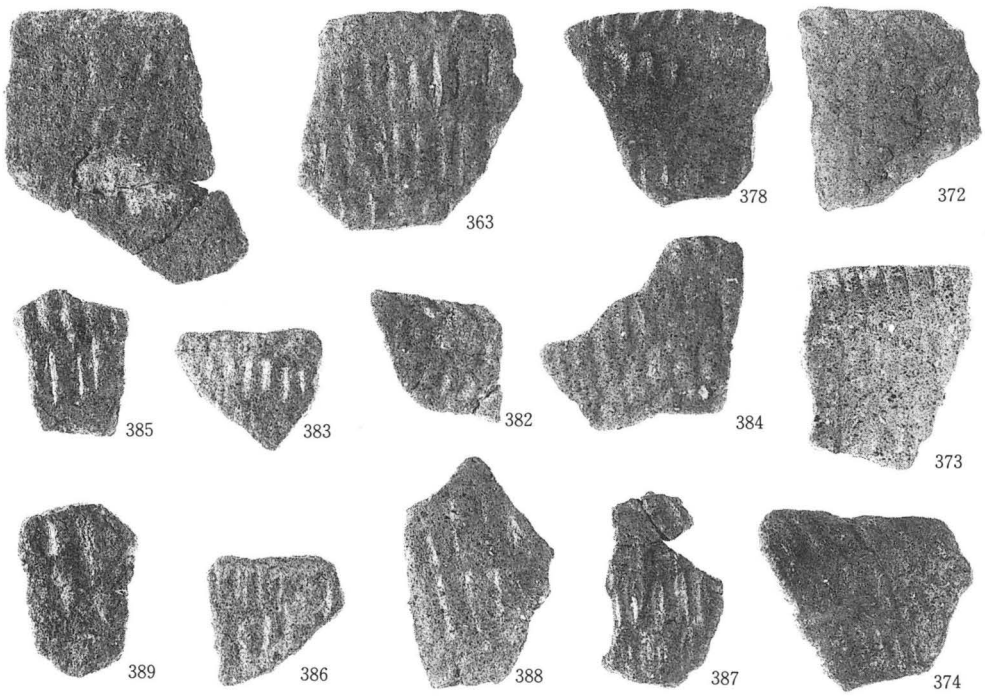


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁ロ群土器（1/3）

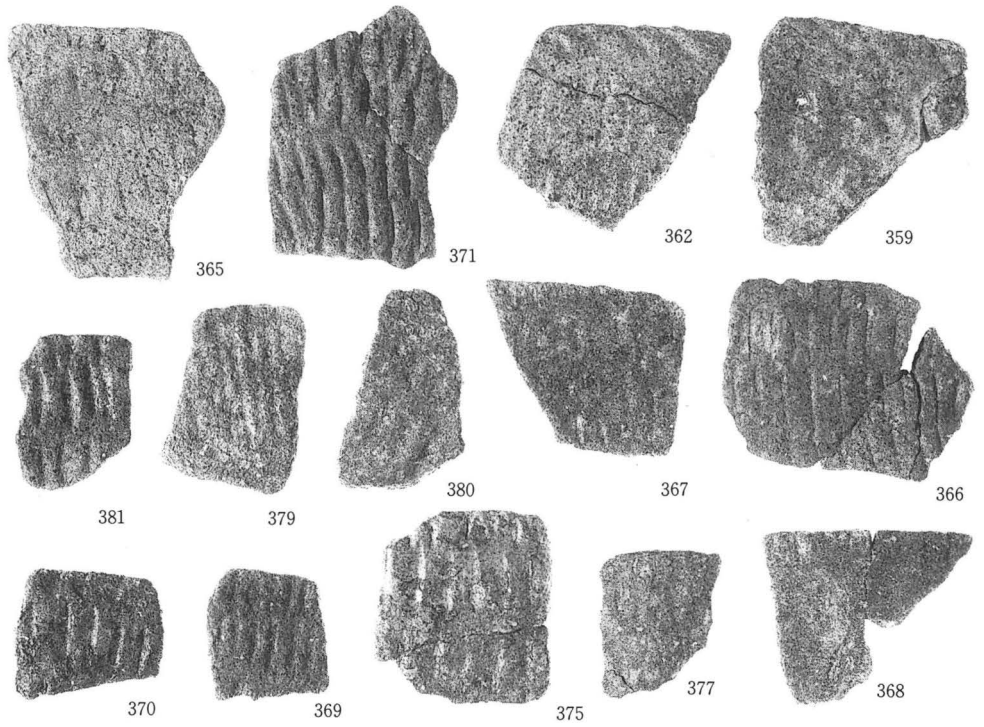


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁ハ群土器（1/3）

図版三九　縄文時代の遺物

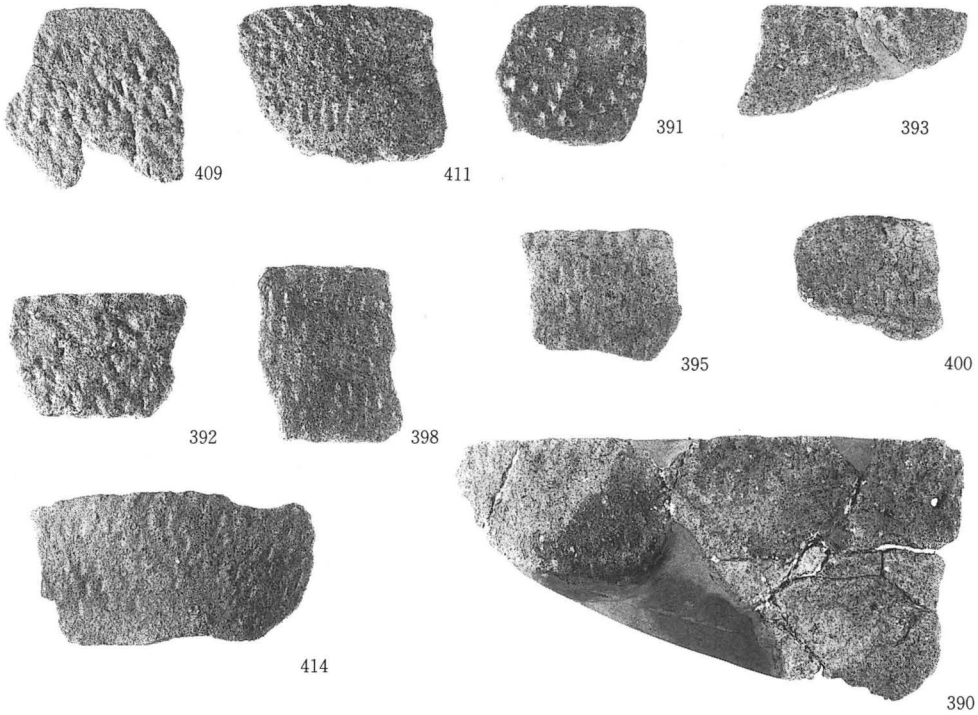


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁ハ群土器（½）

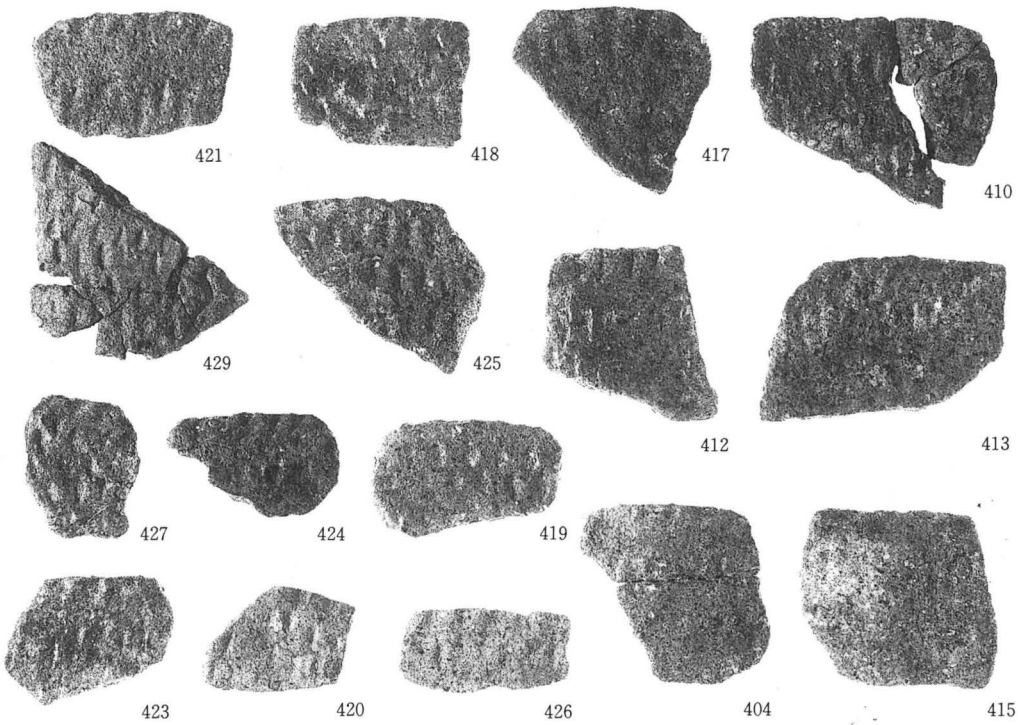


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁ハ群土器（½）

図版四〇　縄文時代の遺物

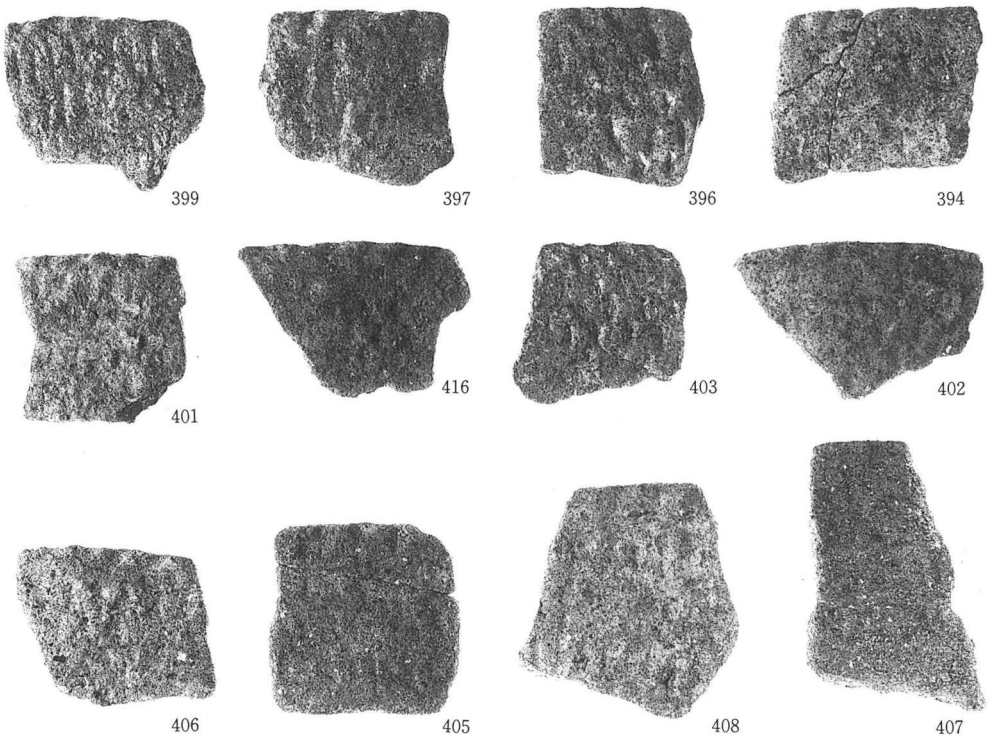


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁ハ群土器（⅓）

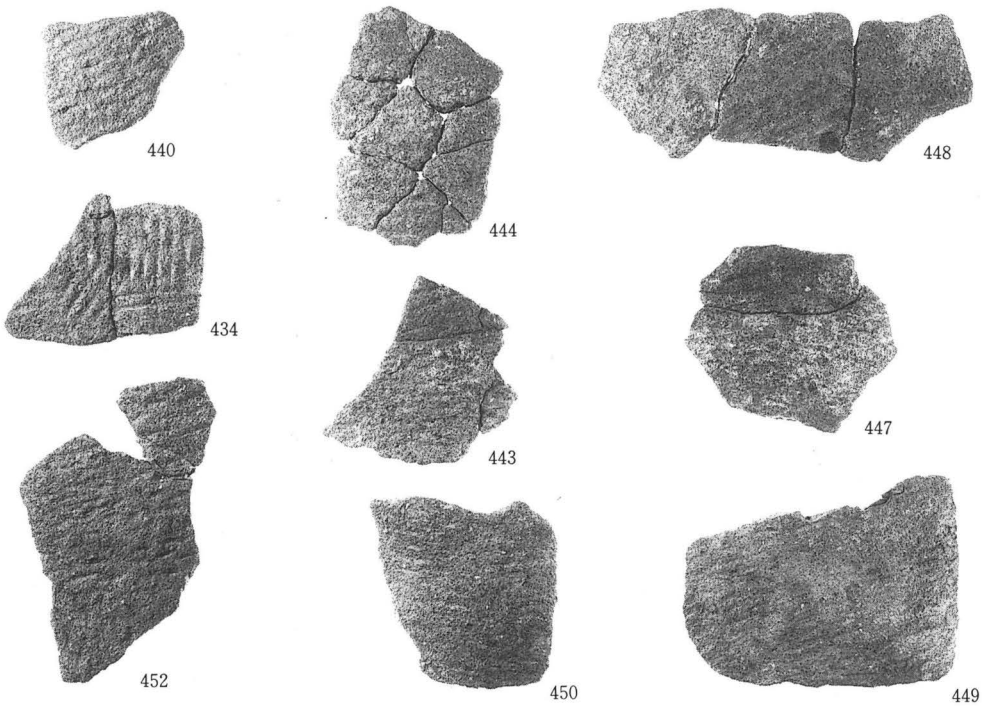


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₁ハ群土器（½）

図版四一　縄文時代の遺物

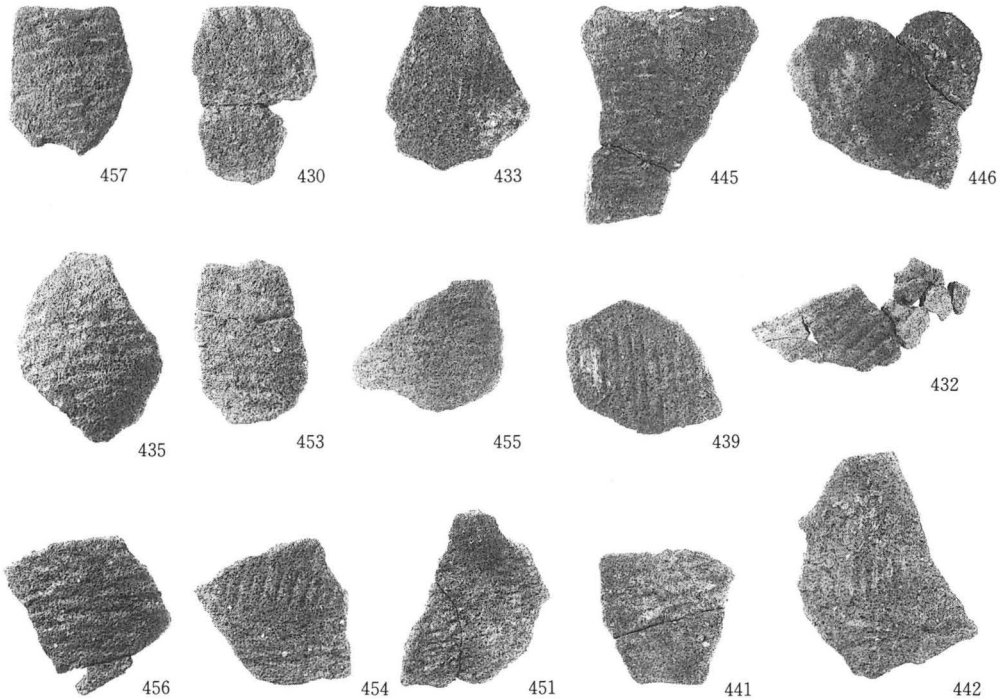


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_1ハ群土器（½）

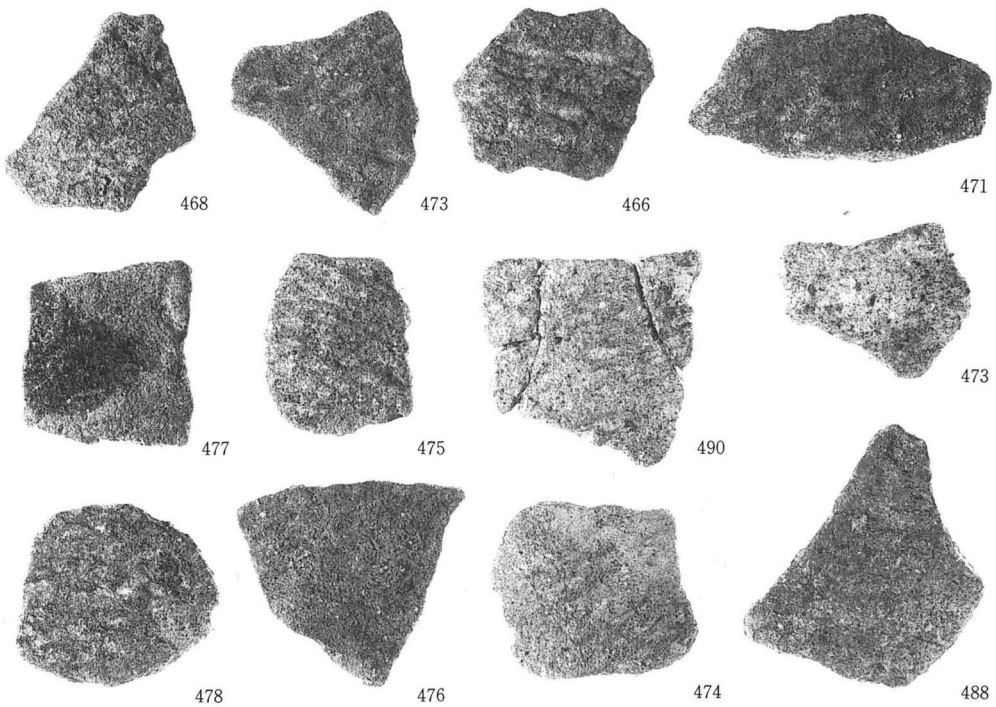


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_2イ群土器（⅓）

図版四二　縄文時代の遺物

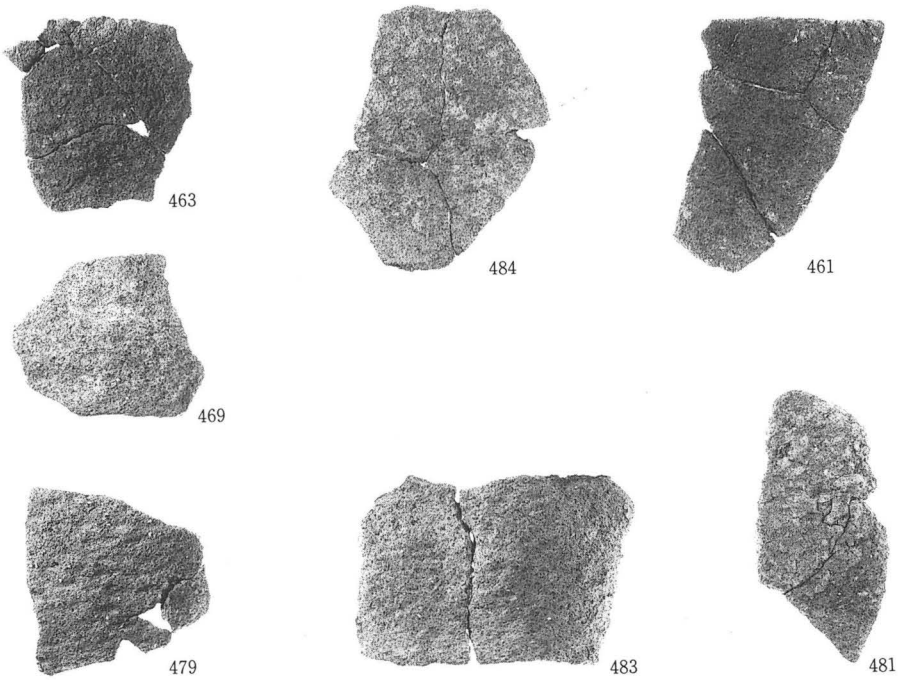


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₂イ群土器（1/3）

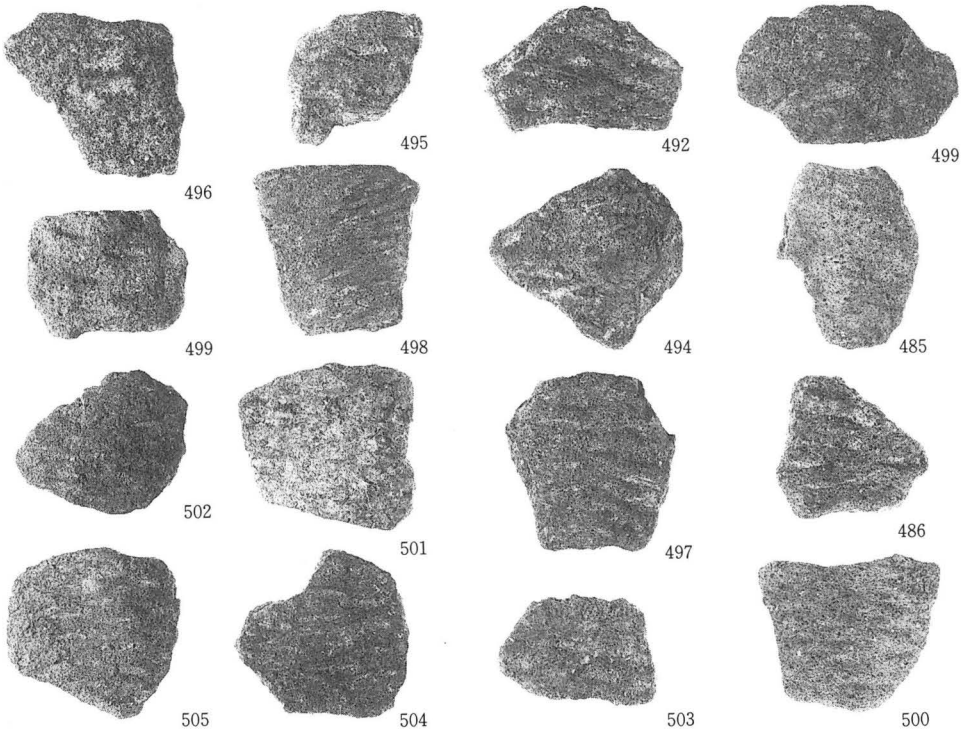


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B₂イ群土器（1/2）

図版四三　縄文時代の遺物

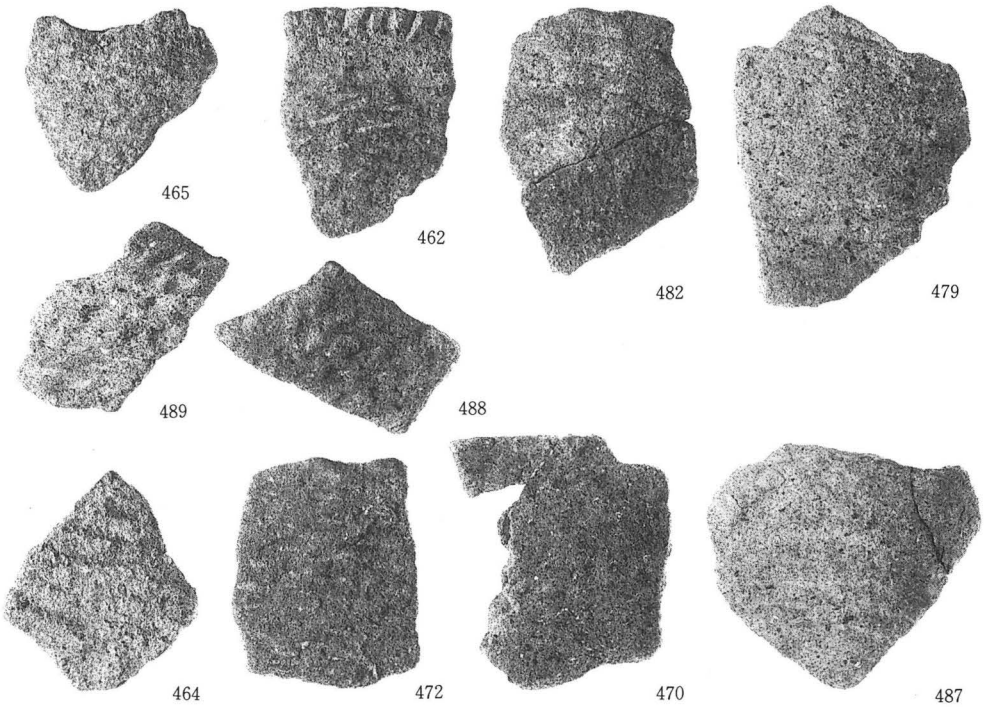


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_2イ群土器（⅓）

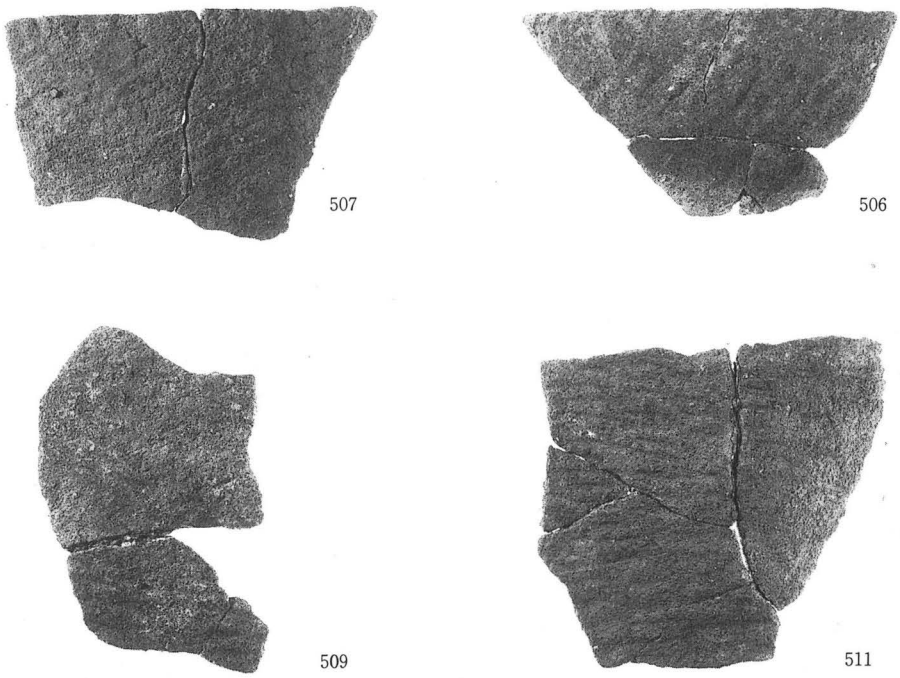


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_2イ群土器（½）

図版四四　縄文時代の遺物

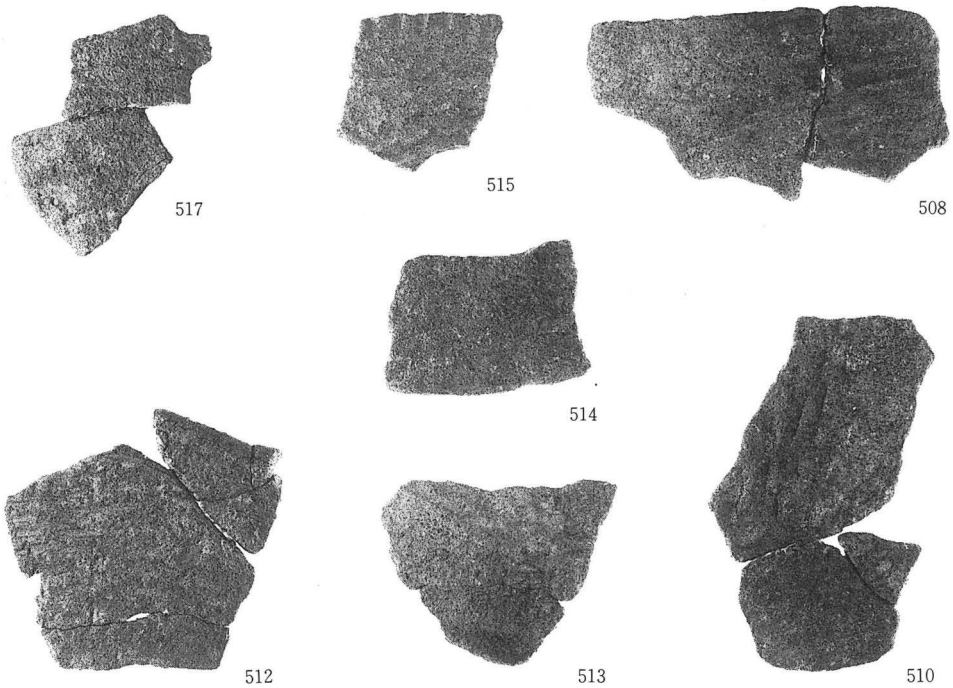


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_2イ群土器（½）

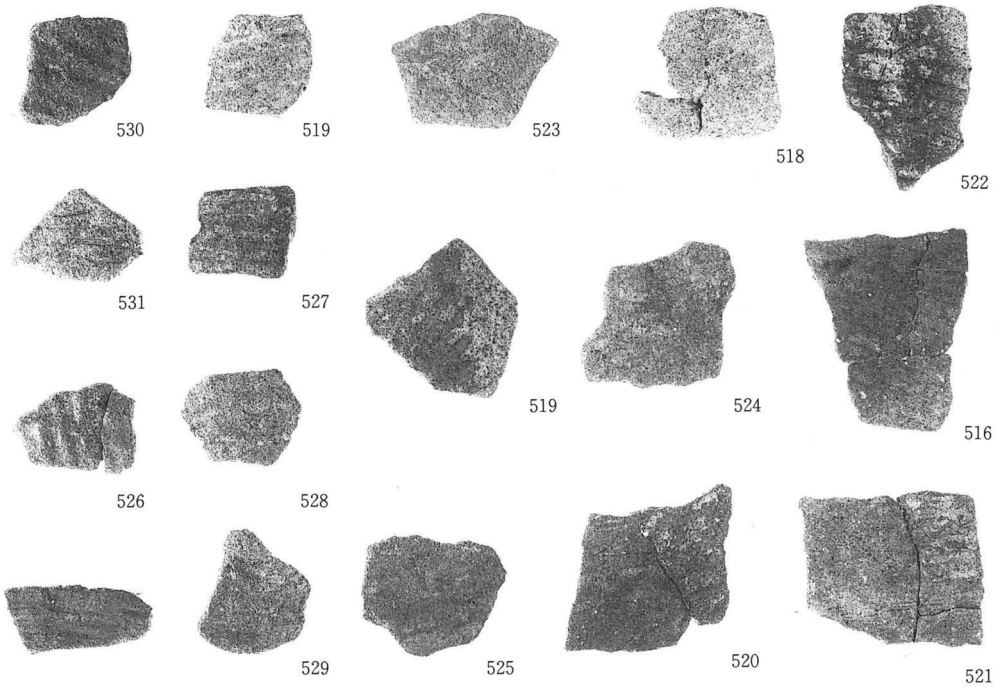


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_2ロ群土器（⅓）

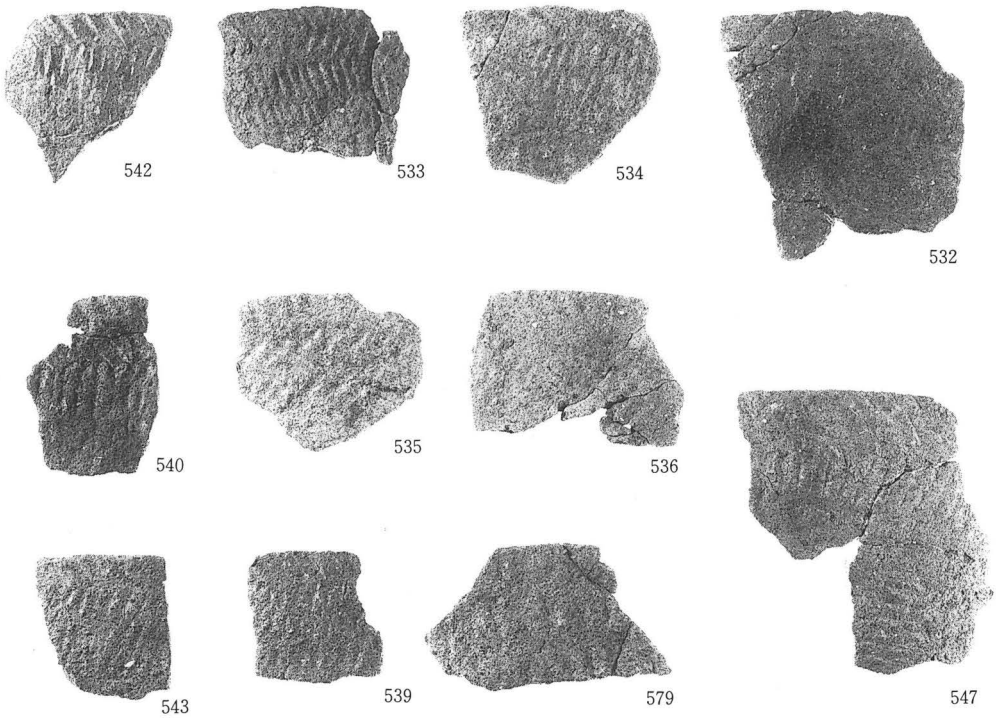
図版四五　縄文時代の遺物



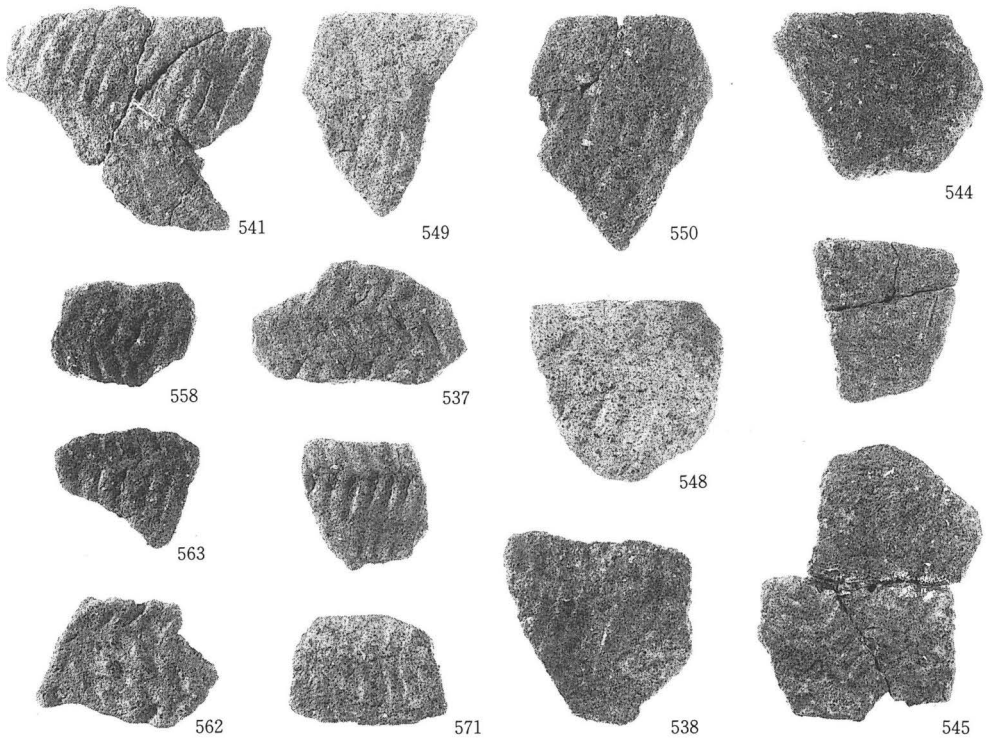
1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_2ロ群土器（1/3）



2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_2ロ群土器（1/3）

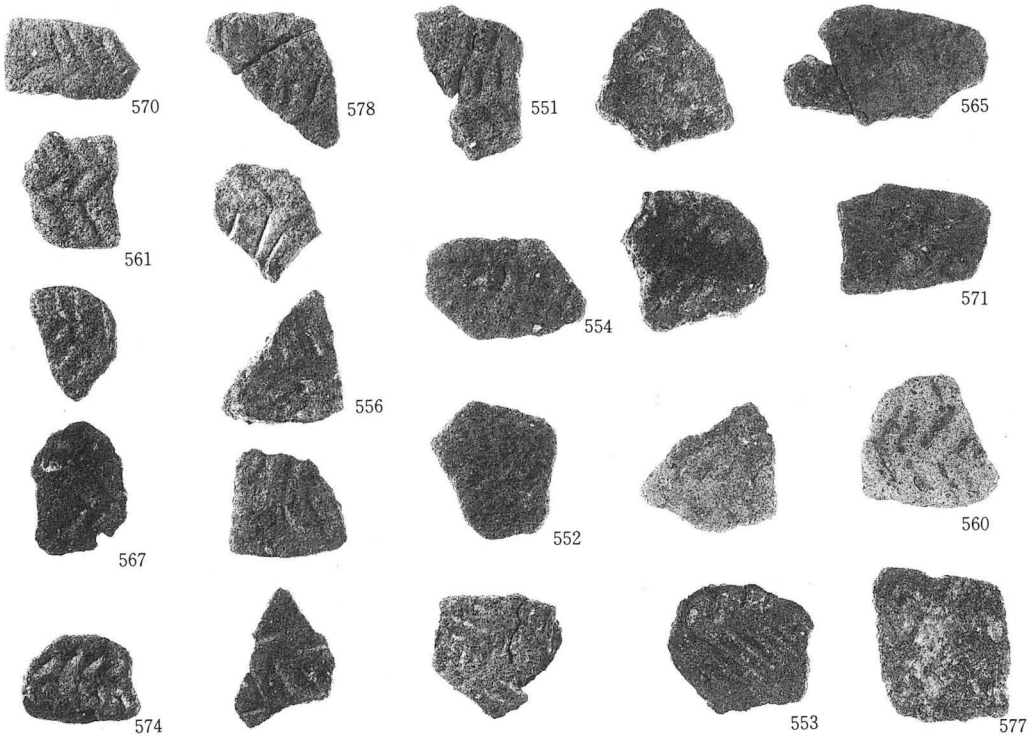


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_3群土器（1/3）

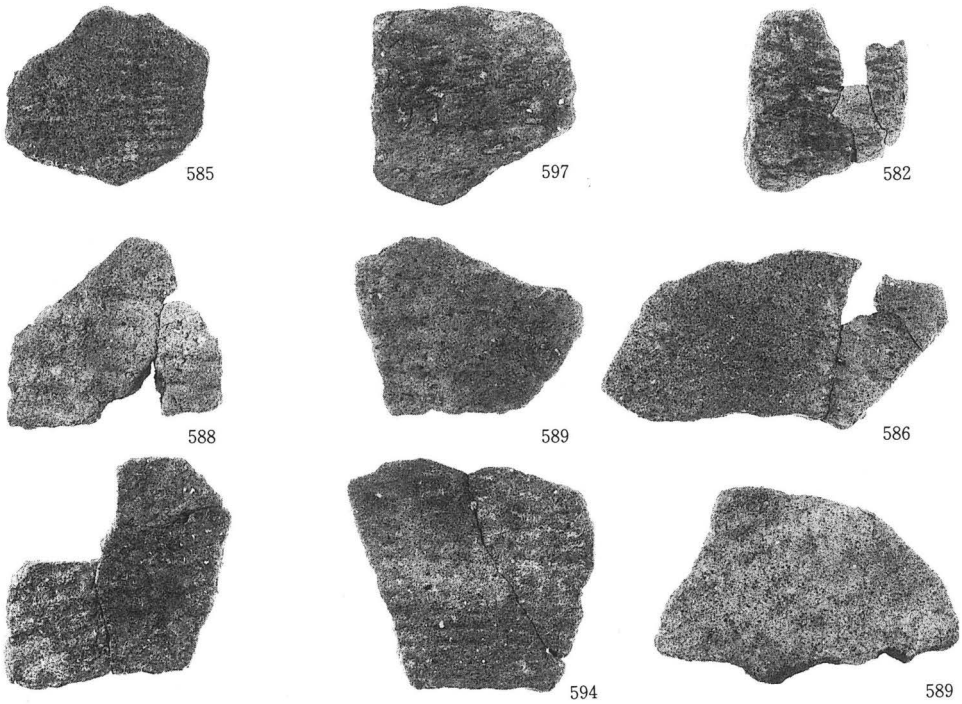


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_3群土器（1/2）

図版四七　縄文時代の遺物

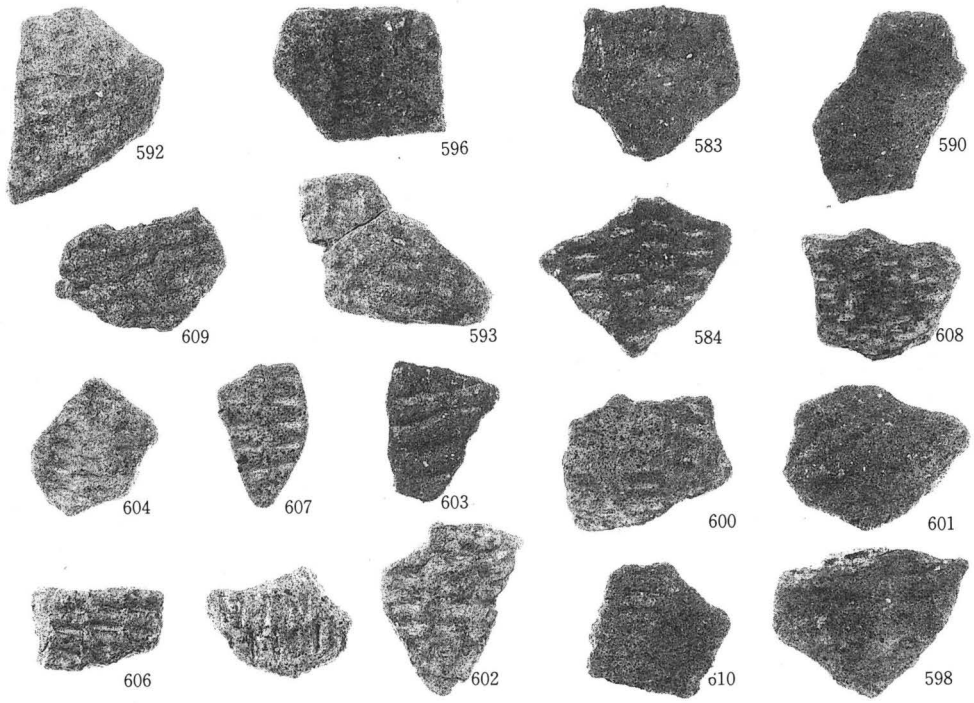


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_3群土器

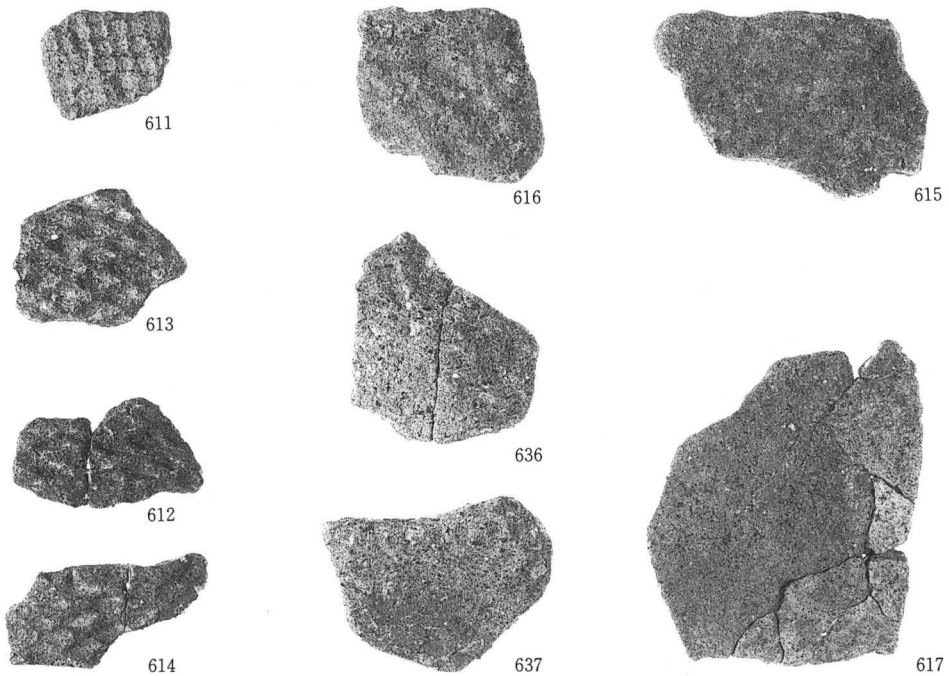


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_4群土器（½）

図版四八　縄文時代の遺物

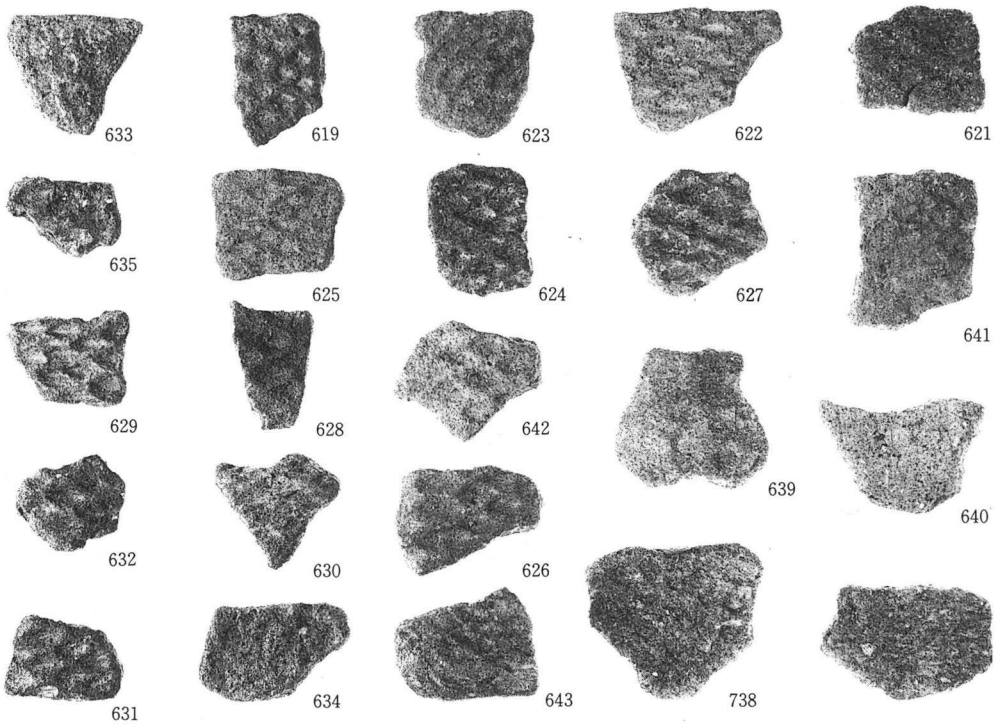


1．縄文土器深鉢 Ⅱ-B_4群土器（½）

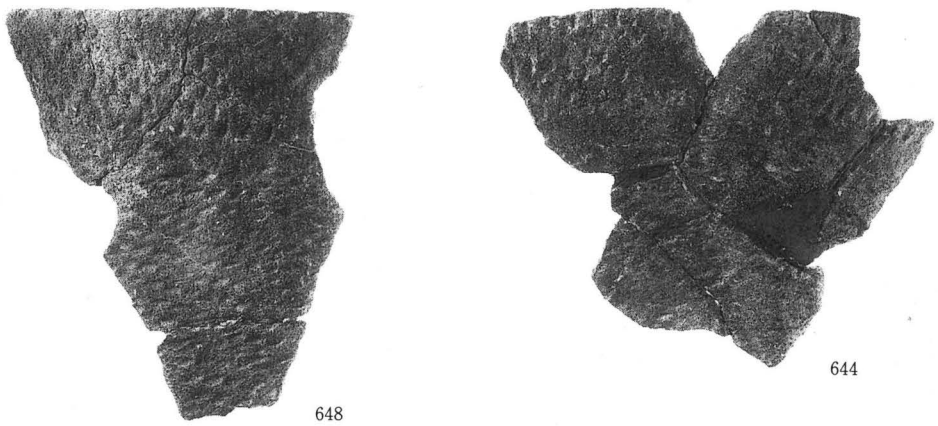


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_5群土器（½）

図版四九　縄文時代の遺物

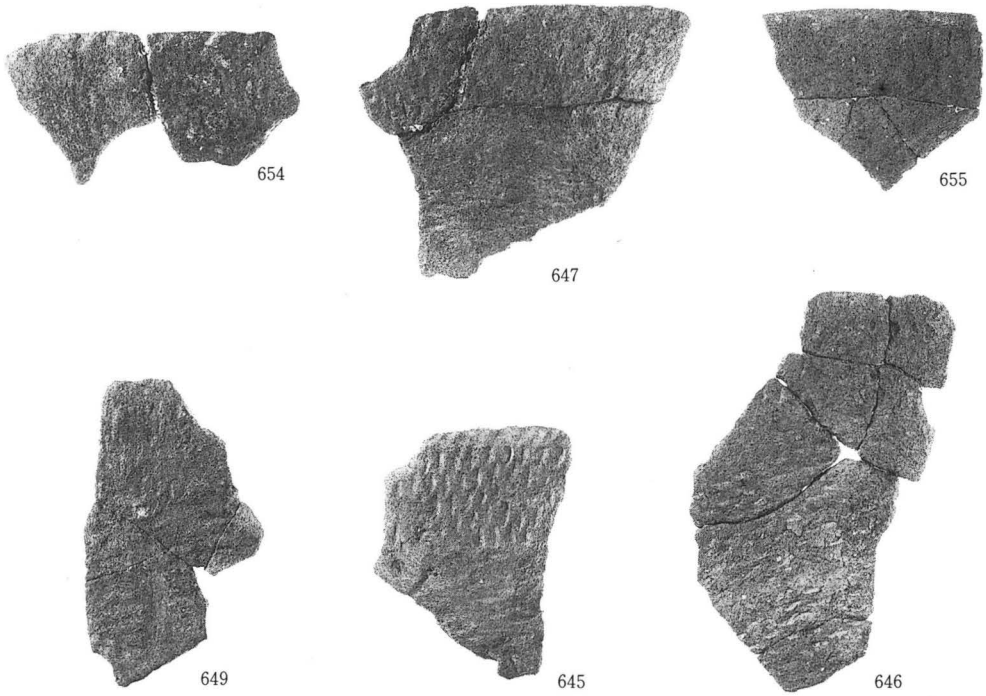


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-B_5群土器（½）

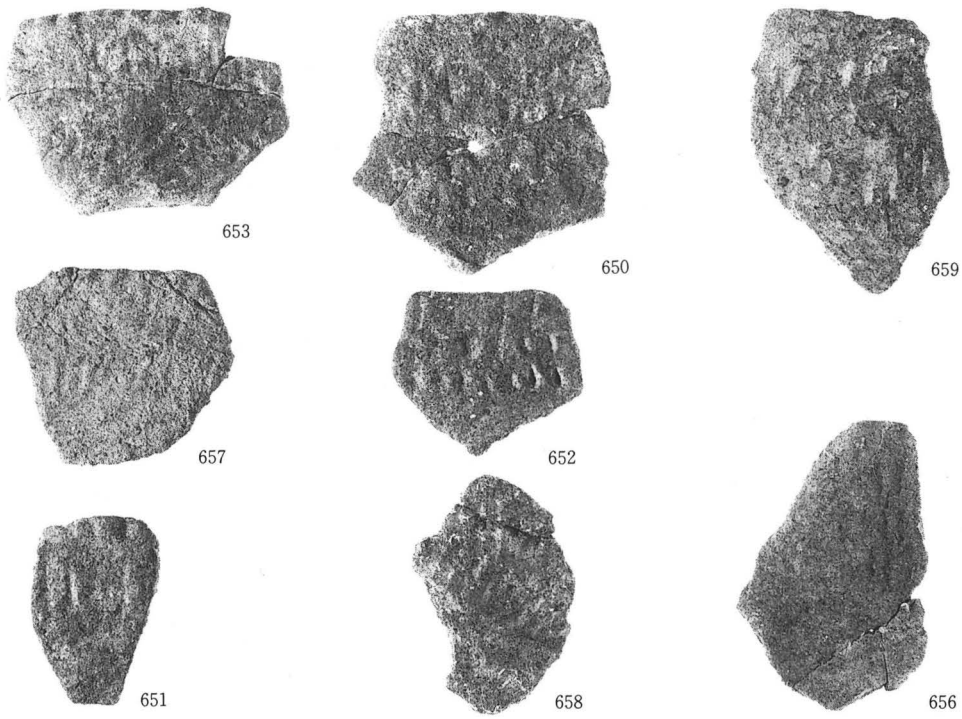


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-C群土器（⅓）

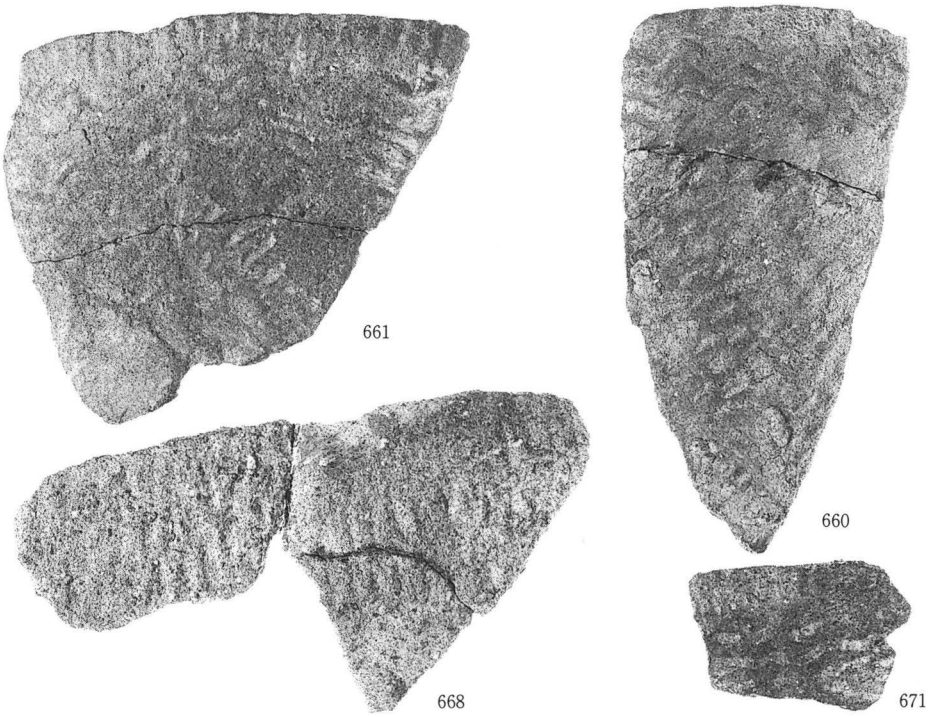
図版五〇　縄文時代の遺物



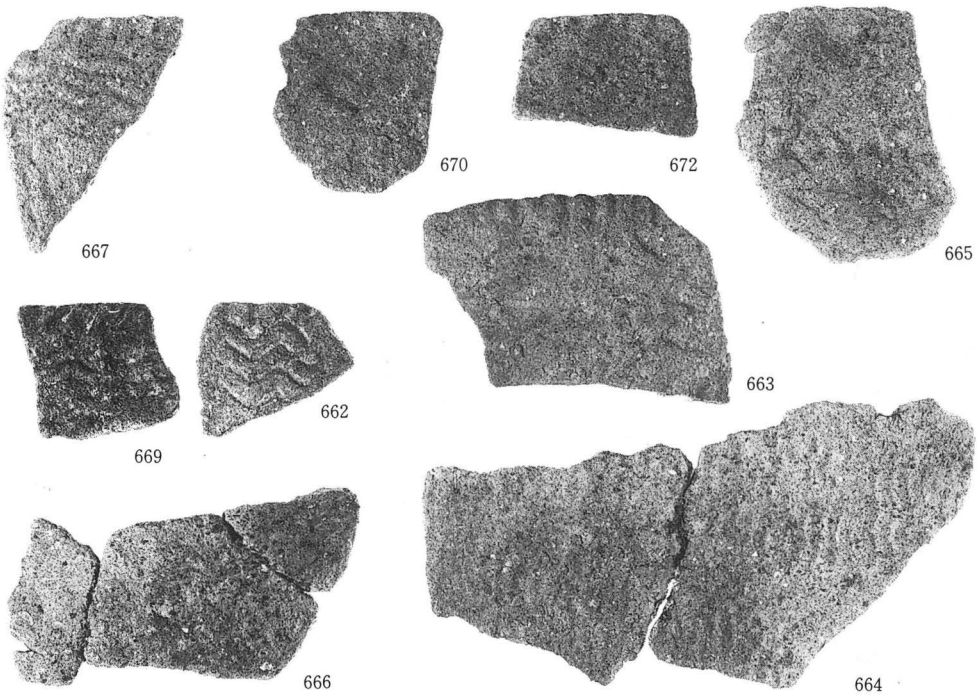
1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-C群土器（1/3）



2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-C群土器（1/2）

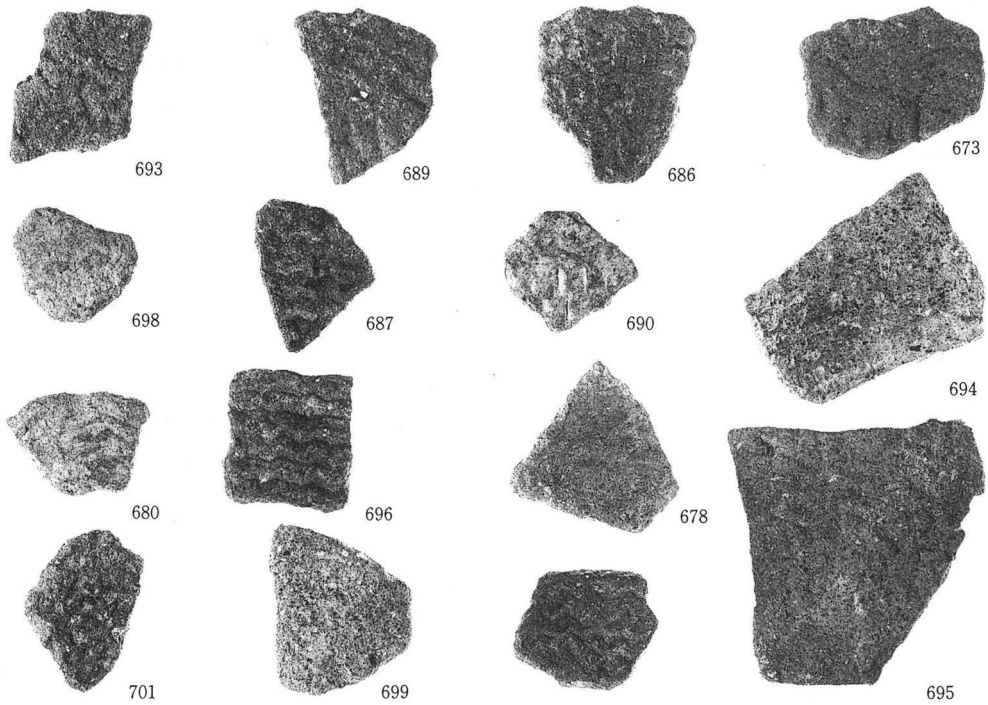


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-D群土器（½）

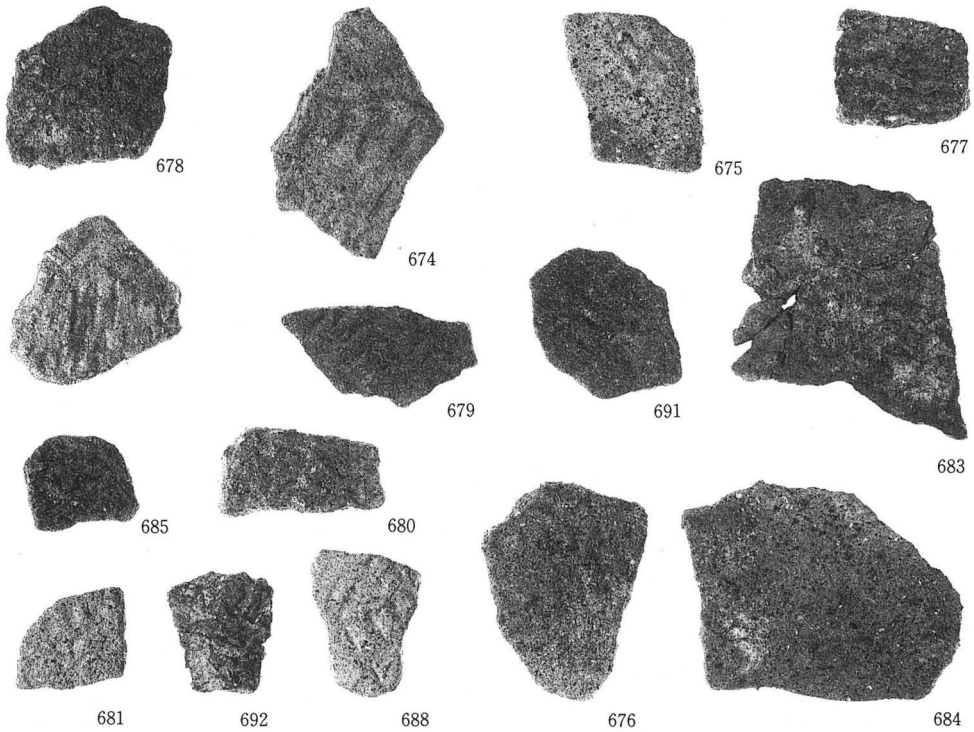


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-D群土器（½）

図版五二　縄文時代の遺物

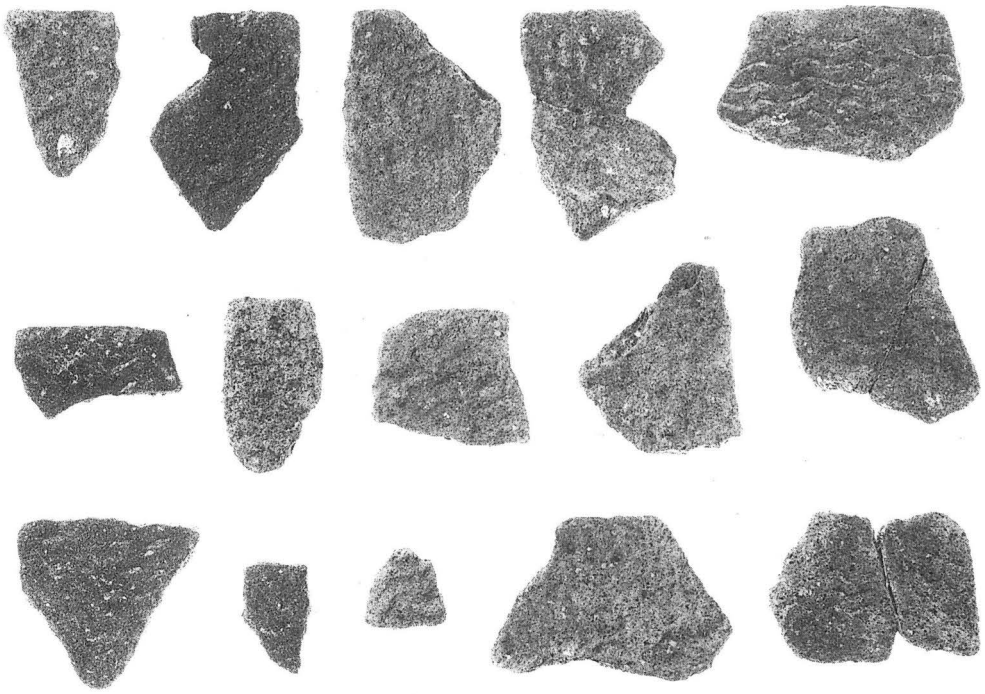


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-D群土器（½）

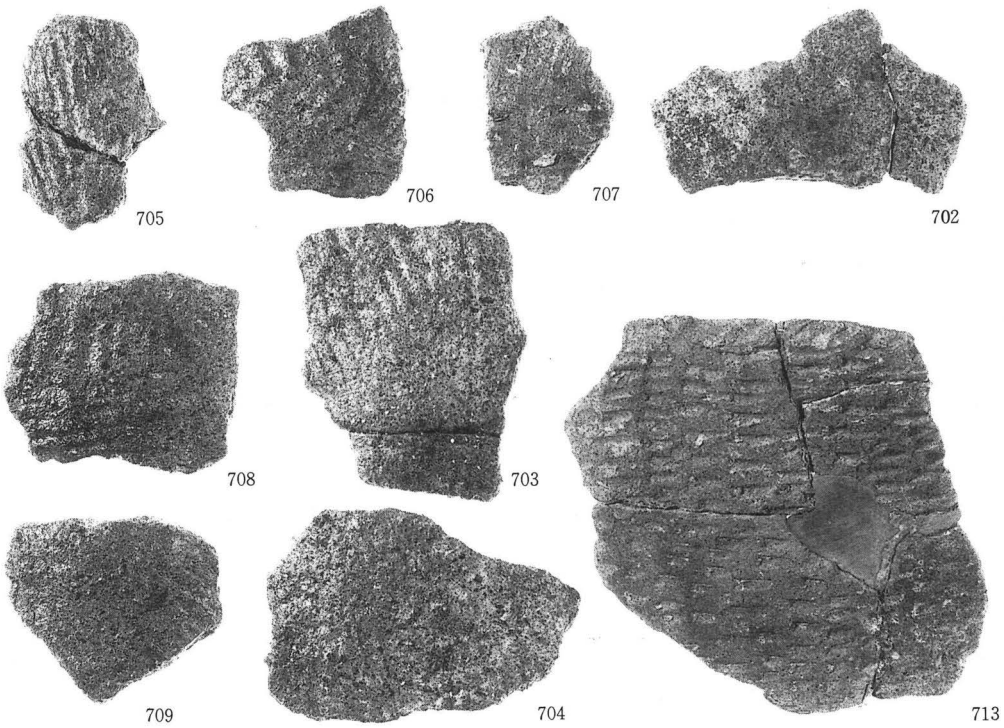


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-D群土器（½）

図版五三　縄文時代の遺物

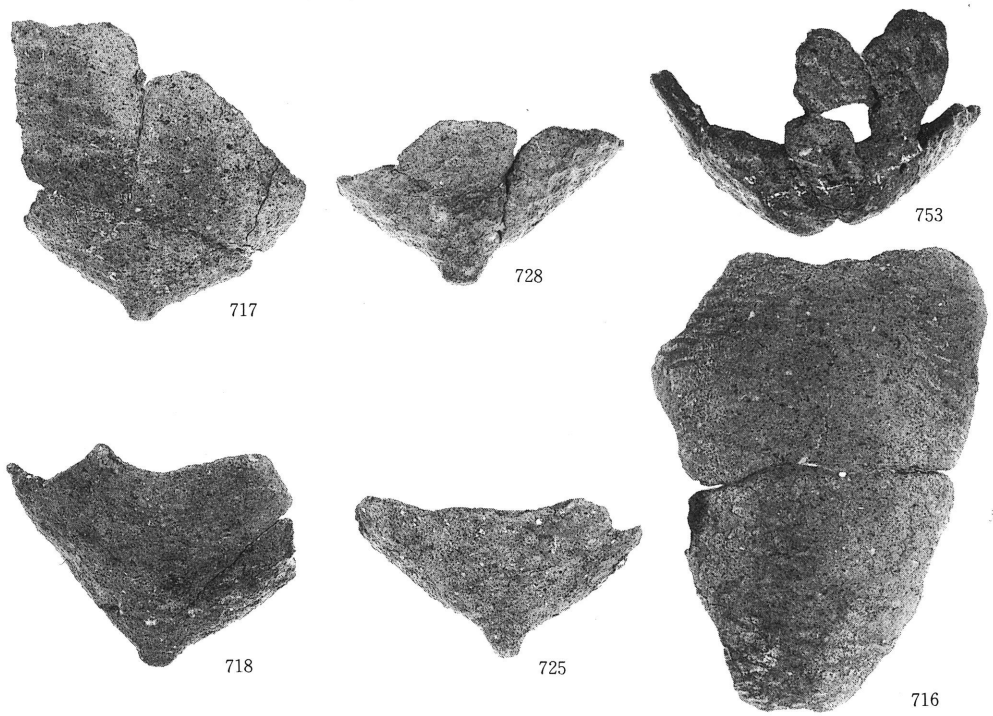


1．縄文土器 深鉢 Ⅱ-D群土器（½）

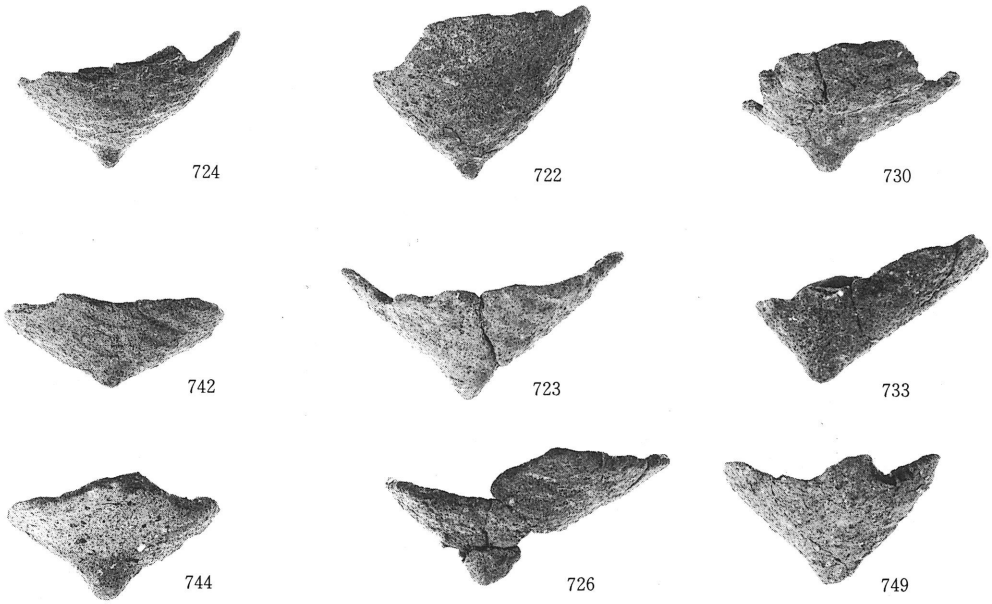


2．縄文土器 深鉢 Ⅱ-E・F群土器（½）

図版五四　縄文時代の遺物

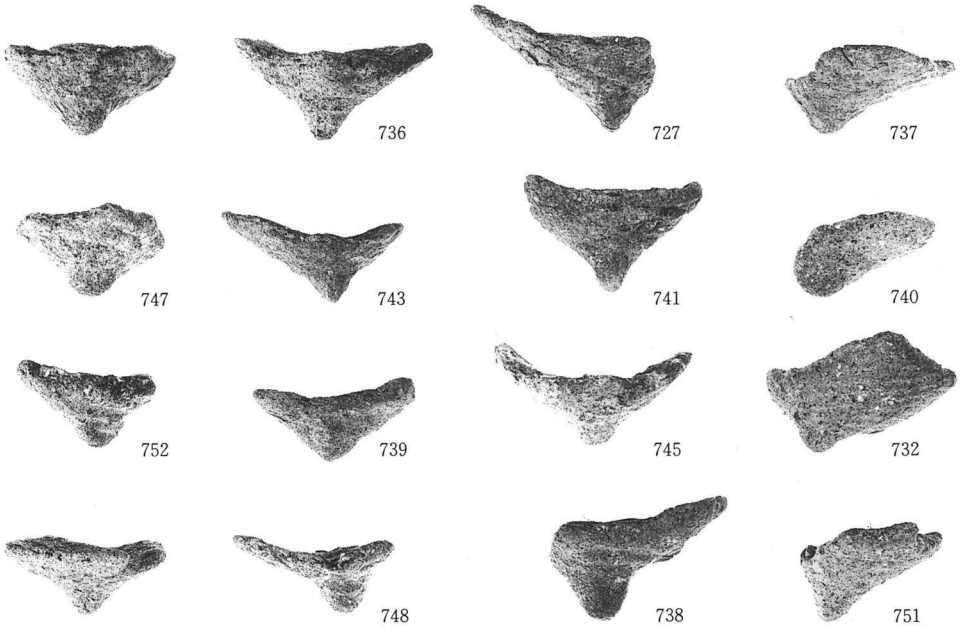


1．縄文土器 底部（½）

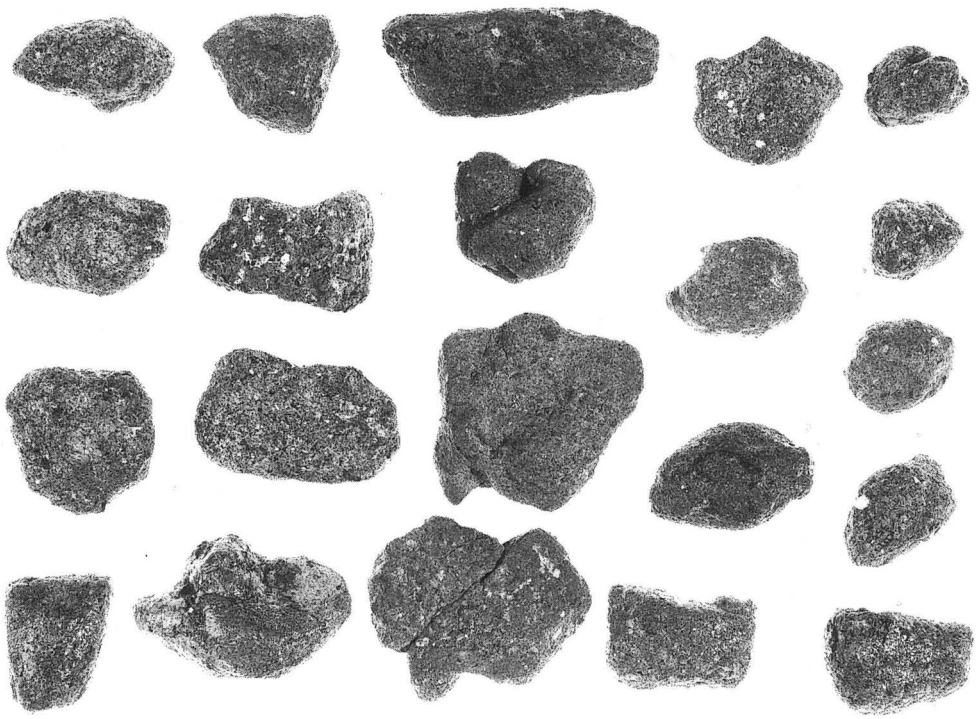


2．縄文土器 底部（½）

図版五五　縄文時代の遺物

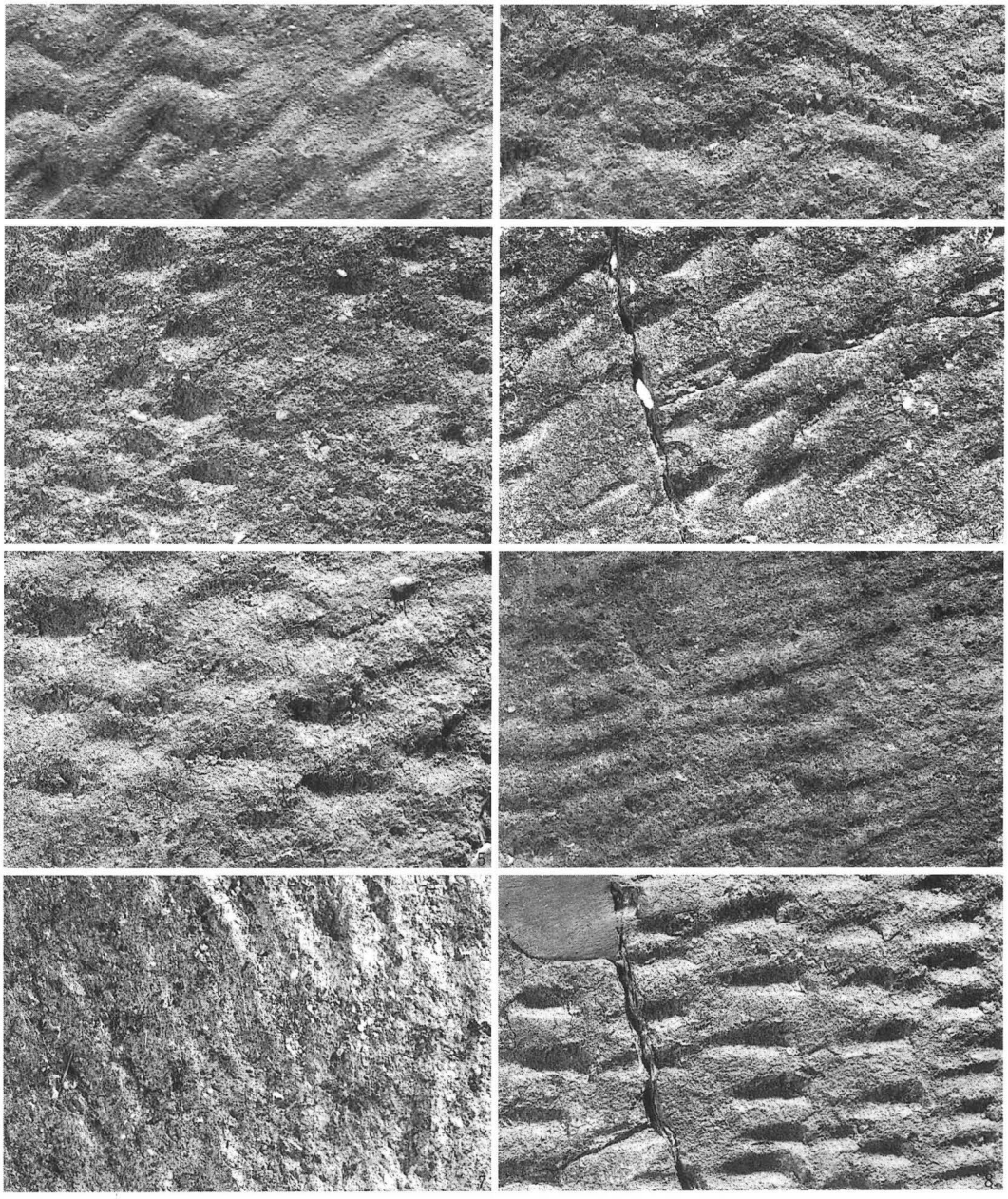


1．縄文土器 底部（½）



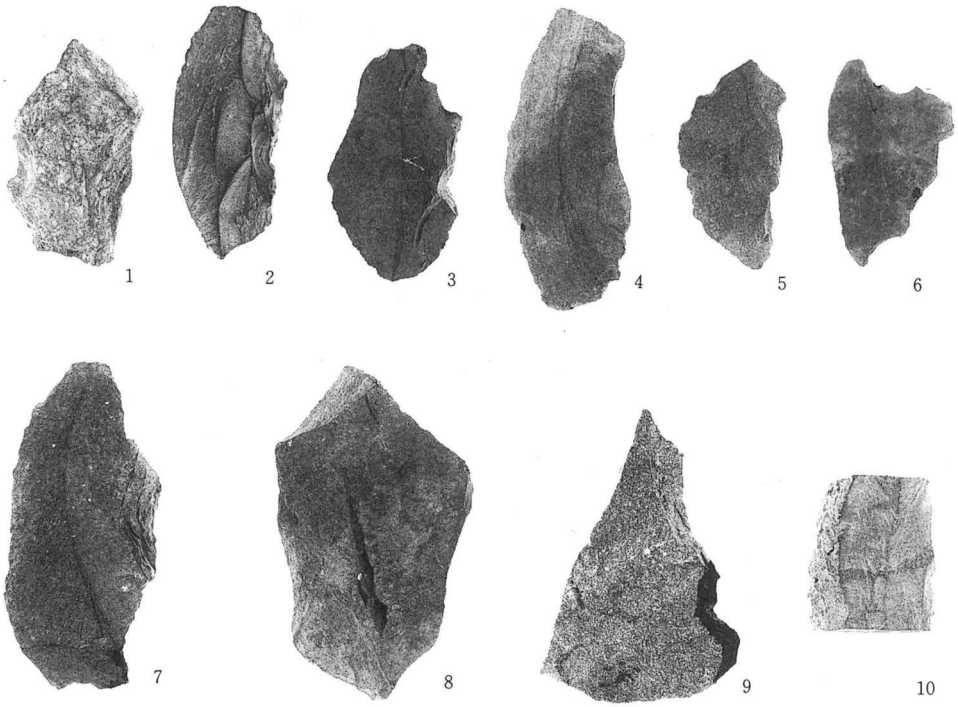
2．土製品（½）

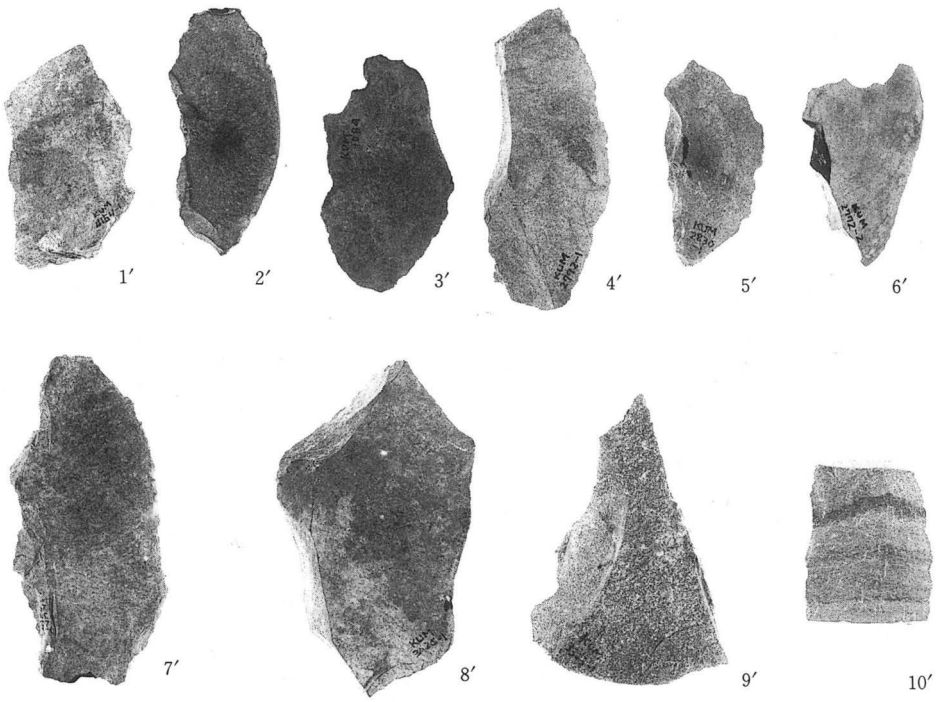
図版五六　縄文時代の遺物



1･2 山形文　3･5 舟形沈文イ　4 舟形沈文ロ　6 長楕円沈文　7 撚糸文　8 刺突文　9 菱形沈文
10 羽状沈文　11 格子目文

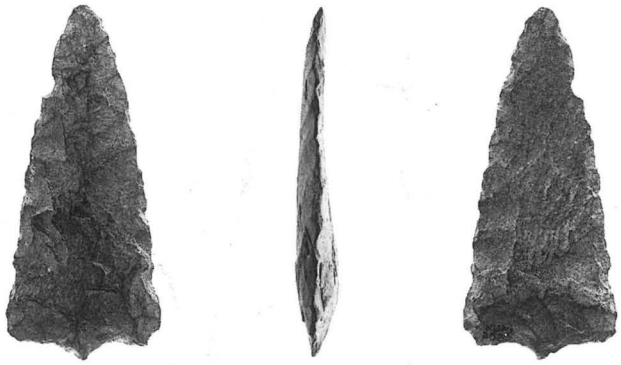
図版五七　縄文時代の遺物





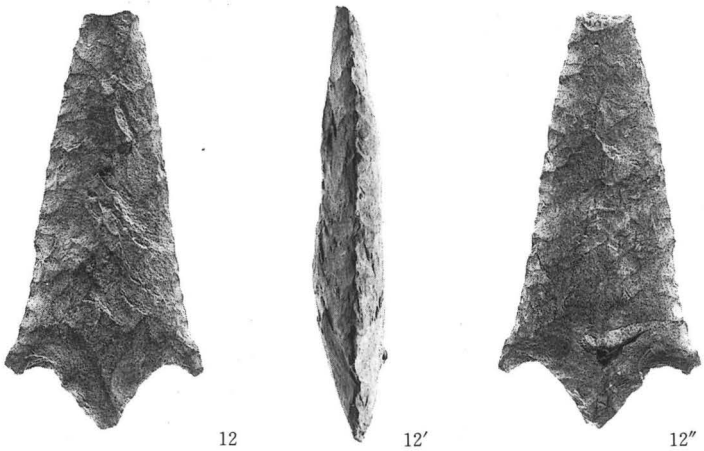
旧石器・ナイフ形石器1～3、翼状剥片4～7、剥片8～10（2/3）

図版五八　縄文時代の遺物



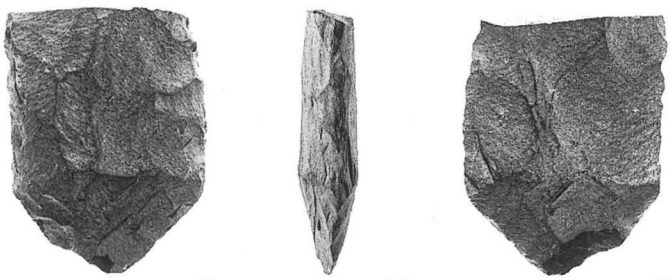
11　11′　11″

第11-a層　有舌尖頭器(1/1)



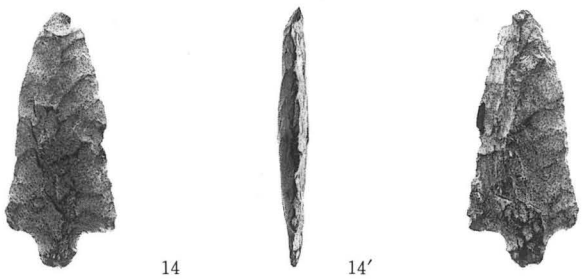
12　12′　12″

第12-2層　有舌尖頭器(1/1)



13　13′　13″

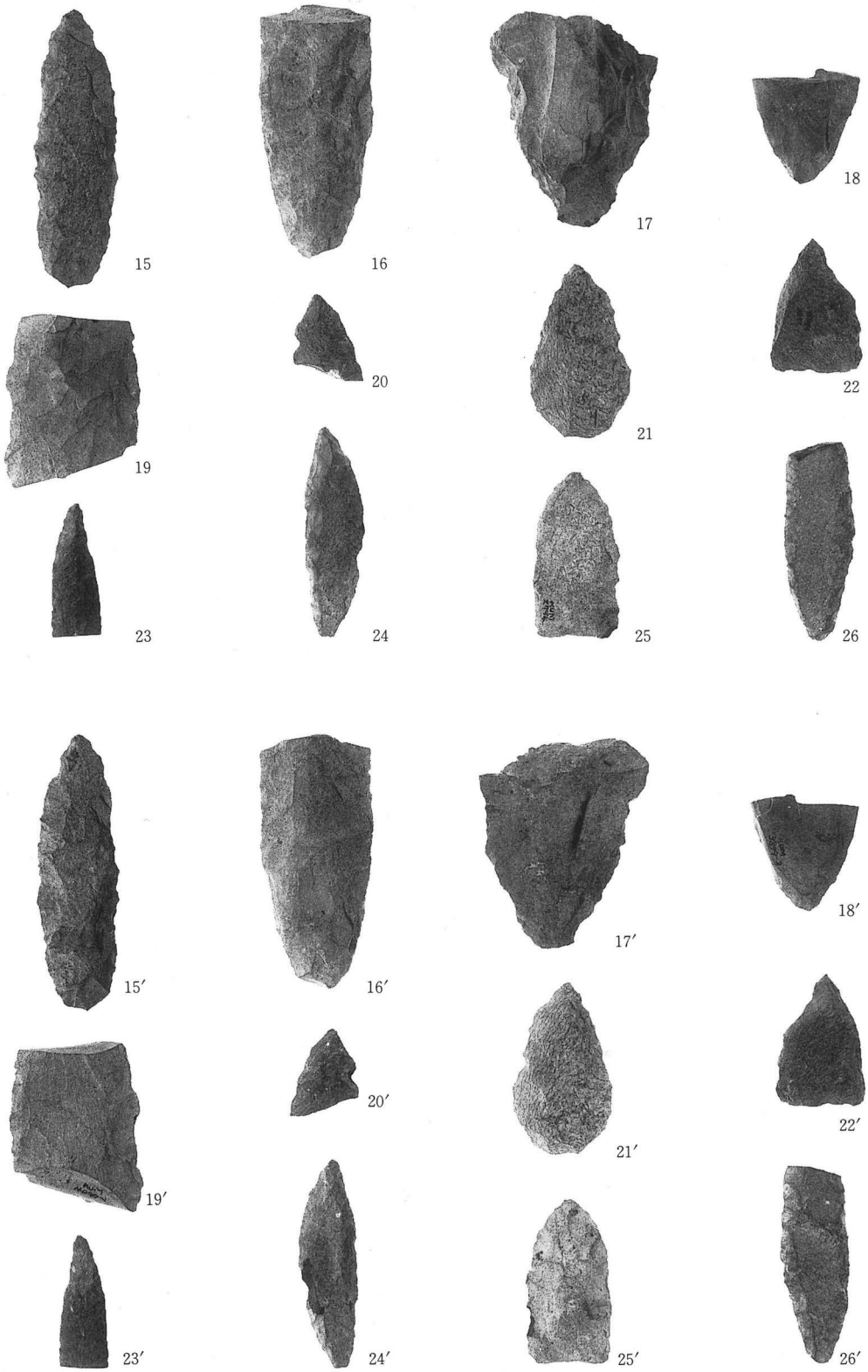
第12-1層　有舌尖頭器(1/1)



14　14′　14″

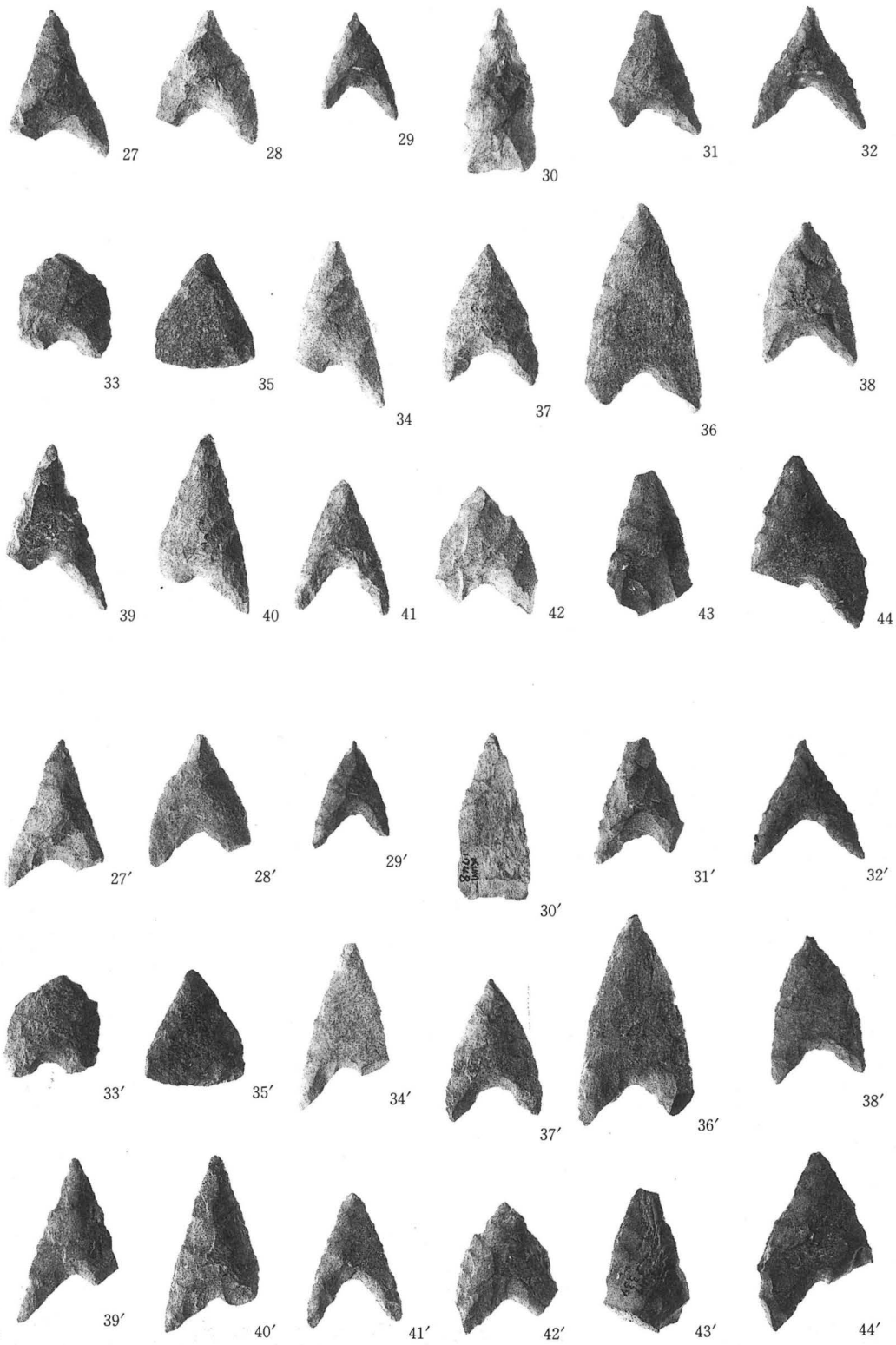
第12-1層　有舌尖頭器(1/1)

図版五九　縄文時代の遺物



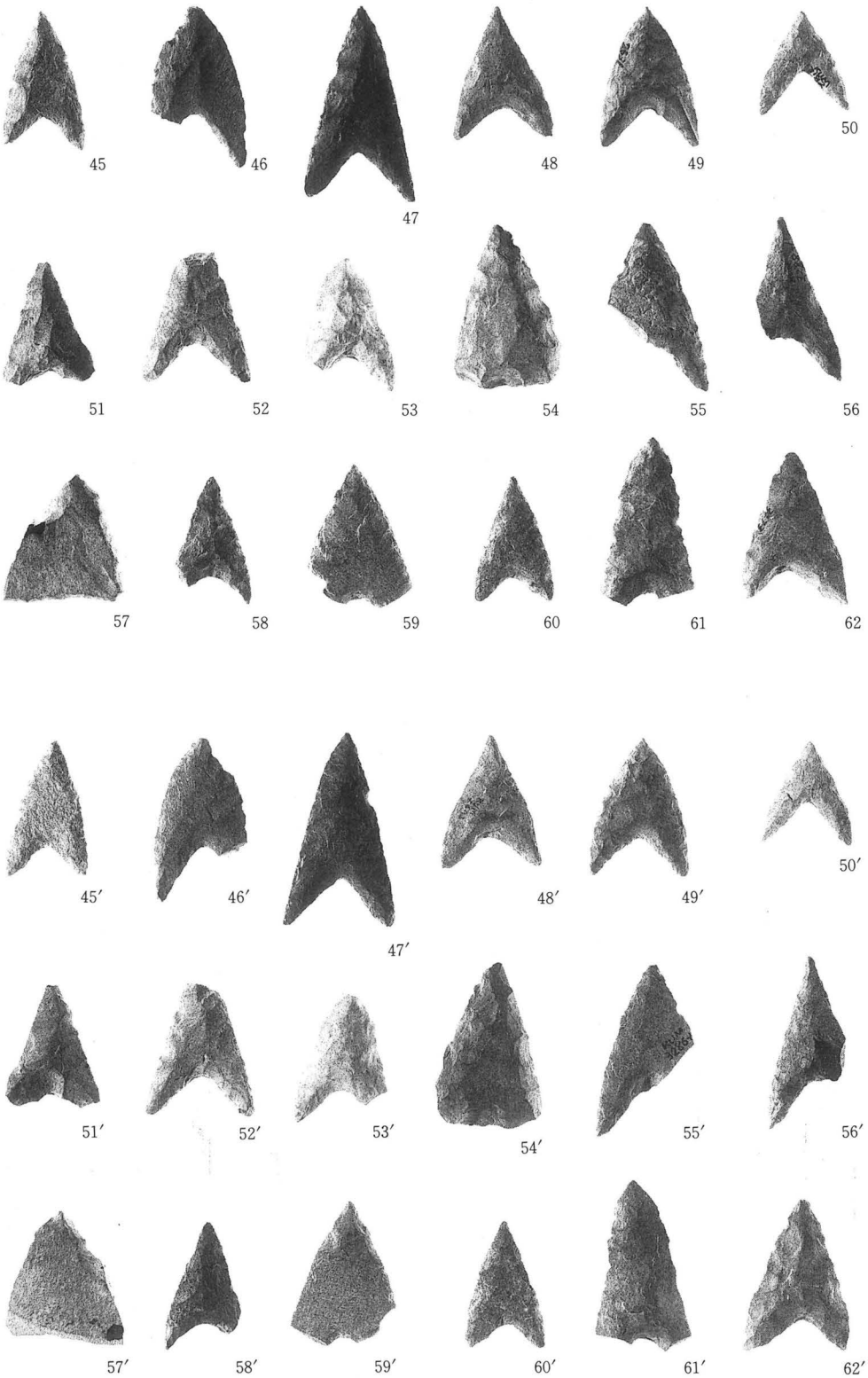
尖頭器15～26（2/3）

図版六〇　縄文時代の遺物



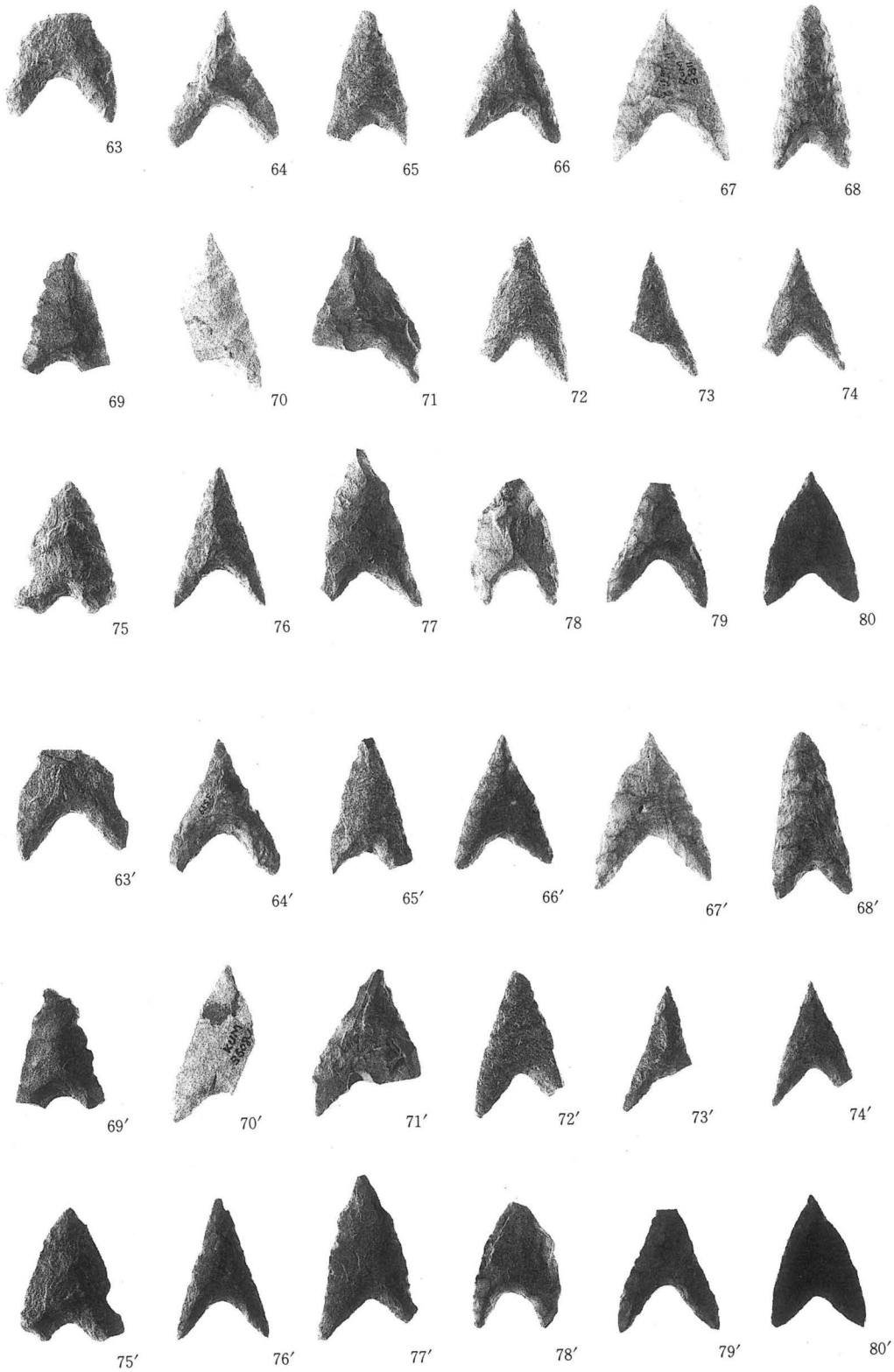
石鏃27～44（1/1）

図版六一　縄文時代の遺物



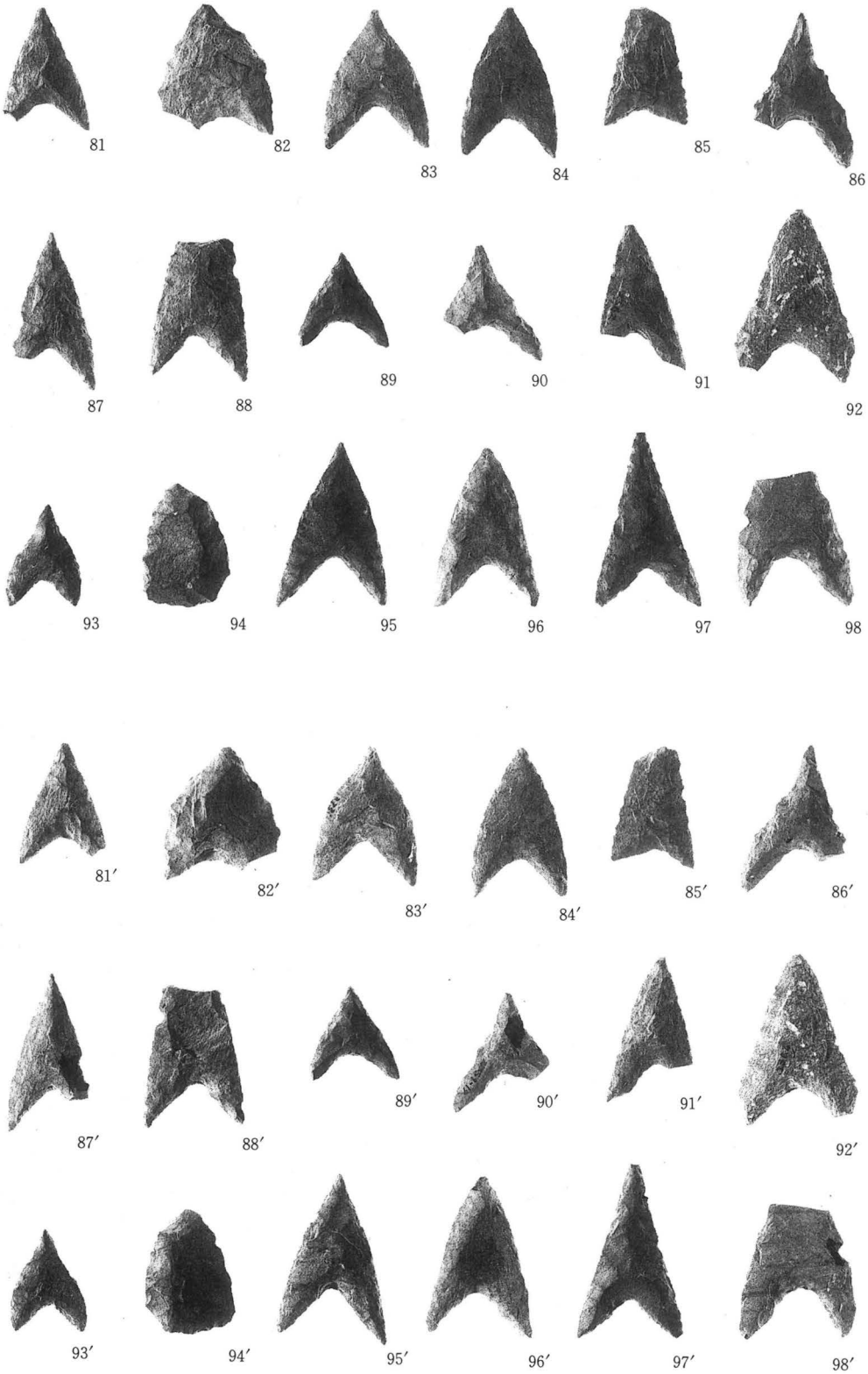
石鏃45～62（1/1）

図版六二　縄文時代の遺物



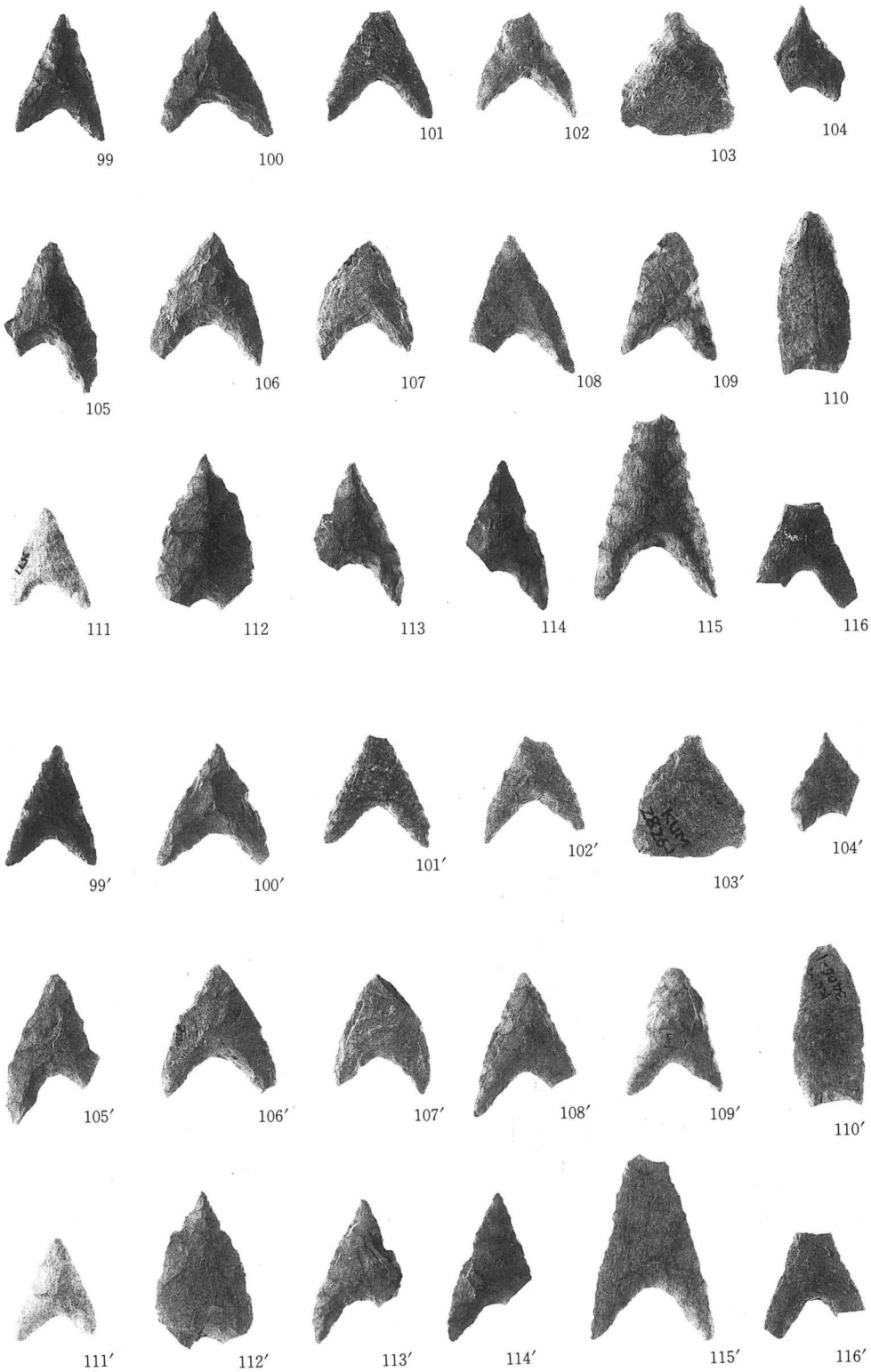
石鏃63～80（1/1）

図版六三　縄文時代の遺物



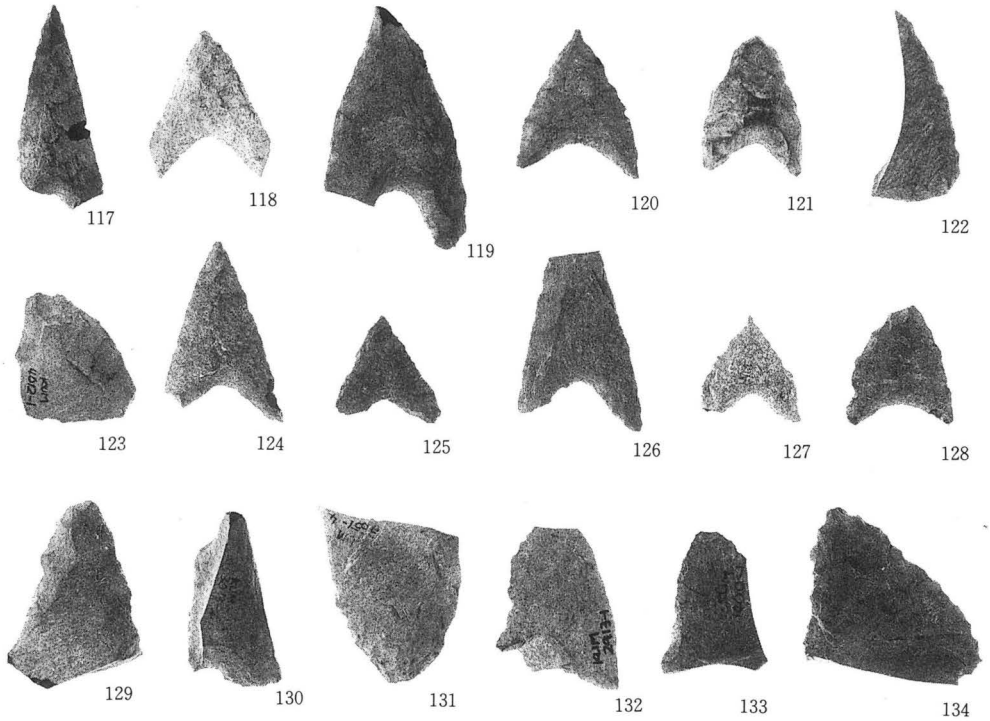
石鏃81～98（1/1）

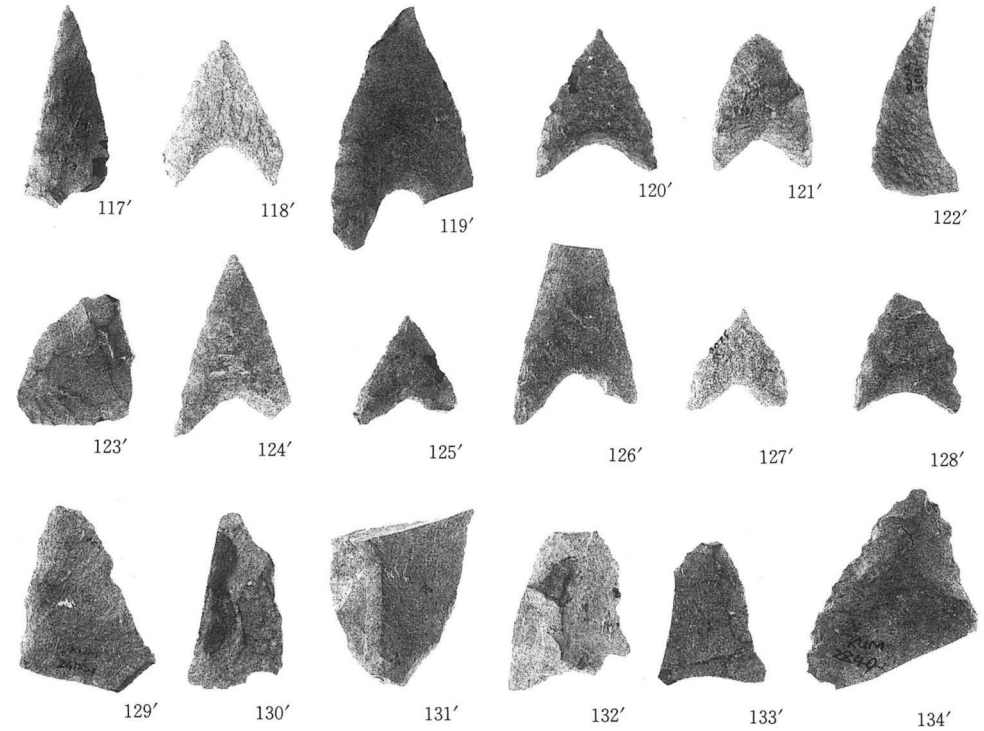
図版六四　縄文時代の遺物



石鏃99～116（1/1）

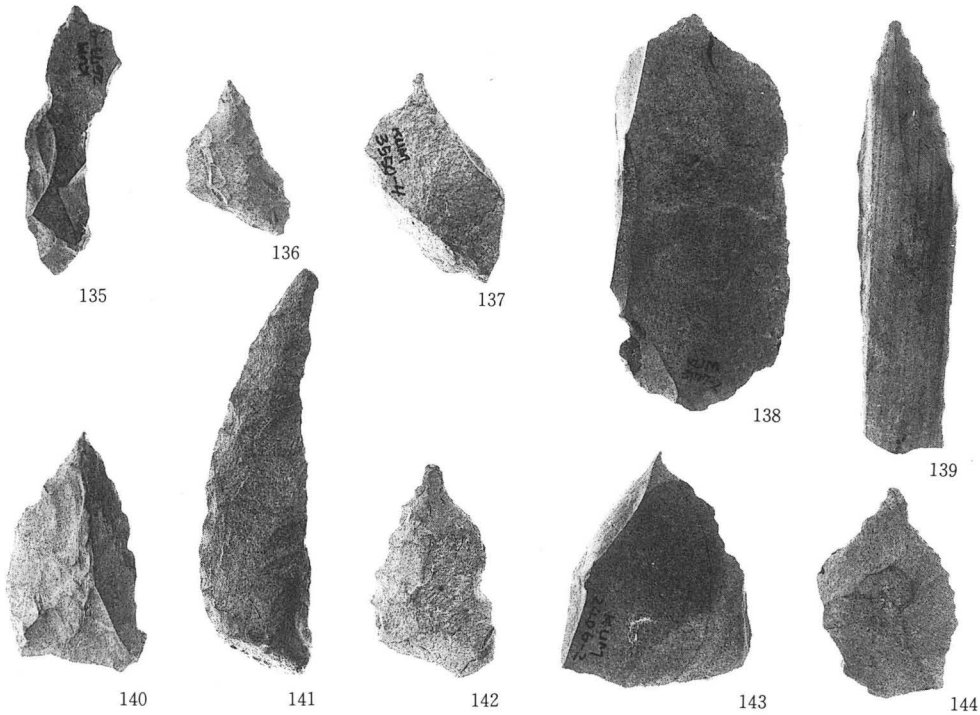
図版六五　縄文時代の遺物

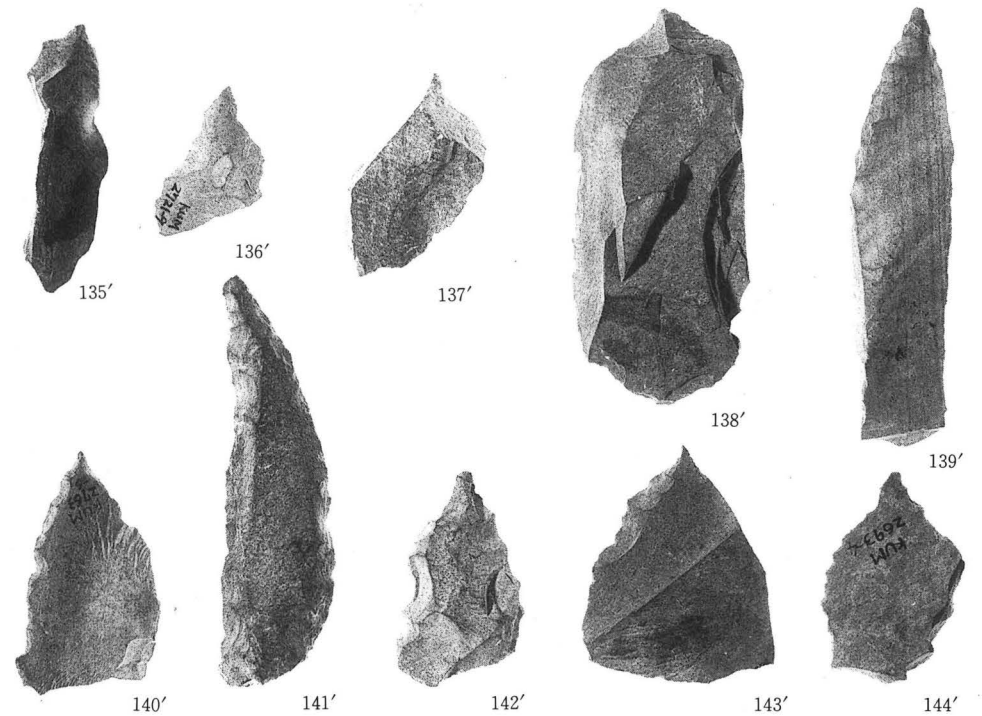




石鏃117～134（1/1）

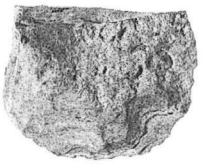
図版六六　縄文時代の遺物

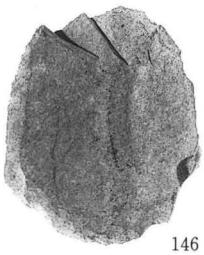


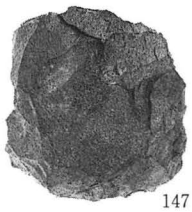


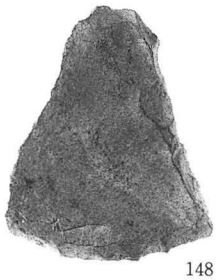
石錐135～144（1/1）

図版六七　縄文時代の遺物

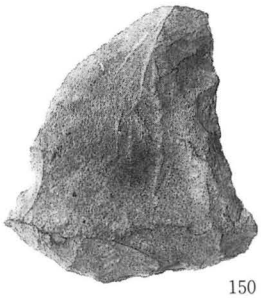

145


146


147


148

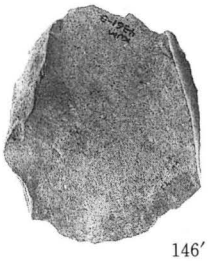
149


150

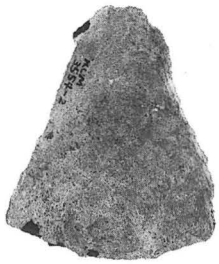
151

152

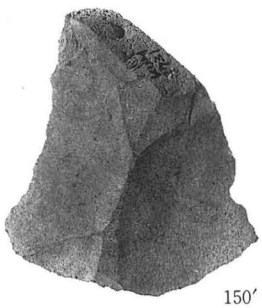
145′


146′

147′


148′

149′

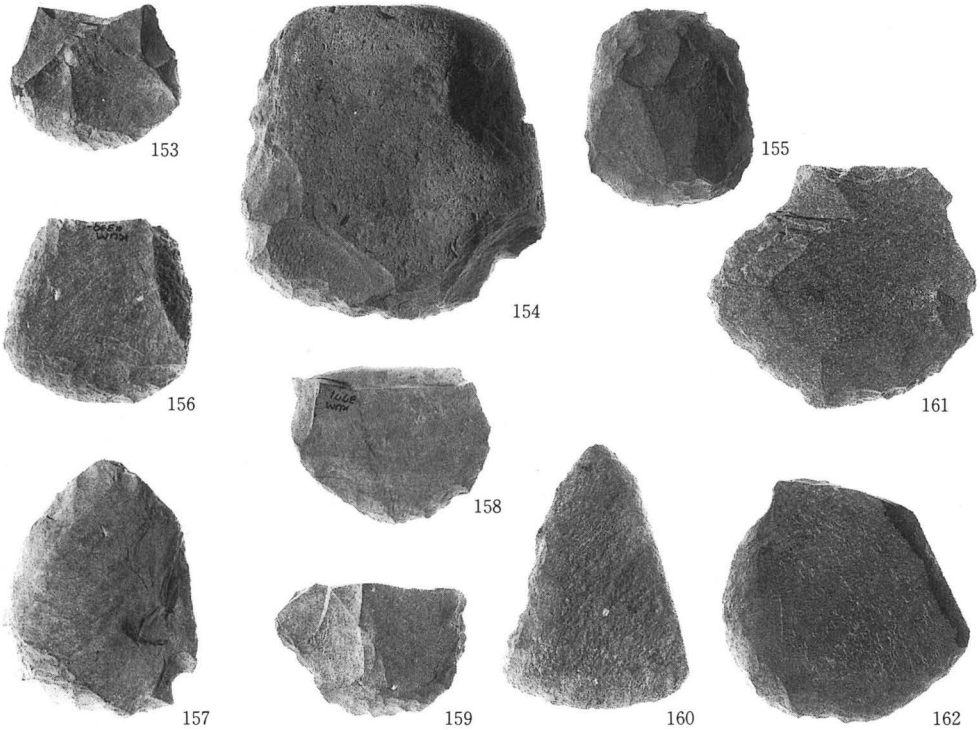

150′

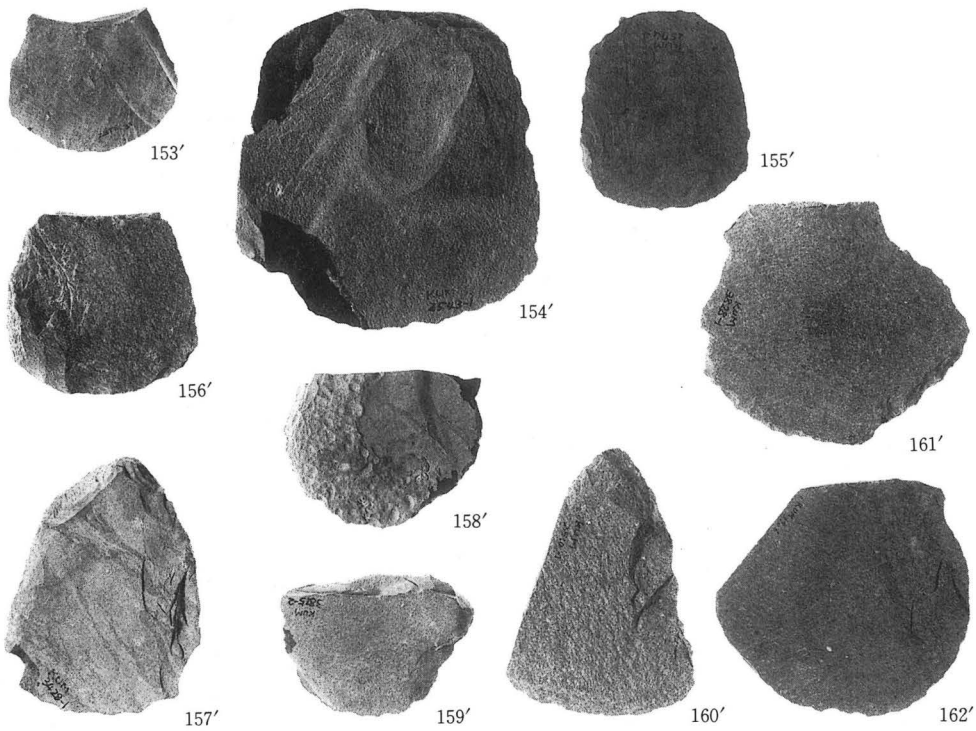
151′

152′

スクレイパー145～152（2/3）

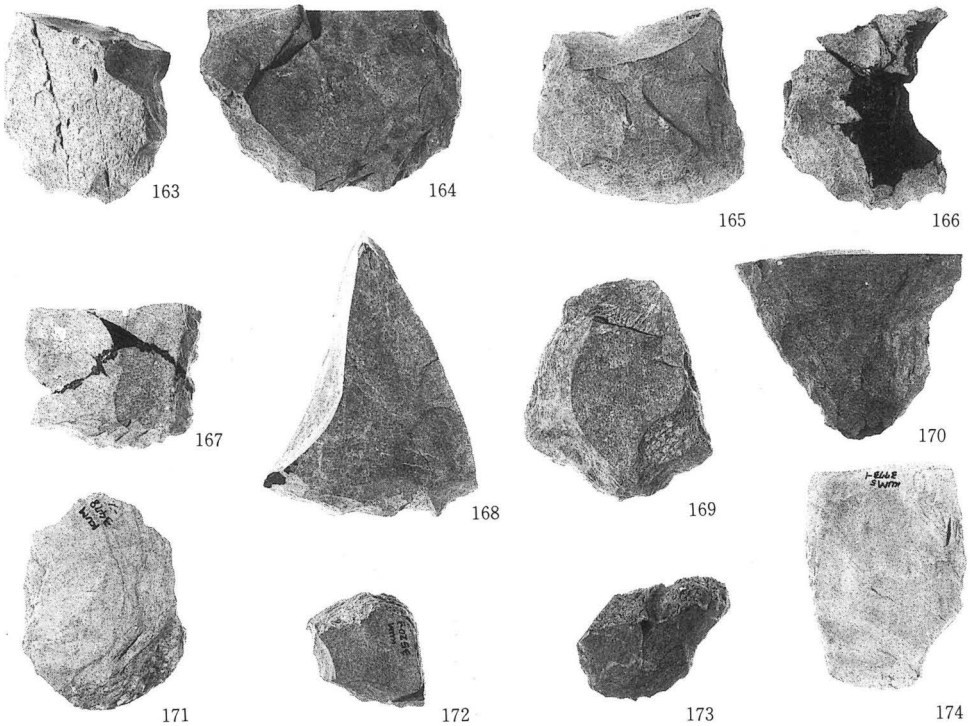
図版六八　縄文時代の遺物

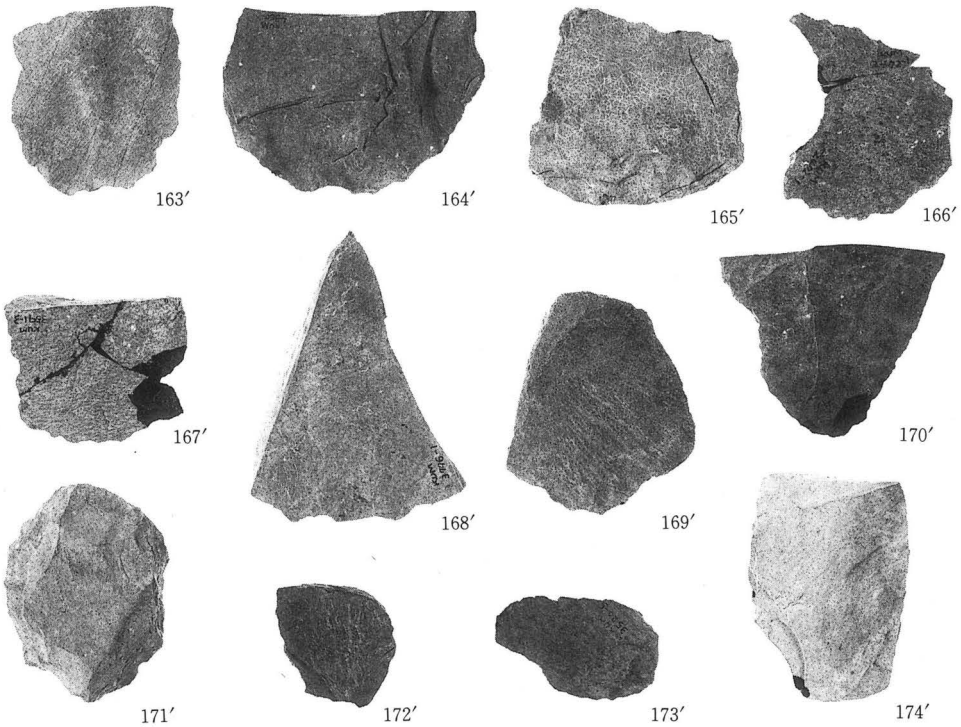




スクレイパー146～162（2/3）

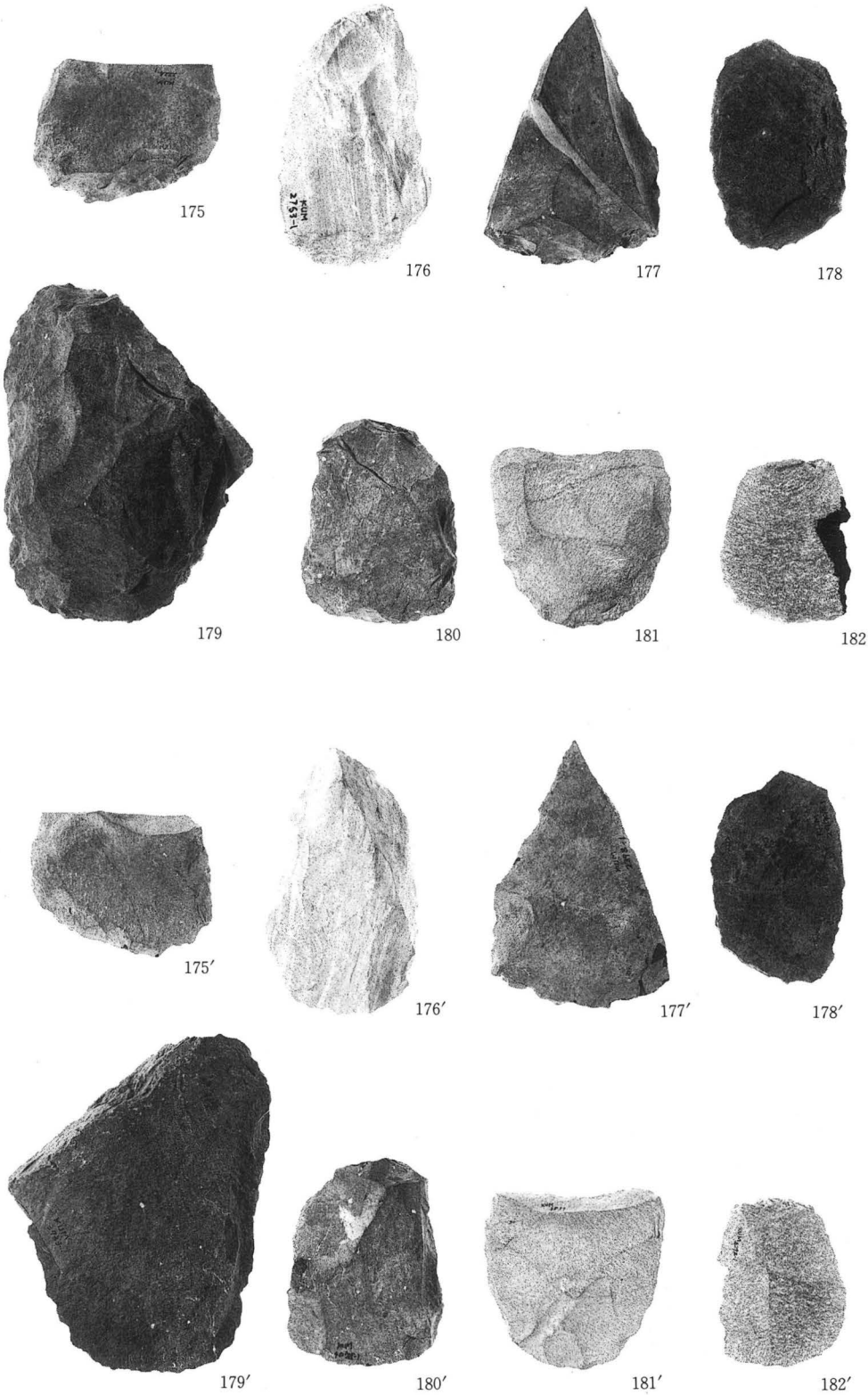
図版六九　縄文時代の遺物





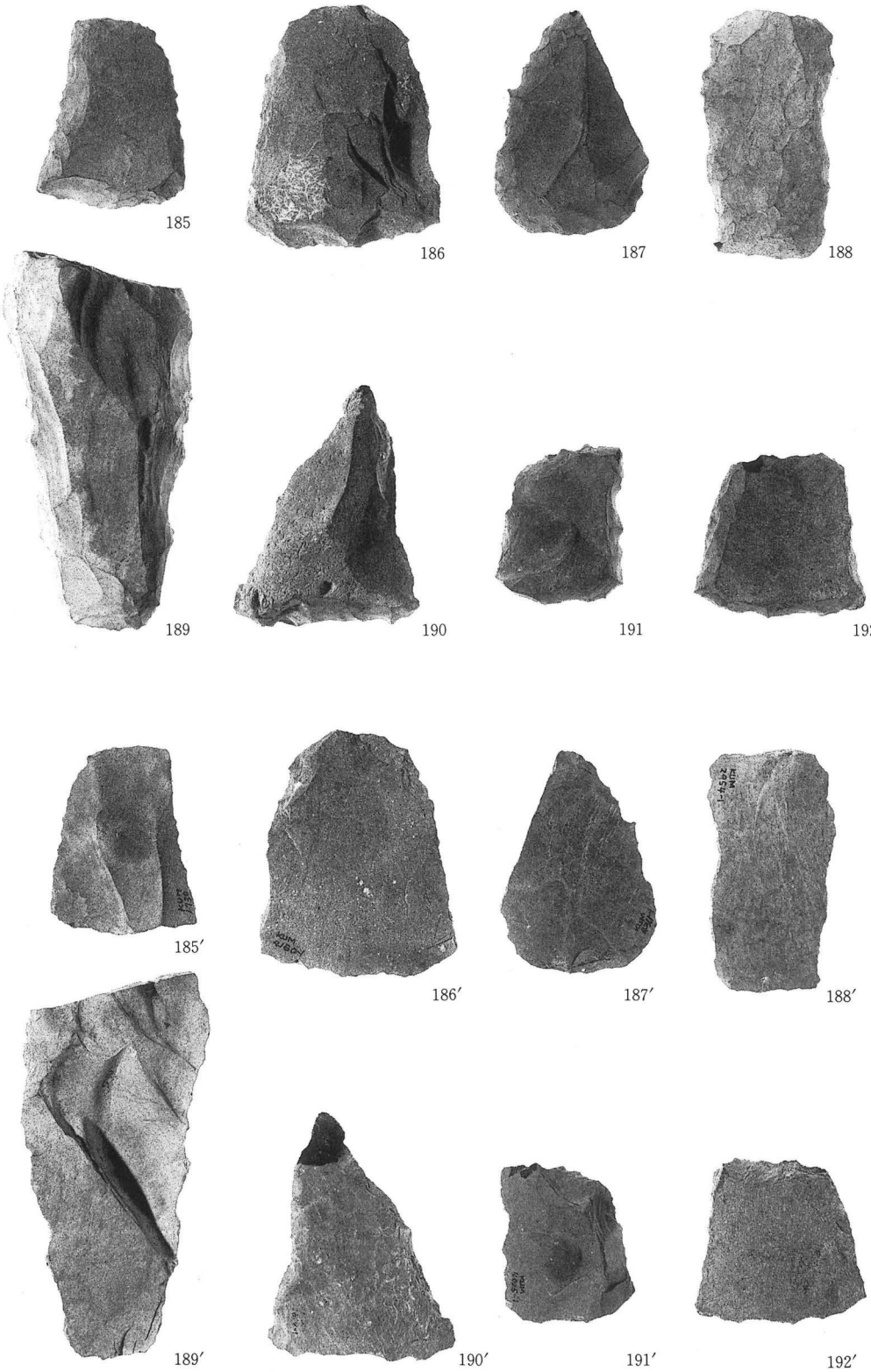
スクレイパー163～174（⅔）

図版七〇　縄文時代の遺物



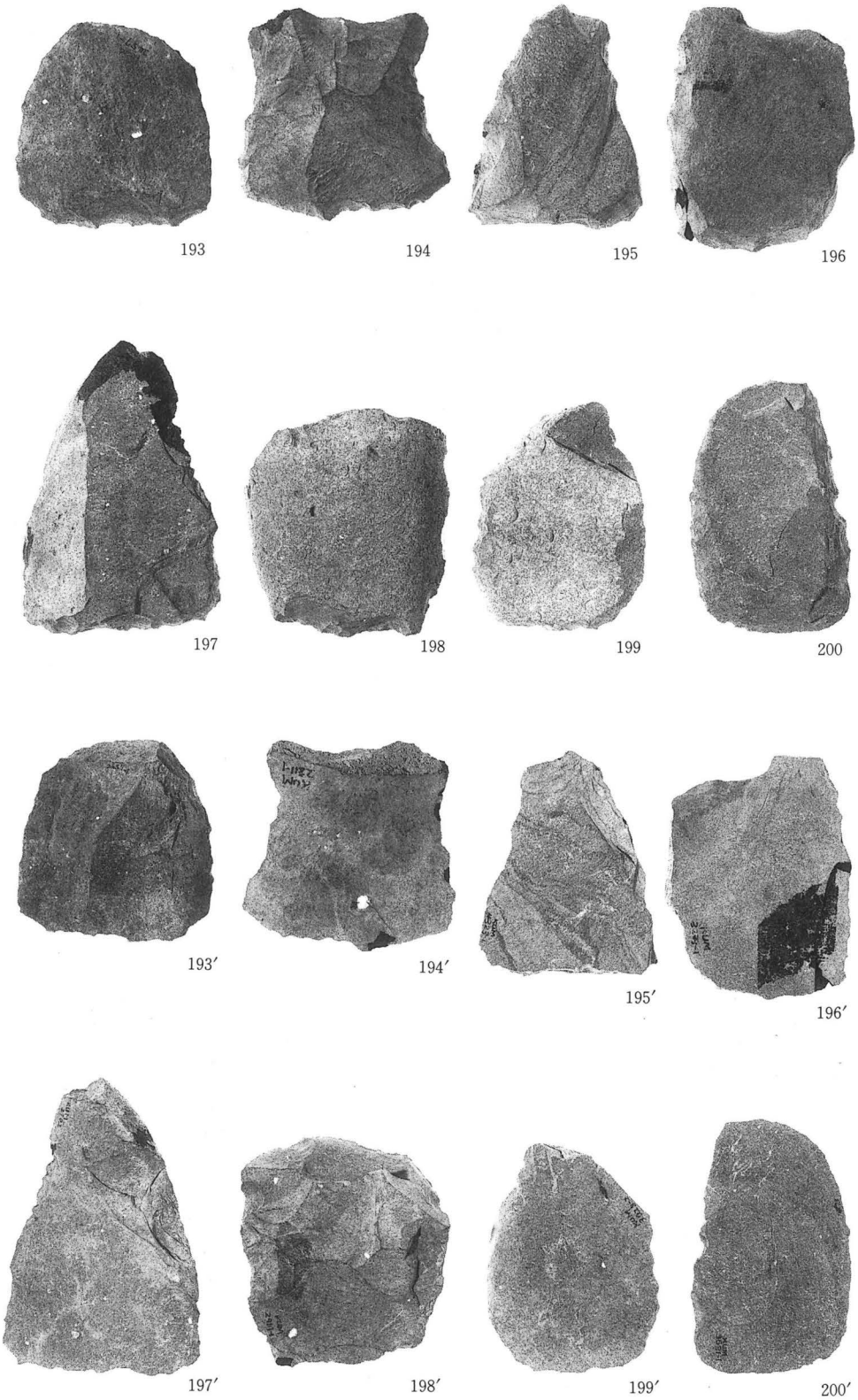
スクレイパー175～182（2/3）

図版七一　縄文時代の遺物



スクレイパー185～192（2/3）

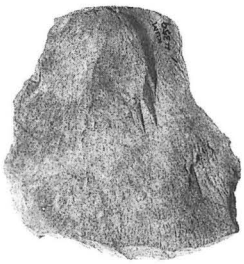
図版七二　縄文時代の遺物

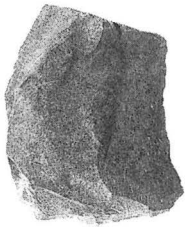


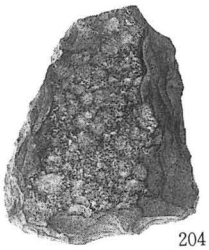
スクレイパー193～200（⅔）

図版七三　縄文時代の遺物

201


202


203


204

205

206

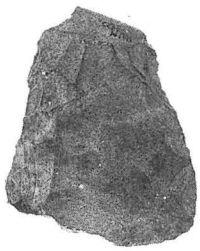
207

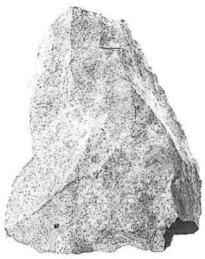
208

201′

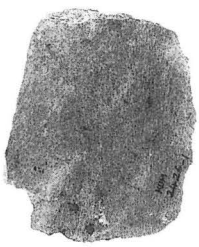
202′

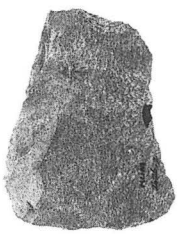
203′


204′


205′

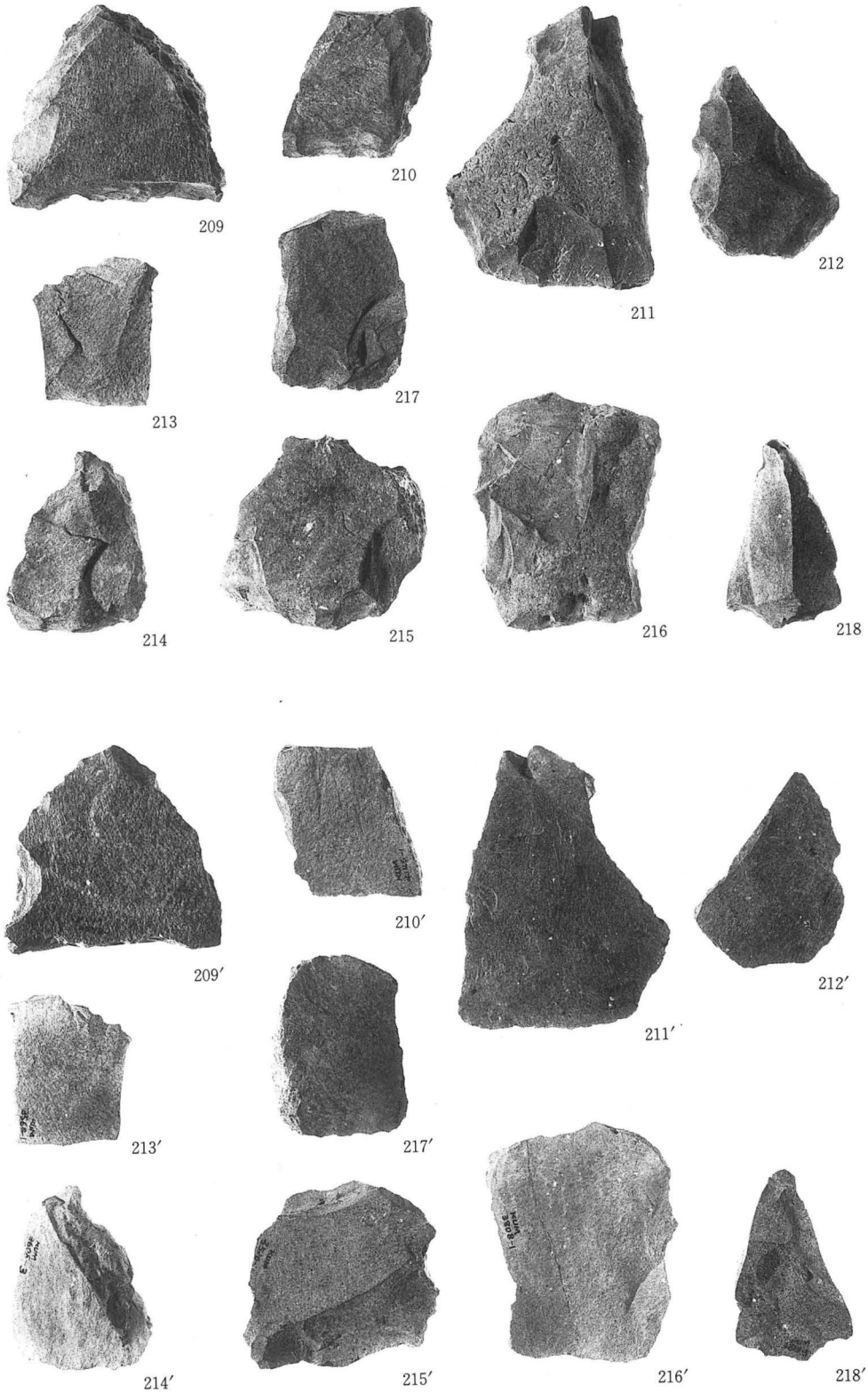
206′


207′


208′

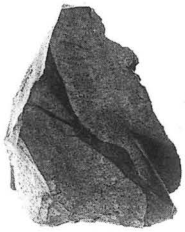
スクレイパー201～208（2/3）

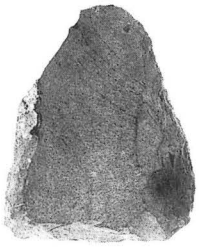
図版七四　縄文時代の遺物



スクレイパー209～218（2/3）

図版七五　縄文時代の遺物

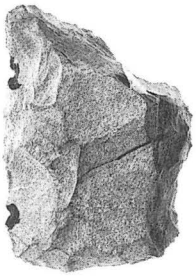

219

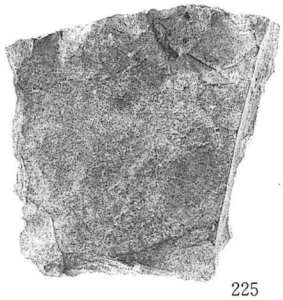

220

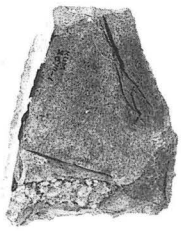
221

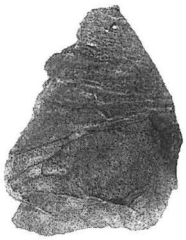
222

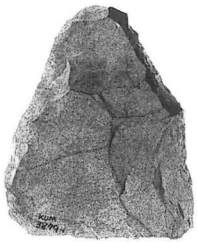
223


224


225


226

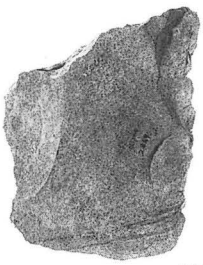

219′

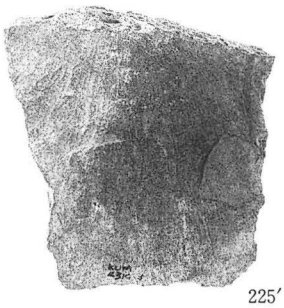

220′

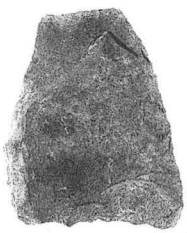
221′

222′

223′


224′


225′


226′

スクレイパー219～226（2/3）

図版七六　縄文時代の遺物

227

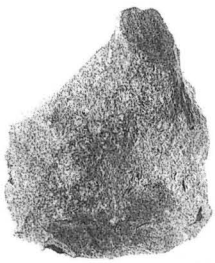
228

229

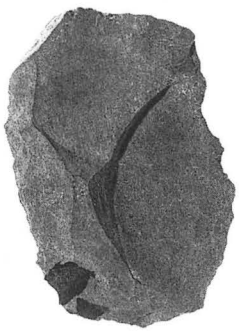
230

231

232


233

234

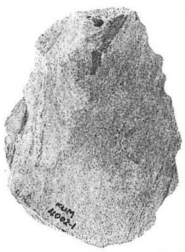

227′

228′

229′

230′

231′


232′

233′

234′

スクレイパー227～234（2/3）

図版七七　縄文時代の遺物

235

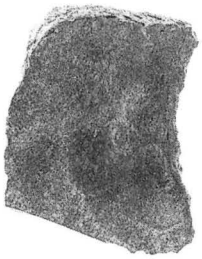
236

237

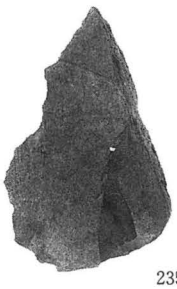
238

239

240

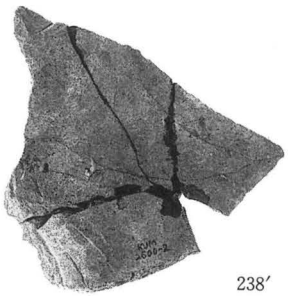

241

242

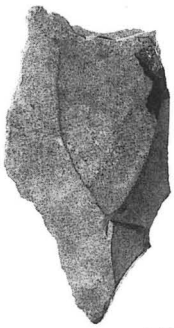

235′

236′

237′


238′

239′

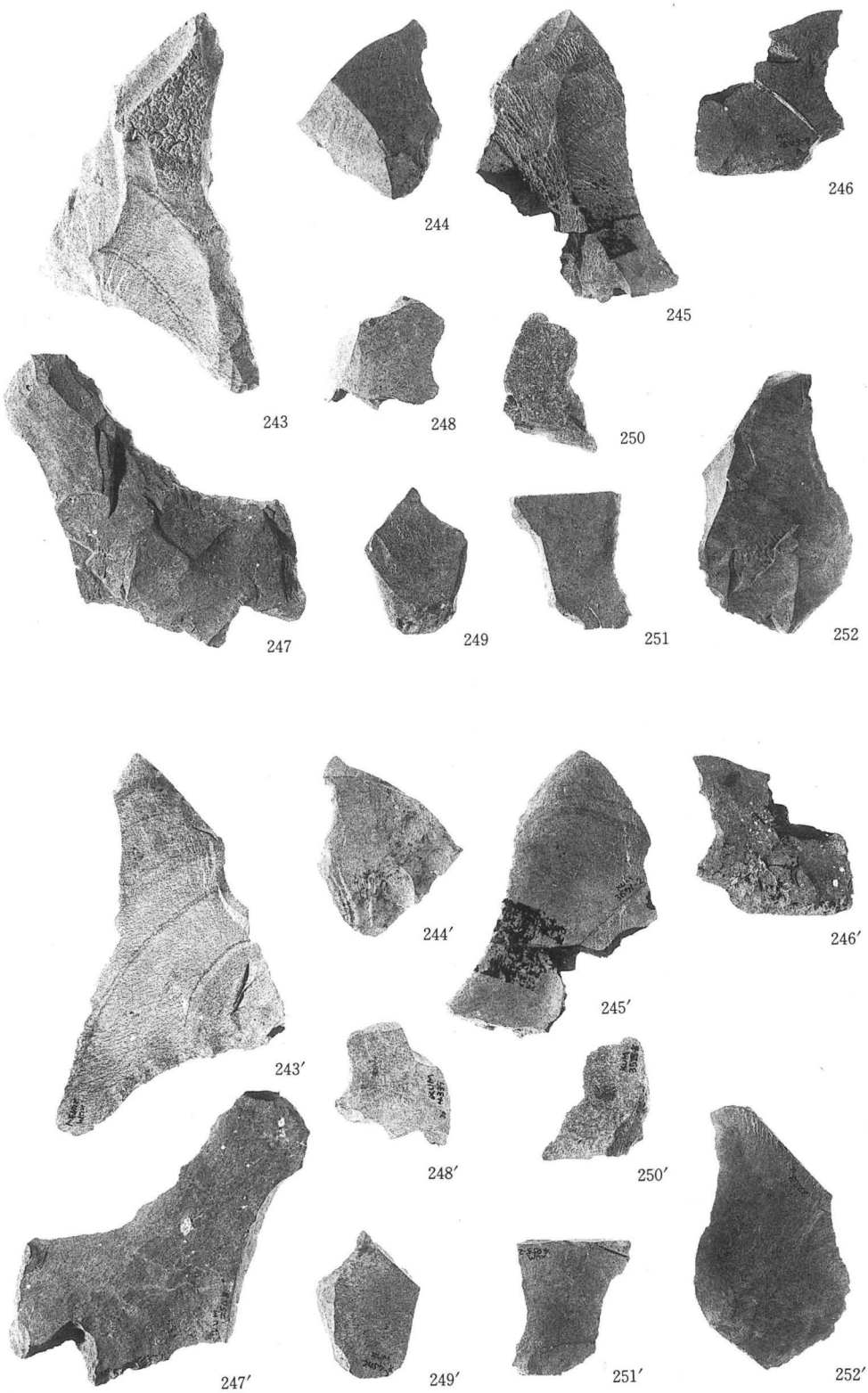

240′

241′

242′

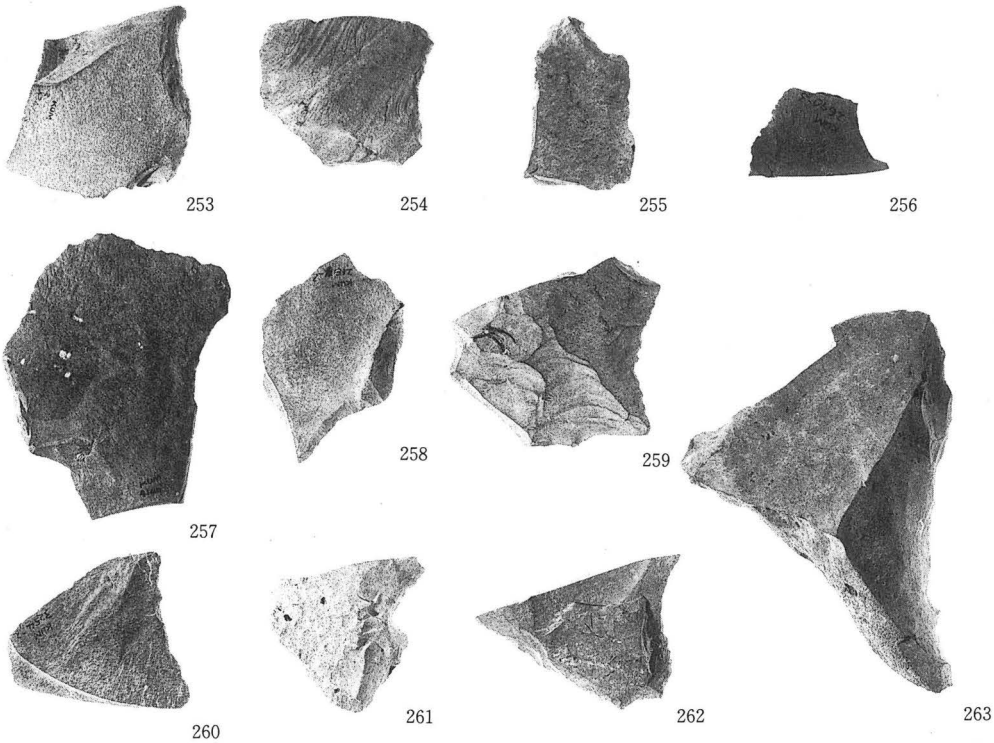
スクレイパー235～242（2/3）

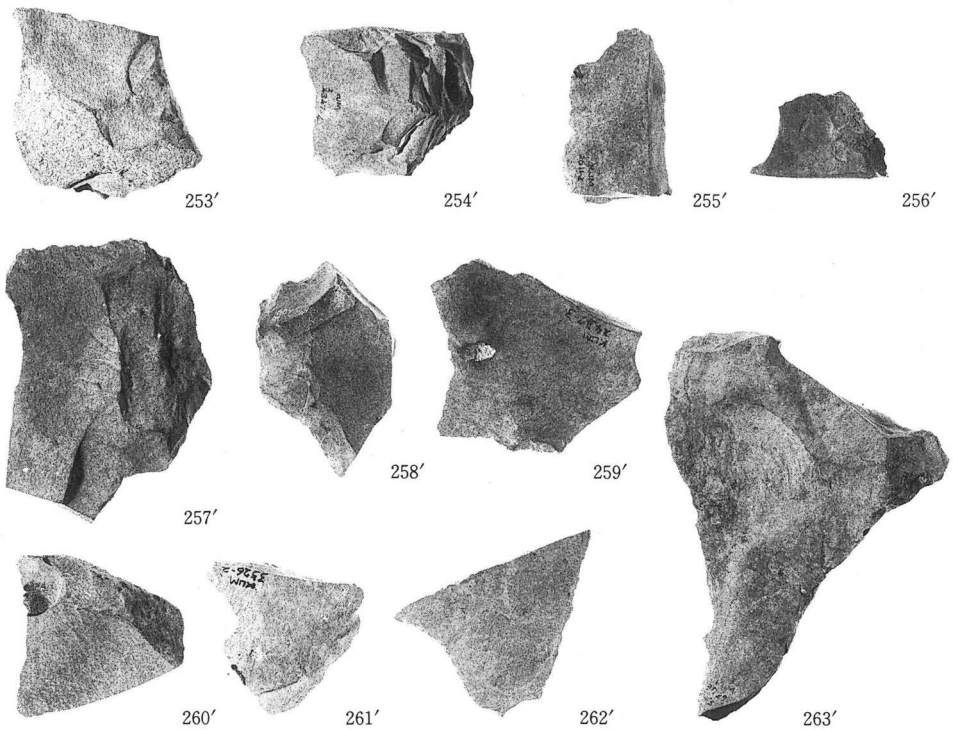
図版七八　縄文時代の遺物



スクレイパー243～252（2/3）

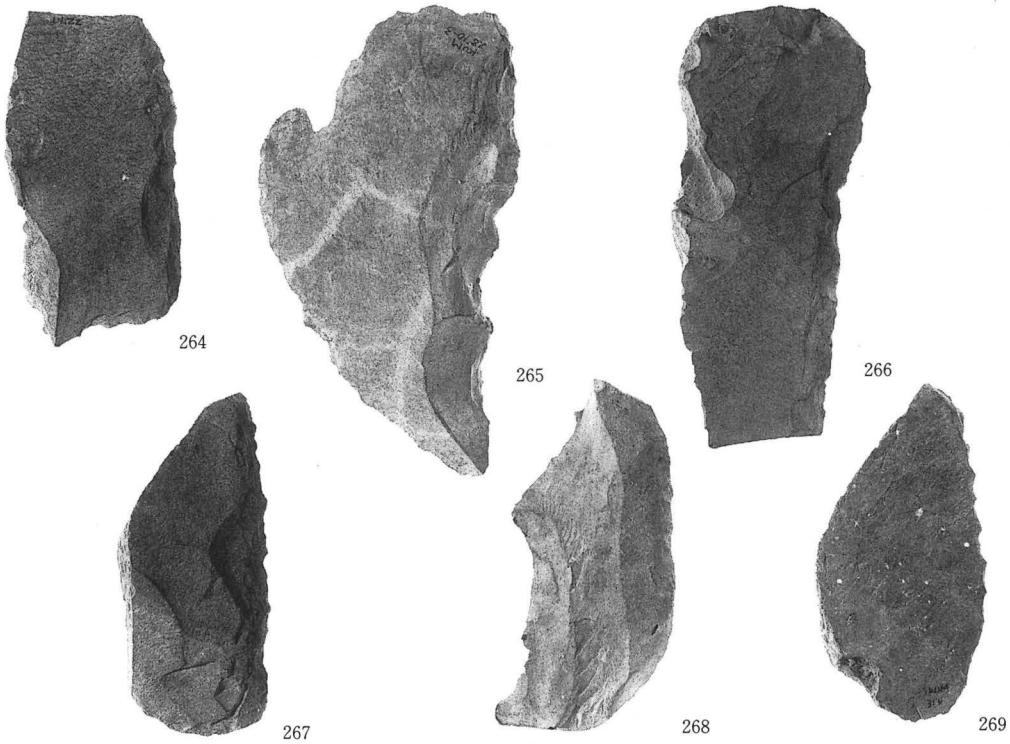
図版七九　縄文時代の遺物

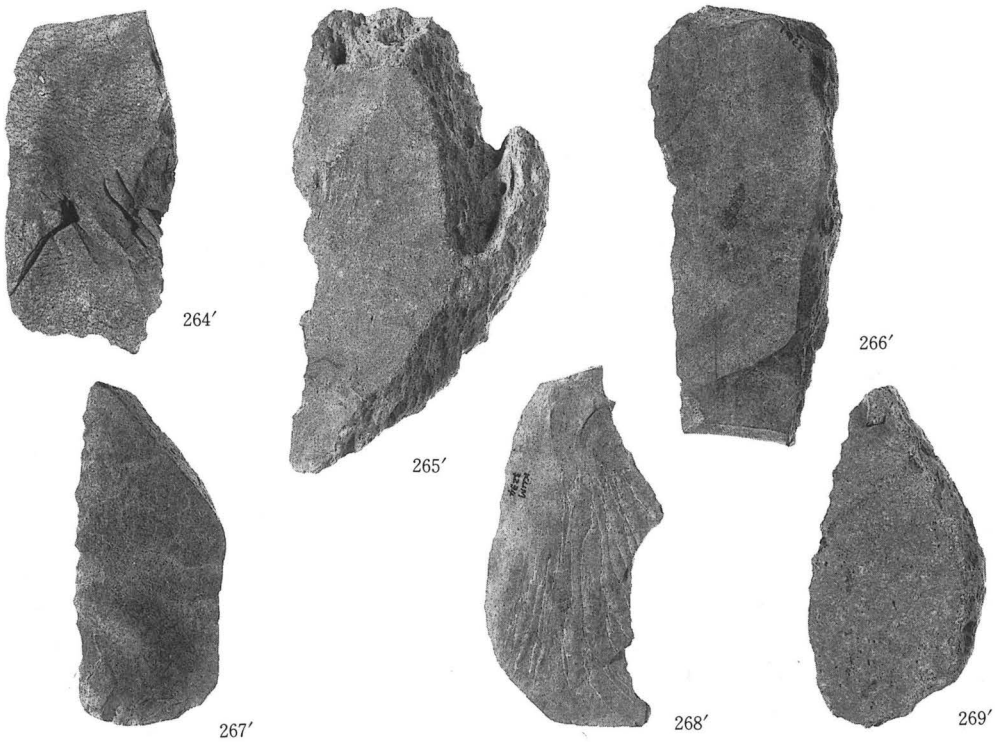




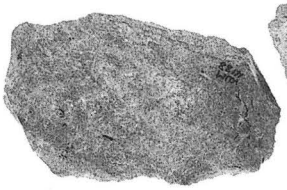
スクレイパー253～263（2/3）

図版八〇　縄文時代の遺物

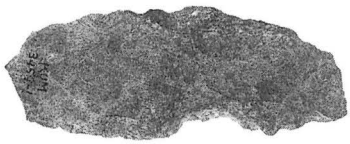


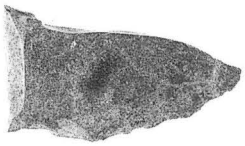


スクレイパー264～269（2/3）

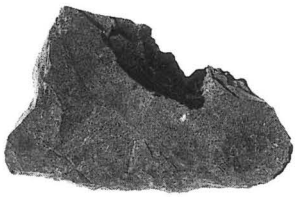

270

271

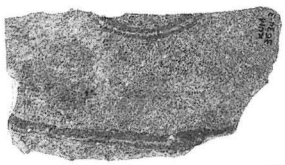

272

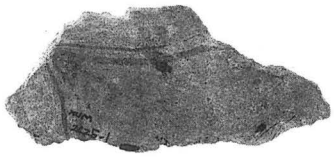

273

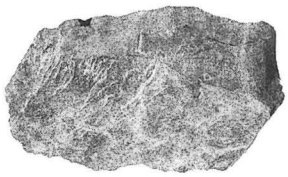
274

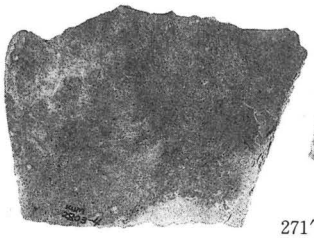

275

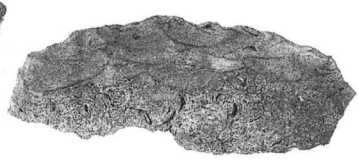
276


277

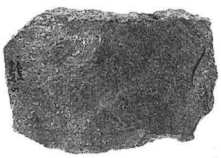

278

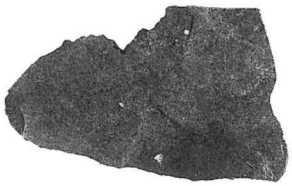

270′

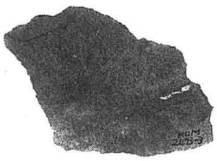

271′

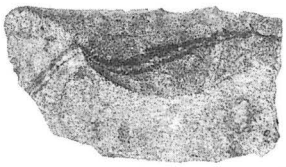

272′

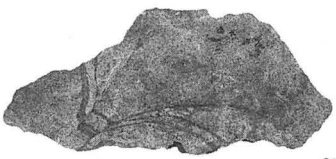
273′


274′


275′

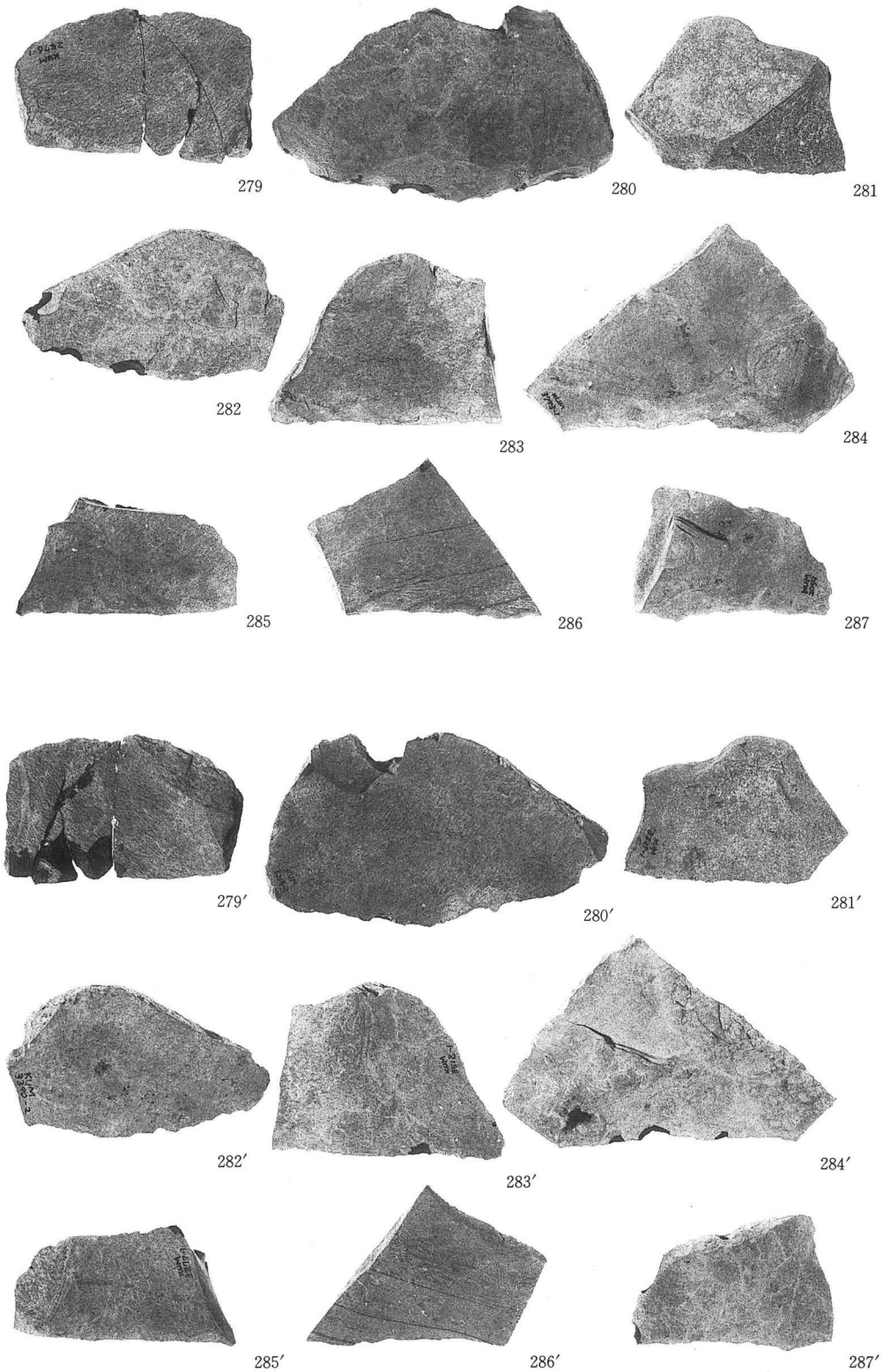

276′


277′


278′

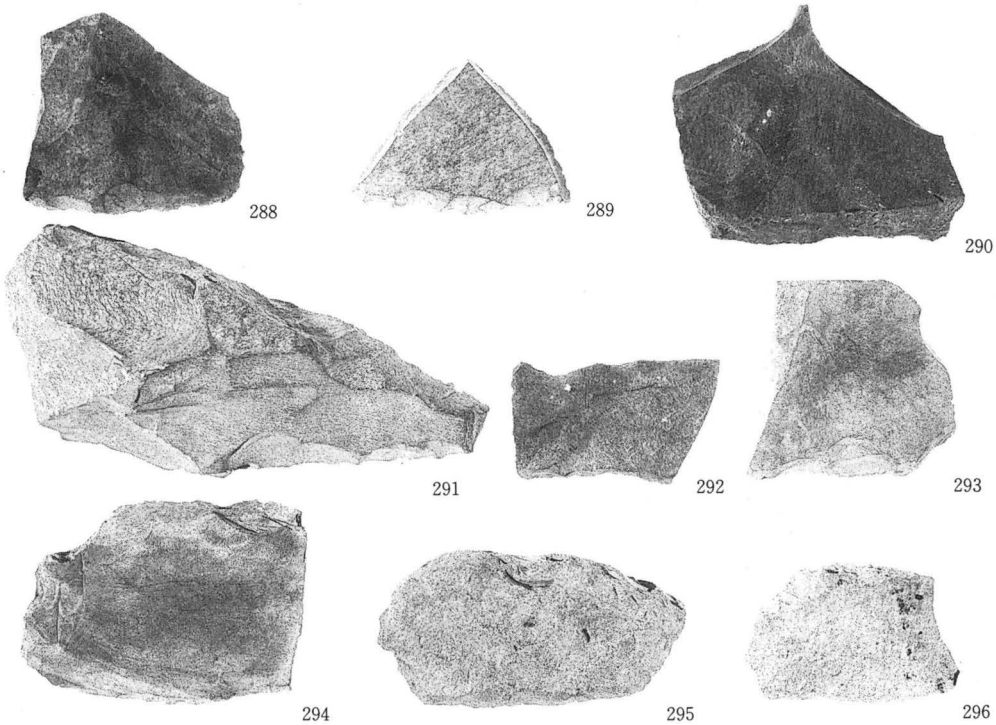
スクレイパー270～278（2/3）

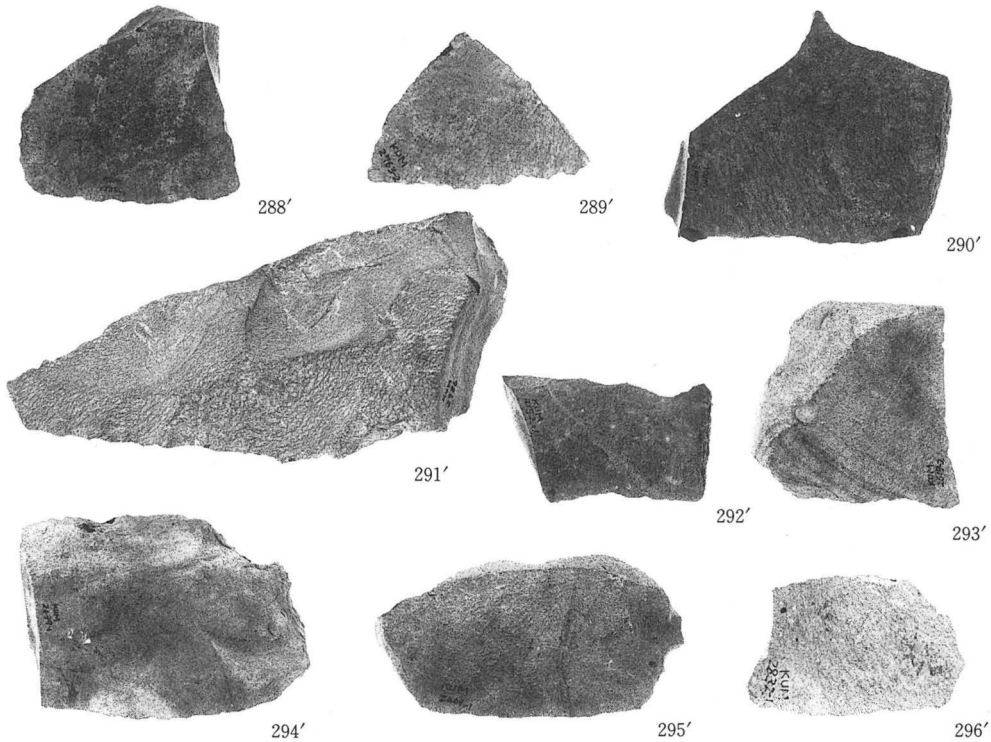
図版八二　縄文時代の遺物



スクレイパー279～287（2/3）

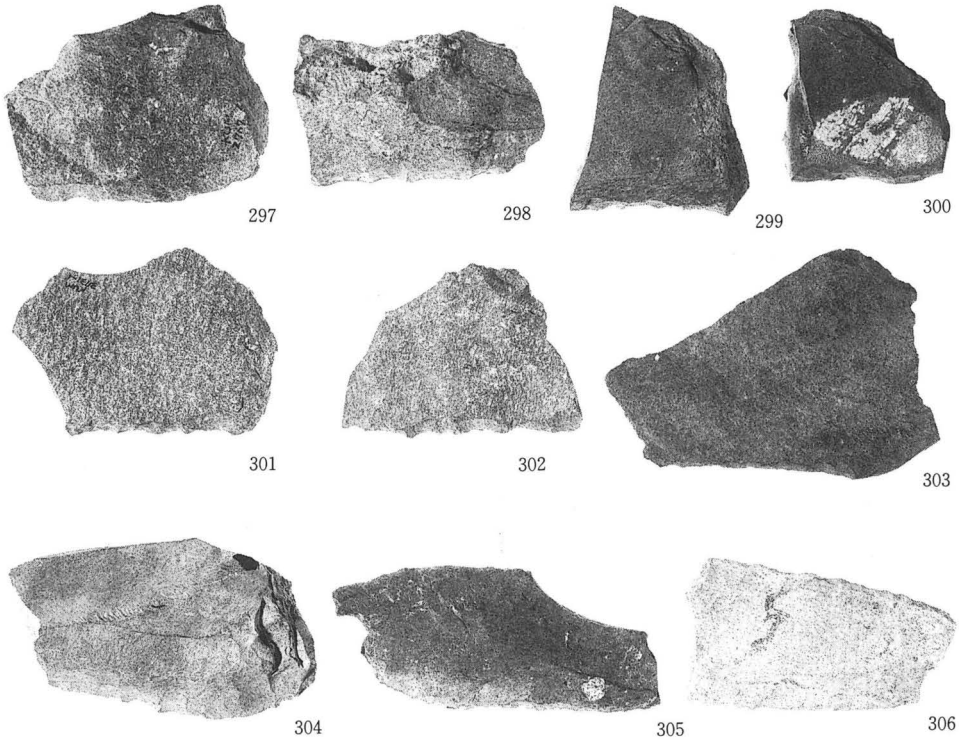
図版八三　縄文時代の遺物

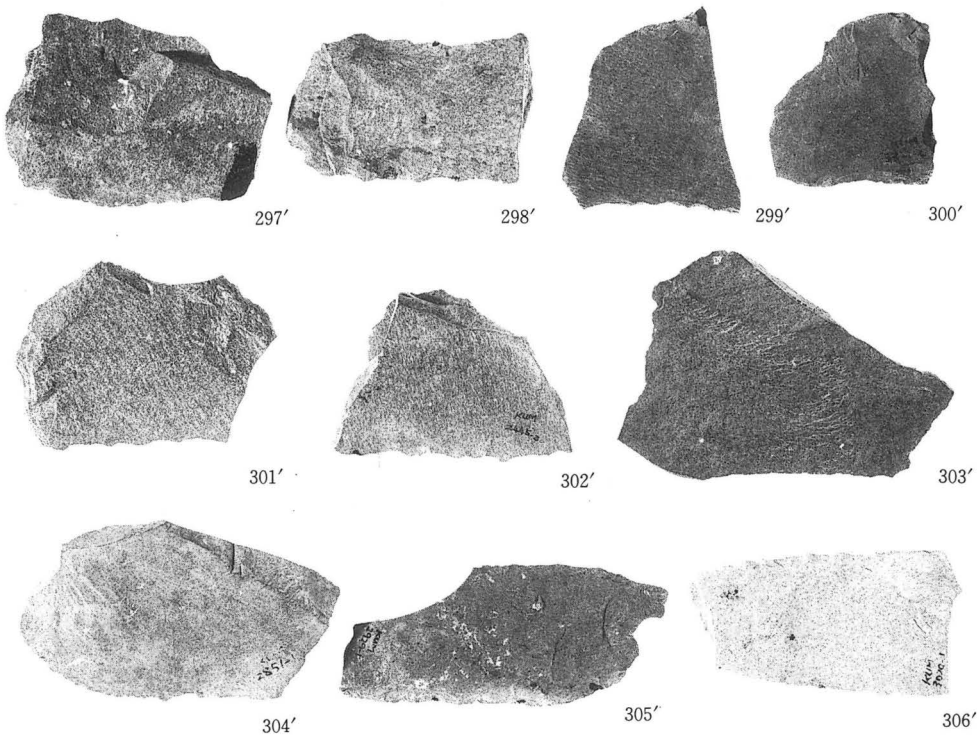




スクレイパー288～296（2/3）

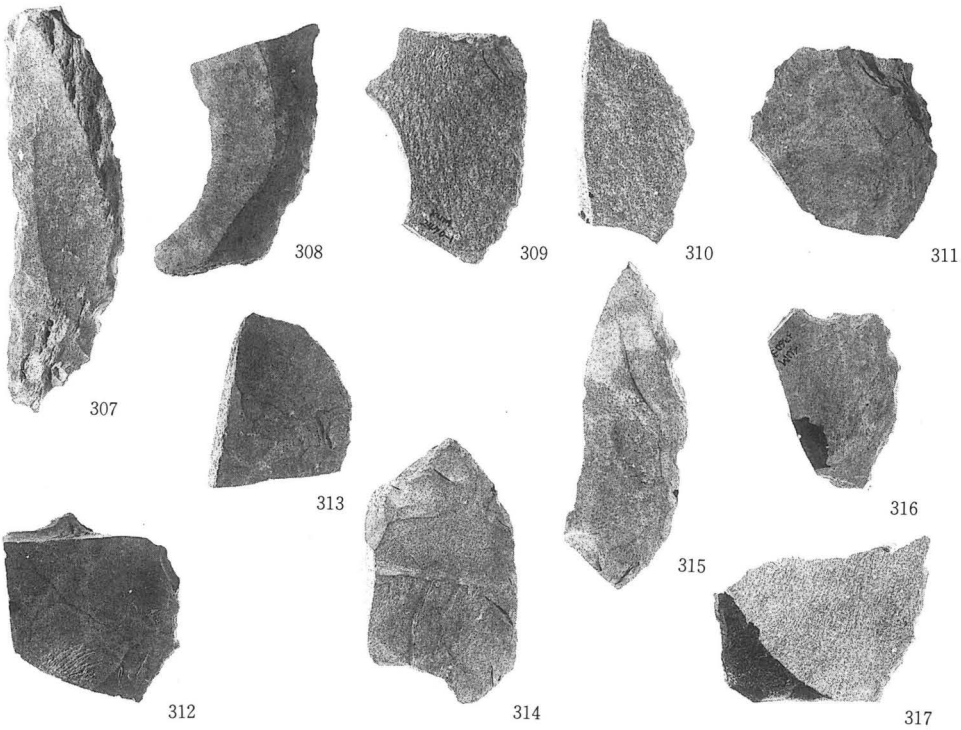
図版八四　縄文時代の遺物

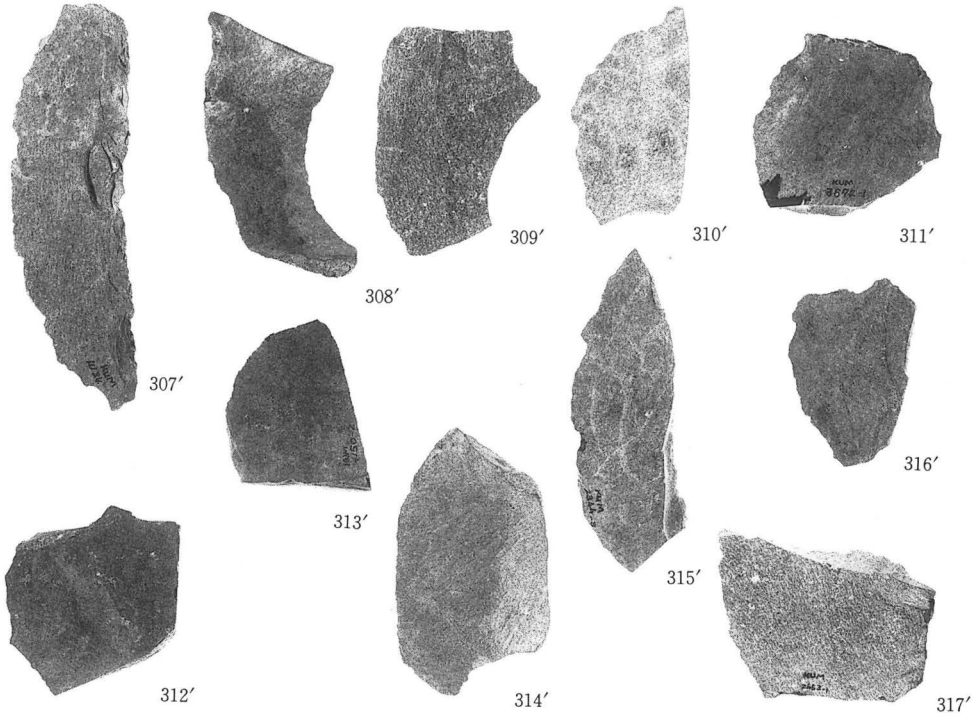




スクレイパー297～306（2/3）

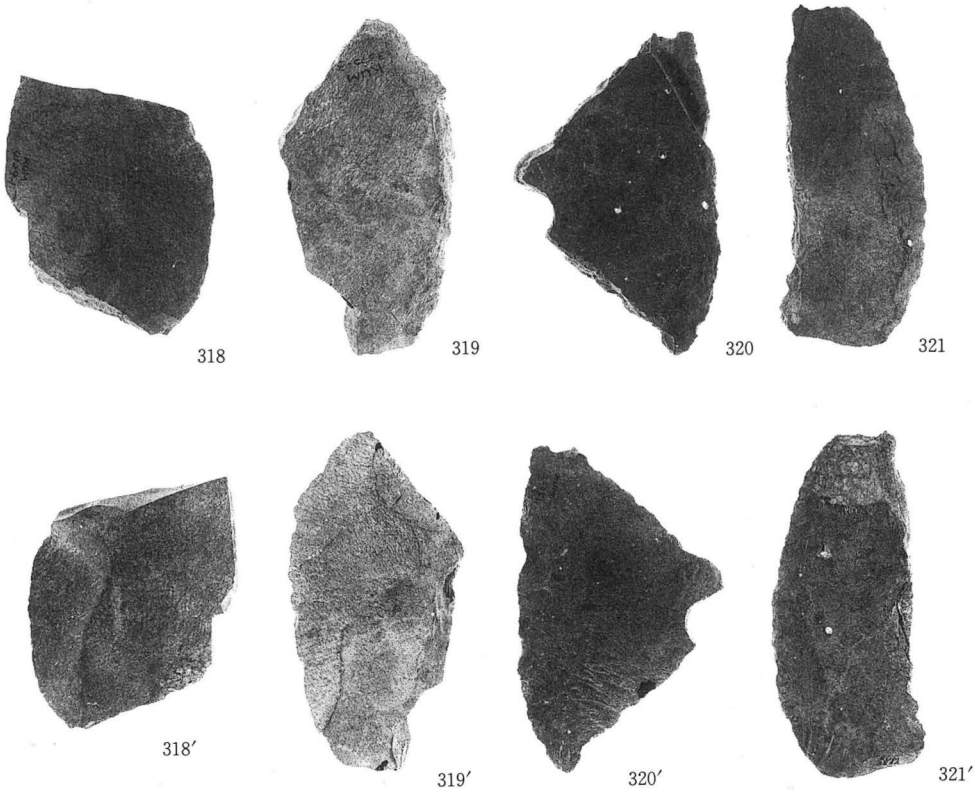
図版八五　縄文時代の遺物

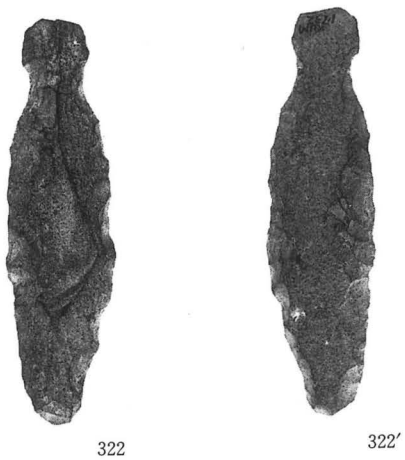




スクレイパー307～317（2/3）

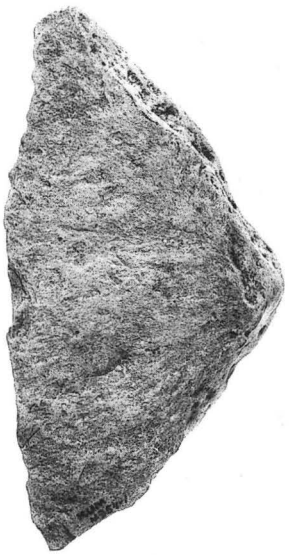
図版八六　縄文時代の遺物





スクレイパー318～321（2/3）　石匙322（2/3）

323

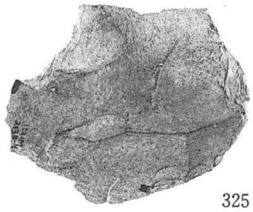


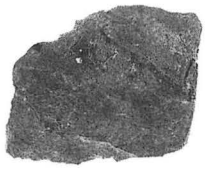
323′

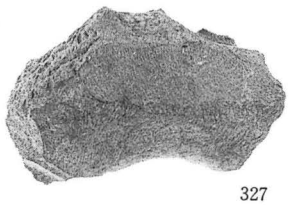
324

324′

スクレイブラ323、砥石324（2/3）

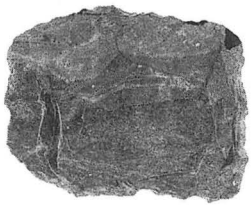

325


326

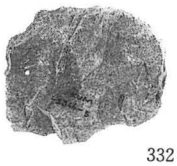

327

328

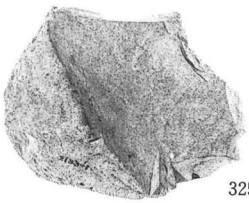
329

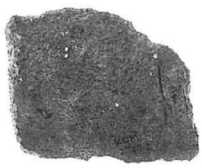

330

331


332

333

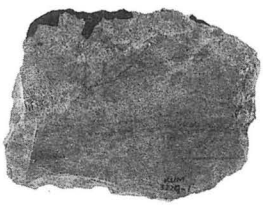

325′

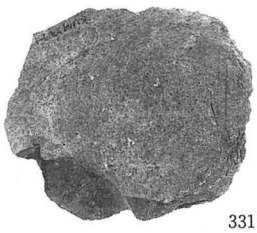

326′

327′

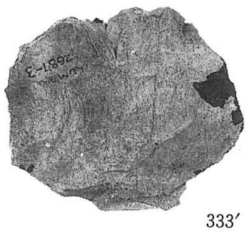
328′

329′

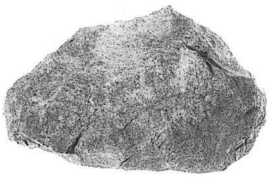

330′

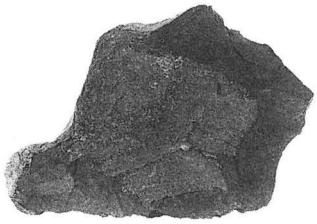

331′

332′

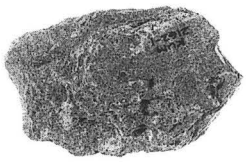

333′

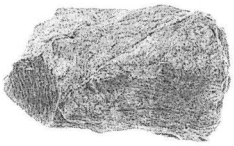
楔形石器、剪断面のない楔形325～333（2/3）

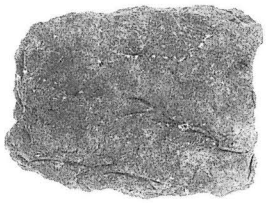

334


335

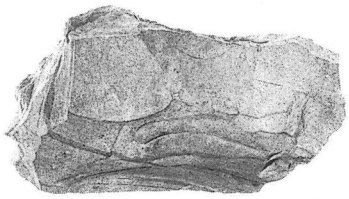
336


337

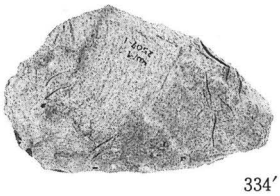

338

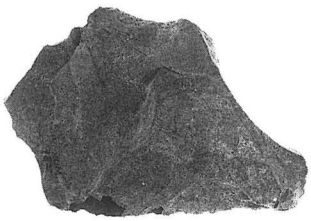

339

340

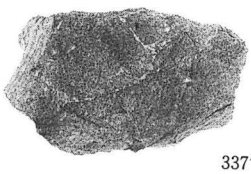

341

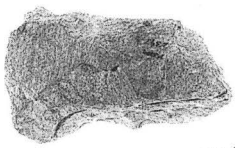
342

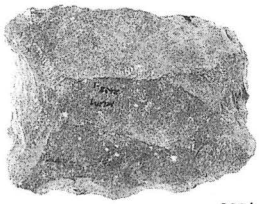

334′


335′

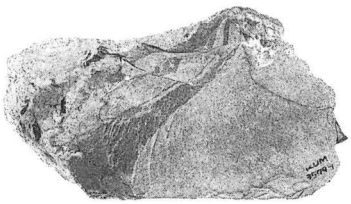
336′

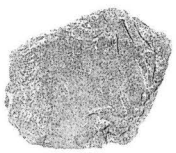

337′


338′


339′

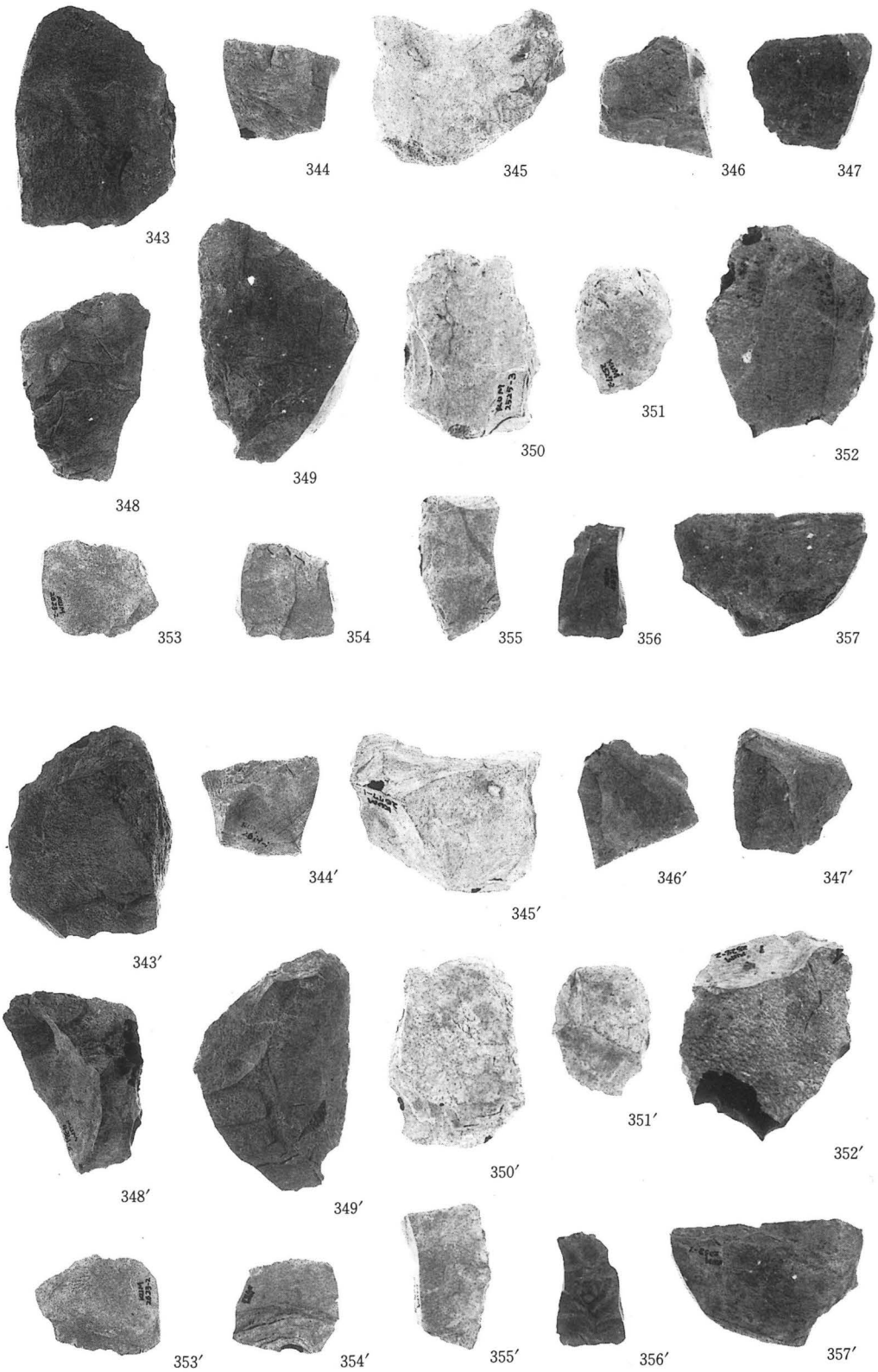
340′


341′

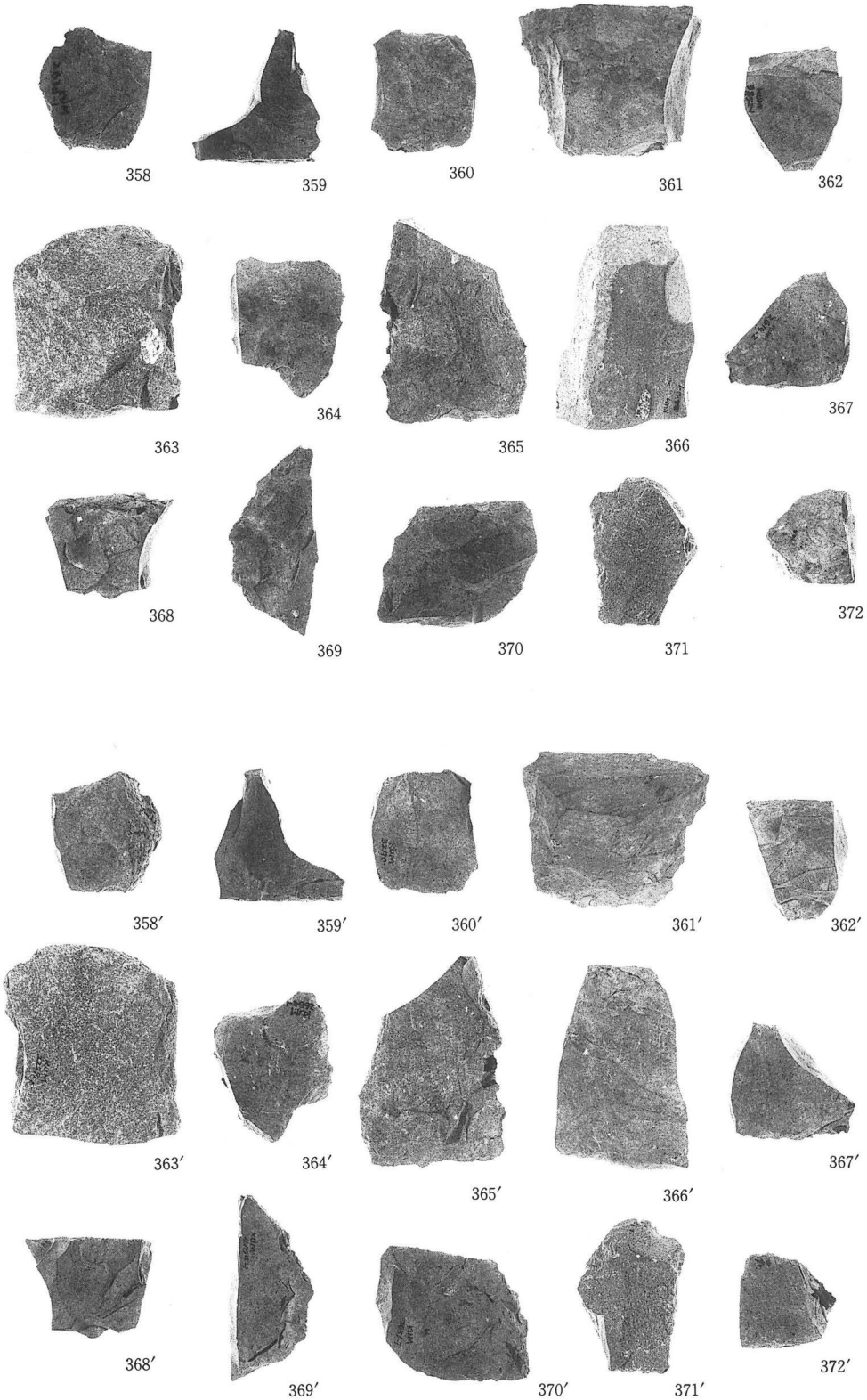

342′

楔形石器、剪断面のない楔形334～342（2/3）

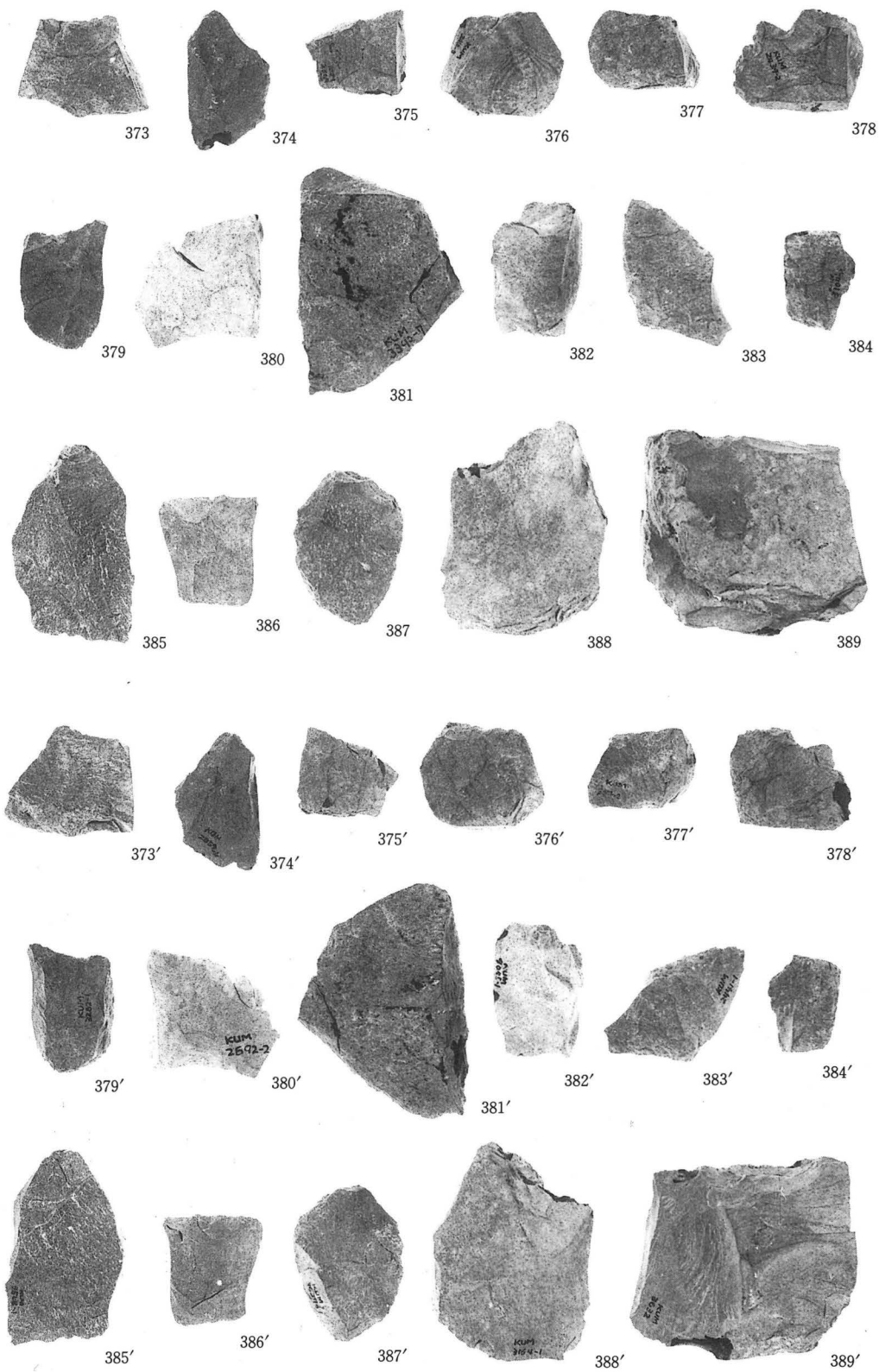
図版九〇　縄文時代の遺物



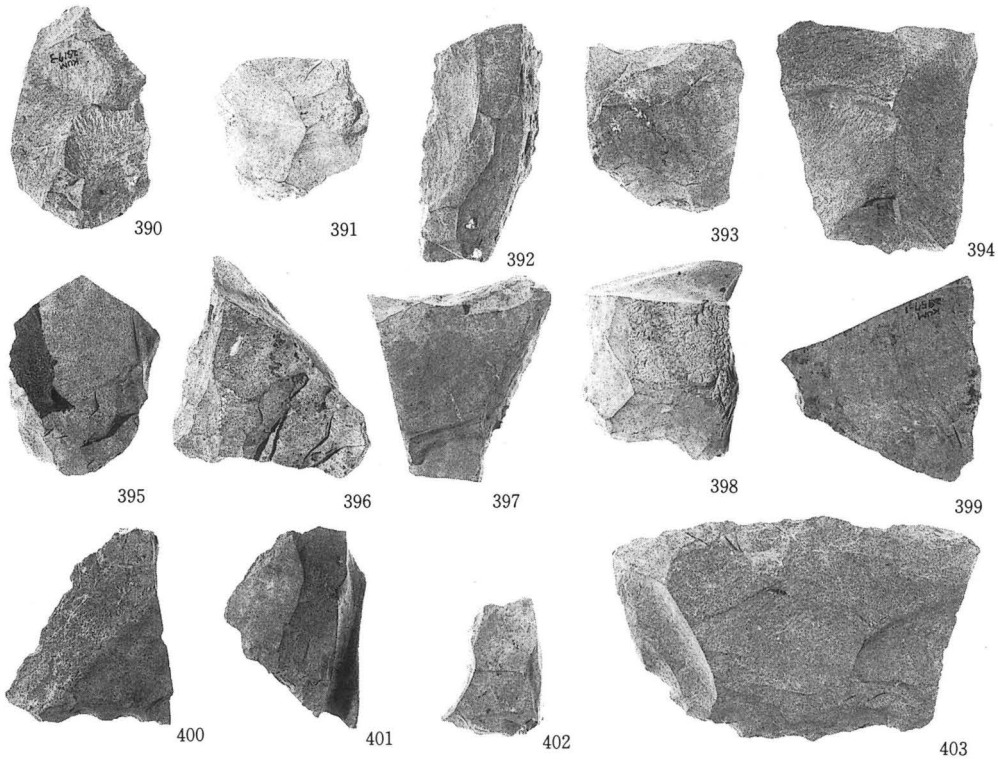
楔形石器、剪断面を有する楔形343～357（2/3）

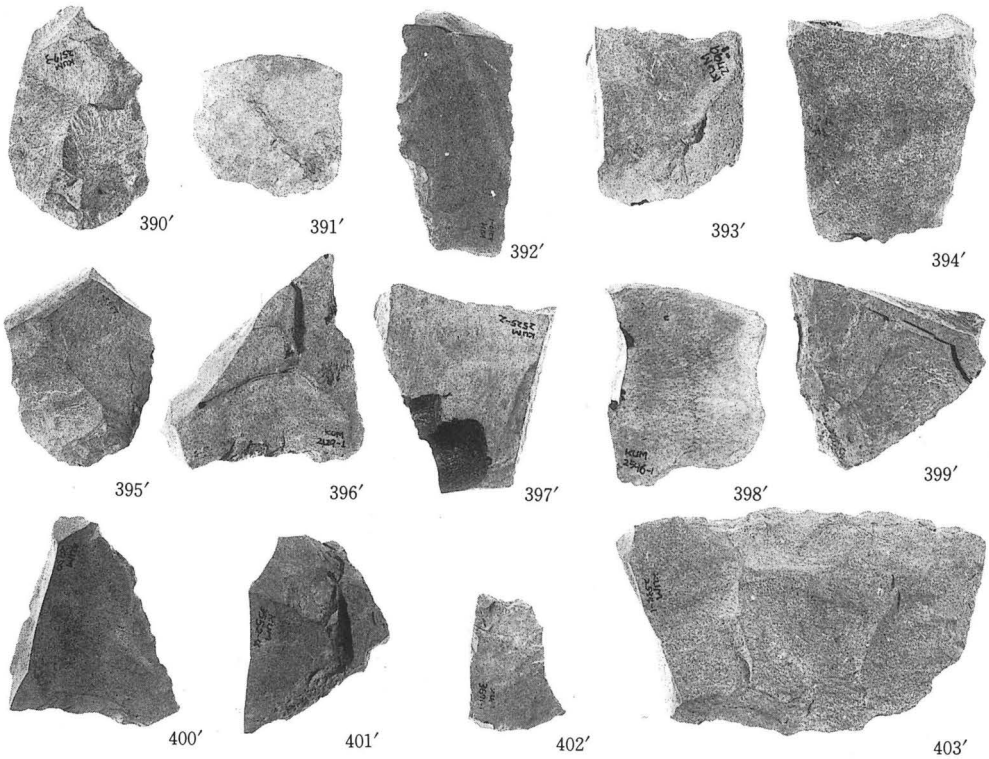


楔形石器、剪断面を有する楔形358～372（2/3）

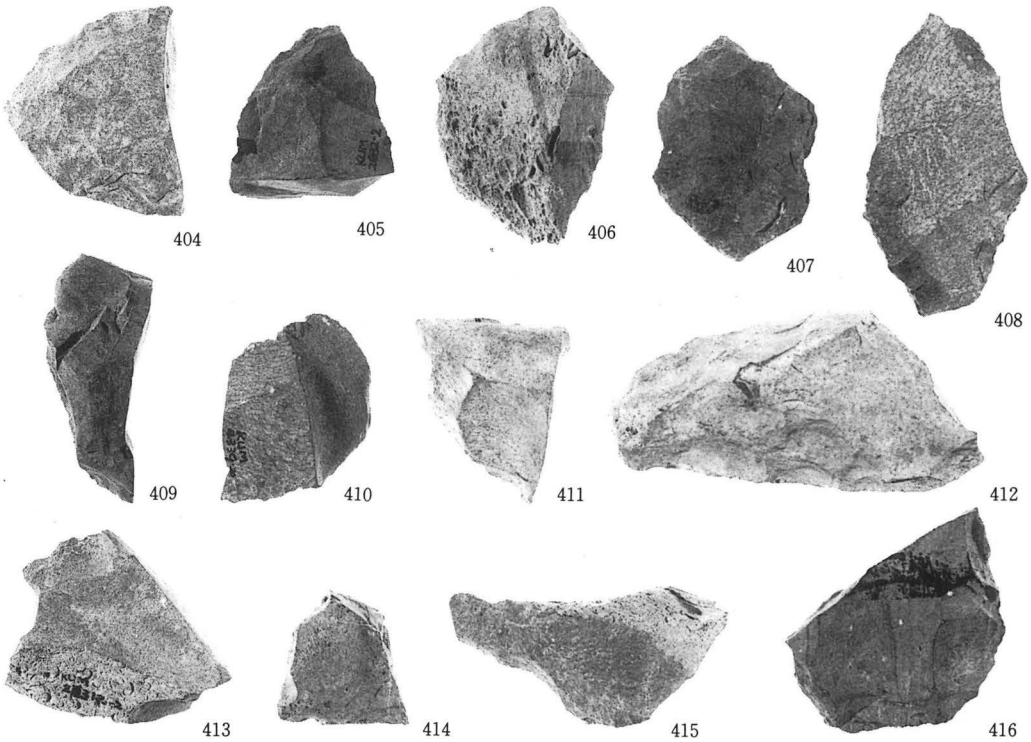


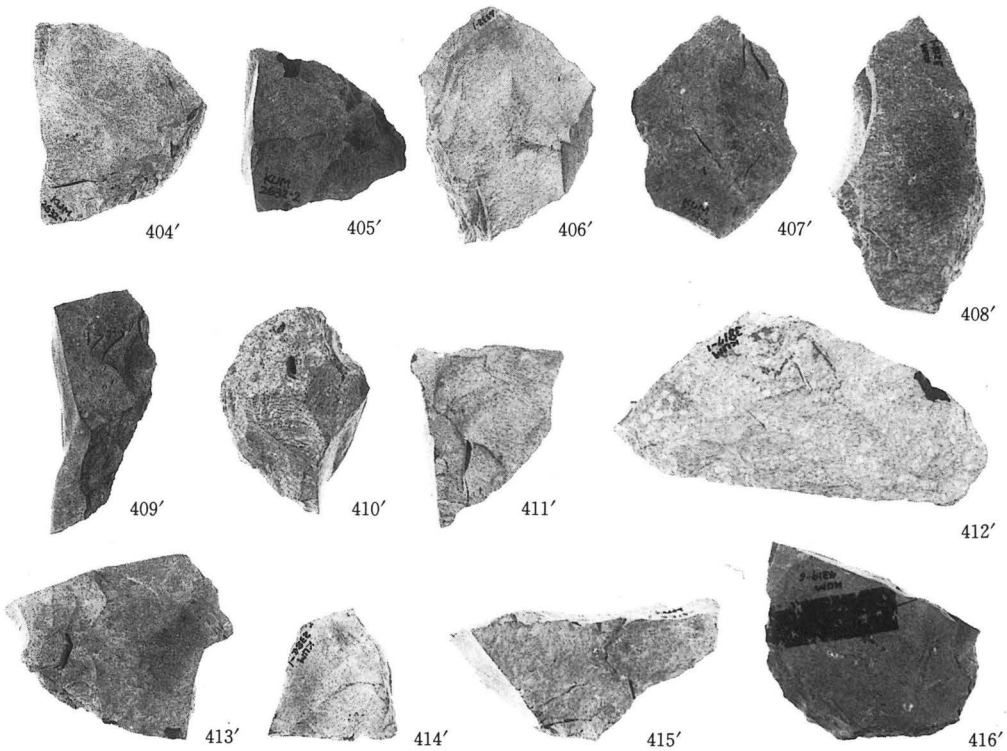
楔形石器、折れ面を有する楔形373～389（2/3）



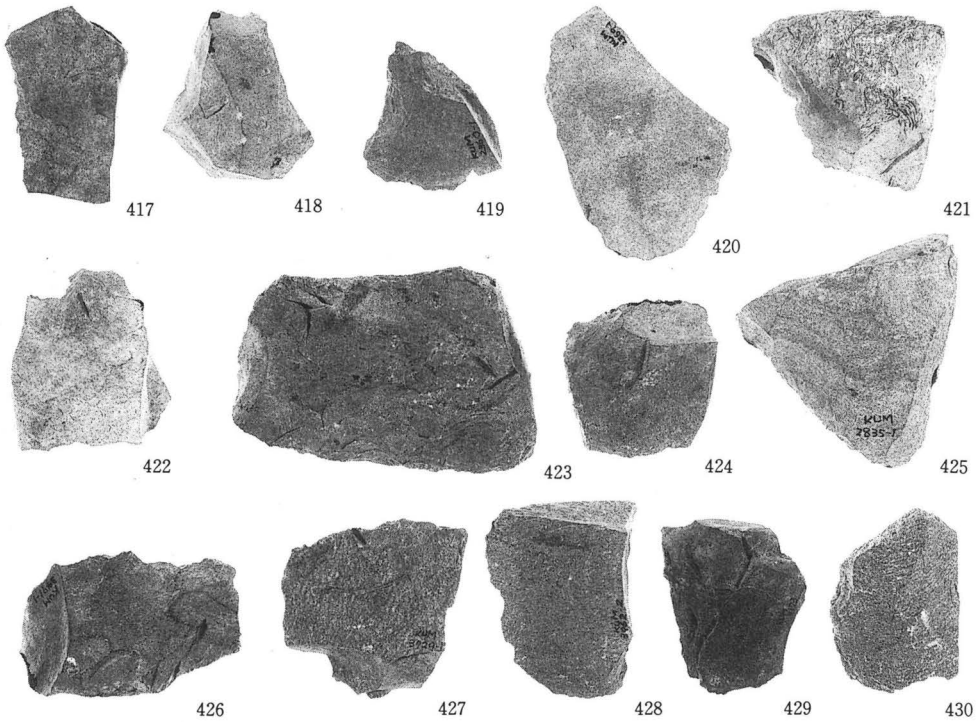


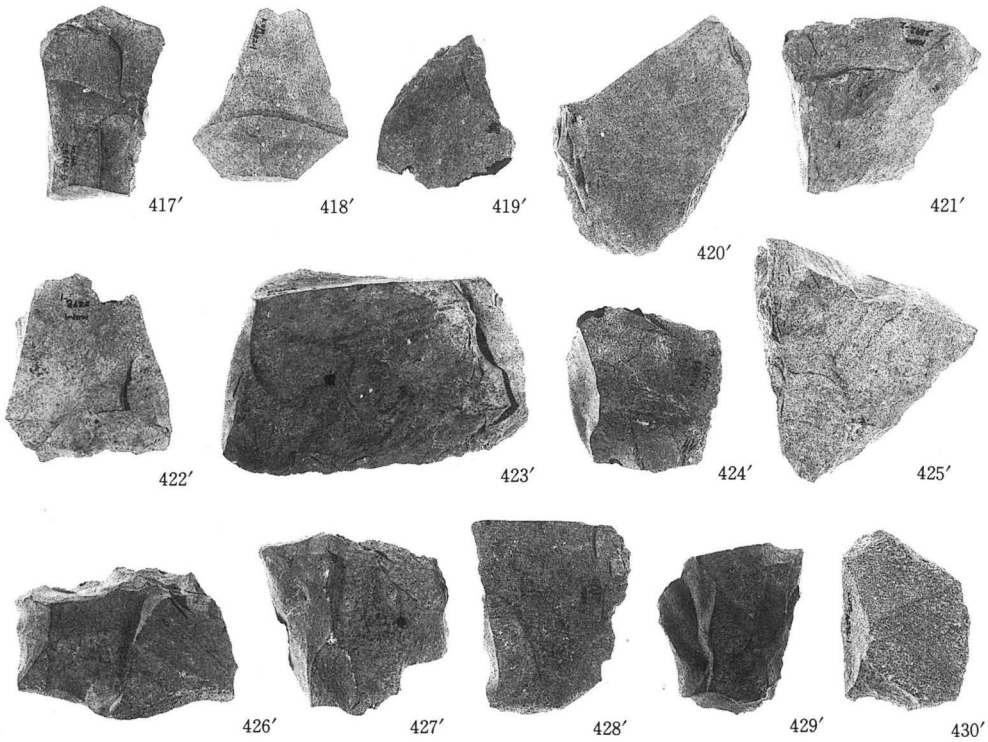
楔形石器、折れ面を有する楔形390～403（2/3）



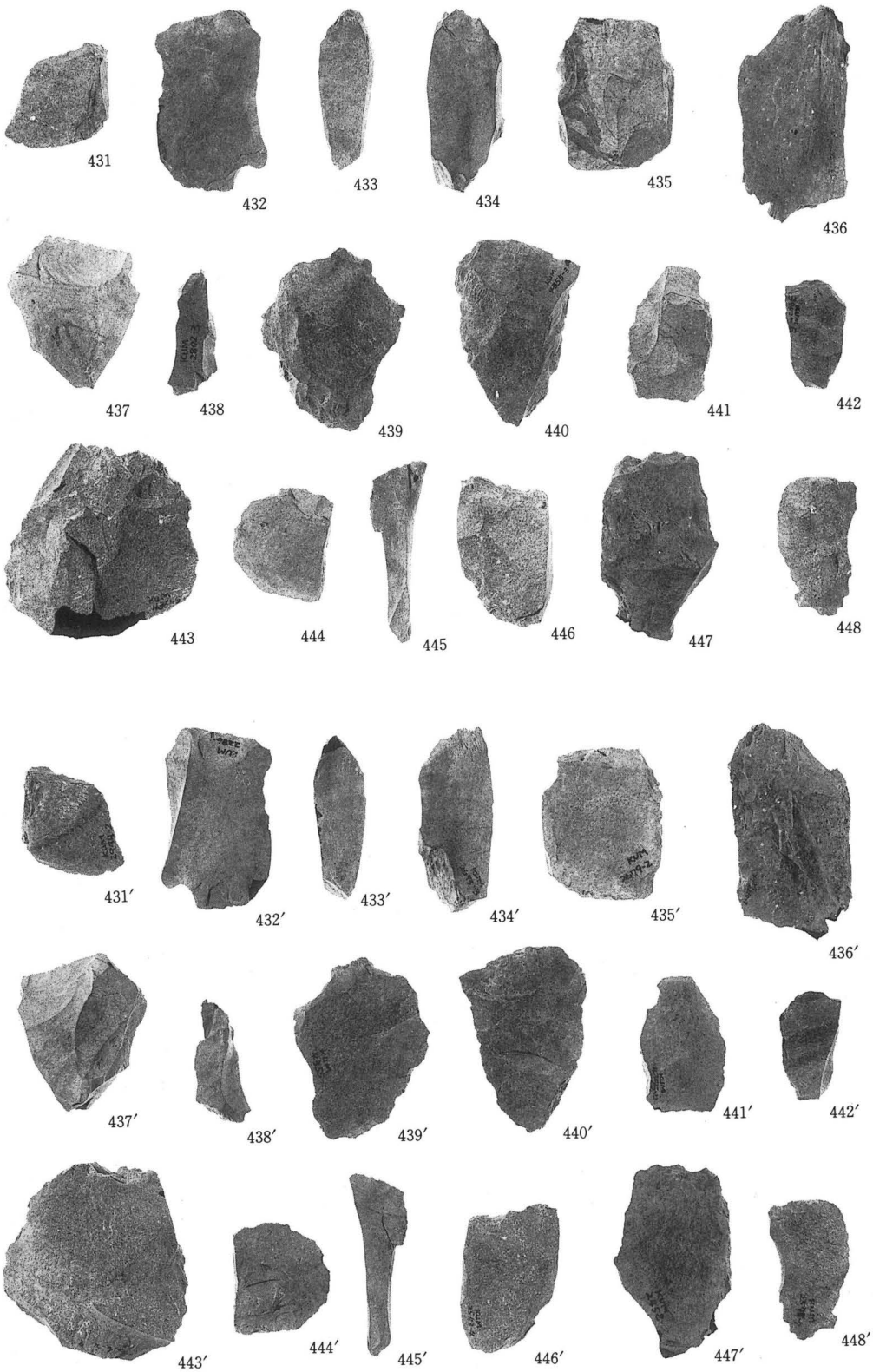


楔形石器、折れ面を有する楔形404～416（2/3）

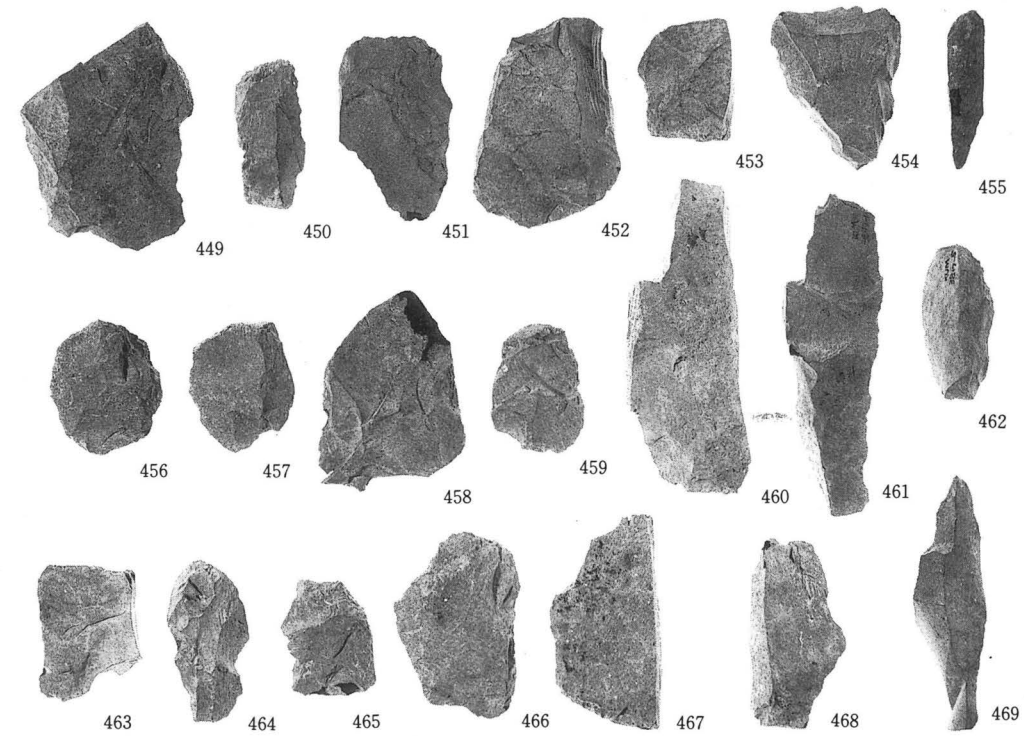


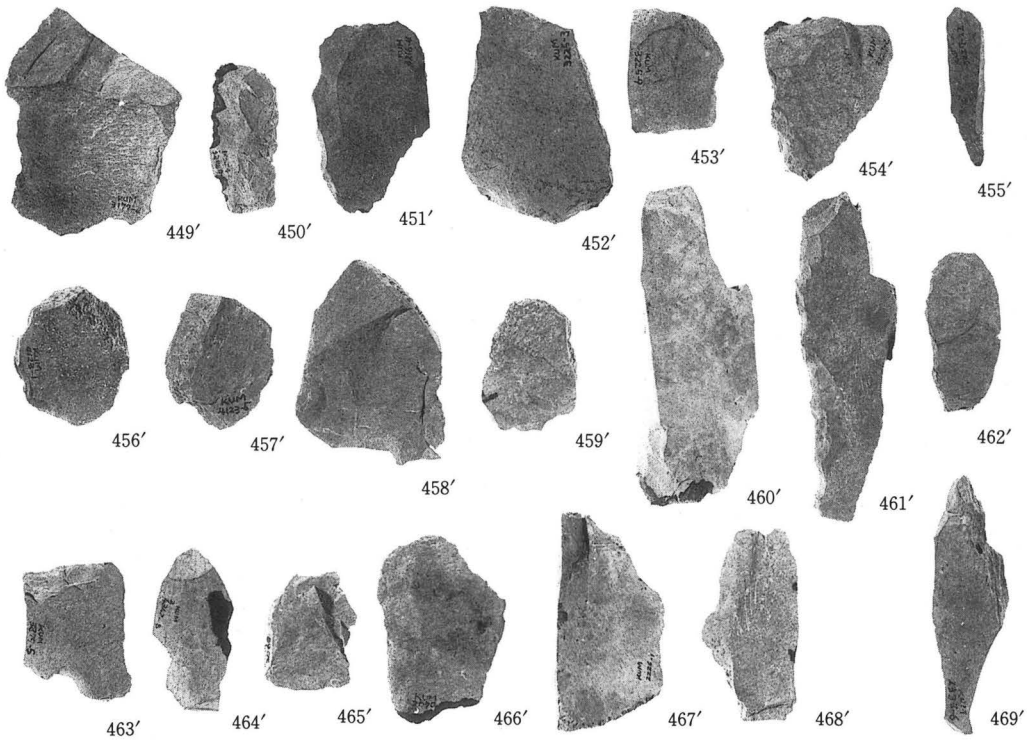


楔形石器、折れ面を有する楔形417～430（2/3）



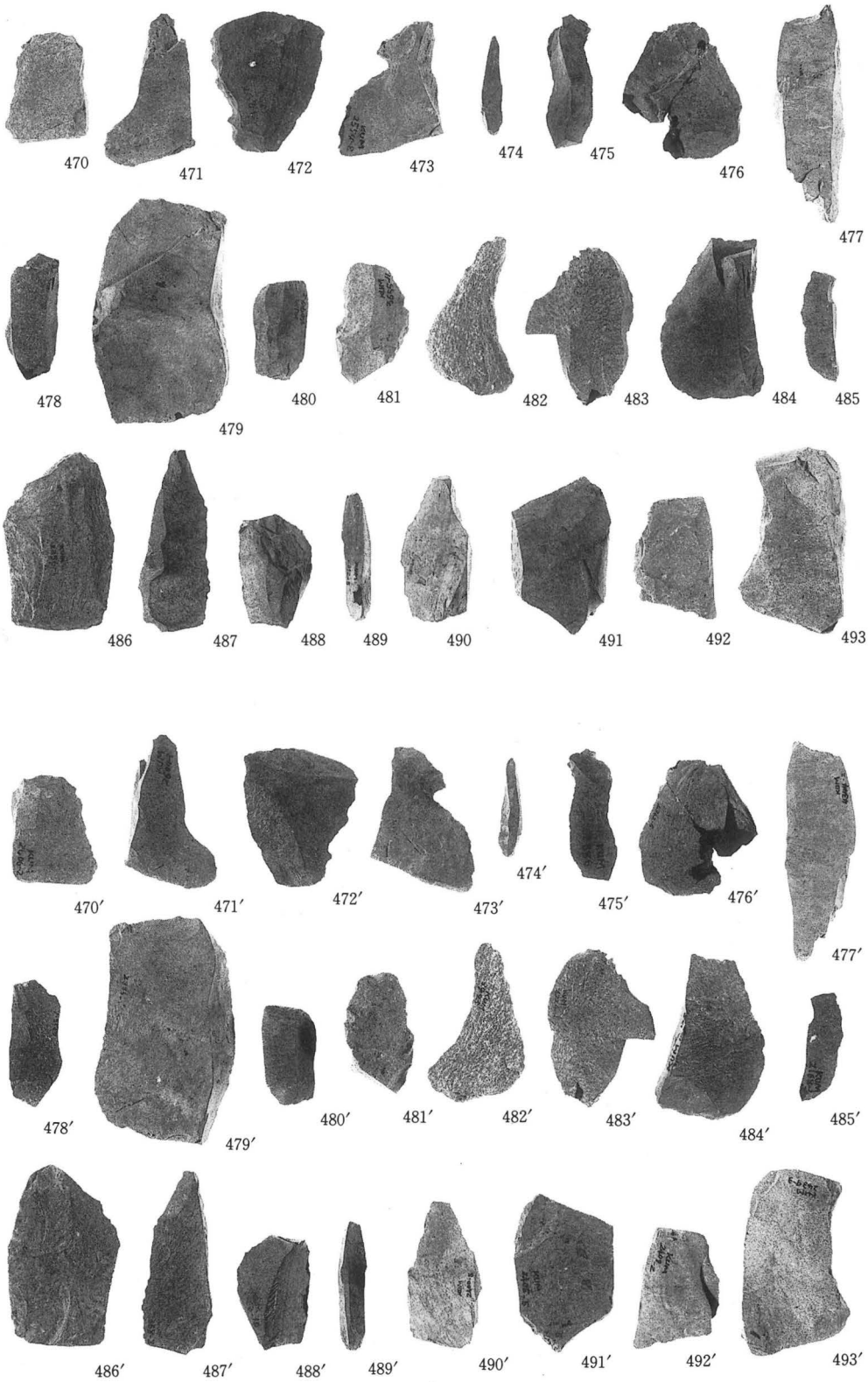
楔形石器、削片431～448（2/3）



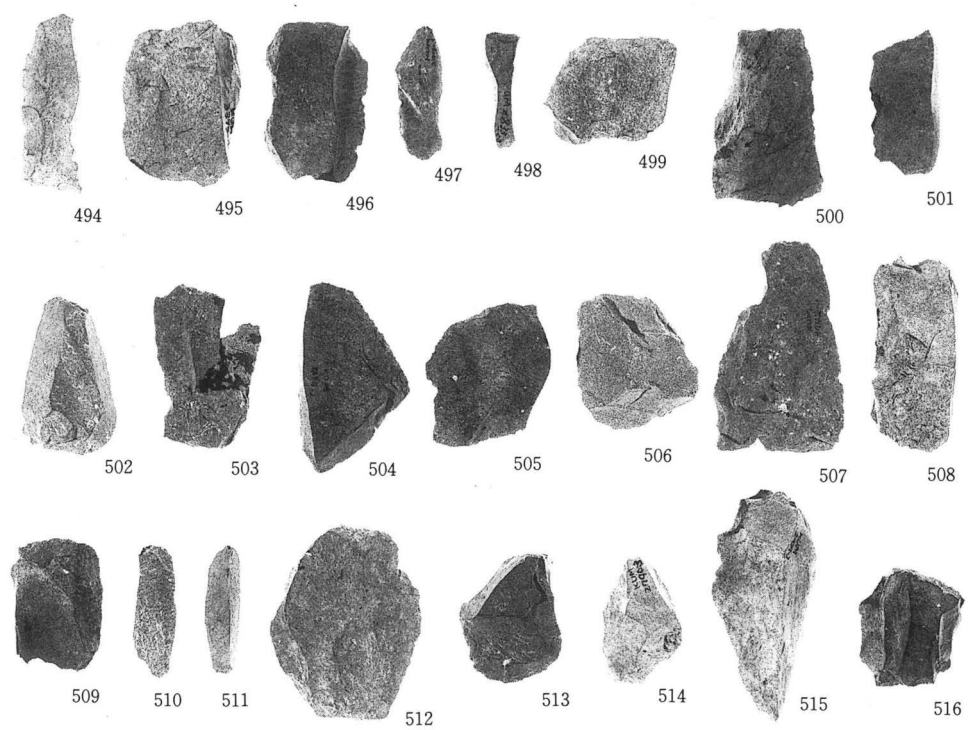


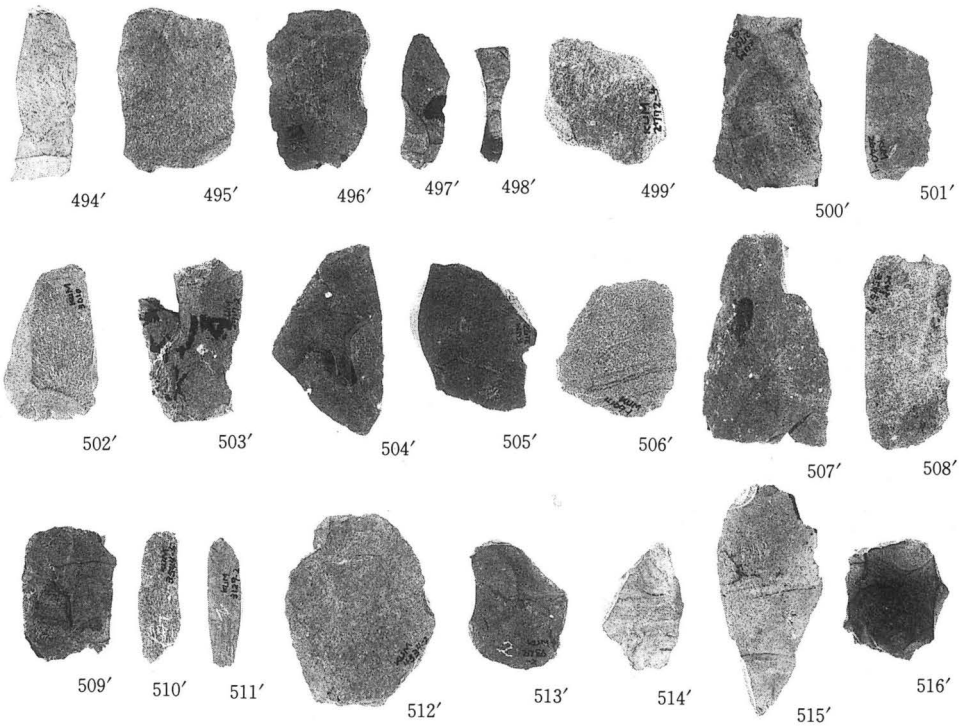
楔形石器、削片449～468（⅔）

図版九八　縄文時代の遺物

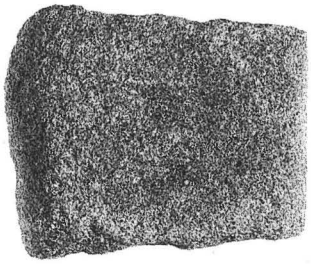


楔形石器、削片470～493

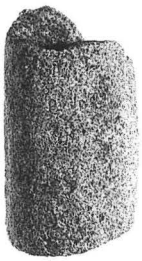




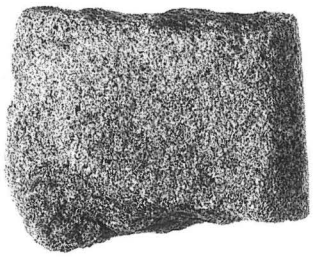
楔形石器、削片494～516（2/3）



517

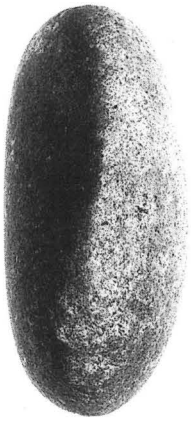


517′

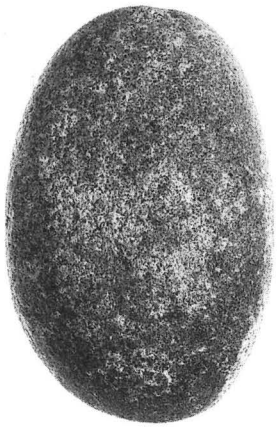


517″

518



518′



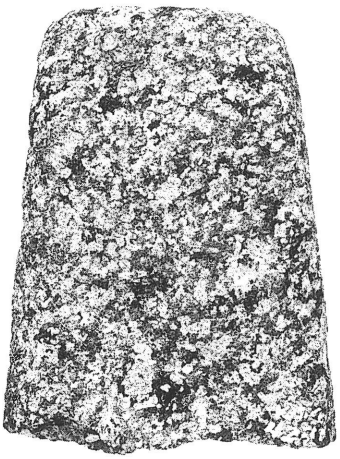
518″

519

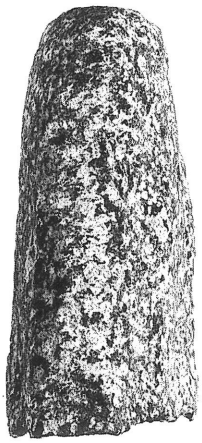
519′

519″

磨石517～518、磨石＋敲石519（2/3）

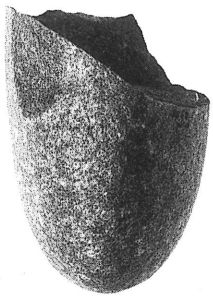


520

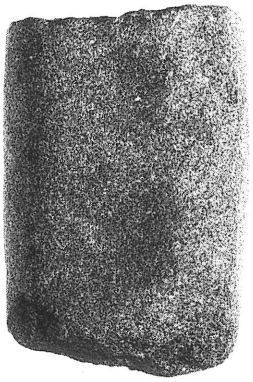


520′

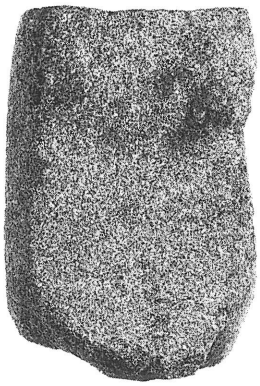
521



521′

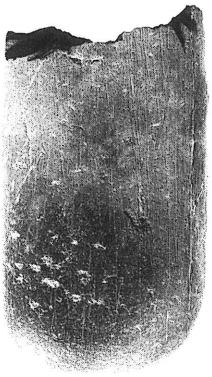


522



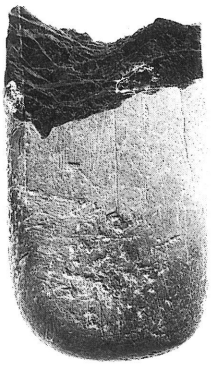
522′

磨石520、磨石＋敲石521～522（2/3）

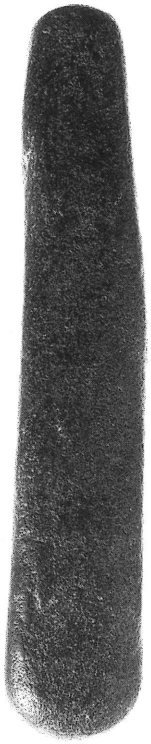


523

523′

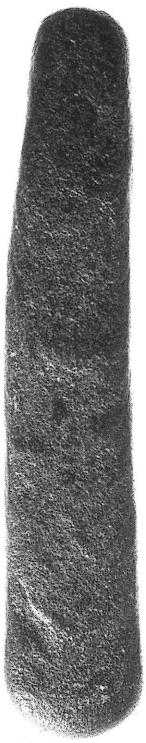


523″



524

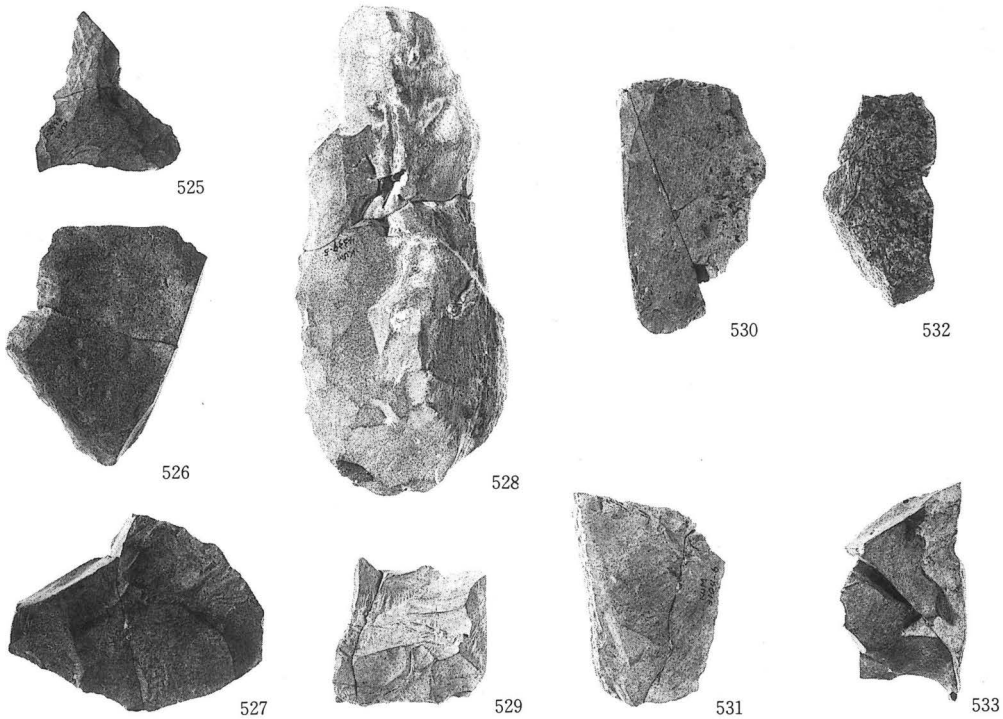
524′

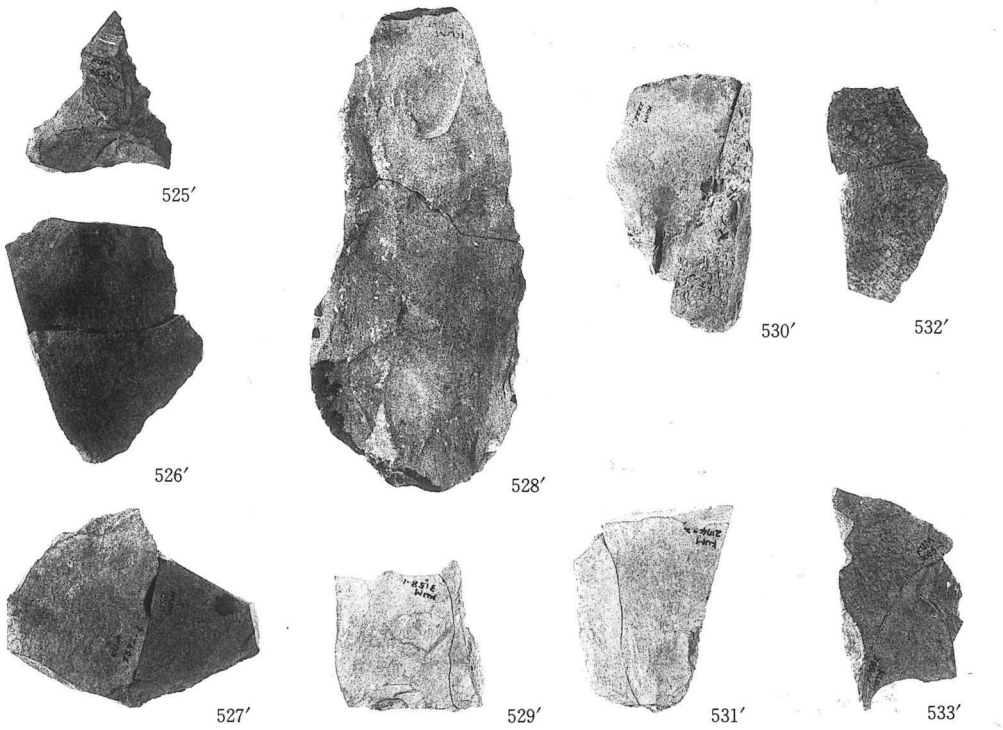


524″

線条痕のある礫523、局部磨製礫524（2/3）

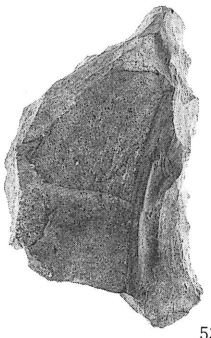
図版一〇三　縄文時代の遺物





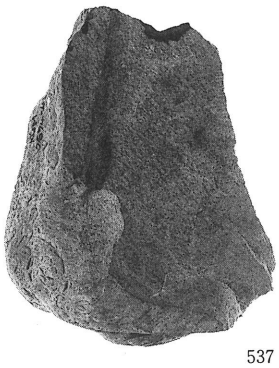
接合資料、2次加工のある剝片525～527、楔形石器529～531、剝片528、532～533（2/3）

図版一〇四　縄文時代の遺物

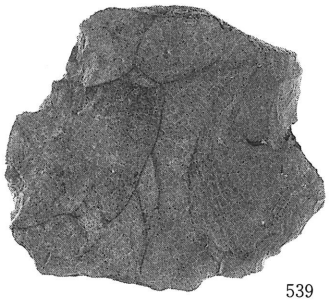

534

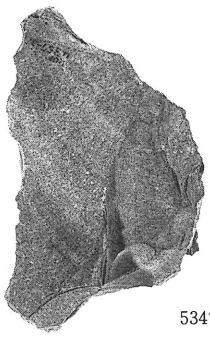
535

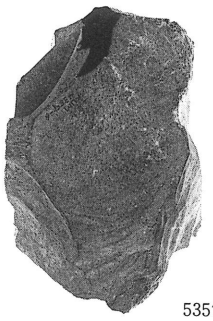
536

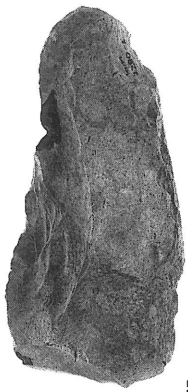

537

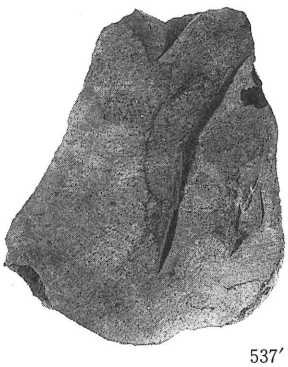
538


539


534′


535′


536′

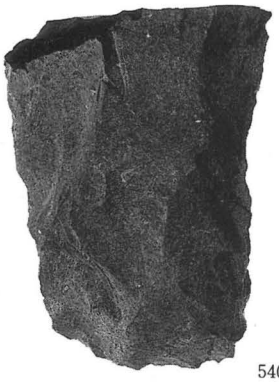

537′

538′

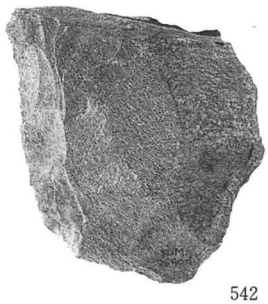
539′

石核534～539（2/3）

図版一〇五　縄文時代の遺物


540

541


542

543

544

545

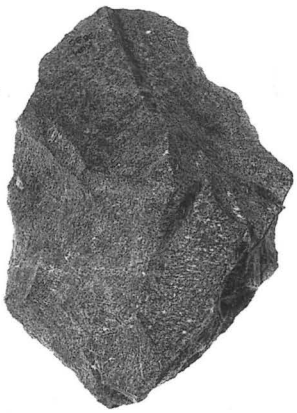
540′

541′

542′

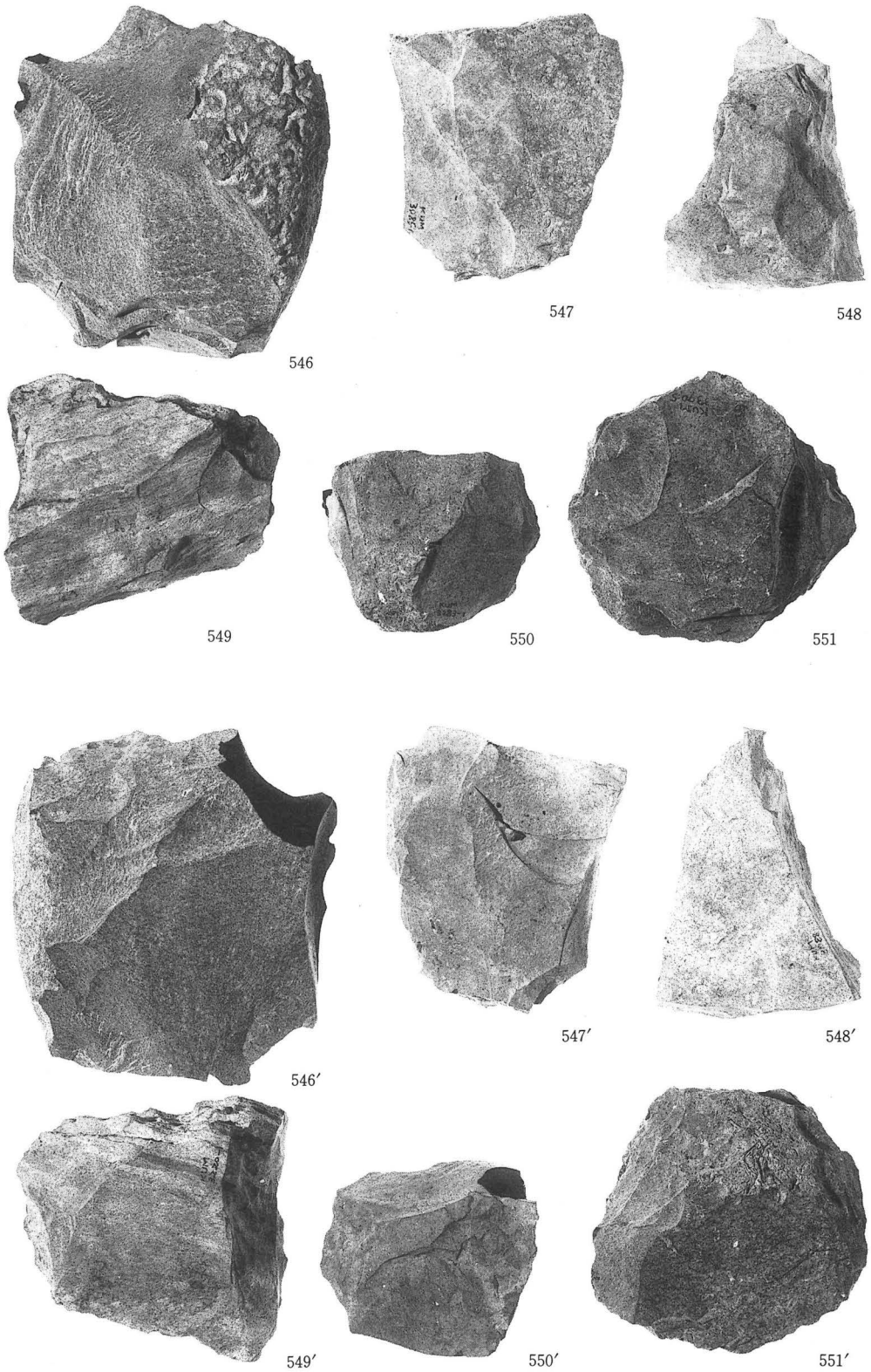
543′

544′


545′

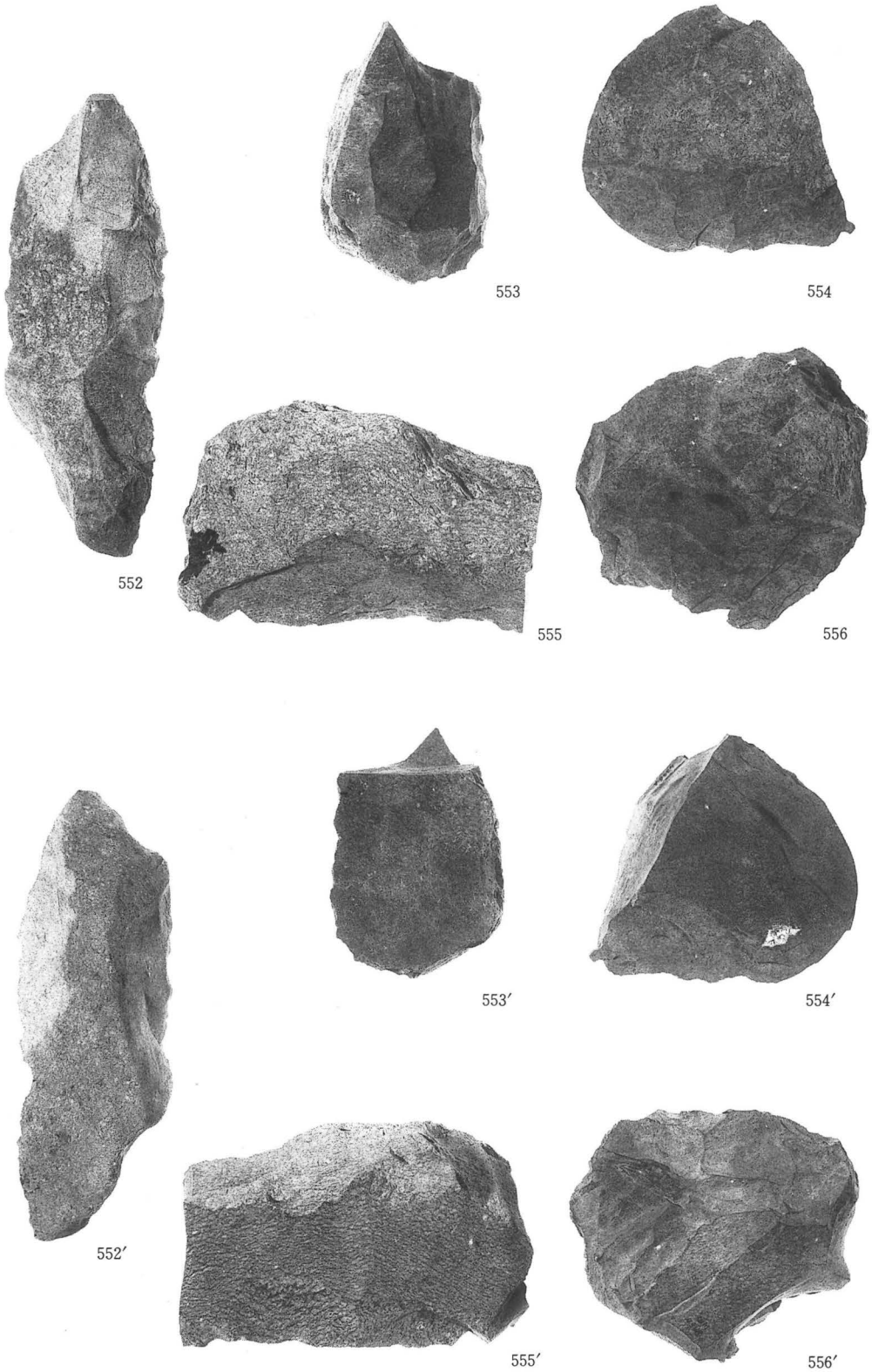
石核540～545（2/3）

図版一〇六　縄文時代の遺物



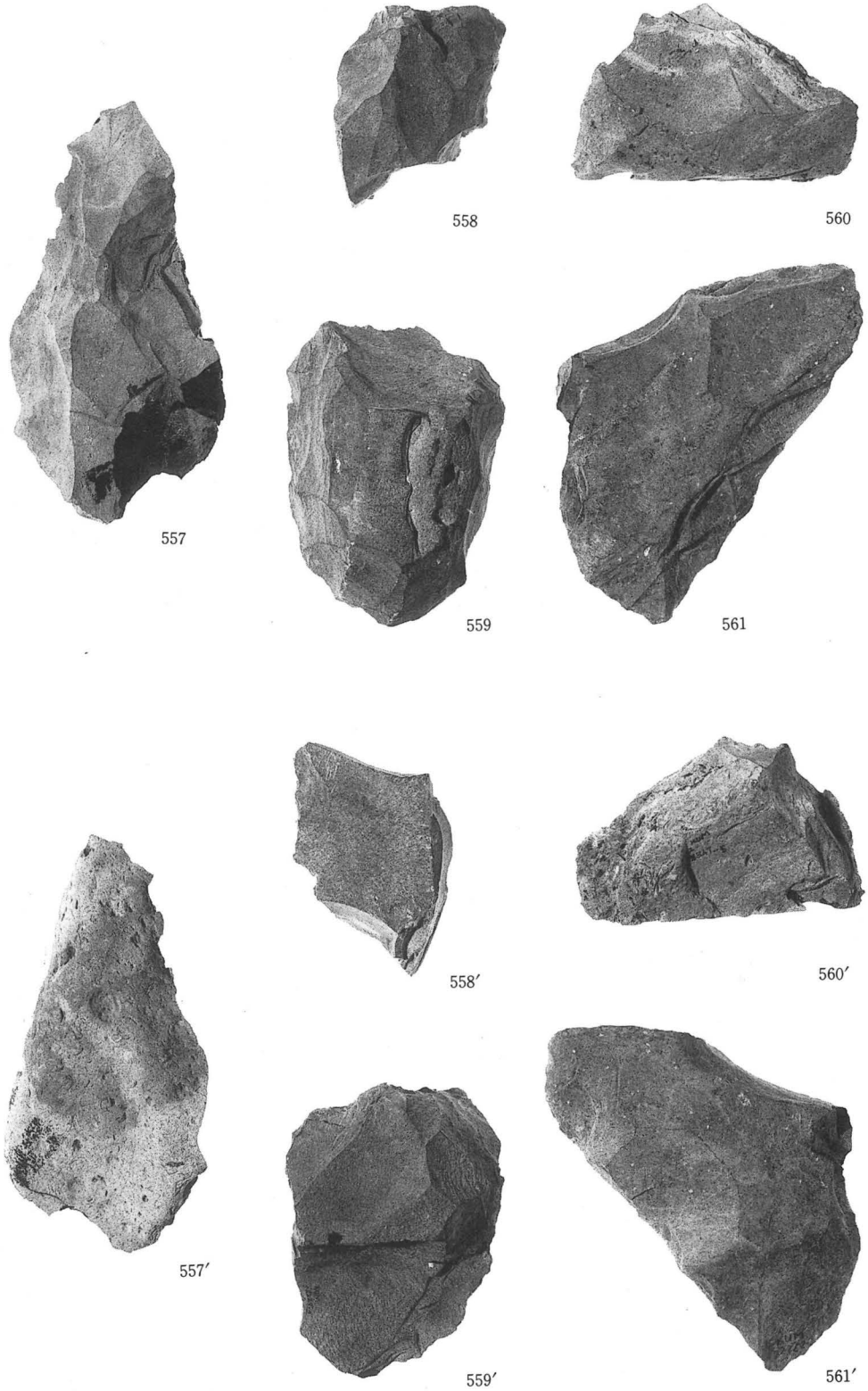
石核546～551（2/3）

図版一〇七　縄文時代の遺物



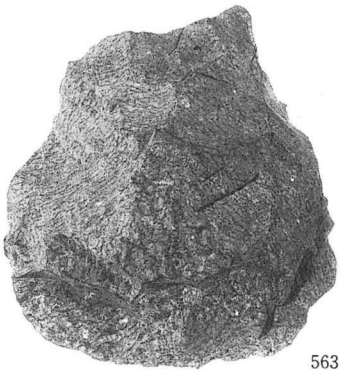
石核552～556（2/3）

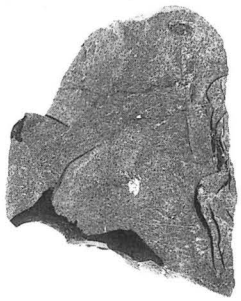
図版一〇八　縄文時代の遺物



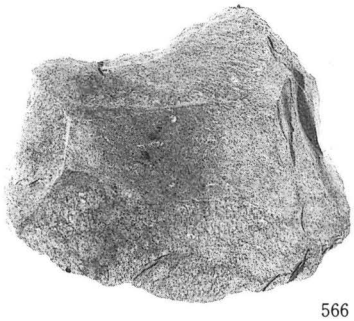
石核557～561（2/3）

562

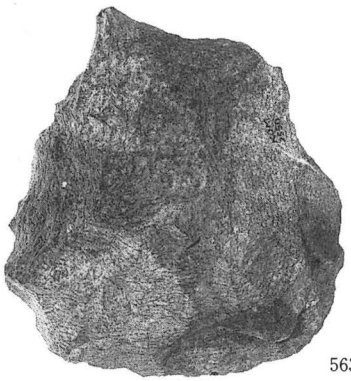

563

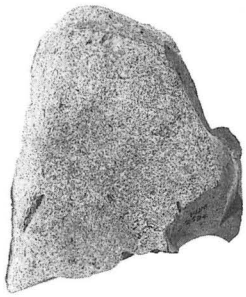

565

564

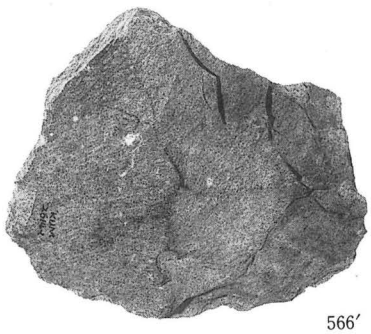

566

562′

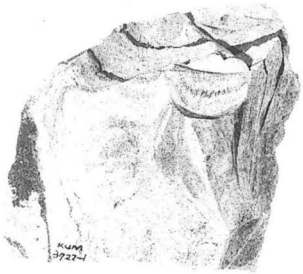

563′

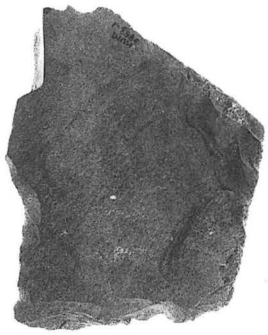

565′

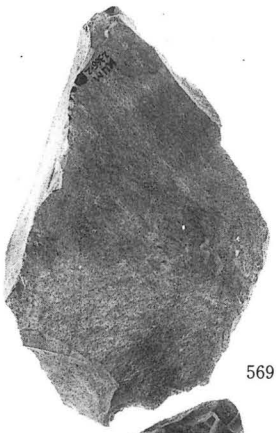
564′


566′

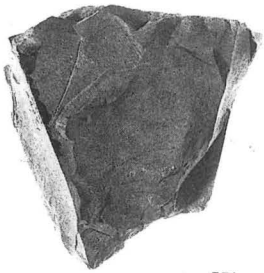
石核562～566（2/3）

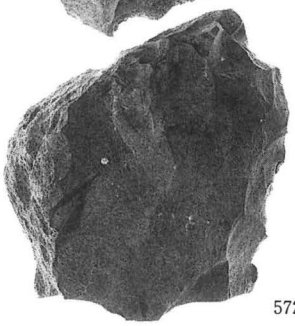

567

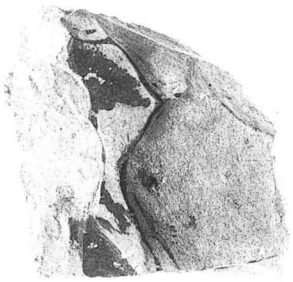

568


569

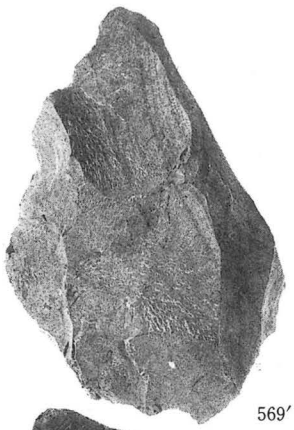
570


571

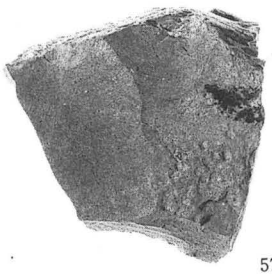

572


567′

568′

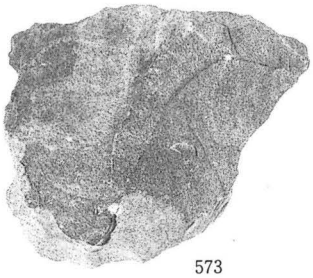

569′

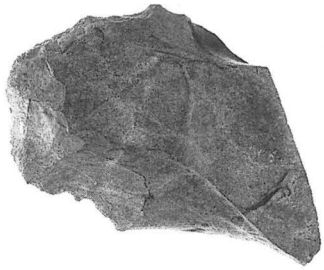
570′


571′

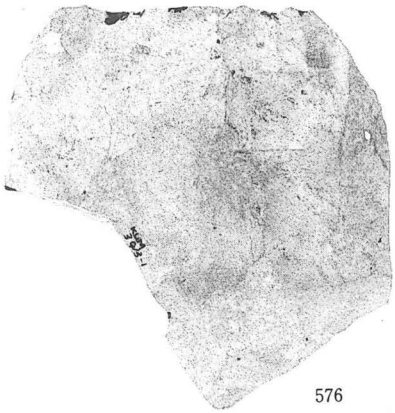
572′

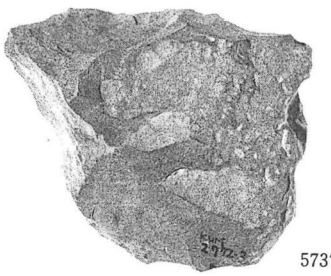
石核567～572（2/3）


573

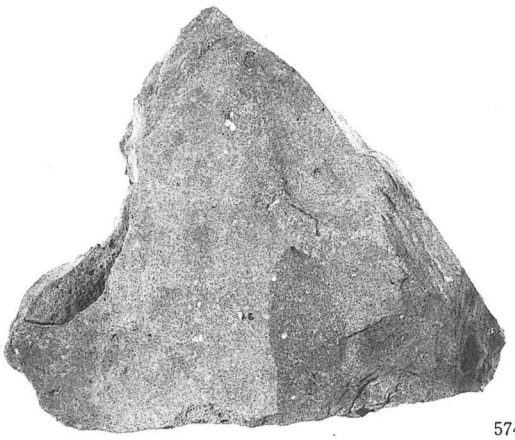

575

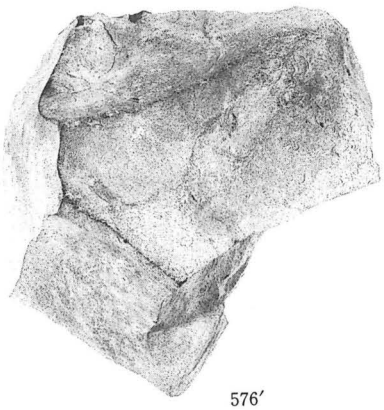
574


576


573′

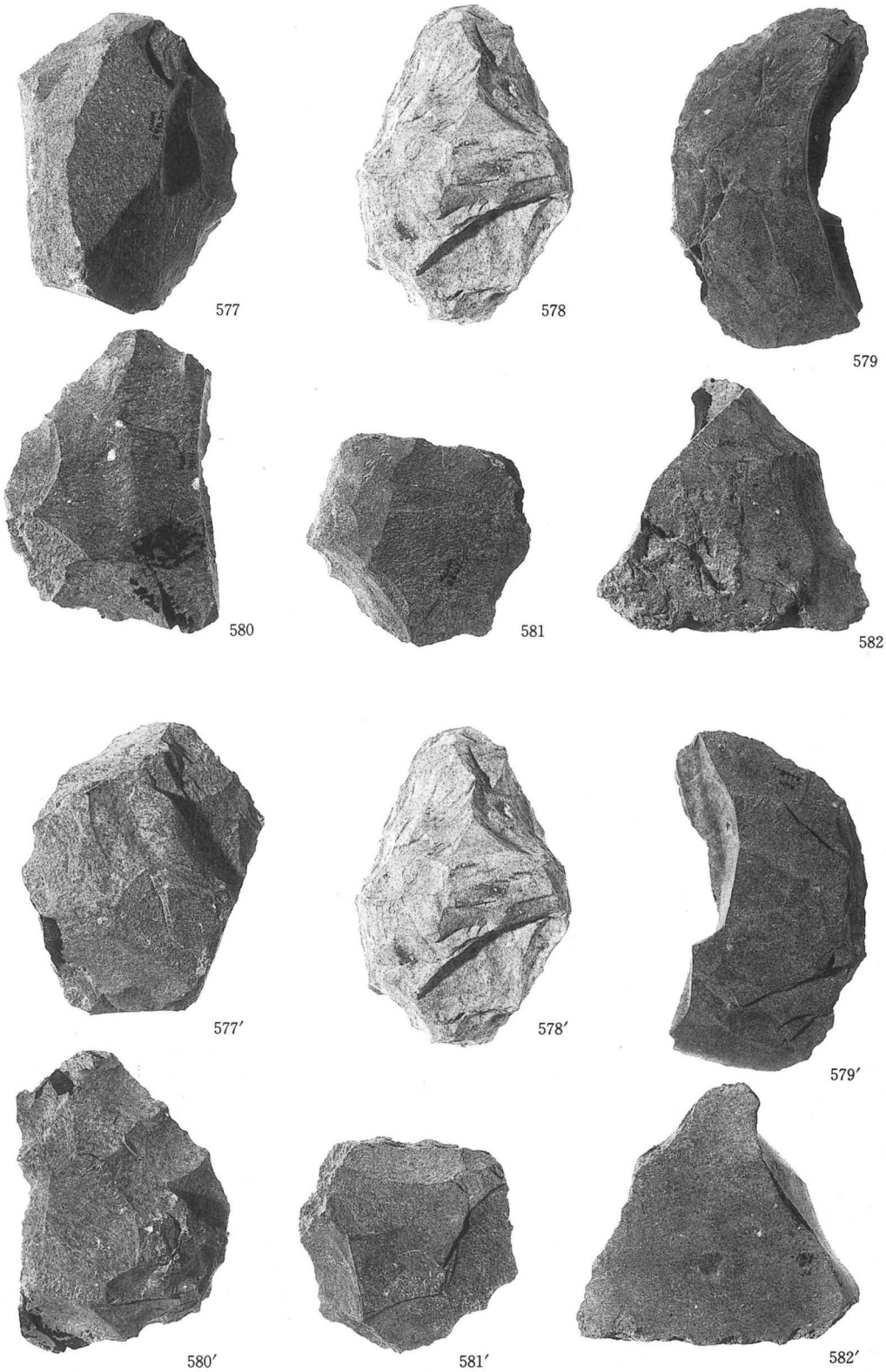
575′


574′


576′

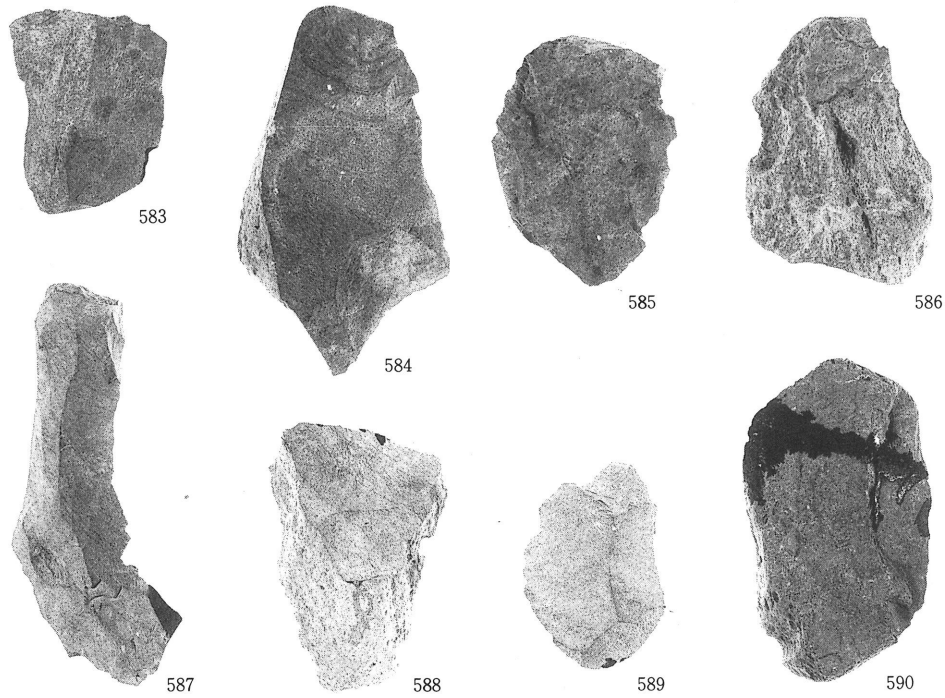
石核573～576（2/3）

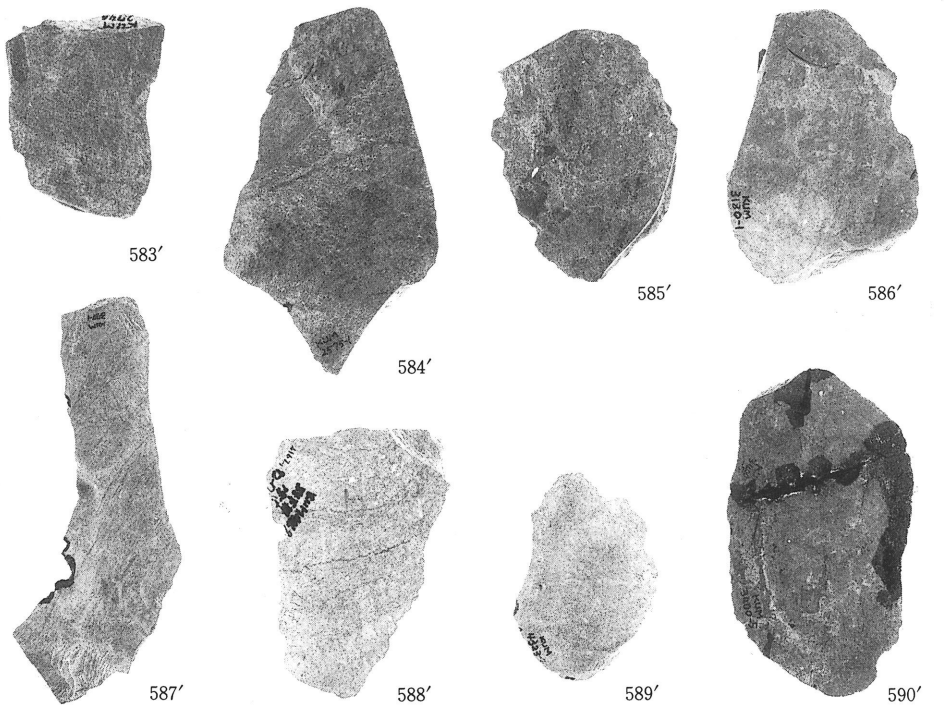
図版一一二　縄文時代の遺物



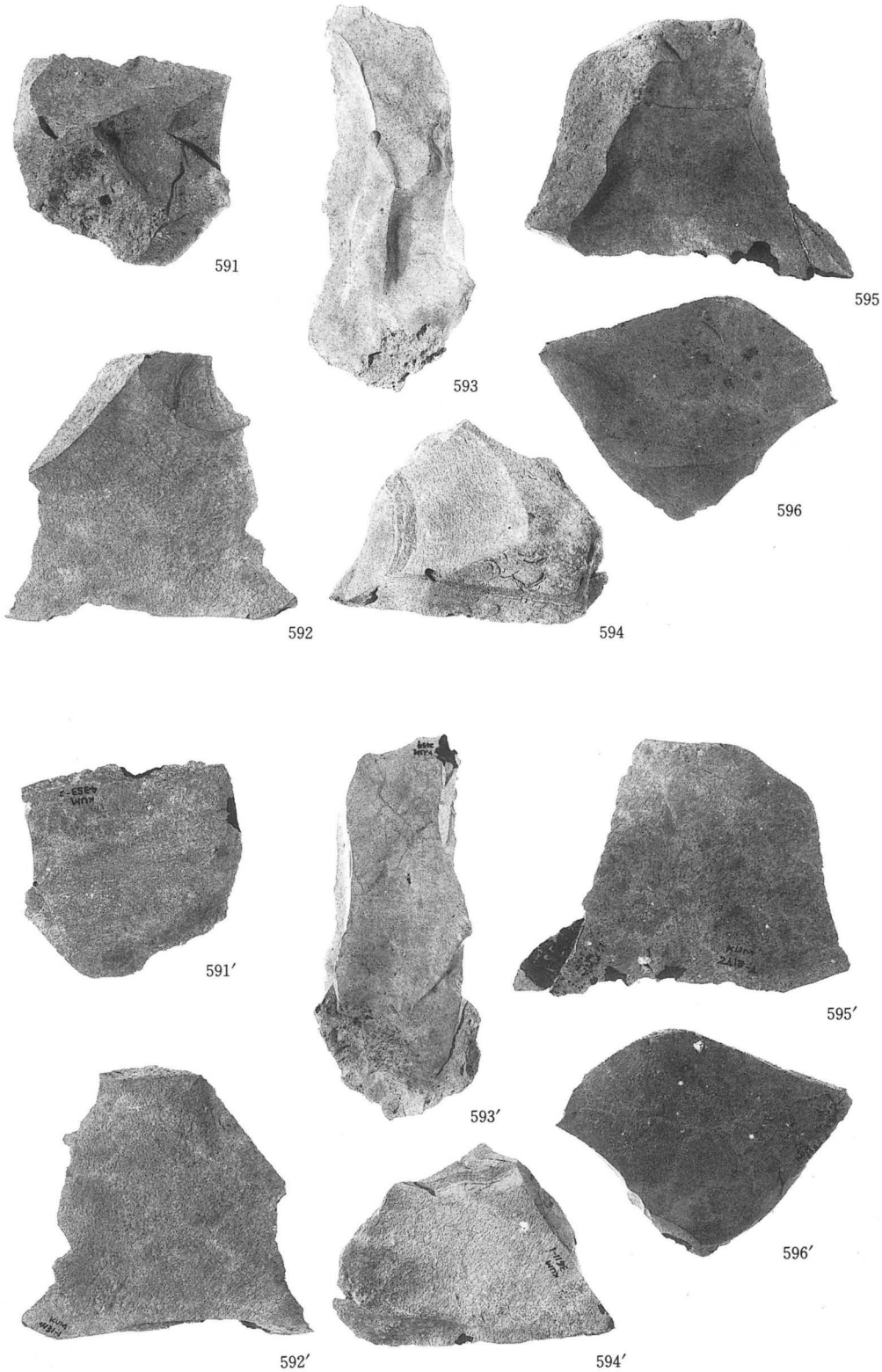
石核577～582（2/3）

図版一一三　縄文時代の遺物



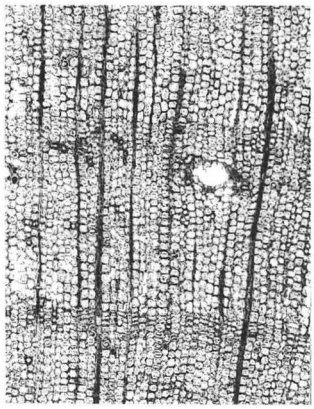


縦長剥片583～590（2/3）

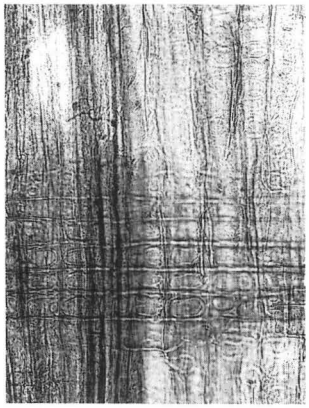


横長剝片591～596（⅔）

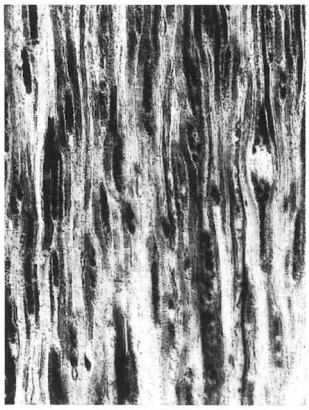
図版一一五　神並遺跡出土の自然木（顕微鏡写真一）



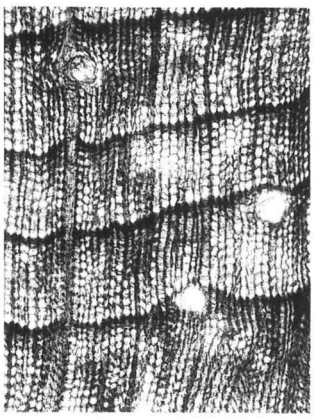
1



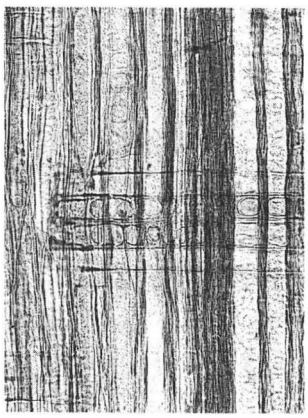
2



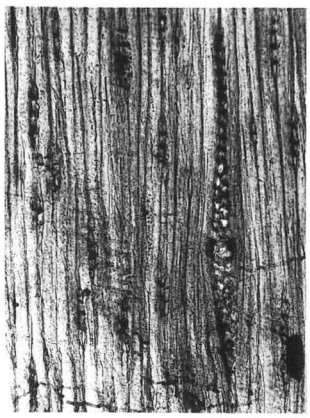
3



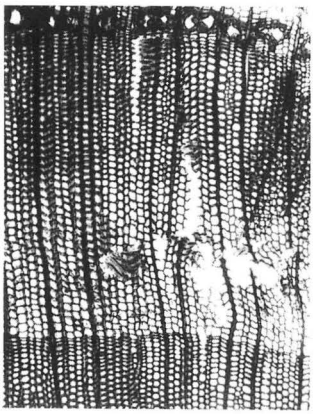
4



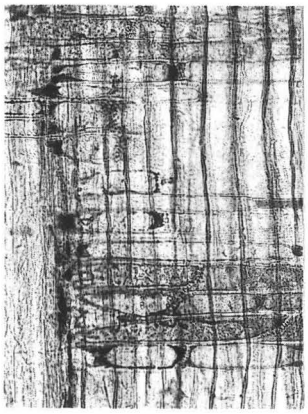
5



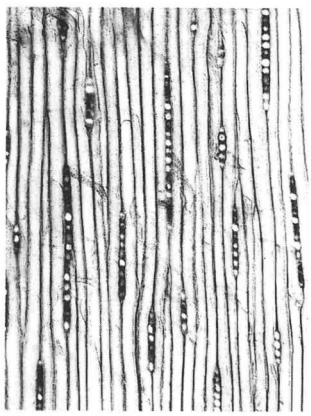
6



7



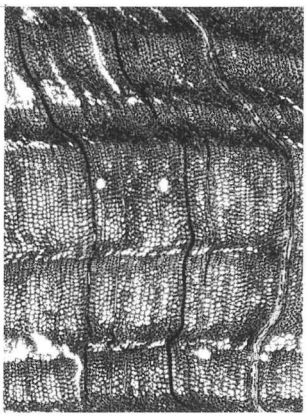
8



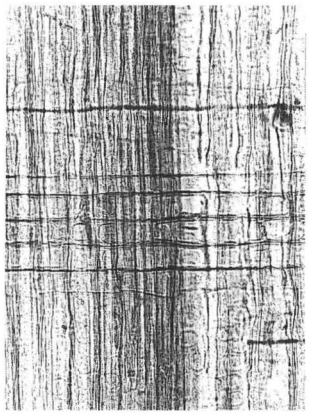
9

1　試料1　木口面（ 50倍）
2　試料1　柾目面（100倍）
3　試料1　板目面（100倍）
4　試料2　木口面（ 50倍）
5　試料2　柾目面（100倍）
6　試料2　板目面（100倍）
7　試料3　木口面（ 50倍）
8　試料3　柾目面（100倍）
9　試料3　板目面（100倍）

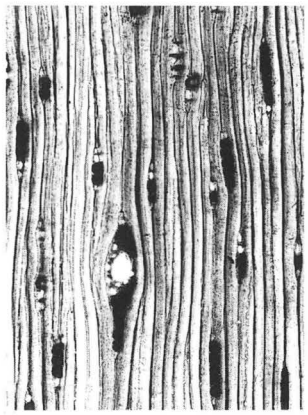
図版一一六　神並遺跡出土の自然木（顕微鏡写真二）



1



2



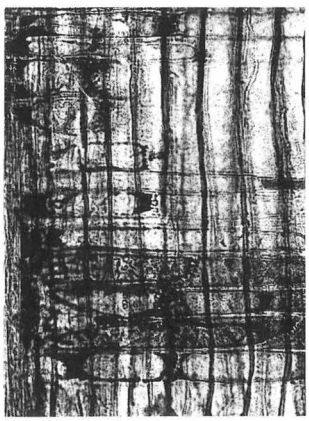
3

4

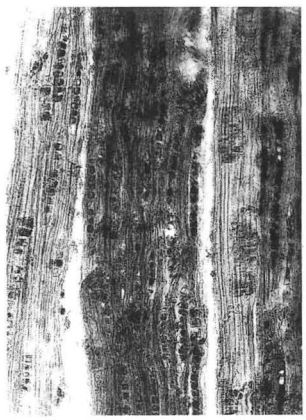
5

6

7



8



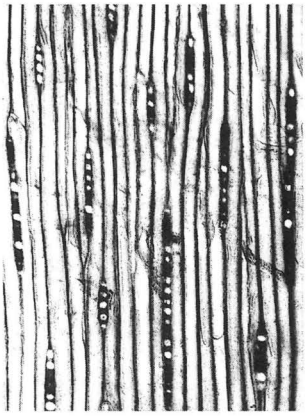
9

1　試料4　木口面（ 50倍）
2　試料4　柾目面（100倍）
3　試料4　板目面（100倍）
4　試料5　木口面（ 50倍）
5　試料5　柾目面（200倍）
6　試料5　板目面（100倍）
7　試料6　木口面（ 50倍）
8　試料6　柾目面（100倍）
9　試料6　板目面（100倍）

図版一一七　神並遺跡出土の自然木（顕微鏡写真三）

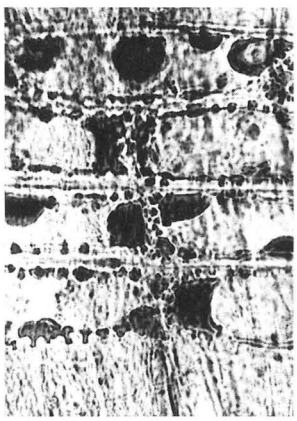
1

2

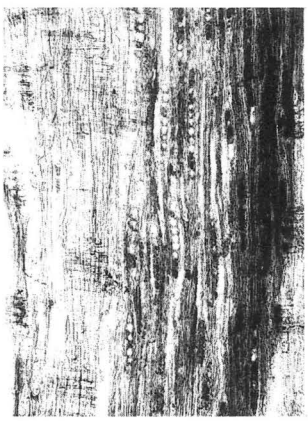


3

4



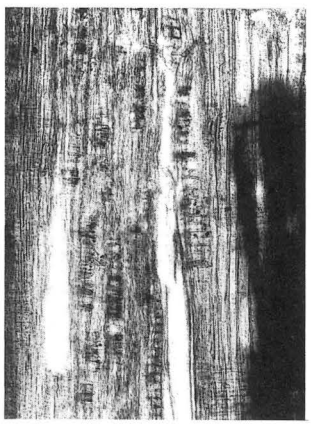
5



6

7

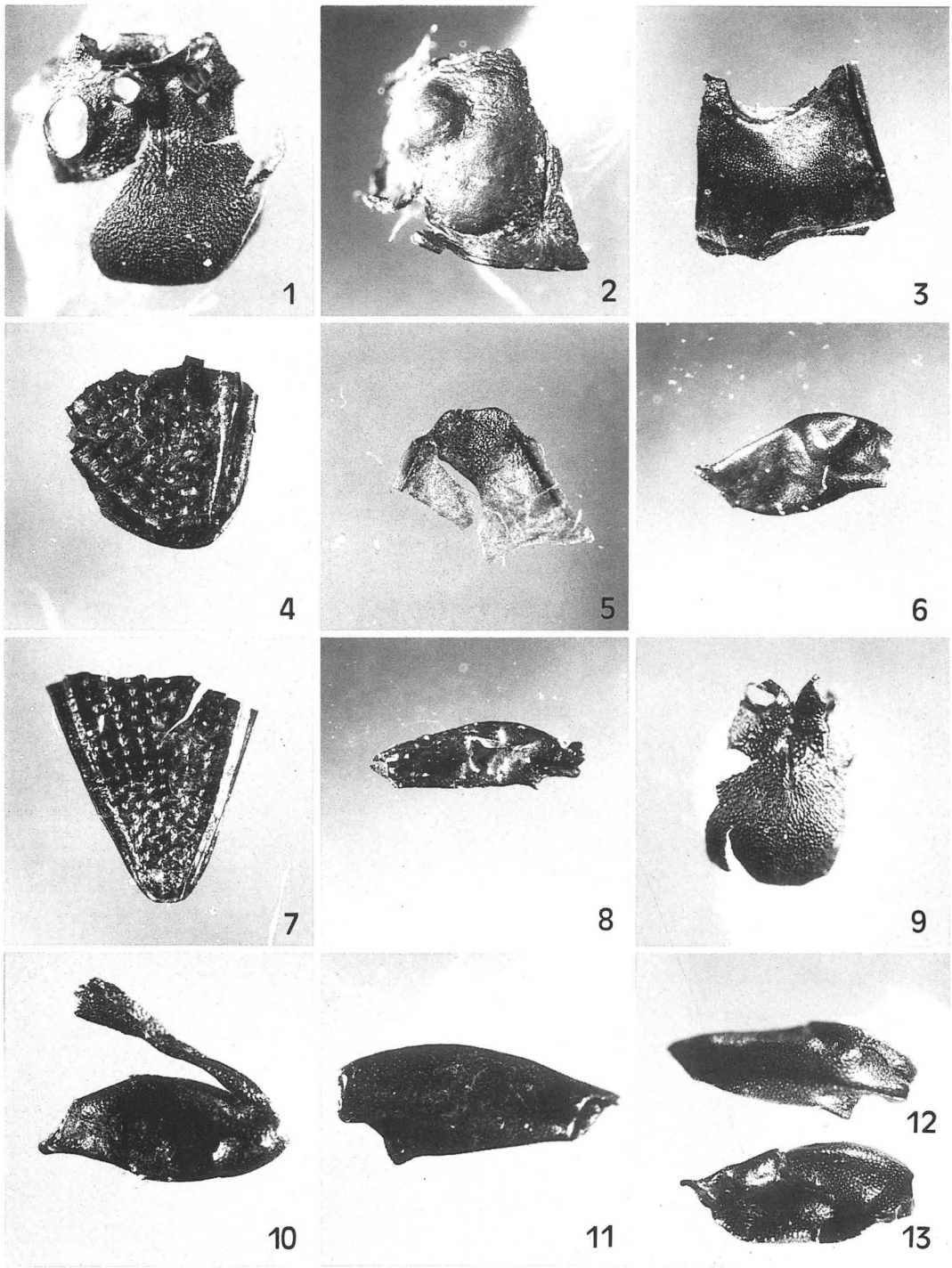
8



9

1　試料7　木口面（ 50倍）
2　試料7　柾目面（200倍）
3　試料7　板目面（100倍）
4　試料8　木口面（ 50倍）
5　試料8　柾目面（200倍）
6　試料8　板目面（100倍）
7　試料9　木口面（ 50倍）
8　試料9　柾目面（200倍）
9　試料9　板目面（100倍）

図版一一八　神並遺跡出土の昆虫遺体



1～6、9～13 *Plateumaris constricticollis chugokuensis* チュウゴクオオミズクサハムシ　1.頭部　2.前胸背　3.左後胸腹板　4.左鞘翅端　5.腹部第7節背板　6.左中腿節(1～6はサンプルNo.82Z17Loc2-①)
9.前胸背　10.左中腿節と前脛節　11.左後腿節　12.右後腿節　13.左中腿節(9～13はサンプルNo.83219-⑤)
7･8 *Donacia flemora* クロガネネクイハムシ　7.左鞘翅端　8.右後腿節(7･8はサンプルNo.82Z17Loc2-①)

神 並 遺 跡 Ⅱ

昭和６２年３月３１日

発行所　東 大 阪 市 教 育 委 員 会
財団法人東大阪市文化財協会

印刷所　明 文 堂 工 業 株 式 会 社